

**TOSHIBA**

東芝 オリジナル CMOS 16ビット マイクロコントローラ

**TLCS-900/L1 シリーズ**

TMP91CU27UG

TMP91CP27UG

TMP91CK27UG

TMP91CU27FG

Not Recommended  
for New Design

株式会社 **東芝** セミコンダクター社

## はじめに

この度は弊社 16 ビットマイクロコントローラ TLCS-900/L1 シリーズ、TMP91CU27/CP27/CK27 をご利用いただき、誠にありがとうございます。

本 LSI をご利用になる前に、「使用上の注意、制限事項」の章を参照されまことをお願いいたします。

特に下記に示す注意事項に関しましては、十分にご注意願います。

### ホルト状態からの解除に関する注意事項

通常は、割り込みによってホルト状態を解除することができませんが、HALT モードが IDLE1、STOP モードに設定されている状態 (IDLE2 は対象外) で、CPU が HALT モードに移行しようとしている期間 ( $f_{FPH}$  約 5 クロックの間) に、HALT モードを解除可能な割り込み ( $\overline{NMI}$ , INT0, INTRTC) が入力されても、ホルトが解除できない場合があります (割り込み要求は内部に保留されます)。

HALT モードへ完全に移行された後に、再度割り込みが発生すれば、問題なく HALT モードを解除できますが、割り込み処理は内部に保留された割り込みと現在の割り込みを比較し、その優先順位に従って順次処理されます。

低電圧/低消費電力

CMOS 16 ビット マイクロコントローラ

TMP91CU27UG/TMP91CP27UG/TMP91CK27UG/TMP91CU27FG

## 1. 概要と特長

TMP91CU27/CP27/CK27 は、低電圧/低消費電力動作が可能な高速・高機能 16 ビットマイクロコントローラです。TMP91CU27UG/TMP91CP27UG/TMP91CK27UG/TMP91CU27FG は、64 ピンフラットパッケージ製品です。

製品形名	RAM	ROM	パッケージ
TMP91CU27UG	10K バイト	96K バイト	LQFP64-P-1010-0.50D
TMP91CP27UG	4K バイト	48K バイト	
TMP91CK27UG	1K バイト	24K バイト	
TMP91CU27FG	10K バイト	96K バイト	QFP64-P-1414-0.80A

## (1) オリジナル 16 ビット CPU (900/L1\_CPU 使用)

- TLCS-90/900 と命令モニタックで上位互換
- 16M バイトのリニアアドレス空間
- 汎用レジスタ&レジスタバンク方式
- 16 ビット乗除算命令、ビット転送/演算命令
- マイクロ DMA : 4 チャンネル (593 ns/2 バイト@27MHz)

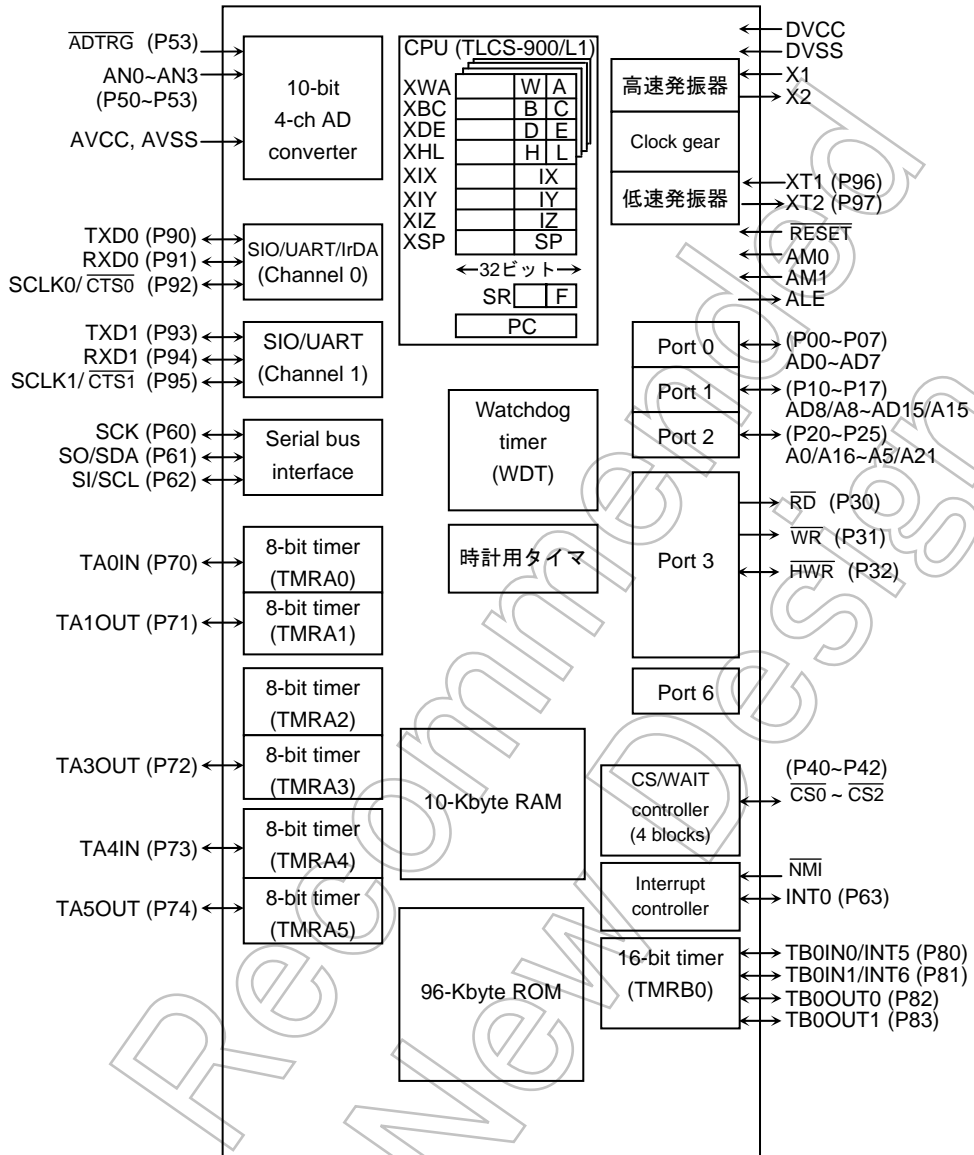
## (2) 最小命令実行時間 : 148ns (@27 MHz)

## 当社半導体製品取り扱い上のごお願い

20070701-JA

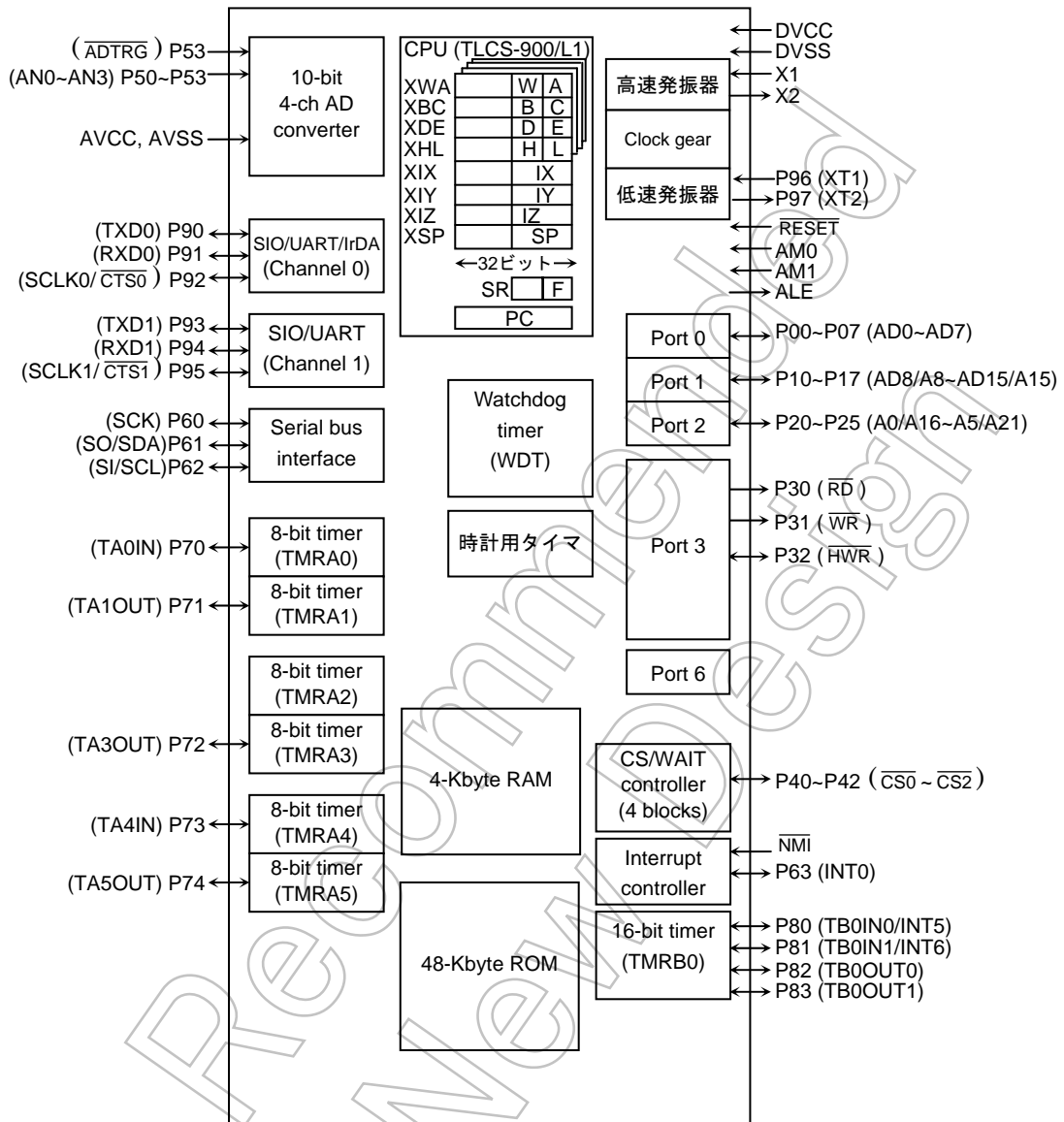
- 当社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、一般に半導体製品は誤作動したり故障することがあります。当社半導体製品をご使用いただく場合は、半導体製品の誤作動や故障により、生命・身体・財産が侵害されることのないように、購入者側の責任において、機器の安全設計を行うことをお願いします。なお、設計に際しては、最新の製品仕様をご確認の上、製品保証範囲内でご使用いただくと共に、考慮されるべき注意事項や条件について「東芝半導体製品の取り扱い上のご注意とお願い」、「半導体信頼性ハンドブック」などでご確認ください。
- 本資料に掲載されている製品は、一般的電子機器（コンピュータ、パーソナル機器、事務機器、計測機器、産業用ロボット、家電機器など）に使用されることを意図しています。特別に高い品質・信頼性が要求され、その故障や誤作動が直接人命を脅かしたり人体に危害を及ぼす恐れのある機器（原子力制御機器、航空宇宙機器、輸送機器、交通信号機器、燃焼制御、医療機器、各種安全装置など）にこれらの製品を使用すること（以下“特定用途”という）は意図もされていませんし、また保証もされていません。本資料に掲載されている製品を当該特定用途に使用することは、お客様の責任でなされることとなります。
- 本資料に掲載されている製品を、国内外の法令、規則及び命令により製造、使用、販売を禁止されている応用製品に使用することはできません。
- 本資料に掲載してある技術情報は、製品の代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 本資料に掲載されている製品の RoHS 適合性など、詳細につきましては製品個別に必ず弊社営業窓口までお問合せください。本資料に掲載されている製品のご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令などの法令を十分調査の上、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様が適用される法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。

- (3) 外部メモリ拡張
- 16 M バイト(プログラム/データ共通)まで拡張可能
  - 外部データバス 8/16 ビット幅共存可能  
…ダイナミックデータバスサイジング
- (4) 8 ビットタイマ : 6 チャンネル
- (5) 16 ビットタイマ : 1 チャンネル
- (6) 汎用シリアルインタフェース : 2 チャンネル
- UART/同期両モード対応 : 2 チャンネル
  - IrDA ver1.0 (115.2 kbps) 対応モード選択可能 : 1 チャンネル
- (7) シリアルバスインタフェース : 1 チャンネル  
I<sup>2</sup>C バスモード/クロック同期式モード選択可能
- (8) 10 ビット AD コンバータ (サンプルホールド回路内蔵): 4 チャンネル
- (9) ウォッチドッグタイマ
- (10) 時計用タイマ
- (11) チップセレクト/ウェイトコントローラ: 4 チャンネル
- (12) 割り込み機能: 34 本
- CPU 9 本 …… ソフトウェア割り込み命令、未定義命令実行違反
  - 内部 21 本 …… 7 レベルの優先順位の設定が可能
  - 外部 4 本 …… 7 レベルの優先順位の設定が可能  
(3 本はエッジの極性選択可能)
- (13) 入出力ポート: 53 端子
- (14) スタンバイ機能  
3 種類の HALT モード (プログラマブル IDLE2, IDLE1, STOP)
- (15) クロック制御機能
- クロックギア機能: 高周波クロック  $f_c \sim f_c/16$  まで切り替え可能
  - 時計用クロック ( $f_s = 32.768 \text{ kHz}$ )
- (16) 動作電圧
- $V_{cc} = 2.7 \sim 3.6\text{V}$  ( $f_c \text{ max} = 27 \text{ MHz}$ )
  - $V_{cc} = 1.8 \sim 3.6\text{V}$  ( $f_c \text{ max} = 10 \text{ MHz}$ )
- (17) パッケージ: LQFP64-P-1010-0.50D (TMP91CU27UG, TMP91CP27UG, TMP91CK27UG)  
QFP64-P-1414-0.80A (TMP91CU27FG)



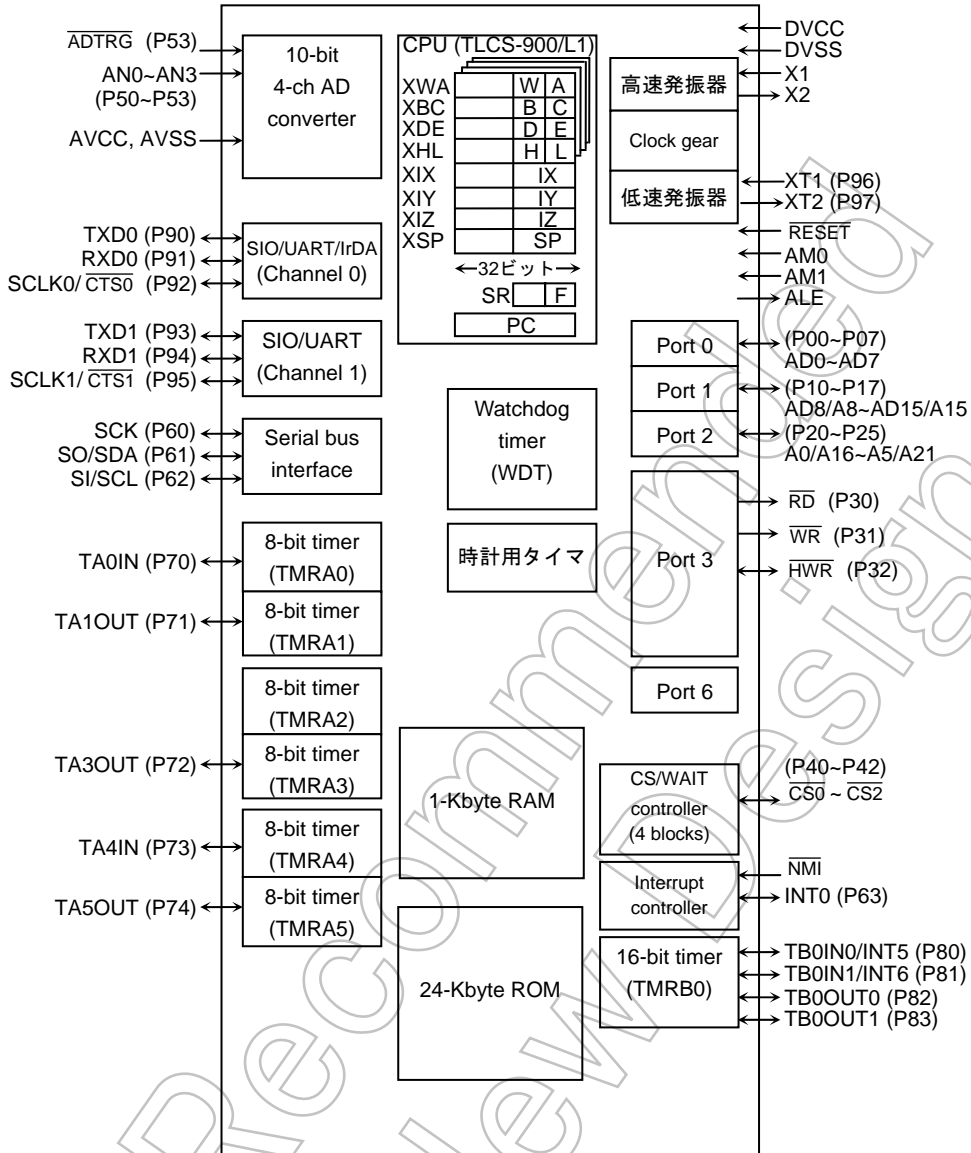
( ): リセット後の初期機能

図 1.1 TMP91CU27 ブロック図



( ) : リセット後の初期機能

図 1.2 TMP91CP27 ブロック図



( ): リセット後の初期機能

図 1.3 TMP91CK27 ブロック図

## 2. ピン配置とピン機能

TMP91CU27/CP27/CK27 のピン配置図および入出力ピンの名称と概略機能を示します。

### 2.1 ピンの配置図

TMP91CU27/CP27/CK27 ピン配置図は、図 2.1.1のとおりです。

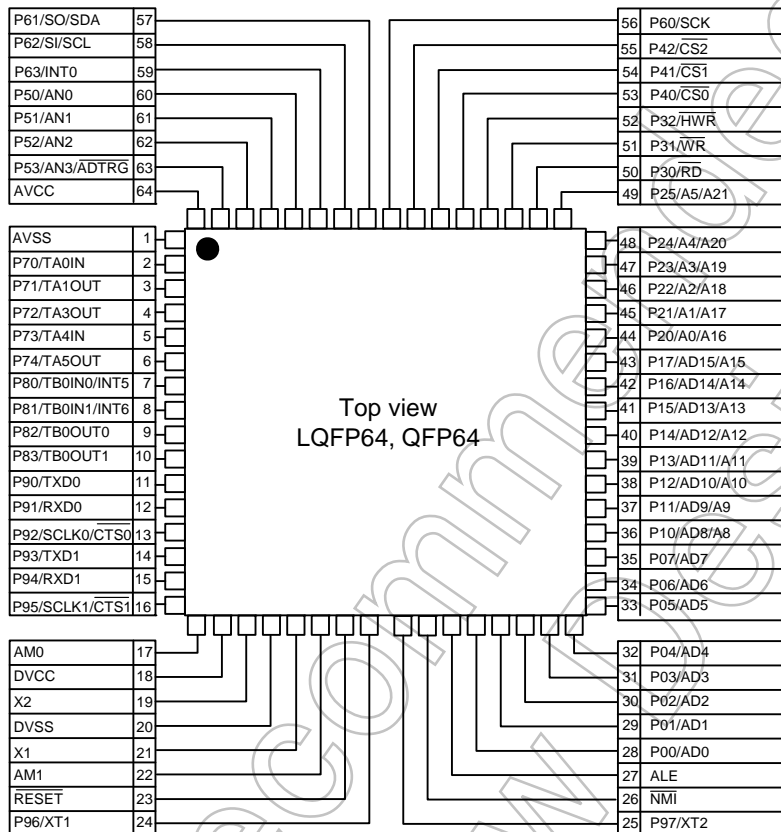


図 2.1.1 ピン配置図 (64 ピン LQFP, 64 ピン QFP)



## 2.2 ピン名称と機能

入出力ピンの名称と機能は、表 2.2.1のとおりです。

表 2.2.1 ピン名称と機能 (1/3)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
P00~P07 AD0~AD7	8	入出力 入出力	ポート 0: ビット単位で入出力の設定ができる入出力ポート アドレスデータ (下位): アドレス/データバス 0~7
P10~P17 AD8~AD15 A8~A15	8	入出力 入出力 出力	ポート 1: ビット単位で入出力の設定ができる入出力ポート アドレスデータ (上位): アドレス/データバス 8~15 アドレス: アドレスバス 8~15
P20~P25 A0~A5 A16~A21	6	入出力 出力 出力	ポート 2: ビット単位で入出力の設定ができる入出力ポート アドレス: アドレスバス 0~5 アドレス: アドレスバス 16~21
P30 RD	1	出力 出力	ポート 30: 出力専用ポート リード: 外部メモリをリードするためのストローブ信号 (P3<P30> = 0, P3FC<P30F> = 1) にすることによって、内部エリアをリードしたときも RD が出ます。
P31 WR	1	出力 出力	ポート 31: 出力専用ポート ライト: AD0~AD7 端子のデータをライトするためのストローブ信号
P32 HWR	1	入出力 出力	ポート 32: 入出力ポート (プルアップ付) 上位ライト: AD8~AD15 端子のデータをライトするためのストローブ信号
P40 CS0	1	入出力 出力	ポート 40: 入出力ポート (プルアップ付) チップセレクト 0: アドレスが指定したアドレス領域内なら "0" を出力
P41 CS1	1	入出力 出力	ポート 41: 入出力ポート (プルアップ付) チップセレクト 1: アドレスが指定したアドレス領域内なら "0" を出力
P42 CS2	1	入出力 出力	ポート 42: 入出力ポート (プルアップ付) チップセレクト 2: アドレスが指定したアドレス領域内なら "0" を出力
P50~P53 AN0~AN3 ADTRG	4	入力 入力 入力	ポート 5: 入力専用ポート アナログ入力: AD コンバータの入力 AD トリガ: AD コンバータの外部スタート要求端子 (P53 と兼用)
P60 SCK	1	入出力 入出力	ポート 60: 入出力ポート シリアルバスインタフェースの SIO モード時のクロック入出力端子
P61 SO SDA	1	入出力 出力 入出力	ポート 61: 入出力ポート シリアルバスインタフェースの SIO モード時のデータ送信端子 シリアルバスインタフェースの I <sup>2</sup> C モード時のデータ送受信端子 プログラムによりオープンドレイン出力端子
P62 SI SCL	1	入出力 入力 入出力	ポート 62: 入出力ポート シリアルバスインタフェースの SIO モード時のデータ受信端子 シリアルバスインタフェースの I <sup>2</sup> C モード時のクロック入出力端子 プログラムによりオープンドレイン出力端子
P63 INT0	1	入出力 入力	ポート 63: 入出力ポート (シュミット入力) 割り込み要求端子 0: レベル/立ち上がり/立ち下がりエッジの選択が可能な割り込み要求端子

表 2.2.1 ピン名称と機能 (2/3)

ピン名称	ピン数	入出力	機能
P70 TA0IN	1	入出力 入力	ポート 70: 入出力ポート 8 ビットタイマ 0 入力: 8 ビットタイマ TMRA0 の入力端子
P71 TA1OUT	1	入出力 出力	ポート 71: 入出力ポート 8 ビットタイマ 1 出力: 8 ビットタイマ TMRA0 または TMRA1 の出力端子
P72 TA3OUT	1	入出力 出力	ポート 72: 入出力ポート 8 ビットタイマ 3 出力: 8 ビットタイマ TMRA2 または TMRA3 の出力端子
P73 TA4IN	1	入出力 入力	ポート 73: 入出力ポート 8 ビットタイマ 4 入力: 8 ビットタイマ TMRA4 の入力端子
P74 TA5OUT	1	入出力 出力	ポート 74: 入出力ポート 8 ビットタイマ 5 出力: 8 ビットタイマ TMRA4 または TMRA5 の出力端子
P80 TB0IN0	1	入出力 入力	ポート 80: 入出力ポート 16 ビットタイマ 0 入力 0: 16 ビットタイマ TMRB0 のカウント/キャプチャトリガ入力になります。
INT5		入力	割り込み要求端子 5: 立ち上がり/立ち下がリエッジの選択が可能な要求端子
P81 TB0IN1	1	入出力 入力	ポート 81: 入出力ポート 16 ビットタイマ 0 入力 1: 16 ビットタイマ TMRB0 のカウント/キャプチャトリガ入力になります。
INT6		入力	割り込み要求端子 6: 立ち上がりエッジの割り込み要求端子
P82 TB0OUT0	1	入出力 出力	ポート 82: 入出力ポート 16 ビットタイマ 0 出力 0: 16 ビットタイマ TMRB0 の出力端子
P83 TB0OUT1	1	入出力 出力	ポート 83: 入出力ポート 16 ビットタイマ 0 出力 1: 16 ビットタイマ TMRB0 の出力端子
P90 TXD0	1	入出力 出力	ポート 90: 入出力ポート シリアル 0 送信データ プログラムによりオープンドレイン出力端子となります。
P91 RXD0	1	入出力 入力	ポート 91: 入出力ポート シリアル 0 受信データ
P92 SCLK0 $\overline{CTS0}$	1	入出力 入出力 入力	ポート 92: 入出力ポート シリアル 0 クロック入出力 シリアル 0 データ送信可能 (Clear to send)
P93 TXD1	1	入出力 出力	ポート 93: 入出力ポート シリアル 1 送信データ プログラムによりオープンドレイン出力端子となります。
P94 RXD1	1	入出力 入力	ポート 94: 入出力ポート シリアル 1 受信データ
P95 SCLK1 $\overline{CTS1}$	1	入出力 入出力 入力	ポート 95: 入出力ポート シリアル 1 クロック入出力 シリアル 1 データ送信可能 (Clear to send)
P96 XT1	1	入出力 入力	ポート 96: 入出力ポート (オープンドレイン出力端子)。 低周波発振子接続端子
P97 XT2	1	入出力 出力	ポート 97: 入出力ポート (オープンドレイン出力端子)。 低周波発振子接続端子

表 2.2.1 ピン名称と機能 (3/3)

ピン名称	ピン数	入出力	機 能
ALE	1	出力	アドレスラッチイネーブル(ノイズ削減のため出力禁止に設定できます。)
NMI	1	入力	ノンマスクابل割り込み要求端子: 立ち下がリエッジの割り込み要求端子(シュミット入力) プログラムにより、立ち上がり/立ち下がり両エッジでも割り込み要求可能となります。
AM0, AM1	2	入力	動作モード: AM1 = "1", AM0 = "1" に固定してください。
RESET	1	入力	リセット: LSI を初期化します。(シュミット入力、プルアップ付)
AVCC	1		AD コンバータ電源端子と AD コンバータ用基準電源 (H) 共用端子
AVSS	1		AD コンバータ GND 端子 (0V) と AD コンバータ用基準電源 (L) 共用端子
X1	1	入力	高周波発振子接続端子
X2	1	出力	高周波発振子接続端子
DVCC	1		電源端子 (全 DVCC 端子を電源に接続してください。)
DVSS	1		GND 端子 (全 DVSS 端子を GND (0V) に接続してください。)

Not Recommended for New Design

### 3. 動作説明

ここでは、TMP91CU27/CP27/CK27 の機能および基本動作について、ブロックごとに説明します。

#### 3.1 CPU

TMP91CU27/CP27/CK27 には、高性能な 16 ビット CPU (900/L1 CPU) が内蔵されています。CPU の動作については、“TLCS-900/L1 CPU” を参照してください。

ここでは、“TLCS-900/L1 CPU” にて説明されていない TMP91CU27/CP27/CK27 独自の CPU 機能について説明します。

##### 3.1.1 リセット動作

本デバイスにリセットをかけるには、電源電圧が動作範囲内であり、かつ、内部高周波発振回路の発振が安定した状態で、少なくとも 10 システムクロック間 (27 MHz クロック発振時で 12  $\mu$ s)、 $\overline{\text{RESET}}$  入力を “Low” レベルにしてください。

また、電源投入時は  $\overline{\text{RESET}}$  入力が “Low” レベルで電源電圧が動作範囲内になり、内部高周波発振回路の発振が安定した状態で少なくとも 10 システムクロック間、 $\overline{\text{RESET}}$  入力の “Low” レベルを保持してください。なお、リセット動作にてクロックギアは 1/16 モードに初期化されるので、システムクロック  $f_{\text{SYS}}$  は  $f_c/32 (= f_c/16 \times 1/2)$  となります。

リセットが受け付けられると、CPU は、

- プログラムカウンタ PC をアドレス FFFF00H~FFFF02H に格納されているリセットベクタに従いセット
 

PC (7:0)	←	アドレス FFFF00H の値
PC (15:8)	←	アドレス FFFF01H の値
PC (23:16)	←	アドレス FFFF02H の値
- スタックポインタ XSP を 100H にセット
- ステータスレジスタ SR の IFF2~IFF0 ビットを “111” にセット (割り込みレベルのマスクレジスタをレベル 7 にセット)
- ステータスレジスタ SR の MAX ビットを “1” にセット (マキシマムモードにセット)
- ステータスレジスタ SR の RFP2~RFP0 ビットを “000” にクリア (レジスタバンクを 0 にセット)

を行い、リセットが解除されると、セットされた PC に従い命令の実行を開始します。なお、上記以外の CPU 内部のレジスタは、変化しません。

また、リセットが受け付けられると、内蔵 I/O およびポート、その他の端子は、下記のとおりとなります。

- 内蔵 I/O のレジスタを初期化
- ポート端子 (内蔵 I/O 用にも使える兼用端子を含む) を、汎用入力ポートまたは汎用出力ポートのモードにセット
- ALE 端子を “ハイインピーダンス” にセット

注) リセット動作により、CPU の PC, SR, XSP 以外のレジスタ、内蔵 RAM のデータは変化しません。

図 3.1.1 に TMP91CU27/CP27/CK27 のリセットタイミングチャートを示します。

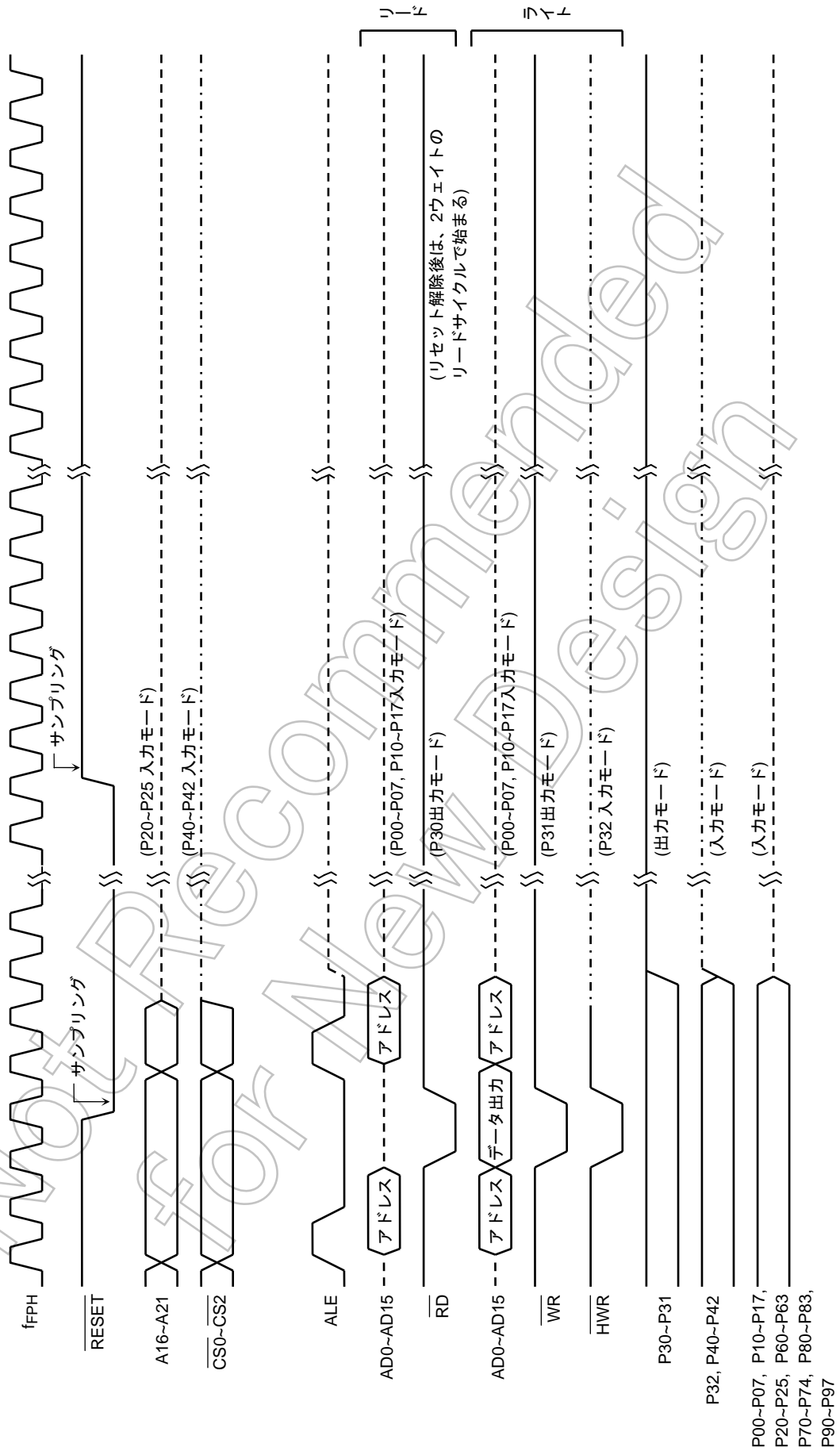


図 3.1.1 TMP91CU27/CP27/CK27 リセットタイミングチャート

### 3.2 メモリマップ

TMP91CU27 のメモリマップを 図 3.2.1に、TMP91CP27 のメモリマップを 図 3.2.2に、TMP91CK27 のメモリマップを 図 3.2.3に示します。

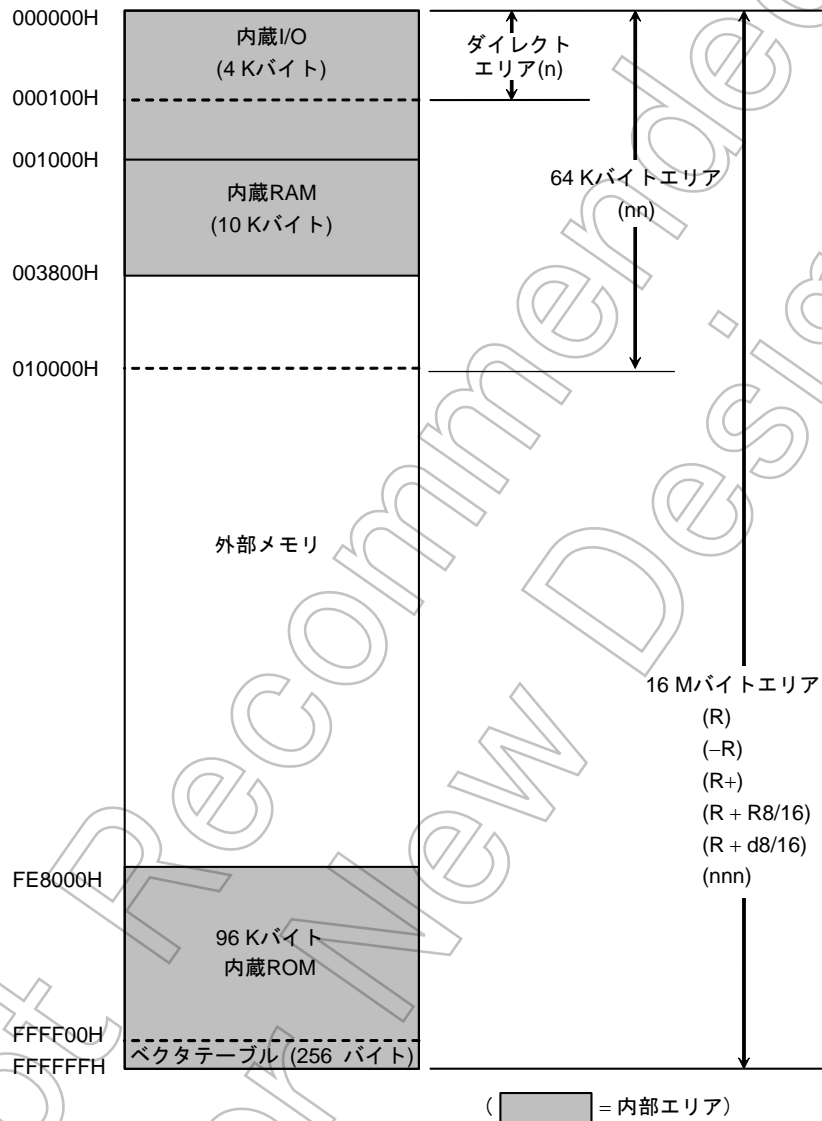


図 3.2.1 TMP91CU27 メモリマップ

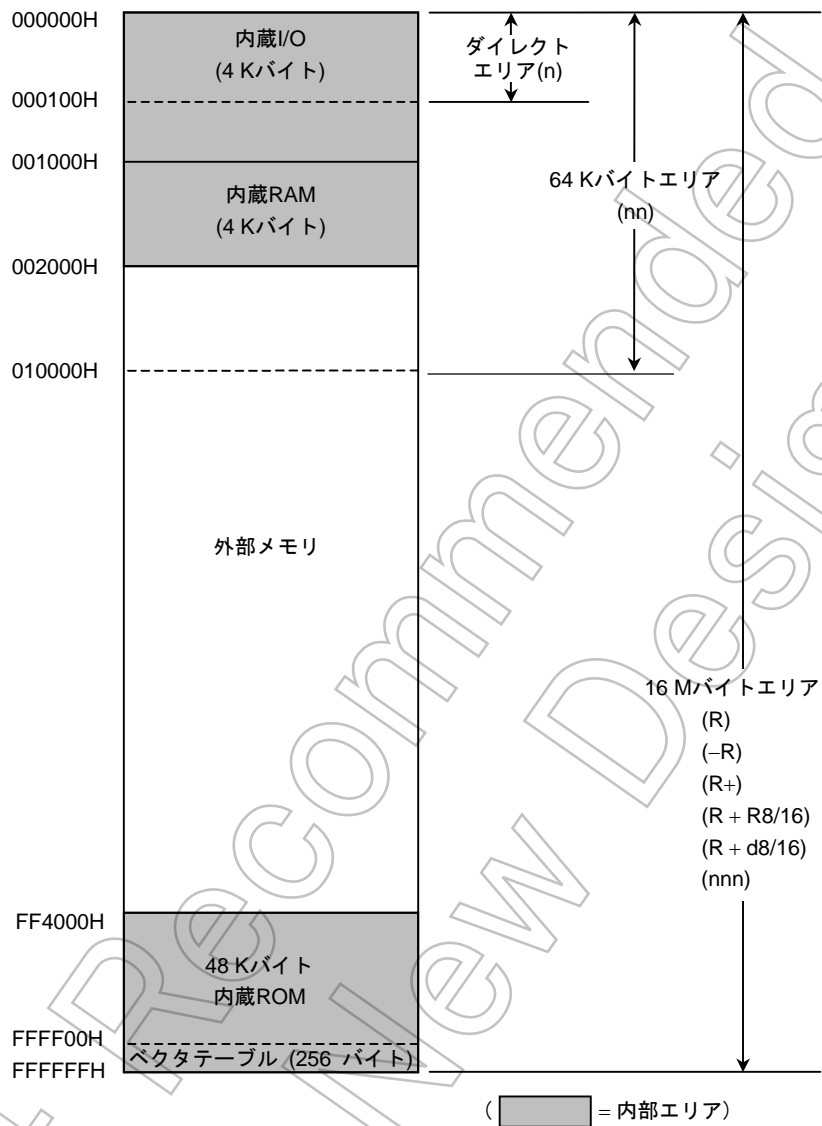


図 3.2.2 TMP91CP27 メモリマップ

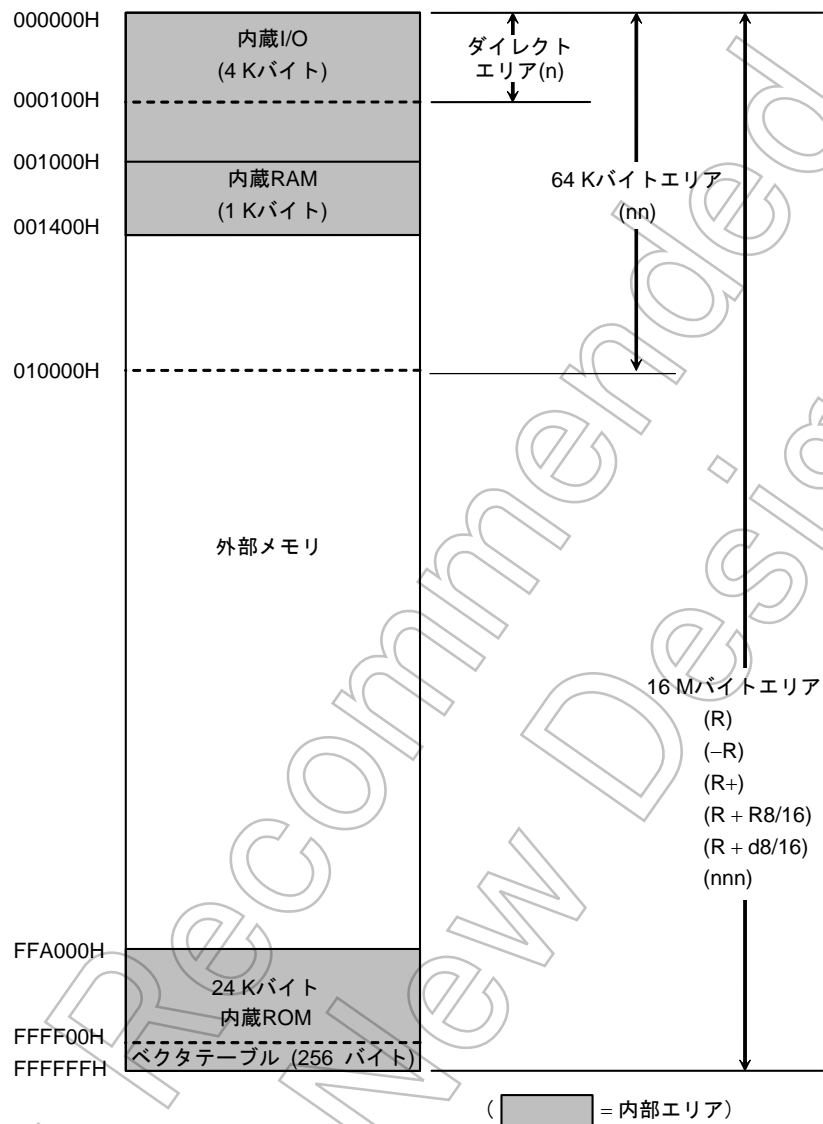


図 3.2.3 TMP91CK27 メモリマップ



### 3.3 TMP91CW12AとTMP91CU27/CP27/CK27の相違点

TMP91CU27/CP27/CK27は、基本的にTMP91CW12Aの機能削除/少ピン品です。

ファンクション仕様は3.3.1~3.3.6に示す変更項目があります。AC/DC特性の大きな違いは、3.3.7に示すAC特性です。詳細は、「電気的特性」の章を参照してください。

#### 3.3.1 内蔵I/Oの削除

TMP91CU27/CP27/CK27では、TMP91CW12Aより8ビットタイマTMRA6~TMRA7, 16ビットタイマTMRB1およびクロック逡倍回路(DFM)が削除されています。

TMP91CW12Aにおける上記内蔵I/Oに対する特殊機能レジスタのアドレスにはアクセスしないでください。詳細は「特殊機能レジスタ一覧表」を参照してください。

#### 3.3.2 ポート機能の削除

TMP91CU27/CP27/CK27では、TMP91CW12Aより以下に示すポート機能が削除されています。

- ポート 2: P27 (A23/A7), P26 (A22/A6)
- ポート 3: P37, P36 (R/ $\bar{W}$ ), P35 ( $\overline{\text{BUSAK}}$ ), P34 ( $\overline{\text{BUSRQ}}$ ), P33 ( $\overline{\text{WAIT}}$ )
- ポート 4: P43 ( $\overline{\text{CS3}}$ )
- ポート 5: P57~P54 (AN7~AN4)
- ポート 6: P66, P65, P64 (SCOUT)
- ポート 7: P75 (TA7OUT)
- ポート 8: P87 (TB1OUT1), P86 (TB1OUT0), P85 (TB1IN1/INT8), P84 (TB1IN0/INT7)
- ポート A: PA7~PA4, PA3~PA0 (INT4~INT1)

#### 3.3.3 割り込み要因の削除

内蔵I/Oおよびポート機能の削除に伴い、割り込み要因が削除されています(表3.5.1参照)。削除された割り込み要因に対する、割り込み優先順位設定レジスタにはアクセスしないでください。詳細は「特殊機能レジスタ一覧表」を参照してください。

#### 3.3.4 バス解放機能

TMP91CU27/CP27/CK27では、バスリクエスト端子(P34)およびバスアクノリッジ端子(P35)を削除したため、バス解放機能はありません。

#### 3.3.5 CSWAITコントローラ

$\overline{\text{WAIT}}$ 端子を削除したため、 $\text{BxCS}<\text{BxW2:0}> = \text{"010"} (1 + \text{N})$  WAITモードに設定した場合は1ウェイトとして動作します。

また、 $\overline{\text{CS3}}$ 端子(P43)はありませんが、MSAR3, MAMR3を設定し、 $\text{B3CS}<\text{B3E}> = \text{"1"}$ とした場合、ウェイトコントロールは有効となります。

#### 3.3.6 ADコンバータ

アナログ入力端子AN4~AN7は削除されていますので、削除されているチャンネルをADM0D1<ADCH2:0>にて選択しないでください。

### 3.3.7 AC特性

2V動作における、外部アクセス時のAC特性は保証しておりません。

Not Recommended  
for New Design

### 3.4 システムクロック/スタンバイ制御、ノイズ低減機能

低消費電力、低ノイズ化のためにクロックギア、スタンバイ制御回路、ノイズ低減回路を内蔵しています。

クロックの動作モードとしては、シングルクロックモード(高周波発振回路)とデュアルクロックモード(高周波発振回路と低周波発振回路)の2モードがあります。

図 3.4.1に動作モード別状態遷移図を示します。

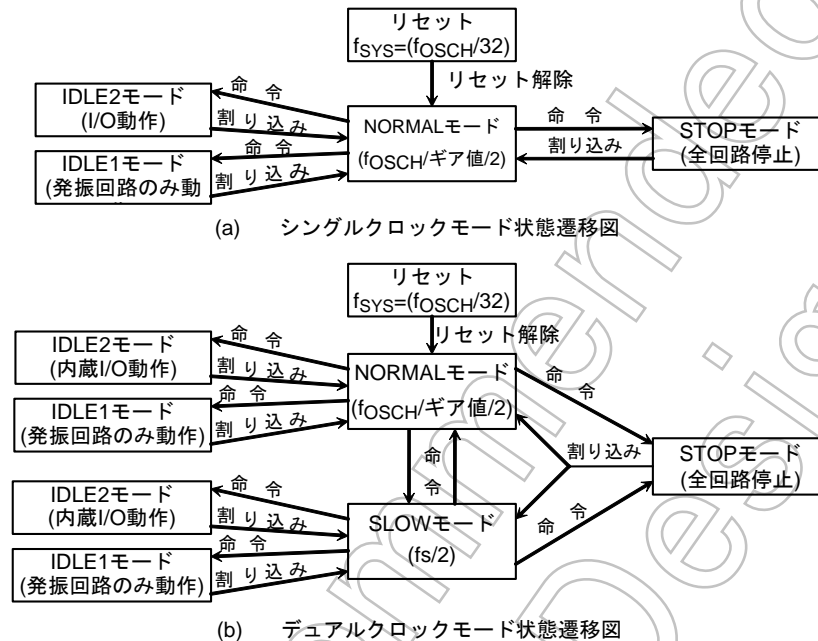


図 3.4.1 動作モード別状態遷移図

X1, X2 端子より入力されるクロック周波数を  $f_{OSCH}$ 、XT1, XT2 端子より入力されるクロック周波数を  $f_s$ 、SYSCR1<SYSCK>で選択されたクロックを  $f_{FPH}$ 、 $f_{FPH}$  を 2 分周したクロック周波数をシステムクロック  $f_{SYS}$  と定義します。また、この  $f_{SYS}$  の 1 周期を 1 ステートと定義します。



3.4.2 SFR説明

	7	6	5	4	3	2	1	0	
SYSCR0 (00E0H)	Bit symbol	XEN	XTEN	RXEN	RXTEN	RSYSCK	WUEF	PRCK1	PRCK0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	0	1	0	0	0	0	0
	機能	高周波 発振回路 0: 停止 1: 発振	低周波 発振回路 0: 停止 1: 発振	STOPモード 解除後の 高周波 発振回路 0: 停止 1: 発振	STOPモード 解除後の 低周波 発振回路 0: 停止 1: 発振	STOPモード 解除後の クロック 選択 0: 高速 1: 低速	発振回路用 ウォーム アップタイ マ(WUP) 制御 0 ライト: Don't care 1 ライト: WUP スタート 0 リード: WUP 終了 1 リード: WUP 中	プリスケラ クロック選択 00: f <sub>FPH</sub> 01: 設定しないでください 10: fc/16 11: 設定しないでください	
SYSCR1 (00E1H)	Bit symbol				SYSCK	GEAR2	GEAR1	GEAR0	
	Read/Write	R/W							
	リセット後				0	1	0	0	
	機能				システム クロック 選択 0: 高速(fc) 1: 低速(fs)	高速クロックのギア選択 000: 高速クロック 001: 高速クロック/2 010: 高速クロック/4 011: 高速クロック/8 100: 高速クロック/16 101: 110: } 設定しないでください 111: }			
SYSCR2 (00E2H)	Bit symbol	-	WUPTM1	WUPTM0	HALTM1	HALTM0		DRVE	
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	1	0	1	1		0	
	機能	"0"をライ トしてく ださい。	発振回路用 WUP 時間 選択 00: 設定しないで ください 01: 2 <sup>8</sup> /入力周波数 10: 2 <sup>14</sup> /入力周波数 11: 2 <sup>16</sup> /入力周波数	HALT モード選択 00: 設定しないで ください 01: STOP モード 10: IDLE1 モード 11: IDLE2 モード				1: STOP モード中 も端子を ドライブ します	

注 1) SYSCR1<bit7:4>, SYSCR2<bit7,1>は、リードすると不定値がリードされます。

注 2) 内蔵 SBI を使用時は、プリスケラクロック選択レジスタ SYSCR0<PRCK1:0>に f<sub>FPH</sub> を設定してください。

図 3.4.3 クロック関係 SFR

	7	6	5	4	3	2	1	0	
EMCCR0 (00E3H)	Bit symbol	PROTECT	–	–	–	ALEEN	EXTIN	DRVOSCH	DRVOSCL
	Read/Write	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
	リセット後	0	0	1	0	0	0	1	1
	機能	プロテクト フラグ 0: OFF 1: ON	"0"をライトし てください。	"1"をライトし てください。	"0"をライトし てください。	0: ALE 出力 禁止 1: ALE 出力 許可	1: fc 外部 クロック	高周波発振回 路 ドライブ能力 1: NORMAL 0: WEAK	低周波発振回 路 ドライブ能力 1: NORMAL 0: WEAK
EMCCR1 (00E4H)	Bit symbol	"1FH" をライトでプロテクト OFF "1FH" 以外をライトでプロテクト ON							
	Read/Write								
	リセット後								
	機能								

注 1) STOP モードから、発振を開始する時など、発振停止から発振を再起動する場合は、発振回路のドライブ能力を NORMAL に設定してください。(STOP モードでホルト状態に入る場合、HALT 命令を実行する前に、EMCCR0<DRVOSCH>,<DRVOSCL>を"1"に設定してください。)

注 2)  $V_{CC} < 2.7V$  では、EMCCR0<DRVOSCH>を"1"に固定してください。

図 3.4.4 ノイズ関係 SFR

### 3.4.3 システムクロック制御部

システムクロック制御部は、CPU コアおよび内蔵 I/O へ供給されるシステムクロック (f<sub>sys</sub>) を生成する回路です。高周波/低周波の 2 つの発振回路から出力される fc, fs クロックを入力としてシステムクロックの高速/低速の切り替えは、SYSCR1<SYSCK>により行います。高周波/低周波発振回路の発振制御は、SYSCR0<XEN>, <XTEN>によりそれぞれ行います。高速クロックが選択されている状態において (SYSCR1<SYSCK>="0"), SYSCR0<XEN>="0" に設定しても発振は停止しません。同様に SYSCR1<SYSCK>="1" の時に、SYSCR0<XTEN>="0" に設定しても発振は停止しません。さらに SYSCR1<GEAR2:0> で高速クロックのギアを 1, 2, 4, 8, 16 段 (fc, fc/2, fc/4, fc/8, fc/16) に切り替えることにより、消費電力の低減を図ることができます。

リセットにより、シングルクロックモードになり、<XEN>="1", <XTEN>="0", <SYSCK>="0", <GEAR2:0>="100" に初期化されますので、システムクロック f<sub>sys</sub> は fc/32 (= fc/16 × 1/2) となります。高周波発振回路に 27 MHz の発振子を接続した場合、リセットにより f<sub>sys</sub> は 0.84 MHz となります。

#### (1) NORMAL ↔ SLOW モードの切り替え

NORMAL モードとは、システムクロックとして fc を使用した場合、SLOW モードとは、fs を使用した場合です。

発振子の発振安定を確認してから切り替えるためにウォームアップタイムがあります。ウォームアップ時間は発振子の特性に合わせて SYSCR2<WUPTM1:0>により選択できます。SYSCR0<WUEF>をリードすることにより、ウォームアップタイムの開始/終了を確認することができます。NORMAL ↔ SLOW モードの切り替え時は、設定例 1, 設定例 2 を参考にしてください。

表 3.4.1 に切り替え時のウォームアップ時間を示します。

- 注 1) 切り替えようとする発振回路に外部クロック入力を使用し、発振が安定している場合はウォームアップを実行する必要はありません。
- 注 2) ウォームアップタイムは、発振周波数にゆらぎがある場合は誤差を含みます。従って概略時間としてとらえる必要があります。
- 注 3) 低周波発振回路使用上の注意点  
ポート 96, 97 に低周波発振子を接続する場合、消費電力削減のために下記の設定が必要です。

(発振子接続の場合)

P9CR<P96C, P97C>="11", P9<P96:97>="00" に設定してください。

(外部クロック入力の場合)

P9CR<P96C, P97C>="11", P9<P96:97>="10" に設定してください。

表 3.4.1 ウォームアップ時間 (クロック切り替え時)

ウォームアップ タイム選択 SYSCR2<WUPTM1:0>	NORMAL へ切り替え時 (fc)	SLOW へ切り替え時 (fs)
01 (2 <sup>0</sup> /発振周波数)	9.0 [μs]	7.8 [ms]
10 (2 <sup>14</sup> /発振周波数)	0.607 [ms]	500 [ms]
11 (2 <sup>16</sup> /発振周波数)	2.427 [ms]	2000 [ms]

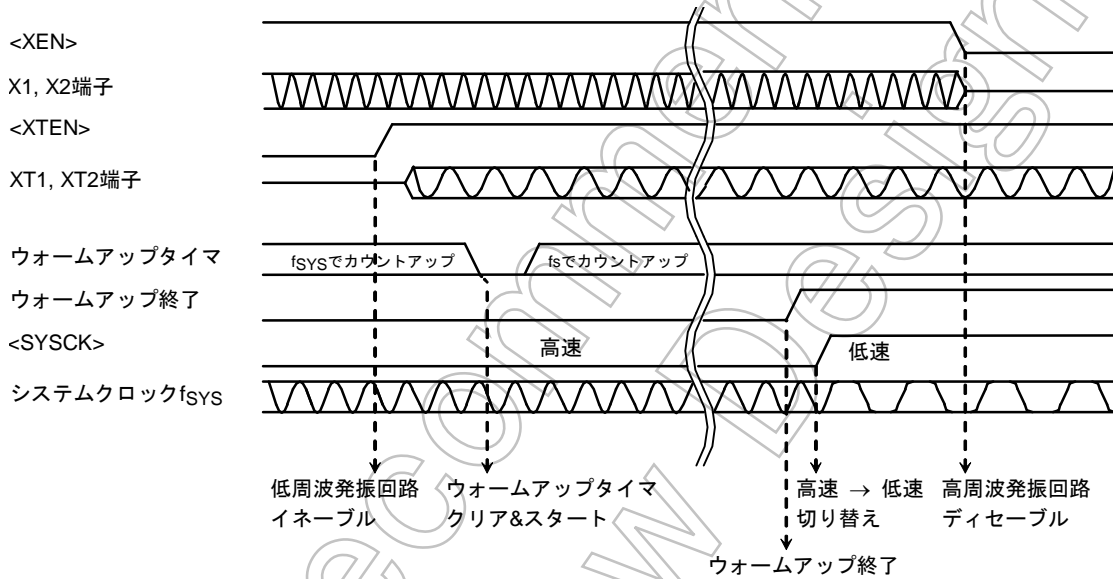
計算値は f<sub>osch</sub>  
=27 MHz,  
fs = 32.768 kHz  
の場合です。

設定例 1

NORMAL モード から SLOW モード へ切り替える場合

SYSCR0	EQU	00E0H	
SYSCR1	EQU	00E1H	
SYSCR2	EQU	00E2H	
	LD	(SYSCR2), X-11--X-B	; ウォームアップ時間を $2^{16}/f_s$ に設定 注) 発振子により設定値を変更してください
	SET	6, (SYSCR0)	; 低周波発振回路イネーブル
	SET	2, (SYSCR0)	; ウォームアップタイムクリア&スタート
WUP:	BIT	2, (SYSCR0)	; } ウォームアップ終了検出
	JR	NZ, WUP	; }
	SET	3, (SYSCR1)	; 高速 → 低速へ切り替え
	RES	7, (SYSCR0)	; 高周波発振回路ディセーブル

X: Don't care、 -: No change



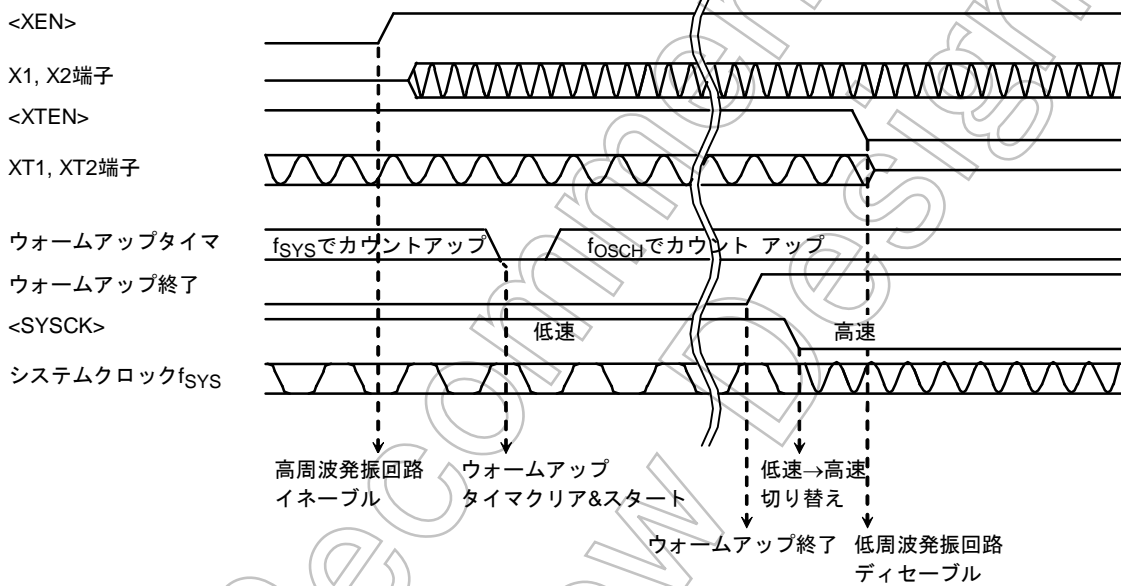


設定例 2

SLOW モードから NORMAL モードへ切り替える場合

SYSCR0	EQU	00E0H	
SYSCR1	EQU	00E1H	
SYSCR2	EQU	00E2H	
LD	(SYSCR2), X-10--X-B		; ウォームアップ時間を $2^{14}/f_c$ に設定 注) 発振子により設定値を変更してください
SET	7, (SYSCR0)		; 高周波発振回路イネーブル
SET	2, (SYSCR0)		; ウォームアップタイムクリア&スタート
WUP:	BIT	2, (SYSCR0)	; } ウォームアップ終了検出
	JR	NZ, WUP	; }
	RES	3, (SYSCR1)	; 低速 → 高速へ切り替え
	RES	6, (SYSCR0)	; 低周波発振回路ディセーブル

X: Don't care、-: No change



Not Recommended for New

## (2) クロックギアの切り替え

SYSCR1<SYSCK> = “0” にて高速クロック  $f_c$  を選択した場合、クロックギア選択レジスタ SYSCR1<GEAR2:0> により  $f_{FPH}$  を  $f_c$ ,  $f_c/2$ ,  $f_c/4$ ,  $f_c/8$ ,  $f_c/16$  のいずれかに設定できます。クロックギアを使用して  $f_{FPH}$  を切り替えることにより、消費電力の低減が図れます。

下記に、クロックギアの切り替え例を示します。

## 設定例

## クロックギアの切り替え

```
SYSCR1    EQU    00E1H

          LD      (SYSCR1), XXXX0000B ; fFPH を fc へ切り替え
                                     (=システムクロック fsys を fc/2 へ切り替え)
```

X: Don't care

## (クロックギア切り替え時の注意点)

クロックギアの切り替えは、設定例のように SYSCR1<GEAR2:0> レジスタへ値をライトすることにより実行されますが、ライトした後すぐには切り替わらず、数クロックの実行時間が必要となります。よって、クロックギア切り替え命令の次の命令は、切り替え前のクロックギアで実行する場合があります。クロックギア切り替え命令の次の命令から切り替え後のクロックで実行すべき場合は、下記例のようなダミーの命令 (ライトサイクルが実行される命令) を挿入してください。

(例)

```
SYSCR1    EQU    00E1H
          LD      (SYSCR1), XXXX0001B ; fsys を fc/4 へ切り替え
          LD      (DUMMY), 00H       ; ダミー命令
          切り替え後のクロックギア
          で実行すべき命令
```

### 3.4.4 プリスケーラ クロック制御部

内蔵 I/O (TMRA01~TMRA45, TMRB0, SIO0~SIO1, SBI) には、それぞれにクロックを分周するプリスケーラがあります。

これらのプリスケーラへ入力するクロック  $\phi T$ ,  $\phi T0$  は、 $f_{FPH}$ ,  $f_c/16$  の 2 種類から SYSCR0<PRCK1:0>で選択されたクロックをそれぞれ 2 分周、4 分周したクロックです。

内蔵 SBI を使用時には、<PRCK1:0>を“00”に設定してください。

### 3.4.5 ノイズ低減回路

EMI (不要輻射ノイズ) の低減、EMS (耐ノイズ対策) の強化を目的として、以下のような特長を実現する回路を内蔵しています。

- (1) 高周波発振回路のドライブ能力低減
- (2) 低周波発振回路のドライブ能力低減
- (3) 高周波発振回路のシングルドライブ化
- (4) ALE 端子の出力禁止
- (5) プロテクトレジスタによる暴走対策

(1)~(5) は、EMCCR0, EMCCR1 レジスタによる設定が必要です。

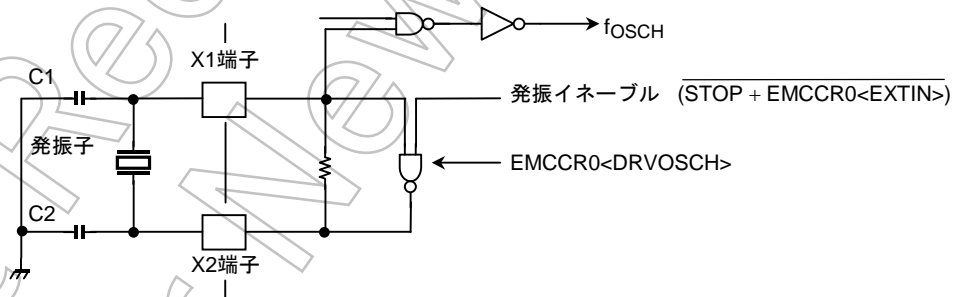
以下に(1)~(5)について説明します。

- (1) 高周波発振回路のドライブ能力低減

(目的)

外部に発振子を接続する場合に、発振回路から出力される発振ノイズの抑制、発振回路の低消費電力化。

(ブロック図)



(設定方法)

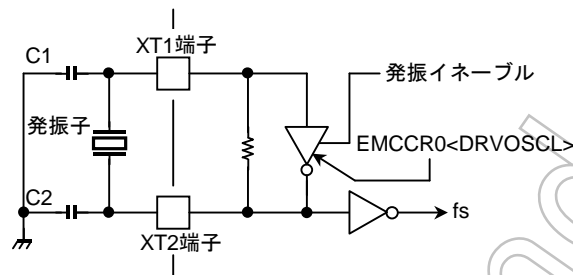
EMCCR0<DRVOSCH>に“0”をライトすることにより、発振回路のドライブ能力は低減します。リセットにより、<DRVOSCH>は“1”に初期化されますので、電源投入時はノーマルのドライブ能力で発振開始します。V<sub>CC</sub>< 2.7V では、高速発振器用のドライブ能力選択機能は使用できません。EMCCR0<DRVOSCH>に“0”を設定しないでください。

## (2) 低周波発振回路のドライブ能力低減

(目的)

外部に発振子を接続する場合に、発振回路から出力される発振ノイズの抑制、発振回路の低消費電力化。

(ブロック図)



(設定方法)

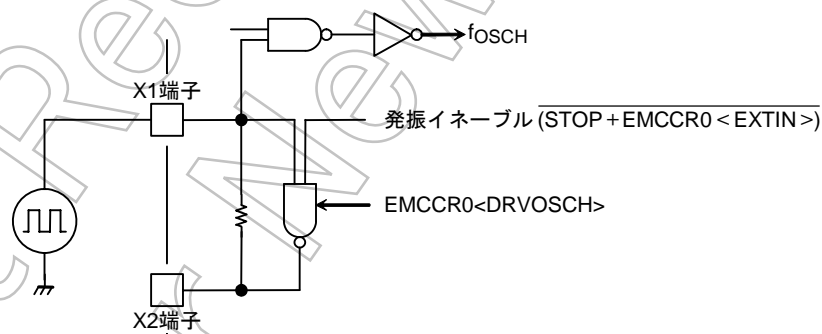
EMCCR0<DRVOSCL>に“0”をライトすることにより、発振回路のドライブ能力は低減します。リセットにより、<DRVOSCL>は“1”に初期化されますので、電源投入時はノーマルのドライブ能力で発振開始します。

## (3) 高周波発振回路のシングルドライブ化

(目的)

外部に発振回路を接続する場合に、ツインドライブの不要化、X2端子開放時にノイズ混入による誤動作防止。

(ブロック図)



(設定方法)

EMCCR0<EXTIN>に“1”をライトすることにより、発振回路は発振禁止となります。X2端子は“1”を出力状態となります。

リセットにより、<EXTIN>は“0”に初期化されます。

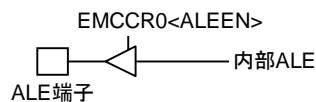
注) 外部に発振子を接続している場合は、EMCCR0<EXTIN>に“1”をライトしないでください。

## (4) ALE 端子の出力禁止

(目的)

外部エリアをアクセスしない場合の不要なクロック性ノイズの低減。

(ブロック図)



(設定方法)

EMCCR0&lt;ALEEN&gt;に“0”をライトすることにより、ALE 端子の出力バッファは出力禁止となり、ALE 端子はハイインピーダンス状態となります。

リセットにより&lt;ALEEN&gt;は“0”に初期化されます。

外部エリアをアクセスする際には、アクセスする前に&lt;ALEEN&gt;に“1”をライトしてください。

## (5) プロテクトレジスタによる暴走対策

(目的)

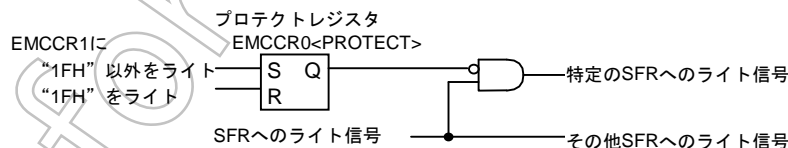
ノイズ混入などによるプログラムの暴走時の対策。

暴走時の対策プログラムがクロックの停止、メモリ制御レジスタ (CS/WAIT コントローラ) の変更などによりフレッチ不可能な状態になることを防止するため、プロテクトをかけると特定の SFR をライト動作禁止にします。

特定の SFR 一覧

- |                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. CS/WAIT コントローラ</p> <p>B0CS, B1CS, B2CS, B3CS, BEXCS,<br/>MSAR0, MSAR1, MSAR2, MSAR3,<br/>MAMR0, MAMR1, MAMR2, MAMR3</p> <p>2. クロックギア (EMCCR1 のみはライト可能です)</p> <p>SYSCR0, SYSCR1, SYSCR2, EMCCR0</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(ブロック図)



(設定方法)

EMCCR1 レジスタに“1FH”以外のコードをライトするとプロテクト ON 状態となります。この動作により特定の SFR へのライト動作ができなくなります。

EMCCR1 レジスタに“1FH”をライトするとプロテクト OFF 状態となります。プロテクトの状態は、EMCCR0&lt;PROTECT&gt;をリードすることにより確認できます。

リセットにより、プロテクト OFF 状態となります。

### 3.4.6 スタンバイ制御

#### (1) HALT モード

HALT 命令を実行すると、SYSCR2<HALTM1:0>の設定により、IDLE2、IDLE1、STOP のいずれかの HALT モードになります。

IDLE2、IDLE1、STOP モードの特長は、次のとおりです。

1. IDLE2: CPU のみ停止するモードです。

内蔵I/Oは、SFRの中にIDLE2モード時の動作/停止設定レジスタを持ち、IDLE2モードでの動作設定が可能です。

表 3.4.2にIDLE2モードにおける動作設定レジスタを示します。

表 3.4.2 IDLE2モードでの内蔵 I/O 動作設定レジスタ

内蔵 I/O	SFR
TMRA01	TA01RUN<I2TA01>
TMRA23	TA23RUN<I2TA23>
TMRA45	TA45RUN<I2TA45>
TMRB0	TB0RUN<I2TB0>
SIO0	SC0MOD1<I2S0>
SIO1	SC1MOD1<I2S1>
SBI	SBI0BR0<I2SBI0>
AD コンバータ	ADMOD1<I2AD>
WDT	WDMOD<I2WDT>

2. IDLE1: 発振回路と時計用タイマのみ動作します。

3. STOP: すべての内部回路が停止します。

ホルト状態での各ブロックの動作を表 3.4.3に示します。

表 3.4.3 ホルト状態での各ブロックの動作

HALT モード		IDLE2	IDLE1	STOP
SYSCR2<HALTM1:0>		11	10	01
動作 ブ ロ ッ ク	CPU	停止		
	I/O ポート	HALT 命令実行時の状態を保持		表 3.4.6,表 3.4.7 参照
	TMRA01~TMRA45, TMRB0	動作するブロックをプログラマ ブルに選択可		
	SIO0~SIO1, SBI			
	AD コンバータ			
	WDT			
	割り込みコントローラ	動作		
時計用タイマ	動作可			

## (2) ホルト状態からの解除

ホルト状態からの解除は、割り込み要求、または、リセットにより行うことができます。使用できるホルト解除ソースは、CPUのステータスレジスタSRに割り付けられている割り込みマスクレジスタ<IFF2:0>の状態と、HALTモードの組み合わせにより決まります。詳細を表 3.4.4に示します。

## • 割り込み要求による解除

割り込み要求によるホルト状態からの解除動作は、割り込み許可状態により異なります。HALT 命令実行前に設定されている割り込み要求レベルが割り込みマスクレジスタの値以上であれば、ホルト解除後、その要因による割り込み処理を行い、“HALT”命令の次の命令から処理をスタートします。割り込み要求レベルが割り込みマスクレジスタの値より小さい場合はホルト解除を行いません(ノンマスクブル割り込みでは、マスクレジスタの値に関係なくホルト解除後、割り込み処理を行います)。

ただし、INT0 と時計用タイマ割り込み INTRTC に限り、割り込み要求レベルが割り込みマスクレジスタの値より小さい場合でも、ホルト状態からの解除を行うことができます。この場合、割り込み処理は行わず HALT 命令の次の命令から処理をスタートします(割り込み要求フラグは“1”を保持します)。

注) 通常は、割り込みによってホルト状態を解除することができますが、HALT モードが IDLE1、STOP モードに設定されている状態 (IDLE2 は対象外) で、CPU が HALT モードに移行しようとしている期間 ( $f_{\text{FPH}}$  約 5 クロックの間) に、HALT モードを解除可能な割り込み (NMI, INT0, INTRTC) が入力されても、ホルトが解除できない場合があります (割り込み要求は内部に保留されます)。HALT モードへ完全に移行された後に、再度割り込みが発生すれば、問題なく HALT モードを解除できますが、割り込み処理は内部に保留された割り込みと現在の割り込みを比較し、その優先順位に従って順次処理されます。

## • リセットによる解除

リセットにより、すべてのホルト状態からの解除を行うことができます。

ただし、STOPモードの解除では、発振回路動作が安定するための十分なリセット時間(表 3.4.5参照)が必要です。

リセットによる解除では、内蔵 RAM のデータは、ホルト状態に入る直前の状態を保持できますが、その他の設定は初期化されます(割り込みによる解除では、ホルト状態に入る直前の状態を保持します)。

表 3.4.4 ホルト解除ソースとホルト解除の動作

割り込み受け付け状態		割り込み許可 (割り込みレベル) ≥ (割り込みマスク)			割り込み禁止 (割り込みレベル) < (割り込みマスク)			
		IDLE2	IDLE1	STOP	IDLE2	IDLE1	STOP	
ホルト解除ソース	割り込み	NMI	◆	◆	◆ <sup>*1</sup>	—	—	—
		INTWD	◆	×	×	—	—	—
		INT0 (注 1)	◆	◆	◆ <sup>*1</sup>	○	○	○ <sup>*1</sup>
		INTRTC	◆	◆	×	○	○	×
		INT5~INT6	◆ (注 2)	×	×	×	×	×
		INTTA0~INTTA5	◆	×	×	×	×	×
		INTTB00, INTTB01, INTTBOF0	◆	×	×	×	×	×
		INTRX0~INTRX1, INTTX0~INTTX1	◆	×	×	×	×	×
		INTSBI	◆	×	×	×	×	×
		INTAD	◆	×	×	×	×	×
		RESET	LSI を初期化します。					

◆: ホルト解除後、割り込み処理を開始します。

○: ホルト解除後、HALT 命令の次のアドレスから処理を開始します (割り込み処理は行いません)。

×: ホルト解除に使用できません。

—: ノンマスクブル割り込みの優先順位レベル (割り込み要求レベル) は最優先の “7” に固定されているため、この組み合わせはありません。

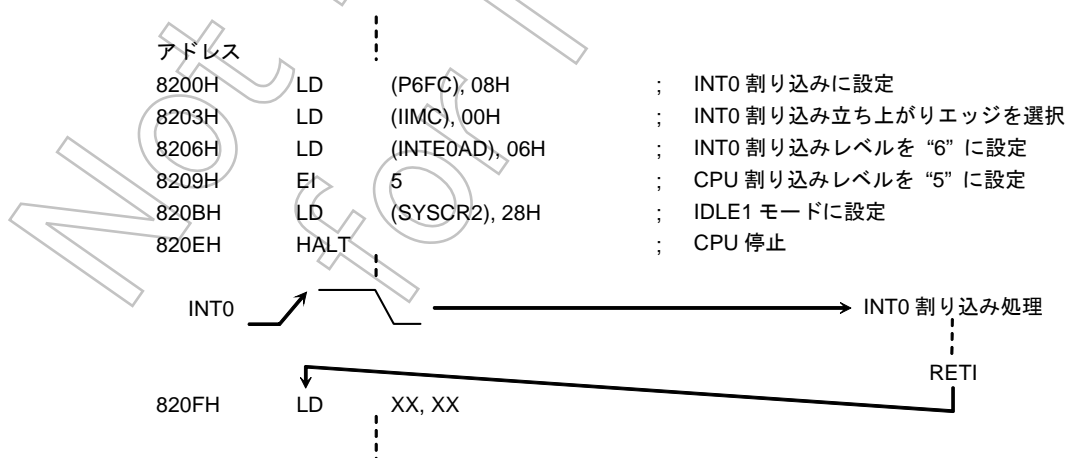
\*1: ウォームアップ時間経過後にホルト解除を行います。

注 1) 割り込み許可状態において、レベルモードの INT0 割り込みによるホルト解除を行う場合、割り込み処理が開始されるまで “H” レベルを保持してください。それ以前で “L” レベルにした場合は、正しい割り込み処理を開始できません。

注 2) 外部割り込み INT5~INT6 を IDLE2 モード時に使用する場合、16 ビットタイマ RUN レジスタ TB0RUN<I2TB0>を “1” にセットしてください。

(ホルト状態からの解除例)

IDLE1 モードのホルト状態をエッジモードの INT0 割り込みにより解除する場合。





## (3) 各モードの動作

## 1. IDLE2 モード

各内蔵 I/O の SFR 中にある IDLE2 モード時の動作/停止設定レジスタで指定した内蔵 I/O のみ動作し、CPU の命令実行動作は停止します。システムクロックは動作しています。

IDLE2 モードの割り込みによるホルト解除のタイミング例を図 3.4.5 に示します。

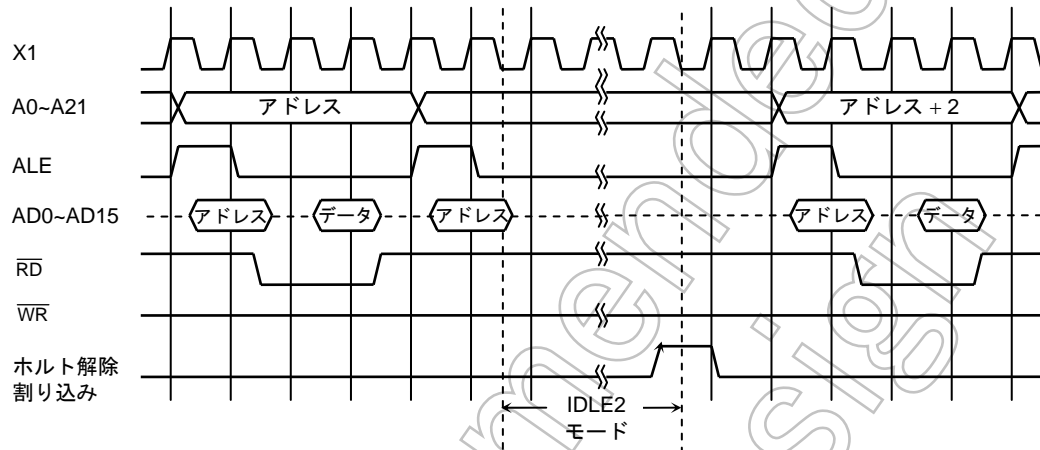


図 3.4.5 割り込みによるホルト解除のタイミング例 (IDLE2 モード時)

## 2. IDLE1 モード

発振回路と時計用タイマのみ動作し、システムクロックは停止します。IDLE2 モードに比べ消費電力の低減が図れます。

ホルト状態での、割り込み要求のサンプリングは、システムクロックと非同期に行われますが、解除 (動作の再開) は同期して行われます。

IDLE1 モードの割り込みによるホルト解除のタイミング例を図 3.4.6 に示します。

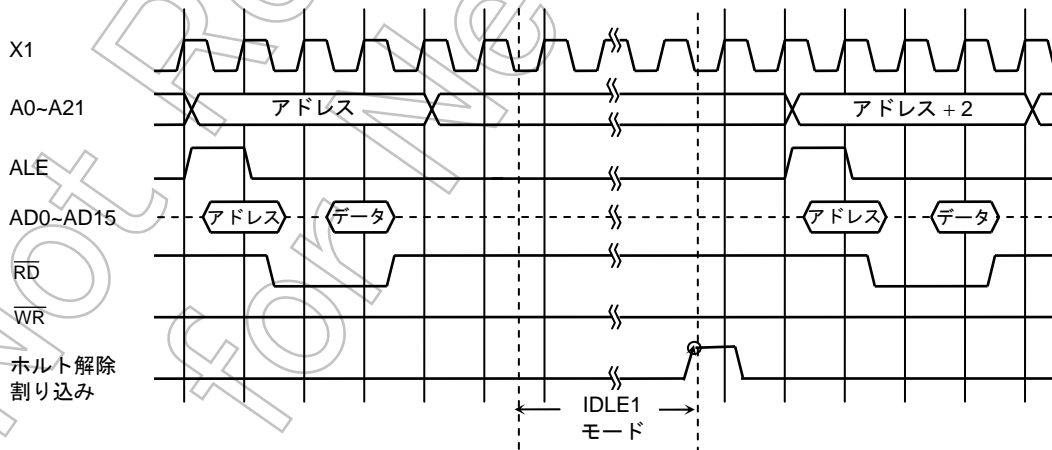


図 3.4.6 割り込みによるホルト解除のタイミング例 (IDLE1 モード時)

### 3. STOP モード

発振回路も含めて、すべての内部回路が停止します。また、STOPモード時の端子状態は、SYSCR2<DRVE>の設定により制御します。STOPモード時の端子状態を 表 3.4.6、表 3.4.7に示します。

STOPモードを解除する場合は、発振回路の安定化のため、ウォームアップ時間経過後に、システムクロックの出力を開始します。ウォームアップ時間の設定は、SYSCR2<WUPTM1:0>で行います。表 3.4.5に設定例を示します。STOPモード解除後は、SYSCR0<RXEN, RXTEN, RSYSCK>の設定に従い動作を開始します（ホルト解除後の動作モード (NORMAL/SLOW) を選択できます）。この設定は“HALT”命令実行前に行う必要があります。

STOPモードの前後で異なる動作モードを使用する場合、HALT命令を実行中（6ステート期間）にホルト解除割り込みが受け付けられると、動作モードの変更が行われなままホルト解除を行うことがあります。HALT命令実行中に割り込みが入力されるようなシステムでは、STOPモードの前後で同じ動作モードを設定してください。

STOPモードの割り込みによるホルト解除のタイミング例を図 3.4.7に示します。

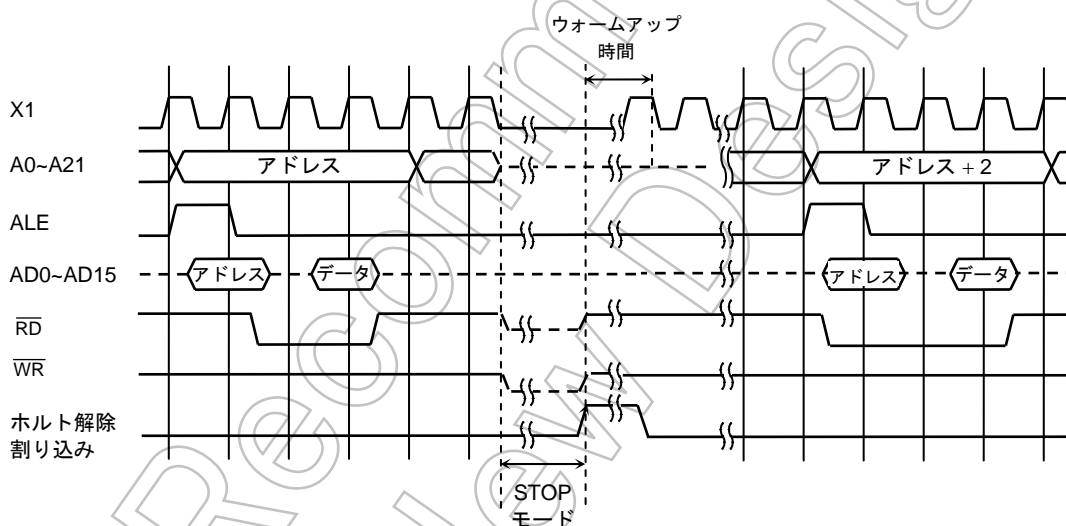


図 3.4.7 割り込みによるホルト解除のタイミング例 (STOP モード時)

表 3.4.5 ウォームアップ時間の設定例 (STOP モード解除時)

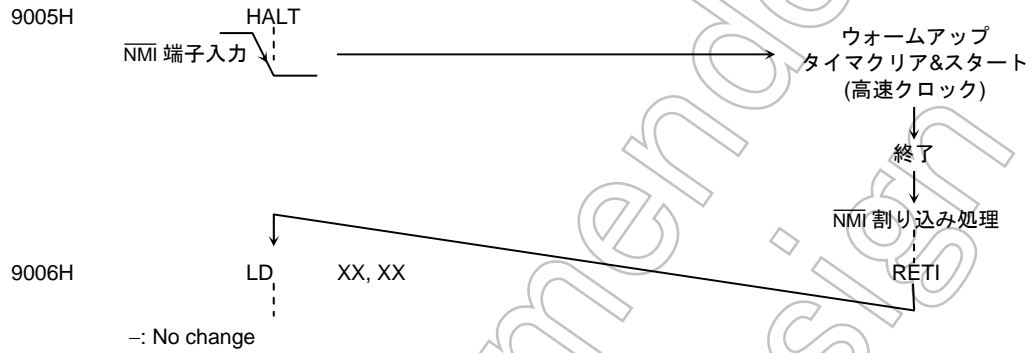
@f<sub>OSCH</sub> = 27MHz, f<sub>s</sub> = 32.768 kHz

SYSCR0 <RSYSCK>	SYSCR2<WUPTM1:0>		
	01 (2 <sup>8</sup> )	10 (2 <sup>14</sup> )	11 (2 <sup>16</sup> )
0 (fc)	9.0 μs	0.607 ms	2.427 ms
1 (fs)	7.8 ms	500 ms	2000 ms

(設定例) SLOW モードで動作している状態で STOP モードに入り、NMI 割り込みによる解除後、NORMAL モードで動作させる場合

アドレス

SYSCR0 EQU 00E0H  
 SYSCR1 EQU 00E1H  
 SYSCR2 EQU 00E2H  
 8FFDH LD (SYSCR1), 08H ; f<sub>SYS</sub> = f<sub>S</sub>/2  
 9000H LD (SYSCR2), X-1001X1B ; ウォームアップ時間 2<sup>14</sup>/f<sub>OSCH</sub>,  
 STOP モードに設定、<DRVE>=1  
 9002H LD (SYSCR0), 011000 --B ; ホルト解除後、高速クロック



Not Recommended for New Design

表 3.4.6 入力バッファ状態表

ポート名	入力機能名	入力バッファ状態									
		リセット中	CPU動作中		HALT中 (IDLE2/IDLE1)		HALT中 (STOP)				
			機能設定時	入力ポート設定時	機能設定時	入力ポート設定時	<DRVE>= "1"		<DRVE>= "0"		
						機能設定時	入力ポート設定時	機能設定時	入力ポート設定時		
P00-07	AD0-7	OFF	外部リードでON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
P10-17	AD8-15										
P20-25	-										
P32	-										
P40-42	-	ON	-	-	-	-	-	-	-	OFF	
P50-52	-										
P53	ADTRG	OFF	ポートリードでON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON		
P60	SCK	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON		OFF
P61	SDA										
P62	SI										
P62	SCL										
P63	INT0	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
P70	TA0IN										
P71	-										
P72	-										
P73	TA4IN	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF
P74	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
P80	TB0IN0 INT5	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	
P81	TB0IN1 INT6	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	
P82	-	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF
P83	-										
P90	-										
P91	RXD0										
P92	SCLK0 CTS0	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF
P93	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
P94	RXD1	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	
P95	SCLK1 CTS1										
P96	XT1 発振器用 ポート用	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
P97	-	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON		
NMI	-	ON	ON	-	ON	-	ON	-	ON	ON	-
RESET	-										
AM0,AM1	-										
X1	-					OFF		OFF			

ON : 常時バッファがONしているため、入力端子がドライブされていないと入力バッファに貫通電流が流れます

OFF : 常時バッファがOFFしています

- : 対象なし

\*1 : Pull-Up/Pull-Down抵抗付きポートです。

\*2 : AIN入力では貫通電流が流れません

表 3.4.7 出力バッファ状態表

ポート名	出力機能名	出力バッファ状態									
		リセット中	CPU動作中		HALT中 (IDLE2/IDLE1)		HALT中 (STOP)				
			機能設定時	出力ポート設定時	機能設定時	出力ポート設定時	<DRVE>= "1"		<DRVE>= "0"		
						機能設定時	出力ポート設定時	機能設定時	出力ポート設定時		
P00-07	AD0-7	OFF	外部ライトでON		OFF		OFF				
P10-17	AD8-15										
P20-25	A8-15										
	A0-5										
P30	$\overline{RD}$	ON									
P31	$\overline{WR}$										
P32	$\overline{HWR}$	ON		ON		ON		ON		OFF	
P40-42	$\overline{CS0}$										
	$\overline{CS1}$										
	$\overline{CS2}$										
P60	SCK	-	ON	-	ON	-	ON	-	ON	-	
P61	SDA										
	SO										
P62	SCL										
P63	-										
P70	-										OFF
P71	TA1OUT	OFF	ON		ON		ON		ON	OFF	
P72	TA3OUT										
P73	-										
P74	TA5OUT										
P80	-										
P81	-										
P82	TB0OUT0										
P83	TB0OUT1		ON		ON		ON		ON	OFF	
P90	TXD0										
P91	-										
P92	SCLK0										
P93	TXD1		ON		ON		ON		ON	OFF	
P94	-										
P95	SCLK1		ON		ON		ON		ON	OFF	
P96	-	ON									
P97	XT2	発振器用	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
		ポート用	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF
ALE	-	OFF	ON	-	ON	-	ON	-	ON	-	
X2	-	ON	ON	-	ON	-	ON	-	ON	-	

ON : 常時バッファがONしています

OFF : 常時バッファがOFFしています

- : 対象なし

\*1 : Pull-Up/ Pull-Down抵抗付きポートです。

\*1  
\*1  
\*1  
\*1

### 3.5 割り込み

割り込みは、CPU の割り込みマスクレジスタ SR<IFF2:0>と、内蔵の割り込みコントローラによって制御されます。

割り込み要因には、下記に示す合計 34 本があります。

- |                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>• CPU 自身からの割り込み ..... 9 本<br/>(ソフトウェア割り込み、未定義命令実行違反)</li><li>• 外部端子 (<math>\overline{\text{NMI}}</math>、INT0,INT5, INT6)4 本</li><li>• 内蔵 I/O からの割り込み ..... 21 本</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

各割り込み要因ごとに、個別の割り込みベクタ番号(固定)が割り当てられており、マスクブル割り込みのそれぞれに、6 レベルの優先順位(可変)を割り付けることができます。ノンマスクブル割り込みの優先順位は、最優先の“7”に固定されています。

割り込みが発生すると、割り込みコントローラは、その割り込み要因の優先順位値を CPU に送ります。同時に複数の割り込みが発生した場合は、最も高い優先順位値(最高はノンマスクブル割り込みの“7”)を CPU に送ります。

CPU は、その送られてきた優先順位値と、CPU の割り込みマスクレジスタ<IFF2:0>の値を比較し、送られてきた優先順位値が、割り込みマスクレジスタの値以上であれば、その割り込みを受け付けます。<IFF2:0>の値は EI 命令 (EI num/IFF <2:0> の内容が num) を使用して、書き替えることができます。例えば、“EI 3”とプログラムすると、割り込みコントローラに設定された、優先順位値 3 以上のマスクブル割り込みと、ノンマスクブル割り込みが受け付け可能となります。また、DI 命令 (<IFF2:0> が 7) は動作的には“EI 7”と同じですが、マスクブル割り込みの割り込みレベルが 1~6 であるため、マスクブル割り込みの受け付け禁止用として使用されます。なお、EI 命令は実行後、直ちに有効となります。

上記汎用割り込み処理モードに加えて、「マイクロ DMA」処理モードがあります。マイクロ DMA は、CPU が自動的にデータの転送 (1/2/4 バイト) を行うモードです。内部/外部メモリおよび内蔵 I/O に対するデータ転送を、高速に行うことができます。

さらに、このマイクロ DMA 要求を割り込み要因から与えられる以外に、ソフトで要求をかける“ソフトスタート機能”があります。

図 3.5.1に割り込み処理全体のフローを示します。

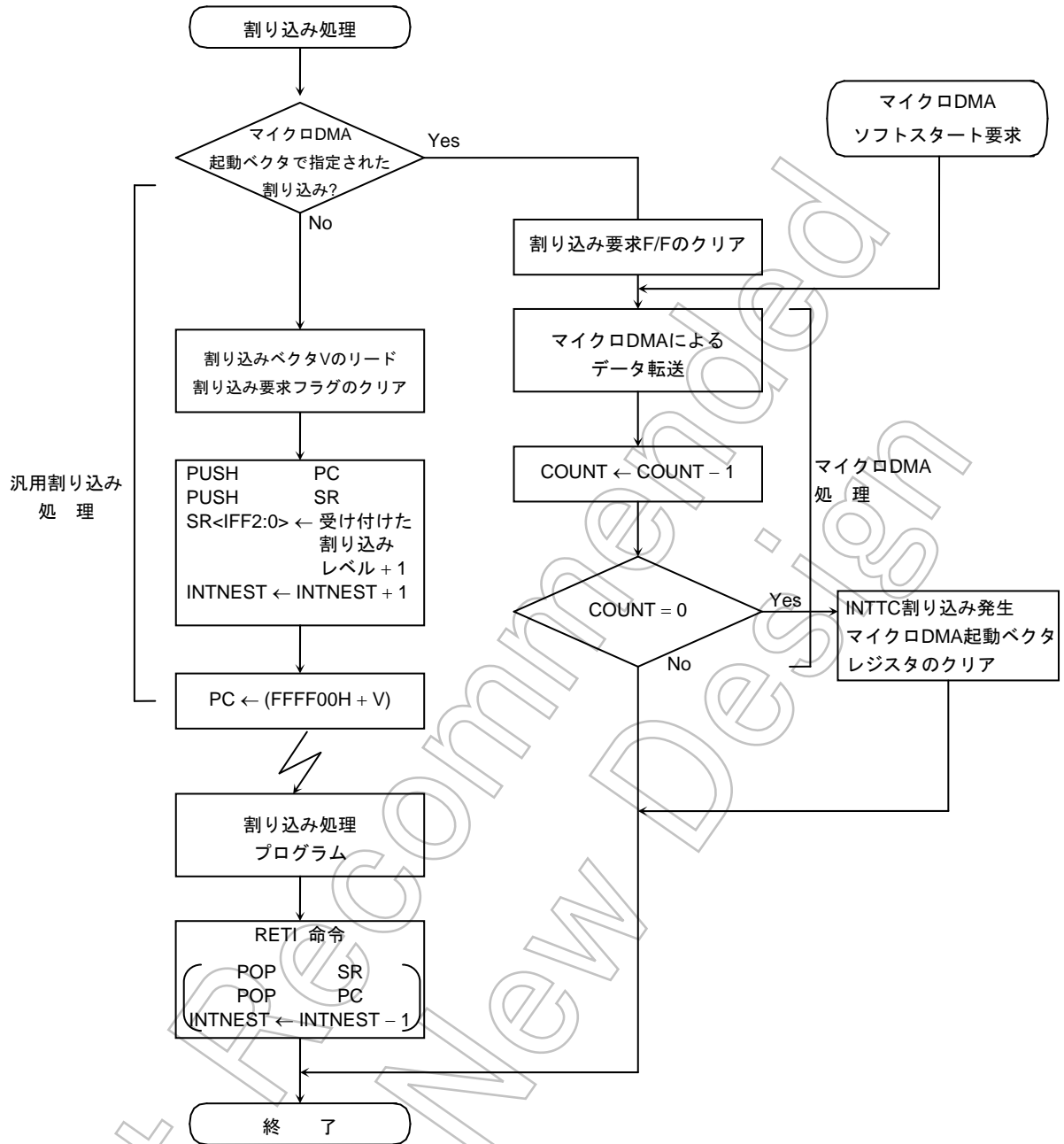


図 3.5.1 割り込み処理全体のフロー

### 3.5.1 汎用割り込み処理

CPU が割り込みを受け付けると、下記の動作をします。なお、この動作は、TLCS-900/L、TLCS-900/H と同様です。

- (1) CPU は、割り込みコントローラから、割り込みベクタをリードします。  
割り込みコントローラは、同一レベルに設定された割り込みが同時に発生した場合、デフォルトプライオリティ (固定: ベクタ値が小さいほど優先順位が高い) に従って割り込みベクタを発生し、その割り込み要求をクリアします。
- (2) CPU は、プログラムカウンタ「PC」とステータスレジスタ「SR」を、スタック領域 (XSP が示す領域) へ PUSH します。
- (3) CPU の割り込みマスクレジスタ <IFF2:0> の値を、受け付けた割り込みレベルより“1”だけ高い値にセットします。ただし、値が“7”のときは、インクリメントせず“7”をセットします。
- (4) 割り込みネスティングカウンタ INTNEST を、+1 します。
- (5) CPU は、「FFFF00H + 割り込みベクタ」のデータで示されるアドレスへジャンプし、割り込み処理ルーチンを開始します。

上記の処理時間は、ベストケース (メモリは16ビットデータバス幅, 0ウェイト) の場合、18 ステート (1.33 μs @ 27 MHz) です。

割り込み処理が終了し、メインルーチンに戻るときは、通常「RETI」命令で行います。この命令を実行すると、スタックからプログラムカウンタ PC とステータスレジスタ SR の内容を復帰し割り込みネスティングカウンタ INTNEST を-1 します。

ノンマスカブル割り込みは、プログラムによって割り込み受け付けを禁止することができません。マスカブル割り込みは、プログラムによって割り込みの許可/禁止が選択できるとともに、割り込み要因ごとに優先順位を設定することができます。CPU は、CPU 自体が持つ <IFF2:0> の値以上の、優先順位値を持つ割り込み要求があると、割り込みを受け付けます。そして、CPU の <IFF2:0> に、受け付けた優先順位に“1”を加えた値を、セットします。従って、割り込み処理中に、現在実行している割り込みよりも高いレベルの割り込みが発生した場合には、その割り込み要求を受け付け、割り込み処理のネスティング状態になります。

なお、CPU が割り込みを受け付け、前記 (1)~(5) までの処理をしている間に発生した別の割り込み要求は、その割り込み処理ルーチンの先頭命令が実行された直後にサンプリングされます。先頭命令を DI 命令にすると、マスカブル割り込みのネスティングを禁止することができます。

リセット後、CPU の <IFF2:0> は、“7”に初期化されているため、マスカブル割り込み禁止状態になっています。

アドレスFFFF00H~FFFFFFH (256 バイト) が、割り込みベクタ領域に割り当てられています。表 3.5.1 に割り込みテーブルを示します。



表 3.5.1 TMP91CU27/CP27/CK27 の割り込みテーブル

デフォルト プライオリティ	タイプ	割り込み要因	ベクタ値	ベクタ参照 アドレス	マイクロ DMA 起動ベクタ
1	ノン マスカブル	“リセット”または「SWI0」命令	0000H	FFFF00H	—
2		「SWI1」命令	0004H	FFFF04H	—
3		INTUNDEF: 未定義命令実行違反、または「SWI2」命令	0008H	FFFF08H	—
4		「SWI3」命令	000CH	FFFF0CH	—
5		「SWI4」命令	0010H	FFFF10H	—
6		「SWI5」命令	0014H	FFFF14H	—
7		「SWI6」命令	0018H	FFFF18H	—
8		「SWI7」命令	001CH	FFFF1CH	—
9		NMI 端子	0020H	FFFF20H	—
10		INTWD: ウォッチドッグタイマ	0024H	FFFF24H	—
—	(マイクロ DMA)	—	—	—	
11	マスカブル	INT0 端子	0028H	FFFF28H	0AH
12		Reserved	—	—	—
13		Reserved	—	—	—
14		Reserved	—	—	—
15		Reserved	—	—	—
16		INT5 端子	003CH	FFFF3CH	0FH
17		INT6 端子	0040H	FFFF40H	10H
18		Reserved	—	—	—
19		Reserved	—	—	—
20		INTTA0: 8ビットタイマ0	004CH	FFFF4CH	13H
21		INTTA1: 8ビットタイマ1	0050H	FFFF50H	14H
22		INTTA2: 8ビットタイマ2	0054H	FFFF54H	15H
23		INTTA3: 8ビットタイマ3	0058H	FFFF58H	16H
24		INTTA4: 8ビットタイマ4	005CH	FFFF5CH	17H
25		INTTA5: 8ビットタイマ5	0060H	FFFF60H	18H
26		Reserved	—	—	—
27		Reserved	—	—	—
28		INTTB00: 16ビットタイマ0 (TB0RG0)	006CH	FFFF6CH	1BH
29		INTTB01: 16ビットタイマ0 (TB0RG1)	0070H	FFFF70H	1CH
30		Reserved	—	—	—
31		Reserved	—	—	—
32		INTTBOF0: 16ビットタイマ0 (オーバフロー)	007CH	FFFF7CH	1FH
33		Reserved	—	—	—
34		INTRX0: シリアル受信 (チャンネル0)	0084H	FFFF84H	21H
35		INTTX0: シリアル送信 (チャンネル0)	0088H	FFFF88H	22H
36		INTRX1: シリアル受信 (チャンネル1)	008CH	FFFF8CH	23H
37		INTTX1: シリアル送信 (チャンネル1)	0090H	FFFF90H	24H
38		INTSBI: シリアルバスインタフェース割り込み	0094H	FFFF94H	25H
39		INTRTC: 時計用タイマ割り込み	0098H	FFFF98H	26H
40		INTAD: AD変換終了	009CH	FFFF9CH	27H
41		INTTC0: マイクロDMA終了 (チャンネル0)	00A0H	FFFA0H	—
42		INTTC1: マイクロDMA終了 (チャンネル1)	00A4H	FFFA4H	—
43		INTTC2: マイクロDMA終了 (チャンネル2)	00A8H	FFFA8H	—
44		INTTC3: マイクロDMA終了 (チャンネル3)	00ACH	FFFACH	—
	(Reserved)	00B0H	FFFB0H	—	
	:	:	:	:	
	(Reserved)	00FCH	FFFFFCH	—	

注) マイクロDMA デフォルトプライオリティ  
マイクロDMAは、ほかのマスカブル割り込みより優先されて起動します。

### 3.5.2 マイクロDMA

汎用割り込み処理に加えて、マイクロDMA機能があります。マイクロDMAに設定された割り込み要求は、設定された割り込みレベルにかかわらず、マスクブル割り込みの中で最も高い割り込みレベルで処理を行います。

マイクロDMAは、4チャンネル用意されており、後述のバースト指定により、連続転送が可能です。

なお、マイクロDMA機能は、CPUの協調動作によって実現されているため、CPUがHALT命令を実行しスタンバイ状態(STOP, IDLE1, DLE2)になると、マイクロDMAの要求は、無視(保留)され、HALT解除後にDMA転送を開始します。

#### (1) マイクロDMAの動作

マイクロDMAは、マイクロDMA起動ベクタレジスタで指定された割り込み要求が発生すると、割り込み要求元の割り込みレベルにかかわらず、CPUに対しマスクブル割り込みの中で最も優先順位の高いレベルでデータ転送処理を行います。〈IFF2:0〉 = “7”のときは、マイクロDMAの要求は受け付けられません。

マイクロDMAは4チャンネル用意されており、同時に4種類までの割り込み要因に対して、マイクロDMAを設定することができます。

マイクロDMAが受け付けられると、そのチャンネルに割り当てられている割り込み要求フラグをクリアし、コントロールレジスタに設定された、転送元アドレスから転送先アドレスに、データ転送が一回(1/2/4バイト)行われ、転送数カウンタをデクリメントします。デクリメントした結果が“0”ならば、CPUはマイクロDMA転送終了を割り込みコントローラに伝え、割り込みコントローラは、マイクロDMA転送終了割り込み(INTTCn)を発生させ、かつ、マイクロDMA起動ベクタレジスタDMA<sub>n</sub>Vの値を“0”にクリアして、次のマイクロDMA起動を禁止し、マイクロDMA処理を終了します。デクリメントした結果が“0”でない場合、後述のバースト指定がなければ、マイクロDMA処理は終了しません。この場合、転送終了割り込み(INTTCn)は発生しません。

割り込み要因をマイクロDMA起動のみに使用する場合は、割り込みレベルを“0”にしておく必要があります。これは、マイクロDMA起動ベクタに設定されるまでの間に、その割り込み要求が発生すると、割り込みレベルが1~6の場合、CPUは汎用割り込み処理を行うためです。

割り込み要因をマイクロDMAと汎用割り込みの起動の両方で使用する場合は、その割り込み要因の割り込みレベルを、ほかのすべての割り込み要因の割り込みレベルより低くする必要があります(注)。なお、その割り込み要因は、エッジ割り込みに限られます。

マイクロDMA転送終了割り込みは、ほかのマスクブル割り込みと同様に割り込みレベルとデフォルトプライオリティにより、優先順位が決まります。

また、複数チャンネルのマイクロDMA要求が、同時に発生した場合の優先順位は、割り込みレベルに無関係で、チャンネル番号の若い方が高くなります。(CH0(高) → CH3(低))

転送元/転送先アドレスを設定するレジスタは、32ビット幅のコントロールレジスタになっていますが、アドレスは24本しか出力されていないため、マイクロDMAで取り扱える空間は、16Mバイトとなります。

注) マイクロDMA要因の割り込みレベルを他の割り込みレベルより高くすると、下記のような動作をする場合があります。

下記設定にてINT<sub>xxx</sub>割り込みが先に発生し、割り込み処理フロー(図3.5.1参照)で、“マイクロDMA起動ベクタで指定された割り込み”の確認後で、“割り込みベクタVのリード”の間にINT<sub>yyy</sub>が発生した場合、INT<sub>yyy</sub>の割り込みレベルのほうが高いため、その時点ではベクタVはINT<sub>yyy</sub>のベクタVに変化してしまいます。割り込み処理フローでは、マイクロDMAの確認が終了しているため、割り込みベクタVがすり替わる形となり、CPUはそのままINT<sub>yyy</sub>のベクタVをリードしてしまい、マイクロDMAの転送カウンタにかかわらずINT<sub>yyy</sub>が発生してしまいます。

INT<sub>xxx</sub>: レベル1 DMA設定なし

INT<sub>yyy</sub>: レベル6 DMA設定あり

転送モードは、1/2/4 バイト転送の 3 種類があり、それぞれの転送モードに対して、転送後、転送元/転送先アドレスをインクリメント、デクリメント、固定するモードを用意しています。このモードにより、I/O からメモリ、メモリから I/O、I/O から I/O のデータ転送を簡単に行えます。転送モードの詳細は、(4)「転送モードレジスタ」を参照してください。

転送数カウンタは、16 ビット幅で構成されているため、一つの割り込み要因に対して、最大 65536 回 (転送カウンタの設定値が 0000H のとき最大) の、マイクロ DMA 処理を行うことができます。

マイクロ DMA 処理を行うことのできる割り込み要因は、表 3.5.1 でマイクロ DMA 起動ベクタのある 30 種類の割り込みとソフトスタートによる計 31 種類です。

転送先アドレス INC モード 2 バイト転送 (カウンタモード以外は同様) のマイクロ DMA サイクルを図 3.5.2 に示します。(全アドレスエリア 16 ビットバス, 0 ウェイト, ソース/デスティネーションアドレスとも偶数の場合)

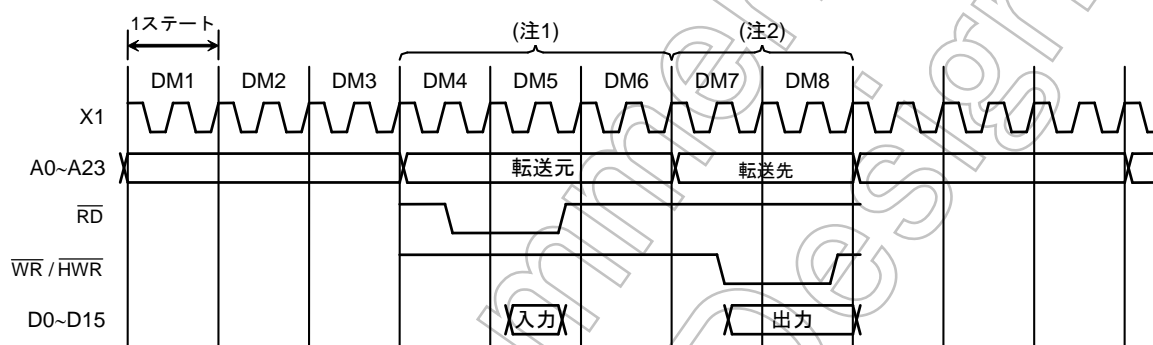


図 3.5.2 マイクロ DMA サイクル図

第 1~3 ステート: 命令フェッチサイクル (次の命令コードを先取りします)

命令キューバッファに 3 バイト以上の命令コードが入ると、このサイクルは、ダミーサイクルになります。

第 4~5 ステート: マイクロ DMA リードサイクル

第 6 ステート: ダミーサイクル (アドレスバスは第 5 ステート状態のままです)

第 7~8 ステート: マイクロ DMA ライトサイクル

注 1) 転送元アドレスエリアが 8 ビットバスの場合、+2 ステートされます。

また、転送元アドレスエリアが 16 ビットバスで、奇数アドレスから始まる場合も、+2 ステートされます。

注 2) 転送先アドレスエリアが 8 ビットバスの場合、+2 ステートされます。

また、転送先アドレスエリアが 16 ビットバスで、奇数アドレスから始まる場合も、+2 ステートされます。

(2) ソフトスタート機能

割り込み要因によるマイクロ DMA の起動以外に、DMAR レジスタへのライトサイクルが発生したことにより、マイクロ DMA を起動する“マイクロ DMA ソフトスタート機能”があります。

DMAR レジスタの各ビットに“1”をライトすることにより、マイクロ DMA を一回起動することができます(“0”をライトしても変化しません)。転送が終了すると、終了したチャンネルに対応する DMAR レジスタのビットが、自動的に“0”にクリアされます。なお、仕様上の制限として一度に 1 チャンネルしか起動指定できません(複数のビットに“1”をライトしないでください)。

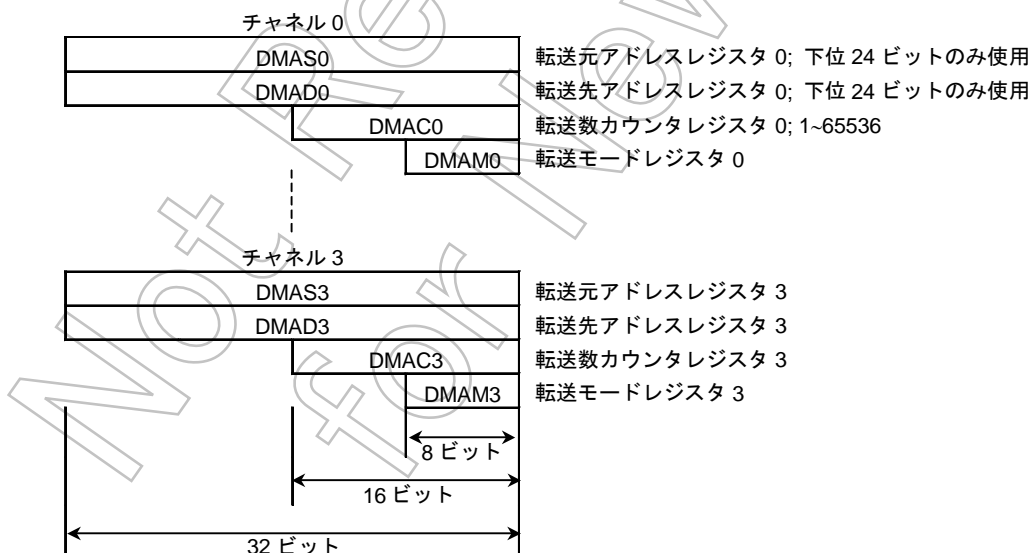
また、再度 DMAR レジスタに“1”をライトする場合は、そのビットが“0”であることを確認してから行ってください。リードした値が“1”の場合は、まだマイクロ DMA 転送が開始されません。

DMAB レジスタでバースト指定されている場合は、マイクロ DMA を起動するとマイクロ DMA 転送カウンタが“0”になるまで、連続的にデータ転送されます。割り込み要因によるマイクロ DMA 転送の合間にソフトスタートを実行してもマイクロ DMA 転送カウンタは変化しません。他のビットへの誤書き込みを防ぐために、リードディファイライト命令は使わないでください。

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMAR	DMA request register	89H (RMW 禁)					DMAR3	DMAR2	DMAR1	DMAR0
							R/W			
							0	0	0	0

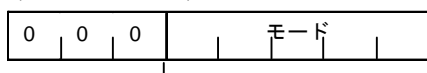
(3) 転送制御レジスタ

転送元アドレス、転送先アドレスは、下記の CPU 内レジスタで設定します。これらのレジスタは、「LDC cr, r」命令を使用して、データの設定を行います。



(4) 転送モードレジスタ: DMAM0~DMAM3

(DMAM0~DMAM3)



注) このレジスタに値を設定するとき、上位3ビットは“0”にしてください。

		実行時間
ZZ: 0 = バイト転送、1 = ワード転送、2 = 4バイト転送、3 = Reserved		
0 0 0 Z Z	転送先アドレス INC モード.....I/O ~メモリ用 (DMADn+) ← (DMASn) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTC 発生	8ステート(593ns) @バイト/ワード転送 12ステート(889 ns) @4バイト転送
0 0 1 Z Z	転送先アドレス DEC モード.....I/O ~メモリ用 (DMADn-) ← (DMASn) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTC 発生	8ステート(593ns) @バイト/ワード転送 12ステート(889 ns) @4バイト転送
0 1 0 Z Z	転送元アドレス INC モード.....メモリ~I/O用 (DMADn) ← (DMASn+) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTC 発生	8ステート(593 ns) @バイト/ワード転送 12ステート(889 ns) @4バイト転送
0 1 1 Z Z	転送元アドレス DEC モード.....メモリ~I/O用 (DMADn) ← (DMASn-) DMACn ← DMACn-1 DMACn = 0 の場合 INTTC 発生	8ステート(593 ns) @バイト/ワード転送 12ステート(889 ns) @4バイト転送
1 0 0 Z Z	アドレス固定モード.....I/O ~I/O用 (DMADn) ← (DMASn) DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTC 発生	8ステート(593 ns) @バイト/ワード転送 12ステート(889 ns) @4バイト転送
1 0 1 0 0	カウンタモード.....割り込み発生回数カウンタ用 DMASn ← DMASn + 1 DMACn ← DMACn - 1 DMACn = 0 の場合 INTTC 発生	5ステート (370 ns)

注 1) n: 対応するマイクロ DMA チャンネル 0~3

DMADn+/DMASn+: ポストインクリメント (転送後レジスタの値をインクリメント)

DMADn-/DMASn-: ポストデクリメント (転送後レジスタの値をデクリメント)

表中の I/O とは固定されたアドレス、メモリとはインクリメント、デクリメントされるアドレスを意味します。

注 2) 実行時間: 転送元/転送先アドレス空間が 16 ビットバス幅、0 ウェイトに設定されている場合を示します。

クロック条件は fc = 27 MHz、高速クロックギア: 1 倍 (fc) です。

注 3) 転送モードレジスタへは上記以外のコードを設定しないでください。

### 3.5.3 割り込みコントローラの制御

図 3.5.3に、割り込み回路のブロック図を示します。この図の左側は、割り込みコントローラを示し、右側はCPUの割り込み要求信号回路と、ホルト解除回路を示しています。

割り込みコントローラは、割り込み要求フラグ、割り込みレベルレジスタ、マイクロ DMA 起動ベクタを持っています。割り込み要求フラグは、周辺からの割り込み要求をラッチするためのものです。

割り込み要求フラグは、以下の場合にクリアされます。

- リセット動作
- CPU が割り込みを受け付け、その割り込みのベクタをリードしたとき
- 割り込みをクリアする命令の実行 (INTCLR レジスタに DMA 起動ベクタをライト)
- CPU がその割り込みでのマイクロ DMA を受け付けたとき
- その割り込みでのマイクロ DMA バースト転送が終了したとき

割り込みの優先順位は、各割り込み要因ごとに準備されている割り込みレベルレジスタ (INTE0AD, INTE56 …… など) にそれぞれのレベルを設定できます。設定できる割り込みレベルは 1 から 6 までの 6 レベルです。レベルを“0” (または“7”) にすることにより、該当する割り込み要求は禁止されます。なお、ノンマスクابل割り込み (NMI 端子, ウォッチドッグタイマ) のレベルは“7”に固定されています。また、同時に同一レベルの割り込み要求が発生した場合には、デフォルトプライオリティに従い、割り込みを受け付けます。なお、割り込みレベルレジスタのビット 3, ビット 7 をリードすると、割り込み要求フラグの状態がリードされ、各チャンネルの割り込み要求の有無がわかります。

割り込みコントローラは、発生した割り込みの割り込みレベルと、そのベクタアドレスを CPU へ送ります。CPU は、ステータスレジスタ (SR) に割り付けられている割り込みマスクレジスタ <IFF2:0> と割り込みレベルを比較し、割り込みのレベルがそれ以上であれば、この割り込みを受け付けます。そして、SR <IFF2:0> に、受け付けた割り込みレベル+1 の値をセットし、この値以上の割り込み要求だけが、多重に受け付けられる割り込み要因となります。割り込み処理の終了 (RETI 命令の実行) により、SR <IFF2:0> には、スタックに退避されていた、割り込み発生以前の割り込みマスクレジスタの値が、リストアされます。

割り込みコントローラには、マイクロDMAの起動ベクタを格納するレジスタ (4チャンネル) が用意されています。このレジスタに、起動ベクタ (表 3.5.1 参照) をあらかじめライトすることにより、該当する割り込み要求が発生することによって、マイクロDMAが起動されます。なお、このマイクロDMA処理の前に、マイクロDMAパラメータ用レジスタ (DMAS, DMAD など) に値を設定しておく必要があります。

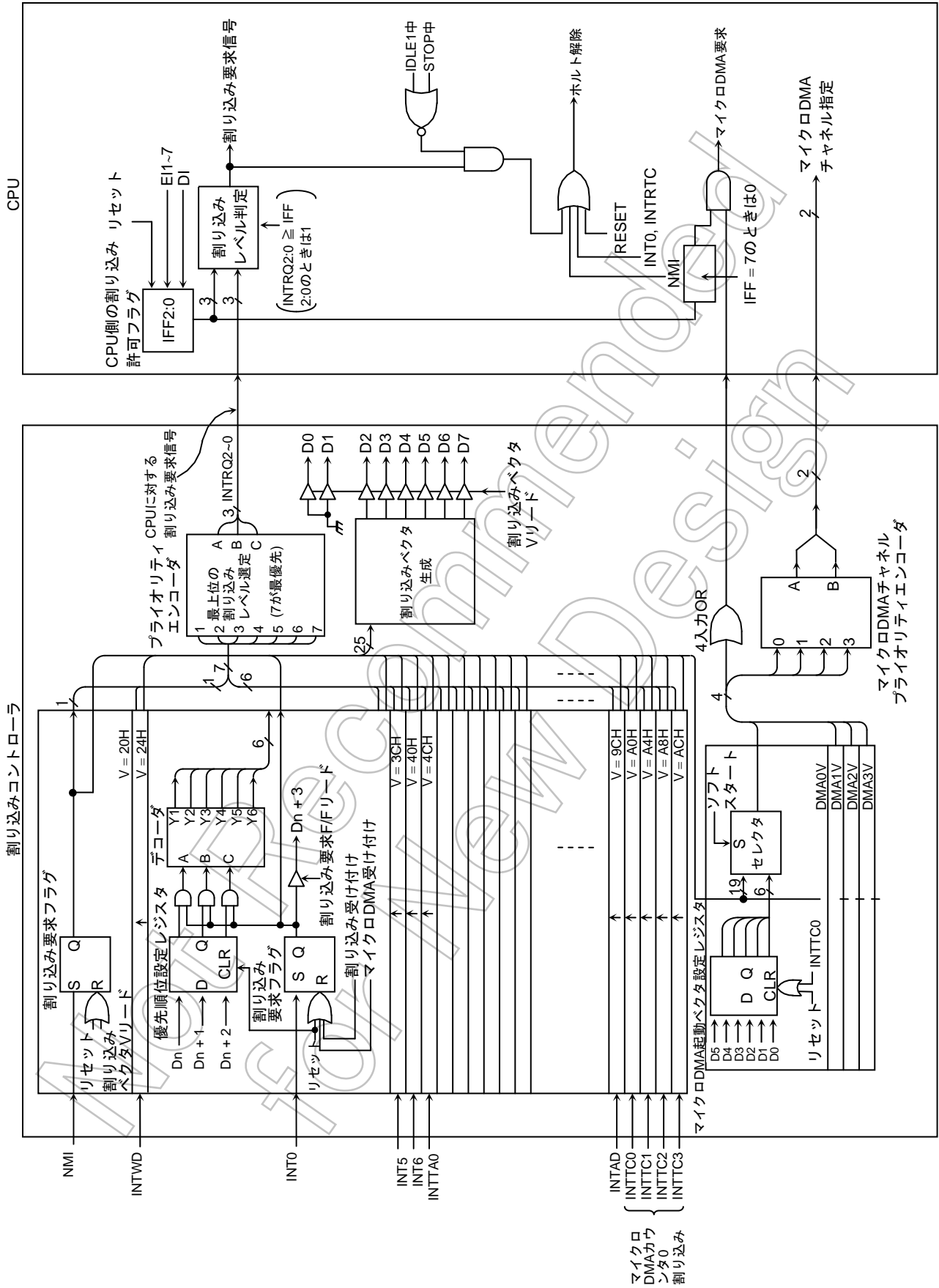


図 3.5.3 割り込みコントローラブロック図

(1) 割り込み優先順位設定レジスタ

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTE0AD	INT0 & INTAD enable	90H	INTAD				INT0			
			IADC	IADM2	IADM1	IADM0	IOC	IOM2	IOM1	IOM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTE56	INT5 & INT6 enable	93H	INT6				INT5			
			I6C	I6M2	I6M1	I6M0	I5C	I5M2	I5M1	I5M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEA01	INTTA0 & INTTA1 enable	95H	INTTA1 (TMRA1)				INTTA0 (TMRA0)			
			ITA1C	ITA1M2	ITA1M1	ITA1M0	ITA0C	ITA0M2	ITA0M1	ITA0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEA23	INTTA2 & INTTA3 enable	96H	INTTA3 (TMRA3)				INTTA2 (TMRA2)			
			ITA3C	ITA3M2	ITA3M1	ITA3M0	ITA2C	ITA2M2	ITA2M1	ITA2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTEA45	INTTA4 & INTTA5 enable	97H	INTTA5 (TMRA5)				INTTA4 (TMRA4)			
			ITA5C	ITA5M2	ITA5M1	ITA5M0	ITA4C	ITA4M2	ITA4M1	ITA4M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0

割り込み要求フラグ

lxxM2	lxxM1	lxxM0	機能 (ライト)
0	0	0	割り込み要求を禁止に設定
0	0	1	割り込みレベルを1に設定
0	1	0	割り込みレベルを2に設定
0	1	1	割り込みレベルを3に設定
1	0	0	割り込みレベルを4に設定
1	0	1	割り込みレベルを5に設定
1	1	0	割り込みレベルを6に設定
1	1	1	割り込み要求を禁止に設定



記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTETB0	INTTB00 & INTTB01 enable	99H	INTTB01 (TMRB0)				INTTB00 (TMRB0)			
			ITB01C	ITB01M2	ITB01M1	ITB01M0	ITB00C	ITB00M2	ITB00M1	ITB00M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETB01V	INTTBOF1 (over-flow) enable	9BH	-				INTTBOF0 (TMRB0 オーバフロー)			
			-	-	-	-	ITF0C	ITF0M2	ITF0M1	ITF0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES0	INTRX0 & INTTX0 enable	9CH	INTTX0				INTRX0			
			ITX0C	ITX0M2	ITX0M1	ITX0M0	IRX0C	IRX0M2	IRX0M1	IRX0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES1	INTRX1 & INTTX1 enable	9DH	INTTX1				INTRX1			
			ITX1C	ITX1M2	ITX1M1	ITX1M0	IRX1C	IRX1M2	IRX1M1	IRX1M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTES2RTC	INTSBI & INTRTC enable	9EH	INTRTC				INTSBI			
			IRTC	IRTCM2	IRTCM1	IRTCM0	ISBIC	ISBIM2	ISBIM1	ISBIM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC01	INTTC0 & INTTC1 enable	A0H	INTTC1				INTTC0			
			ITC1C	ITC1M2	ITC1M1	ITC1M0	ITC0C	ITC0M2	ITC0M1	ITC0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
INTETC23	INTTC2 & INTTC3 enable	A1H	INTTC3				INTTC2			
			ITC3C	ITC3M2	ITC3M1	ITC3M0	ITC2C	ITC2M2	ITC2M1	ITC2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0

割り込み要求フラグ ←

lxxM2	lxxM1	lxxM0	機能 (ライト)
0	0	0	割り込み要求を禁止に設定
0	0	1	割り込みレベルを1に設定
0	1	0	割り込みレベルを2に設定
0	1	1	割り込みレベルを3に設定
1	0	0	割り込みレベルを4に設定
1	0	1	割り込みレベルを5に設定
1	1	0	割り込みレベルを6に設定
1	1	1	割り込み要求を禁止に設定

## (2) 外部割り込みの制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
IIMC	Interrupt input mode control	8CH (RMW 禁)	-	-	-	-	-	IOEDGE	IOLE	NMIREE		
			W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			"0"をライトしてください。						INT0 エッジ 0: 立ち上がり 1: 立ち下がり	INT0 0: エッジ 1: レベル	1: $\overline{\text{NMI}}$ 立ち上がりでも動作	

## INT0 レベルイネーブル

0	エッジ検知割り込み
1	"H" レベル割り込み

## NMI 立ち上がりエッジイネーブル

0	立ち下がりエッジで割り込み要求発生
1	立ち上がり/立ち下がり両方のエッジで割り込み要求発生

## (3) 割り込み要求フラグクリアレジスタ

割り込み要求フラグのクリアは、INTCLRレジスタに表 3.5.1 のマイクロDMA起動ベクタをライトして行います。

例えば、INT0 割り込みフラグをクリアする場合、DI 命令後に下記のレジスタ操作を行います。

INTCLR ← 0AH      INT0 割り込み要求フラグのクリア

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTCLR	Interrupt clear control	88H (RMW 禁)			CLRV5	CLRV4	CLRV3	CLRV2	CLRV1	CLRV0	
			W								
					0	0	0	0	0	0	
			割り込みベクタ								

## (4) マイクロDMA 起動ベクタレジスタ

マイクロDMA 処理をどの割り込み要因に割り当てるかを選択するレジスタです。このレジスタに設定されたベクタ値と一致するマイクロDMA 起動ベクタを持つ割り込み要因をマイクロDMA 起動要因として割り当てます。

マイクロDMA 転送カウンタが"0"になると、割り込みコントローラにそのチャンネルに相当するマイクロDMA 転送終了割り込みが伝えられるとともに、このマイクロDMA 起動ベクタレジスタはクリアされ、そのチャンネルのマイクロDMA 起動要因がクリアされますので、引き続きマイクロDMA 処理をさせたい場合は、マイクロDMA 転送終了割り込み処理の中で、再度このマイクロDMA 起動ベクタレジスタをセットする必要があります。

また、複数チャンネルのマイクロDMA 起動ベクタレジスタに同一ベクタが設定されている場合は、チャンネル番号の小さい方が優先されます。

従って、2チャンネルのマイクロDMA 起動ベクタレジスタに同一ベクタが設定されている場合、チャンネル番号の小さいチャンネルがマイクロDMA 転送終了になるまで実行され、そのチャンネルのマイクロDMA 起動ベクタを再度設定しなければ、その後のマイクロDMA 起動はチャンネル番号の大きいチャンネルに移行します。(マイクロDMA のチェーン)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMA0V	DMA 0 start vector	80H	/	/	DMA0V5	DMA0V4	DMA0V3	DMA0V2	DMA0V1	DMA0V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA0 起動ベクタ					
DMA1V	DMA 1 start vector	81H	/	/	DMA1V5	DMA1V4	DMA1V3	DMA1V2	DMA1V1	DMA1V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA1 起動ベクタ					
DMA2V	DMA 2 start vector	82H	/	/	DMA2V5	DMA2V4	DMA2V3	DMA2V2	DMA2V1	DMA2V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA2 起動ベクタ					
DMA3V	DMA 3 start vector	83H	/	/	DMA3V5	DMA3V4	DMA3V3	DMA3V2	DMA3V1	DMA3V0
					R/W					
					0	0	0	0	0	0
					DMA3 起動ベクタ					

## (5) マイクロ DMA のバースト指定

マイクロ DMA 処理はバースト指定を行うことにより、1回のマイクロ DMA 起動で、転送カウンタレジスタが 0 になるまで、連続転送を行うことが可能です。DMAB レジスタのマイクロ DMA チャンネルに対応するビットを“1”にすることで、バースト指定できます。

バースト転送中にほかの割り込み(マスカブル/ノンマスカブルにかかわらず) 発生した場合は、バースト転送終了後に割り込み処理を実行します。

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
DMAR	DMA software request register	89H (RMW 禁)	/	/	/	/	DMAR3	DMAR2	DMAR1	DMAR0
							R/W			
							0	0	0	0
							1: DMA のソフトウェア要求			
DMAB	DMA burst request register	8AH	/	/	/	/	DMAB3	DMAB2	DMAB1	DMAB0
							R/W			
							0	0	0	0
							1: DMA バースト要求			

## (6) 注意事項

CPU は、命令実行ユニットとバスインタフェースユニットが分離されています。そのため、割り込みが発生する直前に、その割り込みコントローラの割り込み要求フラグをクリアする命令をフェッチした場合、CPU が割り込みを受け付けて、割り込みベクタをリードするまでの間に、その割り込み要求フラグをクリアする命令（注）を実行することがあります。この場合、CPU は要因消滅ベクタ“0008H”をリードし、アドレス FFFF08H の割り込みベクタをリードします。

上記の現象を回避するため、割り込み要求フラグをクリアするときは、DI 命令の後にクリアする命令をライトするようにしてください。クリアする命令を実行した後、再び EI 命令で割り込みをイネーブルにするときは、クリア命令後必ず 1 命令以上間を置いてから EI 命令を実行してください。クリア命令後すぐに EI 命令を実行すると、割り込み要求フラグがクリアされる前に、割り込みイネーブルになってしまうことがあります。

また、POP SR 命令により割り込みマスクレベル（ステータスレジスタ SR の<IFF2:0>）を書き替えるときは、必ず DI 命令により割り込みを禁止した後に POP SR 命令を実行してください。

さらに、以下の 2 点は例外の回路になっていますので注意が必要です。

INTO のレベルモード	<p>エッジタイプの割り込みでないため、割り込み要求用フリップフロップ機能はキャンセルされ、周辺割り込み要求がそのままフリップフロップの S 入力を素通りし、Q 出力になります。モード変更（エッジ→レベル）を行った場合、以前の割り込み要求フラグは、自動的にクリアされます。</p> <p>INTO を“0”から“1”にすることによって、CPU が割り込み応答シーケンスに入ったときは、その割り込み応答シーケンスが完了するまで、INTO を“1”のままにしておく必要があります。また、INTO のレベルモードをホルトの解除に使用する場合も、一度“0”から“1”にした場合は、ホルトが解除されるまで必ず“1”に保持しておく必要があります。（ノイズによって途中で“0”が入ることがないようにしてください）</p> <p>レベルモードからエッジモードへ切り替えたとき、レベルモード時に受け付けた割り込み要求フラグは、クリアされません。そのため、割り込み要求フラグを以下のシーケンスでクリアしてください。</p> <pre>DI LD (IIMC), 00H ; レベルからエッジへ切り替える LD (INTCLR), 0AH ; INTO 割り込み要求フラグをクリア NOP ; EI の実行待ち EI</pre>
INTRX <sub>n</sub>	<p>割り込み要求用フリップフロップをクリアするには、リセット動作、またはシリアル チャネルの受信バッファをリードする必要があります。INTCLR レジスタライトによるクリアはできません。</p>

注) 下記の命令および端子変化も、この割り込み要求フラグをクリアする命令に相当します。

INTO: エッジモードで割り込み要求発生後のレベルモードへの切り替え命令  
レベルモードでの割り込み要求発生後の端子入力変化 (“H”レベル → “L”レベル)

INTRX<sub>n</sub>: 受信バッファをリードする命令

### 3.6 ポート機能

合計 53 ビットの入出力ポートがあります。

また、これらのポート端子は汎用入出力ポート機能だけでなく、内部のCPUや内蔵I/Oの入出力機能も持っています。表 3.6.1 に各ポート端子の機能を、表 3.6.2~表 3.6.3に各端子の設定方法を示します。

表 3.6.1 ポート機能 (R:PU = プログラマブルプルアップ抵抗付き)

ポート名	ピン名称	ピン数	方向	R	方向設定単位	内蔵機能用ピン名称
ポート 0	P00~P07	8	入出力	-	ビット	AD0~AD7
ポート 1	P10~P17	8	入出力	-	ビット	AD8~AD15/A8~A15
ポート 2	P20~P25	6	入出力	-	ビット	A16~A21/A0~A5
ポート 3	P30	1	出力	-	(固定)	$\overline{RD}$
	P31	1	出力	-	(固定)	$\overline{WR}$
	P32	1	入出力	PU	ビット	$\overline{HWR}$
ポート 4	P40	1	入出力	PU	ビット	$\overline{CS0}$
	P41	1	入出力	PU	ビット	$\overline{CS1}$
	P42	1	入出力	PU	ビット	$\overline{CS2}$
ポート 5	P50~P53	4	入力	-	(固定)	AN0~AN3, ADTRG (P53)
ポート 6	P60	1	入出力	-	ビット	SCK
	P61	1	入出力	-	ビット	SO/SDA
	P62	1	入出力	-	ビット	SI/SCL
	P63	1	入出力	-	ビット	INT0
ポート 7	P70	1	入出力	-	ビット	TA0IN
	P71	1	入出力	-	ビット	TA1OUT
	P72	1	入出力	-	ビット	TA3OUT
	P73	1	入出力	-	ビット	TA4IN
	P74	1	入出力	-	ビット	TA5OUT
ポート 8	P80	1	入出力	-	ビット	TB0IN0/INT5
	P81	1	入出力	-	ビット	TB0IN1/INT6
	P82	1	入出力	-	ビット	TB0OUT0
	P83	1	入出力	-	ビット	TB0OUT1
ポート 9	P90	1	入出力	-	ビット	TXD0
	P91	1	入出力	-	ビット	RXD0
	P92	1	入出力	-	ビット	SCLK0/ $\overline{CTS0}$
	P93	1	入出力	-	ビット	TXD1
	P94	1	入出力	-	ビット	RXD1
	P95	1	入出力	-	ビット	SCLK1/ $\overline{CTS1}$
	P96	1	入出力	-	ビット	XT1
	P97	1	入出力	-	ビット	XT2

表 3.6.2 I/O ポート設定一覧表 (1/2)

ポート	端子名	仕様	リセット 後	I/O レジスタ設定値		
				Pn	PnCR	PnFC
ポート 0	P00~P07	入力ポート	●	×	0	なし
		出力ポート		×	1	
		AD0~AD7 バス(注 1)		×	×	
ポート 1	P10~P17	入力ポート	●	×	0	0
		出力ポート		×	1	0
		AD8~AD15 バス(注 1)		×	0	1
		A8~A15		×	1	1
ポート 2	P20~P25	入力ポート	●	×	0	0
		出力ポート		×	1	0
		A0~A5 出力		×	0	1
		A16~A21 出力		×	1	1
ポート 3	P30	出力ポート	●	×	設定 レジスタ なし	0
		外部アクセス時のみ RD 出力		1		1
		常に RD 出力		0		1
	P31	出力ポート	●	×	設定レジ スタなし	0
		外部アクセス時のみ WR 出力		×		1
	P32	入力ポート (プルアップなし)		0	0	0
		入力ポート (プルアップあり)	●	1	0	0
		出力ポート		×	1	0
			HWR 出力		×	1
ポート 4	P40~P42	入力ポート (プルアップなし)		0	0	0
		入力ポート (プルアップあり)	●	1	0	0
		出力ポート		×	1	0
	P40	CS0 出力		×	1	1
	P41	CS1 出力		×	1	1
	P42	CS2 出力		×	1	1
ポート 5	P50~P53	入力ポート	●	×	設定レジスタなし	
		AN0~AN3 入力		×		
	P53	ADTRG 入力		×		
ポート 6	P60~P63	入力ポート	●	×	0	0
		出力ポート		×	1	0
	P60	SCK 入力		×	0	0
		SCK 出力		×	1	1
	P61	SDA 入力		×	0	0
		SDA 出力 注 2)		×	1	1
		SO 出力		×	1	1
	P62	SI 入力		×	0	0
		SCL 入力		×	0	0
		SCL 出力 注 2)		×	1	1
P63	INT0 入力		×	0	1	

X: Don't care

表 3.6.3 I/O ポート設定一覧表 (2/2)

ポート	端子名	仕 様	リセット 後	I/O レジスタ設定値		
				Pn	PnCR	PnFC
ポート 7	P70~P74	入力ポート	●	×	0	0
		出力ポート		×	1	0
	P70	TA0IN 入力		×	0	設定レジスタなし
	P71	TA1OUT 出力		×	1	1
	P72	TA3OUT 出力		×	1	1
	P73	TA4IN 入力		×	0	設定レジスタなし
	P74	TA5OUT 出力		×	1	1
ポート 8	P80~P83	入力ポート	●	×	0	0
		出力ポート		×	1	0
	P80	TB0IN0, INT5 入力		×	0	1
	P81	TB0IN1, INT6 入力		×	0	1
	P82	TB0OUT0 出力		×	1	1
	P83	TB0OUT1 出力		×	1	1
ポート 9	P90~P95	入力ポート	●	×	0	0
		出力ポート		×	1	0
	P90	TXD0 出力		×	1	1
	P91	RXD0 入力		×	0	設定レジスタなし
	P92	SCLK0 入力		×	0	0
		SCLK0 出力		×	1	1
		CTS0 入力		×	0	0
	P93	TXD1 出力		×	1	1
	P94	RXD1 入力		×	0	設定レジスタなし
	P95	SCLK1 入力		×	0	0
		SCLK1 出力		×	1	1
		CTS1 入力		×	0	0
	P96~P97	入力ポート		×	0	設定レジスタなし
		出力ポート 注 3)	●	×	1	
XT1~XT2			×	0		

X: Don't care

注 1) AD0~AD7 への切り替えは、特にポートの設定はありません。外部領域アクセス時に自動的に切り替わります。

注 2) P61, P62 をそれぞれ SDA, SCL 出力でオープンドレイン出力として使用する場合は、ODE&lt;ODE62:61&gt;の設定をします。

注 3) P96~P97 を出力ポートとして使用する場合は、オープンドレイン出力バッファです。

### 3.6.1 ポート 0 (P00~P07)

ポート 0 は、ビット単位で入出力の指定ができる 8 ビットの汎用入出力ポートです。入出力の指定は、コントロールレジスタ **P0CR** によって行います。リセット動作により **P0CR** の全ビットは“0”にリセットされ、ポート 0 は入力モードになります。

汎用入出力ポート機能以外には、アドレスデータバス (**AD0~AD7**) 機能があります。外部メモリをアクセスするときは自動的にアドレスデータバス (**AD0~AD7**) として機能し、**P0CR** はすべて“0”にクリアされます。

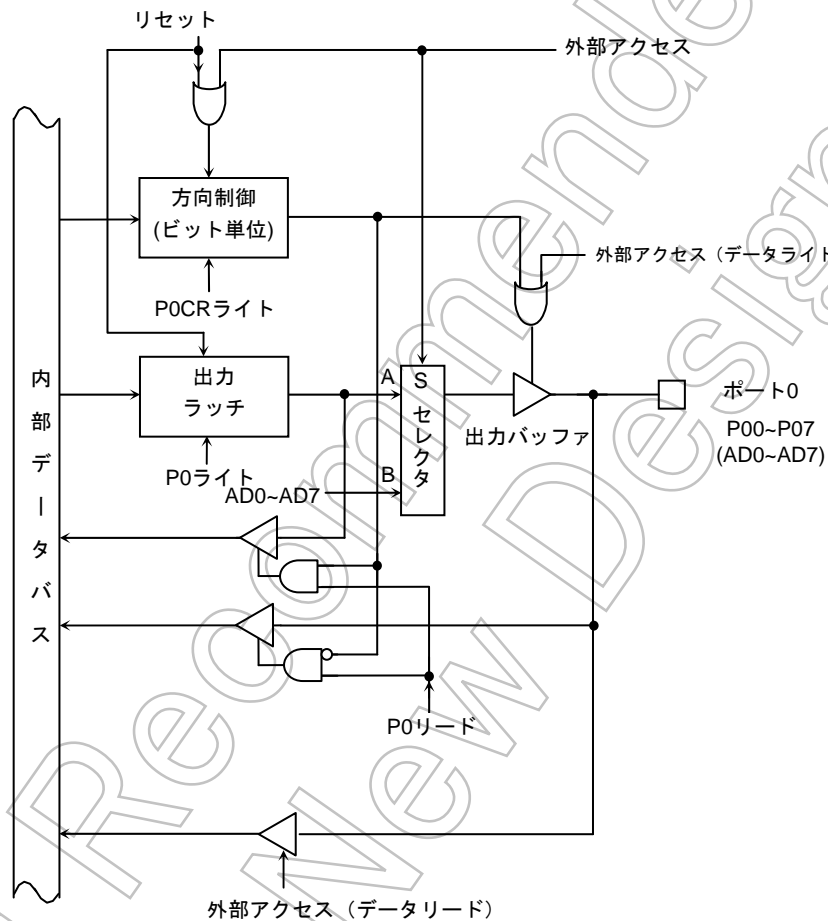


図 3.6.1 ポート 0

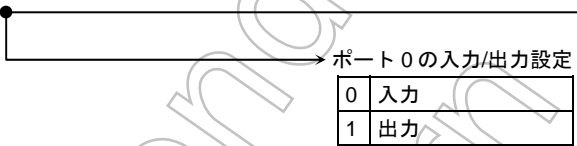


ポート0レジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P0 (0000H)	Bit symbol	P07	P06	P05	P04	P03	P02	P01	P00
	Read/Write	R/W							
	リセット後	外部端子データ (出力ラッチレジスタは不定となります。)							

ポート0コントロールレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P0CR (0002H)	Bit symbol	P07C	P06C	P05C	P04C	P03C	P02C	P01C	P00C
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	0: 入力 1: 出力 (外部アクセス時は AD7~AD0 になり、このレジスタは "0" にクリアされます。)							



注) P0CR はリードモディファイライトできません。

図 3.6.2 ポート0関係のレジスタ

### 3.6.2 ポート 1 (P10~P17)

ポート 1 は、ビット単位で入出力の設定ができる 8 ビットの汎用入出力ポートです。入出力の指定は、コントロールレジスタ **P1CR** とファンクションレジスタ **P1FC** によって行います。リセット動作により、出力ラッチの P1 の全ビットと **P1CR** と **P1FC** の全ビットは“0”にリセットされ、ポート 1 は入力モードになります。

汎用入出力ポート以外には、アドレスデータバス (**AD8~AD15**) 機能とアドレスバス (**A8~A15**) 機能があります。

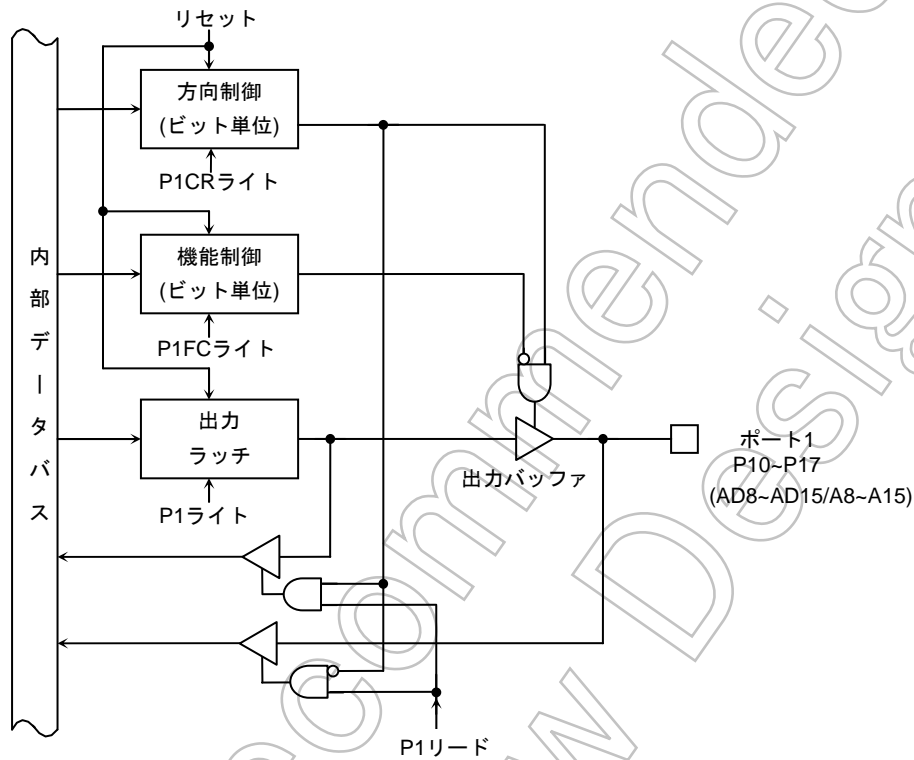


図 3.6.3 ポート 1

ポート1レジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P1 (0001H)	Bit symbol	P17	P16	P15	P14	P13	P12	P11	P10
	Read/Write	R/W							
	リセット後	外部端子データ (出カラッチレジスタは "0" にクリアされます。)							

ポート1コントロールレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P1CR (0004H)	Bit symbol	P17C	P16C	P15C	P14C	P13C	P12C	P11C	P10C
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	<<P1FCの欄を参照>>							

ポート1ファンクションレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P1FC (0005H)	Bit symbol	P17F	P16F	P15F	P14F	P13F	P12F	P11F	P10F
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	
	機能	P1FC/P1CR = 00: 入力 01: 出力 10: AD15~AD8 11: A15~A8							

→ ポート1の機能設定

	P1FC<P1XF>	0	1
P1CR<P1XC>	0	入力ポート	アドレスデータバス (AD15~AD8)
	1	出力ポート	アドレスバス (A15~A8)

注) <P1XF>/<P1XC>はそれぞれレジスタ P1FC/P1CR のビット X です。

注) P1CR, P1FC はリードモディファイライトできません。

図 3.6.4 ポート1関係のレジスタ

## 3.6.3 ポート 2 (P20~P25)

ポート 2 は、ビット単位で入出力の設定ができる 6 ビットの汎用入出力ポートです。入出力の指定は、コントロールレジスタ P2CR とファンクションレジスタ P2FC によって行います。リセット動作により、出力ラッチ P2 の全ビットは“1”にセットされ、P2CR と P2FC の全ビットは“0”にリセットされ、ポート 2 は入力モードになります。

汎用入出力ポート以外には、アドレスバス (A0~A5) 機能とアドレスバス (A16~A21) 機能があります。

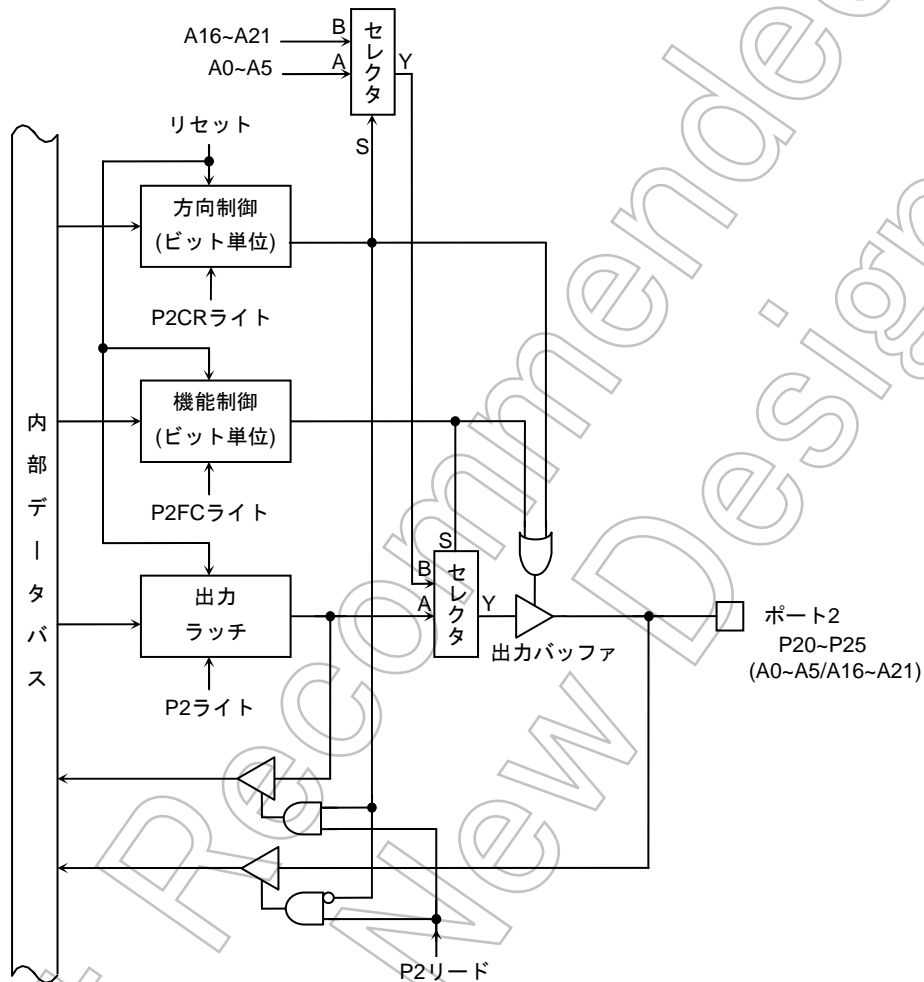


図 3.6.5 ポート 2

ポート2レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P2 (0006H)	Bit symbol			P25	P24	P23	P22	P21	P20
	Read/Write			R/W					
	リセット後			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)					

ポート2コントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P2CR (0008H)	Bit symbol			P25C	P24C	P23C	P22C	P21C	P20C
	Read/Write			W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			<<P2FCの欄を参照>>					

ポート2ファンクションレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
P2FC (0009H)	Bit symbol			P25F	P24F	P23F	P22F	P21F	P20F
	Read/Write			W					
	リセット後			0	0	0	0	0	0
	機能			P2FC/P2CR = 00: 入力 01: 出力 10: A5~A0 11: A21~A16					

→ ポート2の機能設定

	P2FC<P2XF>	0	1
P2CR<P2XC>	0	入力ポート	アドレスバス (A5~A0)
	1	出力ポート	アドレスバス (A21~A16)

注) <P2XF>/<P2XC>はそれぞれレジスタ P2FC/P2CR のビットXです。  
 アドレスバス A21~A16 に設定するときは、P2CR, P2FC の順に設定してください。P2FC, P2CR の順に設定すると、P2CR 設定値が“0”の場合 P2FC を設定後、P2CR を設定するまでの間アドレス A5~A0 が出力されます。

注) P2CR, P2FC はリードモディファイライトできません。

図 3.6.6 ポート2関係のレジスタ

### 3.6.4 ポート 3 (P30~P32)

ポート 3 は、ビット単位で入出力の設定ができる 3 ビットの汎用入出力ポート (ただし、P30 と P31 は出力専用) です。

入出力の指定は、コントロールレジスタ P3CR とファンクションレジスタ P3FC によって行います。リセット動作により、出力ラッチ P3 の全ビットは“1”にセットされ、P3CR (ビット 0 と 1 は未使用) と P3FC の全ビットは“0”にリセットされ、ポート 3 の P30 と P31 は“High”を出力し、P32 はプルアップ抵抗付きの入力モードになります。

汎用入出力ポート以外には、CPU のコントロール/ステータス信号の入出力機能があります。

P30 端子が  $\overline{RD}$  信号出力モードとして定義されている (<P30F> = “1”) とき、出力ラッチレジスタ <P30> を“0”にクリアすると、P30 端子の  $\overline{RD}$  ストロブは内部アドレスエリアをアクセスするときでも出力され (擬似スタティック RAM 用)、“1”にセットされたままだと、外部アドレスエリアをアクセスしたときのみ  $\overline{RD}$  ストロブは出力されます。

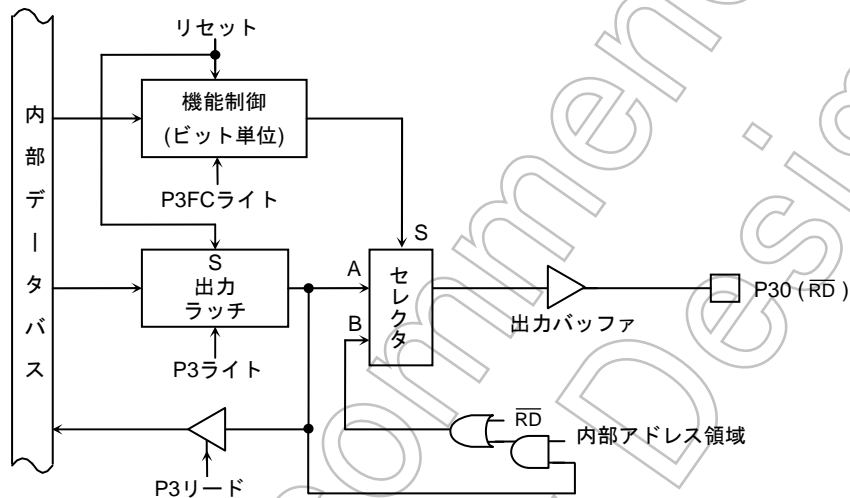


図 3.6.7 ポート 3 (P30)

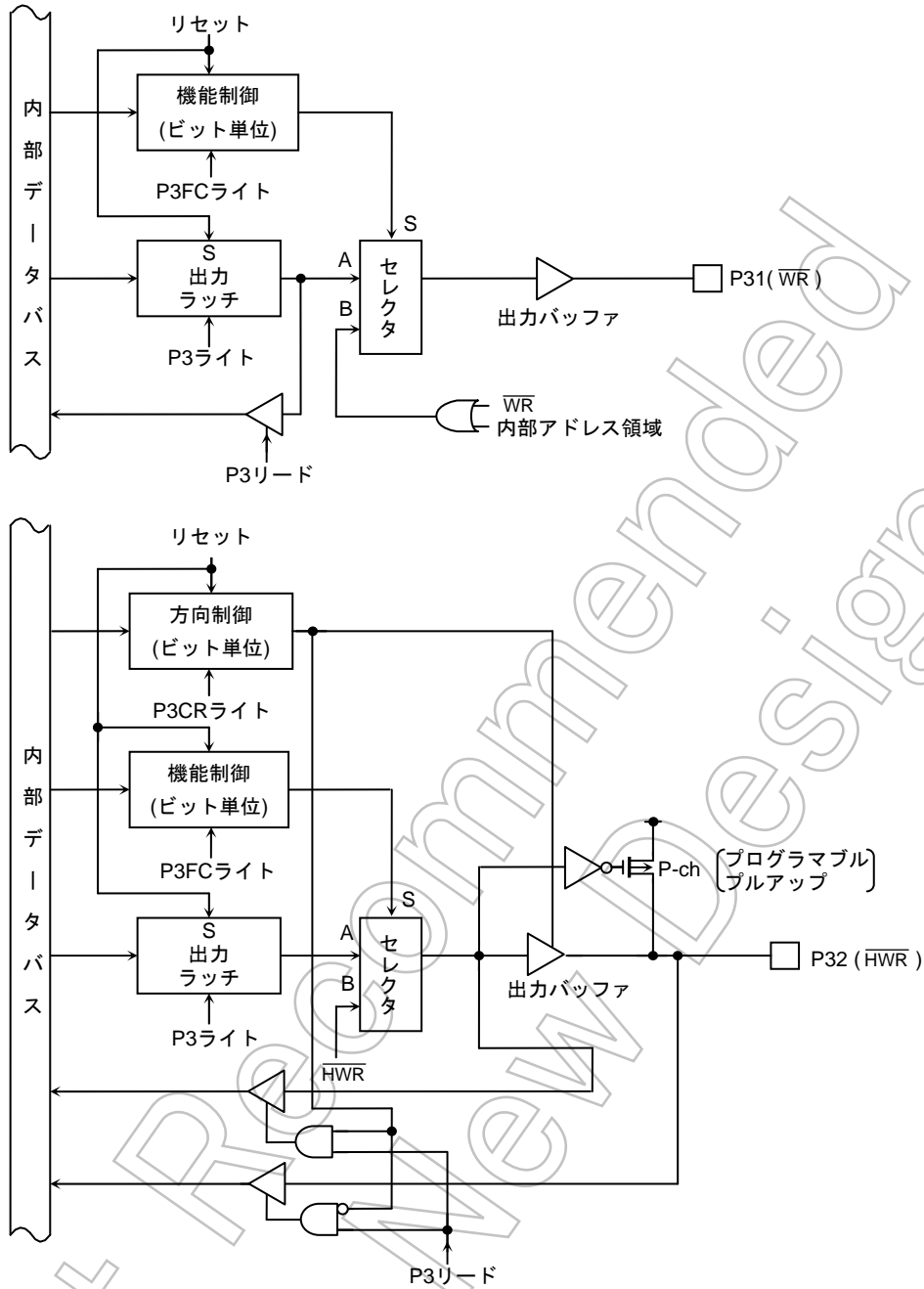


図 3.6.8 ポート 3 (P31, P32)

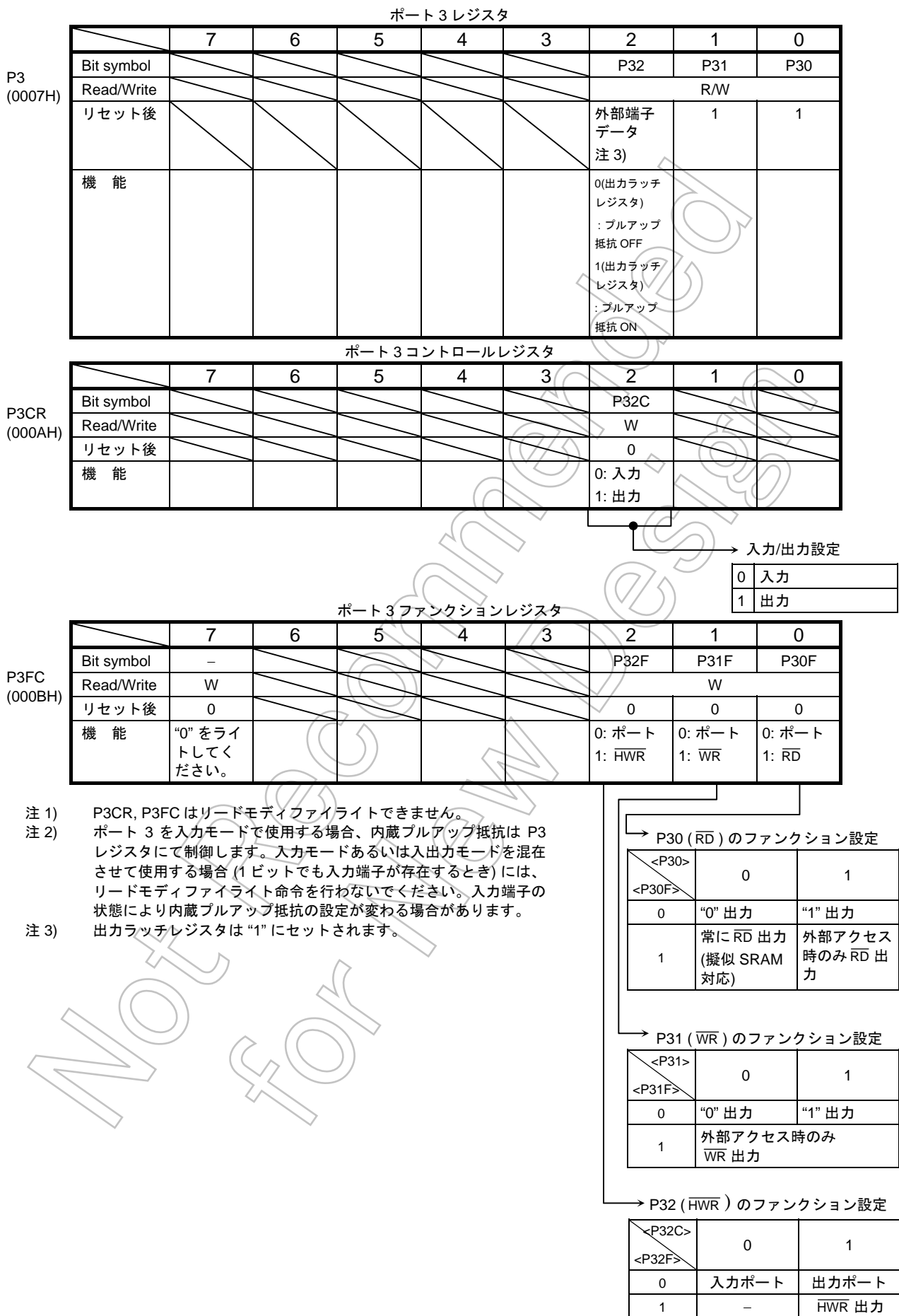


図 3.6.9 ポート 3 関係のレジスタ



### 3.6.5 ポート 4 (P40~P42)

ポート 4 は、ビット単位で入出力の設定ができる 3 ビットの汎用入出力ポートです。入出力の指定は、コントロールレジスタ P4CR とファンクションレジスタ P4FC によって行います。リセット動作により、P40~P42 の出力レジスタは“1”、P4CR と P4FC の全ビットは“0”にリセットされ、P40~P42 はプルアップ抵抗付きの入力モードになります。

汎用入出力ポート機能以外には、チップセレクト信号出力機能 ( $\overline{CS0} \sim \overline{CS2}$ ) があります。

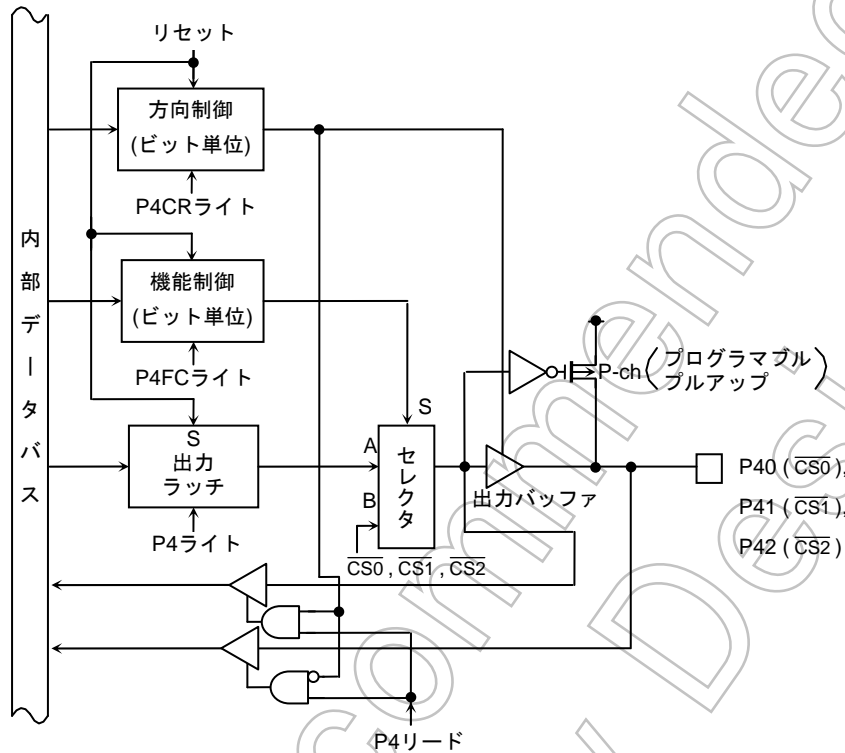
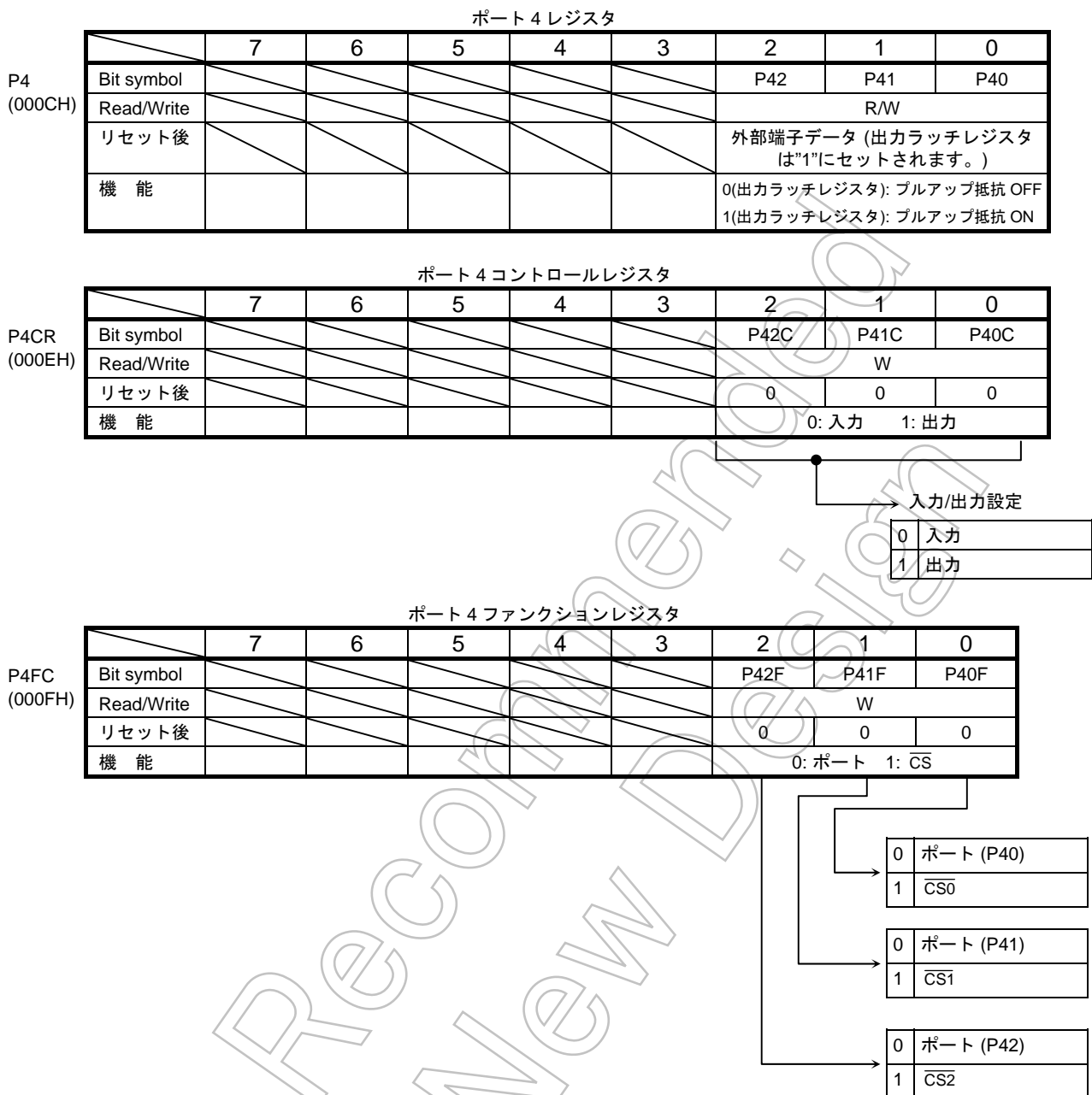


図 3.6.10 ポート 4



注 1) P4CR, P4FC はリードモディファイライトできません。

注 2) ポート4を入力モードで使用する場合、内蔵プルアップ抵抗はP4レジスタにて制御します。入力モードあるいは入出力モードを混在させて使用する場合(1ビットでも入力端子が存在するとき)には、リードモディファイライト命令を行わないでください。入力端子の状態により内蔵プルアップ抵抗の設定が変わる場合があります。

注 3) チップセレクト信号 (CS0~CS2) を出力する場合は、ファンクションレジスタ(P4FC)とコントロールレジスタ (P4CR) の順で双方の対応するビットを"1"にしてください。P4CR を先に設定すると P4FC レジスタを設定するまでの間、P4 レジスタの値が出力されます。

図 3.6.11 ポート4関係のレジスタ

### 3.6.6 ポート 5 (P50~P53)

ポート 5 は、4 ビットの入力専用ポートで AD コンバータのアナログ入力端子と兼用になっています。また、P53 は AD コンバータの AD トリガ入力端子と兼用になっています。

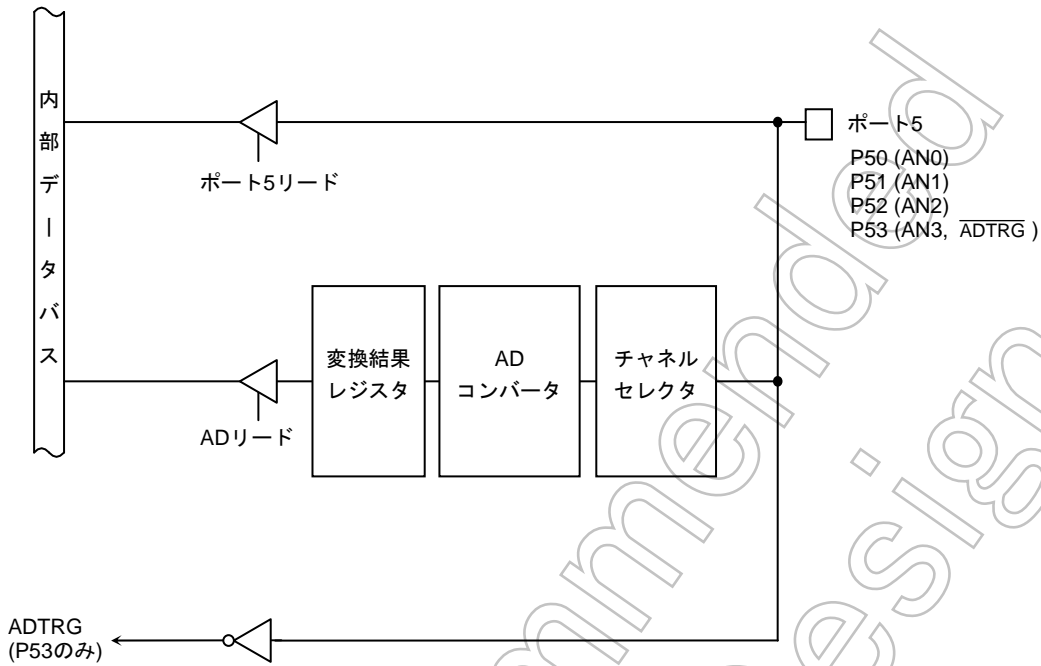


図 3.6.12 ポート 5

ポート 5 レジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
P5 (000DH)					P53	P52	P51	P50
Bit symbol								
Read/Write					R			
リセット後					外部端子データ			

図 3.6.13 ポート 5 関係のレジスタ

注) AD コンバータの入力チャンネル選択、P53 の AD トリガ入力許可の設定は、AD コンバータモードレジスタ ADMOD1 にて設定します。

### 3.6.7 ポート 6 (P60~P63)

ポート 60~63 はビット単位で入出力の指定ができる 4 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により、入力ポートとなります。

また、出力ラッチレジスタの全ビットは“1”へセットされます。

入出力ポート以外には、シリアルバスインタフェースの入出力機能があります。

この機能は、ポート 6 ファンクションレジスタ P6FC の該当ビットへ“1”を書き込むことにより、各ファンクションが可能となります。

リセット動作により P6CR, P6FC の値は“0”にリセットされ、全ビットが入力ポートとなります。

#### (1) ポート 60 (SCK)

ポート 60 は、入出力ポート以外にシリアルバスインタフェースの SIO モード時のクロック SCK 入出力端子としての機能を持ちます。

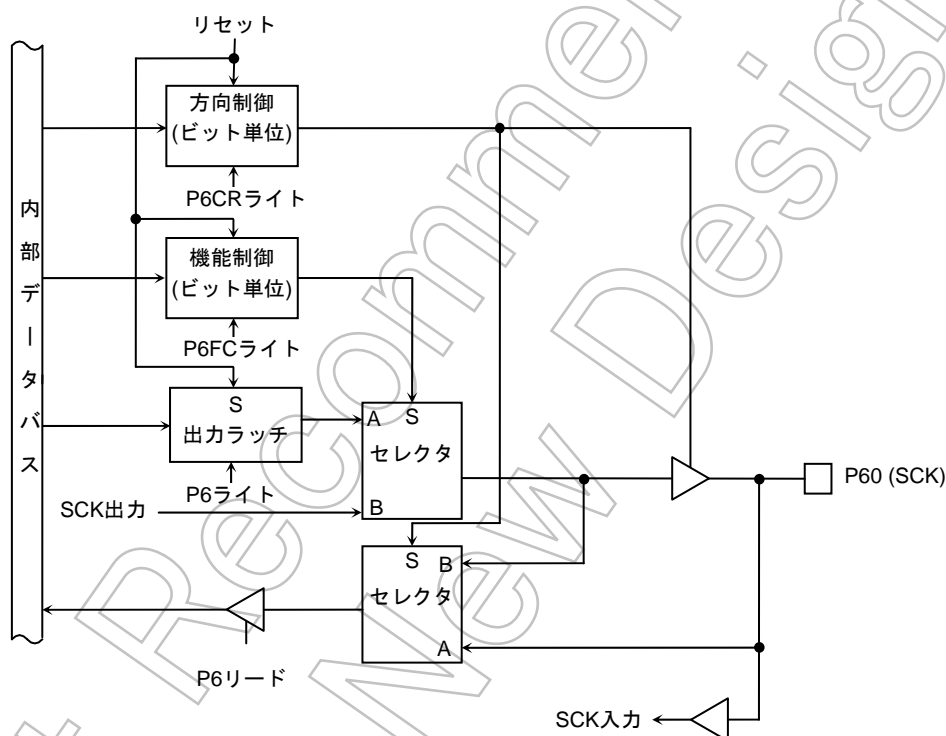


図 3.6.14 ポート 60

(2) ポート 61 (SO/SDA)

ポート 61 は、入出力ポート以外にシリアルバスインタフェースの I<sup>2</sup>C バスモード時のデータ SDA 入出力端子、または SIO モード時のデータ SO 出力端子としての機能を持っています。

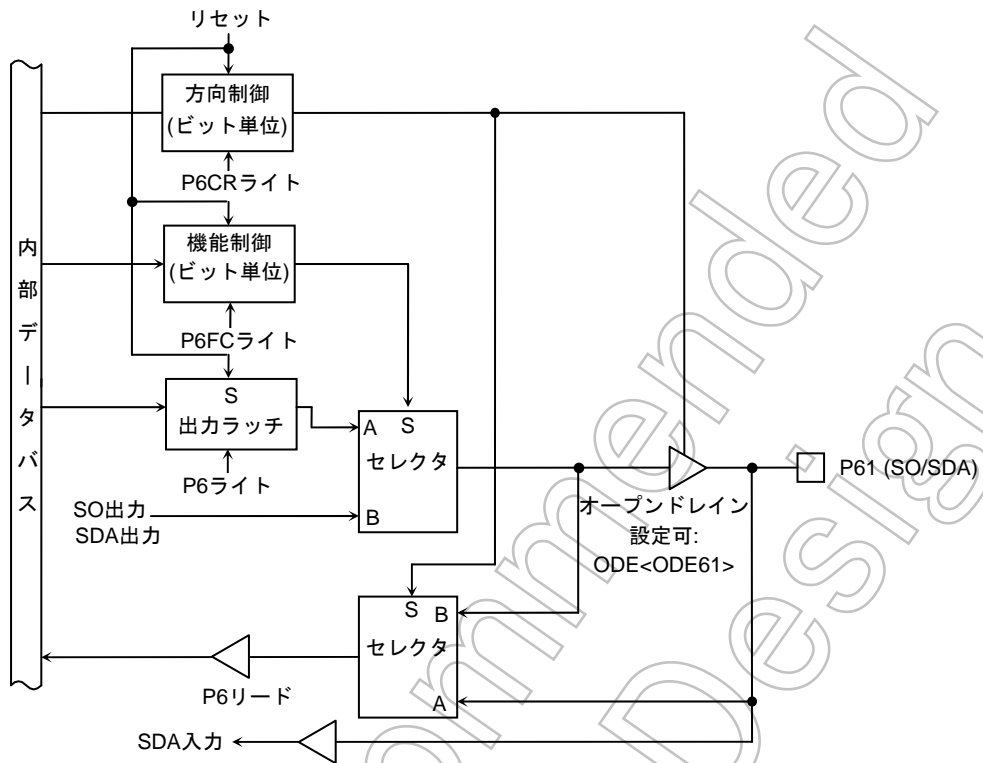


図 3.6.15 ポート 61

(3) ポート 62 (SI/SCL)

ポート 62 は入出力ポート以外にシリアルバスインタフェースの SIO モード時のデータ SI 受信端子、または I<sup>2</sup>C バスモード時のクロック SCL 入出力端子としての機能を持っています。

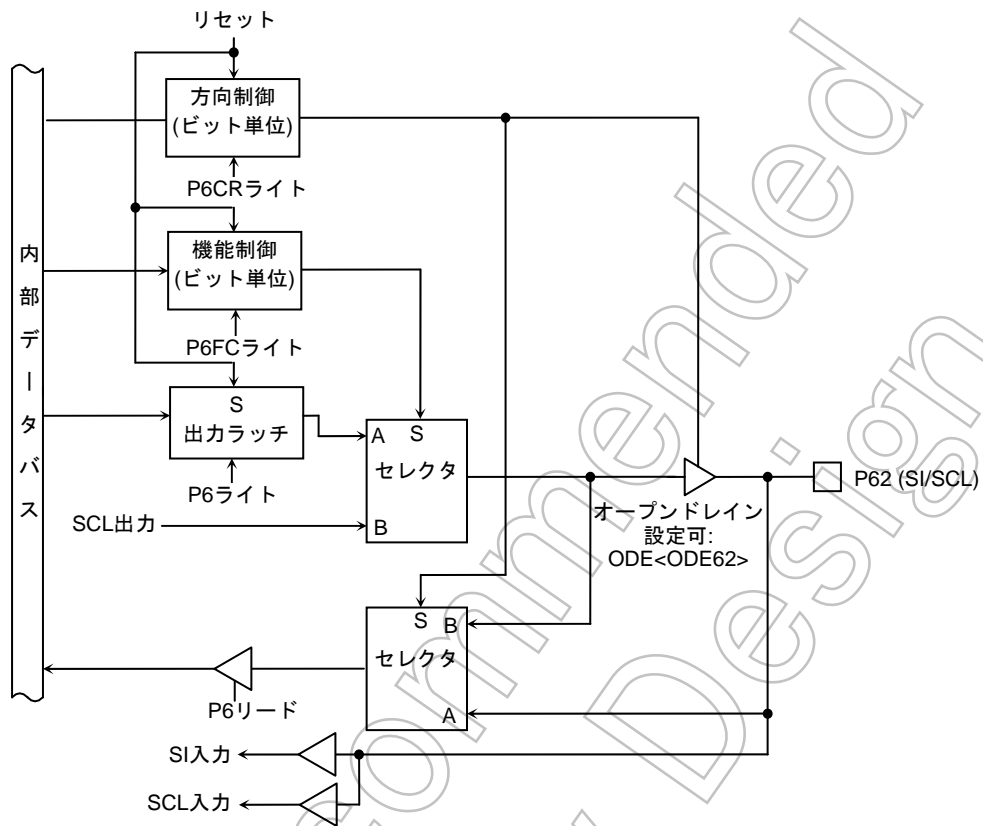


図 3.6.16 ポート 62

(4) ポート 63 (INT0)

ポート 63 は、入出力ポート以外に外部割り込みの INT0 入力端子としての機能を持っています。

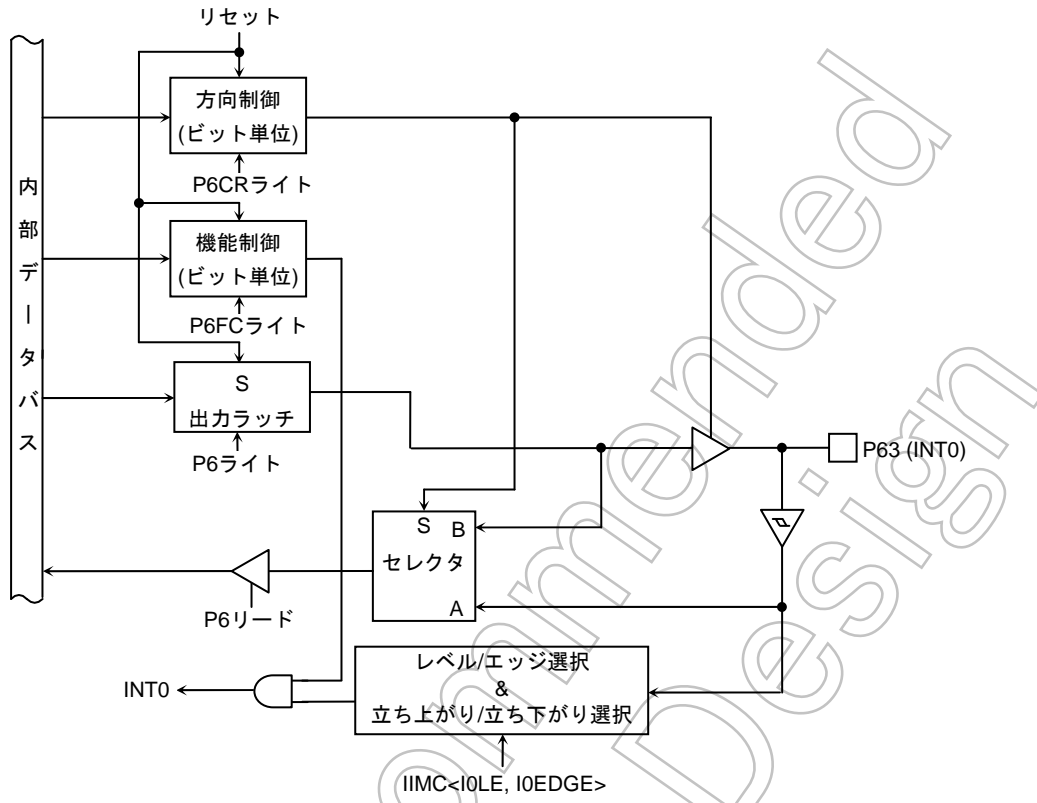
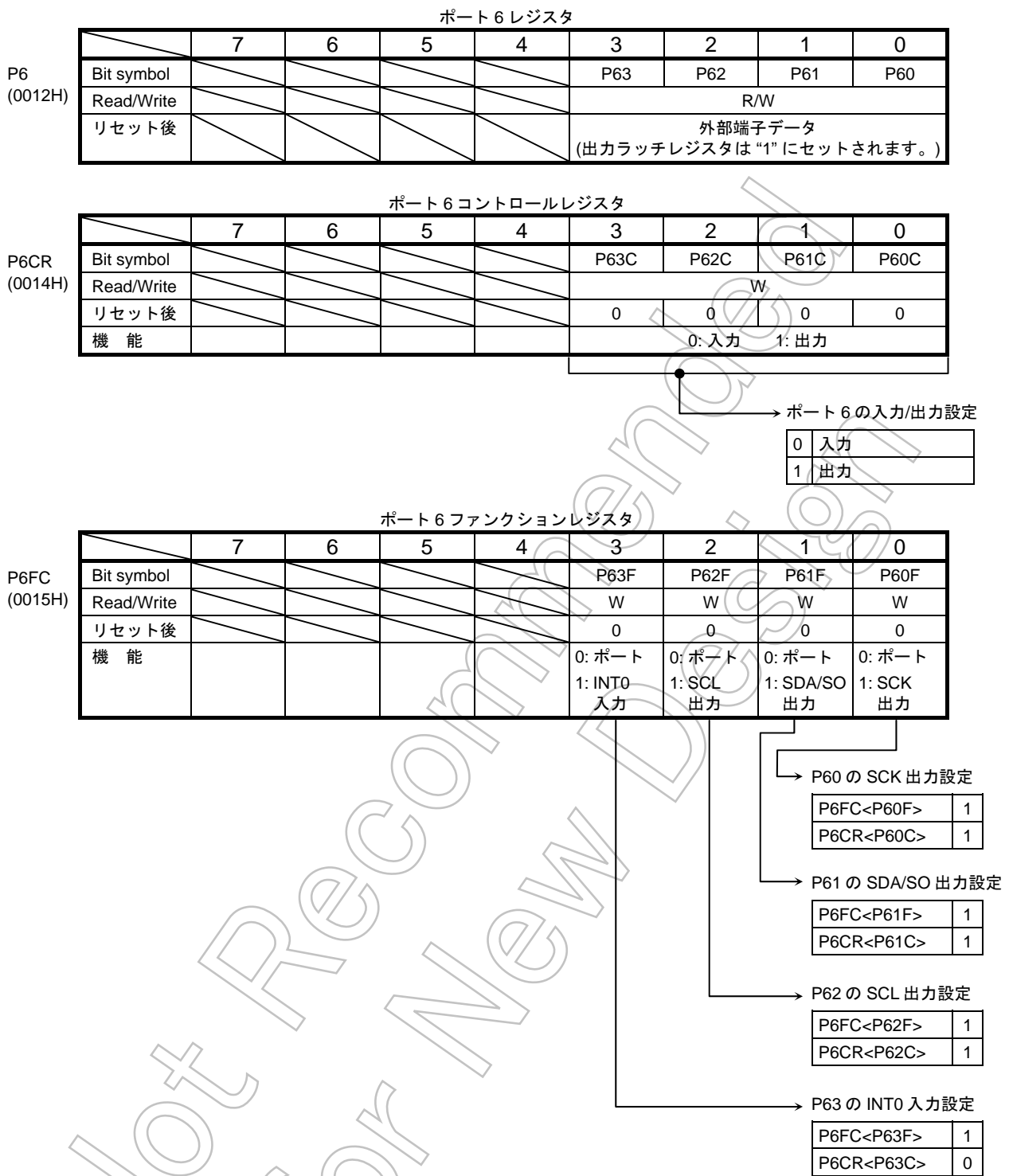


図 3.6.17 ポート 63



注) P6CR, P6FCはリードモディファイライトできません。

図 3.6.18 ポート6関係のレジスタ



オープンドレイン出力設定レジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					ODE62	ODE61	ODE93	ODE90
Read/Write					R/W			
リセット後					0	0	0	0
機能					0:トライ ステート 1:オープン ドレイン	0:トライ ステート 1:オープン ドレイン	0:トライ ステート 1:オープン ドレイン	0:トライ ステート 1:オープン ドレイン

→ P61のオープンドレインの出力設定

0	トライステート出力
1	オープンドレイン出力

→ P62のオープンドレインの出力設定

0	トライステート出力
1	オープンドレイン出力

図 3.6.19 ポート6関係のレジスタ

Not Recommended for New Designs

3.6.8 ポート 7 (P70~P74)

ポート 7 は、ビット単位で入出力指定ができる 5 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により入力ポートとなります。入出力ポート機能以外に、ポート 70, 73 は 8 ビットタイマ 0, 4 のクロック入力端子 TA0IN, TA4IN、ポート 71, 72, 74 はそれぞれ 8 ビットタイマ出力 TA1OUT, TA3OUT, TA5OUT 端子の機能を持っています。このタイマ出力機能は、ポート 7 ファンクションレジスタ P7FC の該当ビットへ“1”を書き込むことにより可能となります。リセット動作により P7CR, P7FC の値は“0”にリセットされ、全ビットが入力ポートとなります。

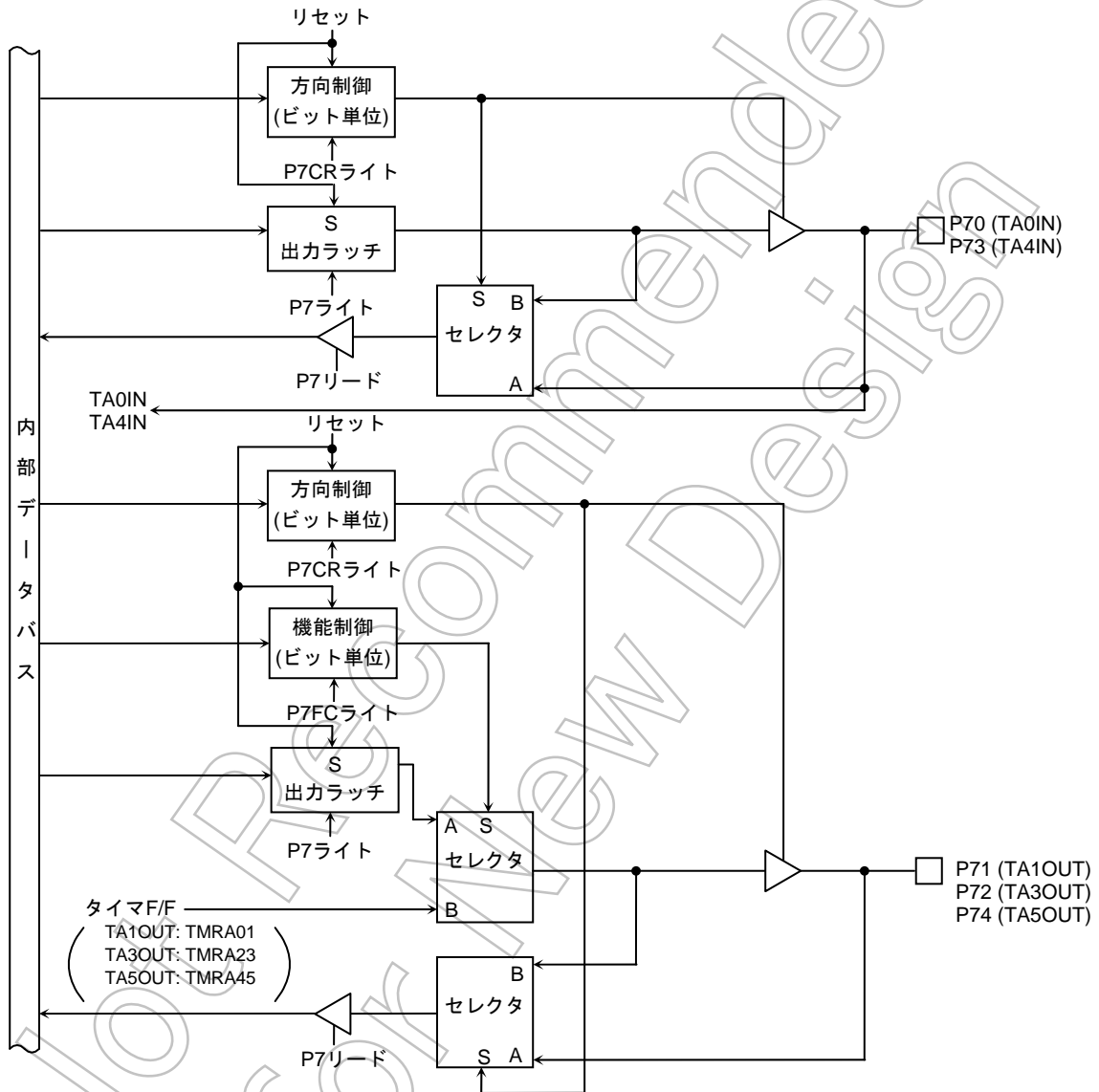
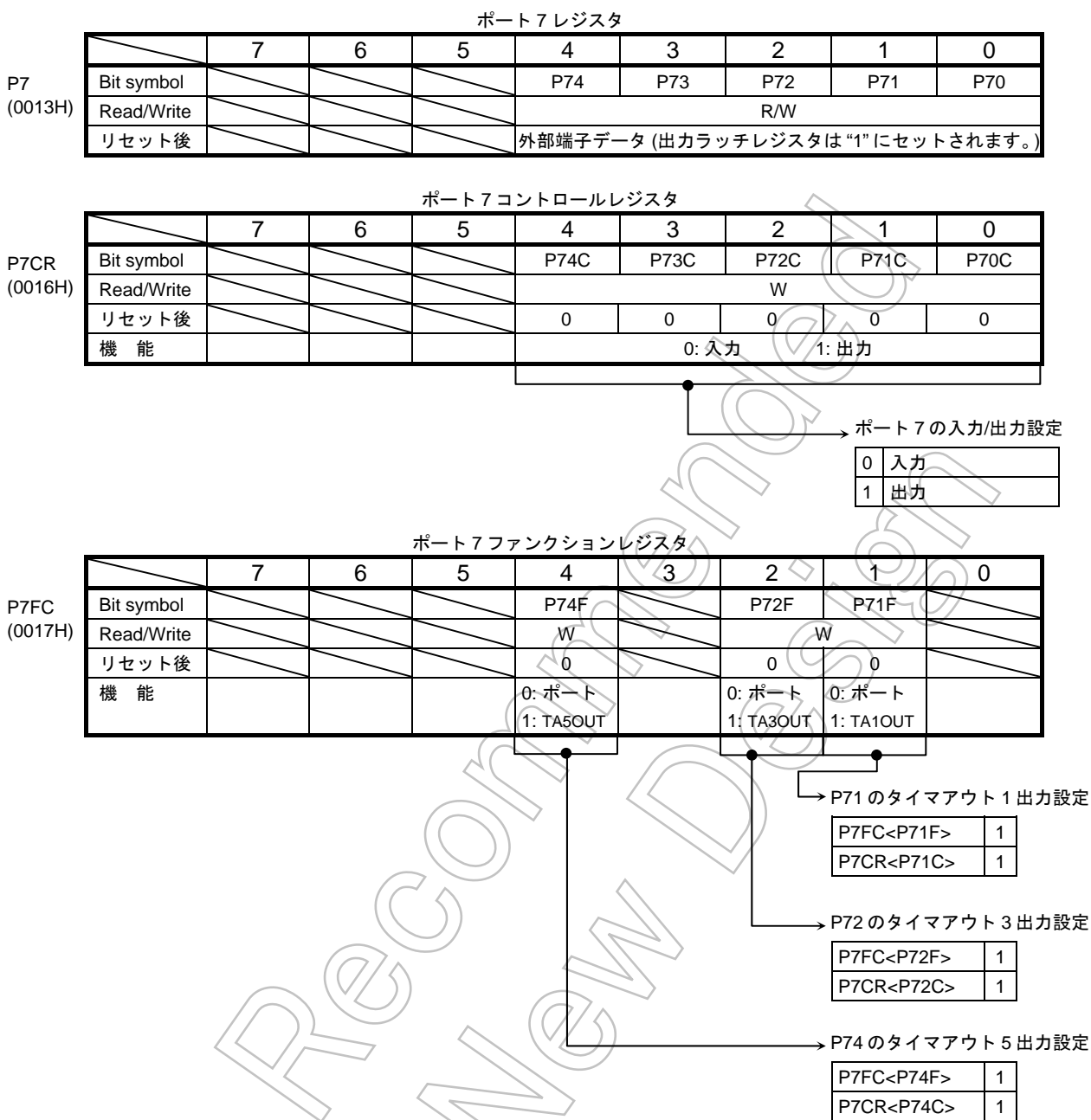


図 3.6.20 ポート 7



注 1) P7CR, P7FC はリードモディファイライトできません。

注 2) P70/TA0IN, P73/TA4IN 端子は、ポート/ファンクションの切り替えレジスタはありませんので、入力ポートとして使用する場合でも、タイマ入力0および4として8ビットタイマ0および4へ入力されます。

図 3.6.21 ポート7関係のレジスタ

3.6.9 ポート 8 (P80~P83)

ポート 8 は、ビット単位で入出力の指定ができる 4 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により入力ポートとなります。また、出力ラッチレジスタ P8 の全ビットは “1” へセットされます。入出力ポート以外には、16 ビットタイマのクロック入力、16 ビットタイマ F/F の出力、および INT5~INT6 入力機能があります。この機能はファンクションレジスタ P8FC の該当ビットへ “1” を書き込むことにより、各ファンクションが可能となります。リセット動作により P8CR, P8FC の値は “0” にリセットされ、全ビットが入力ポートとなります。

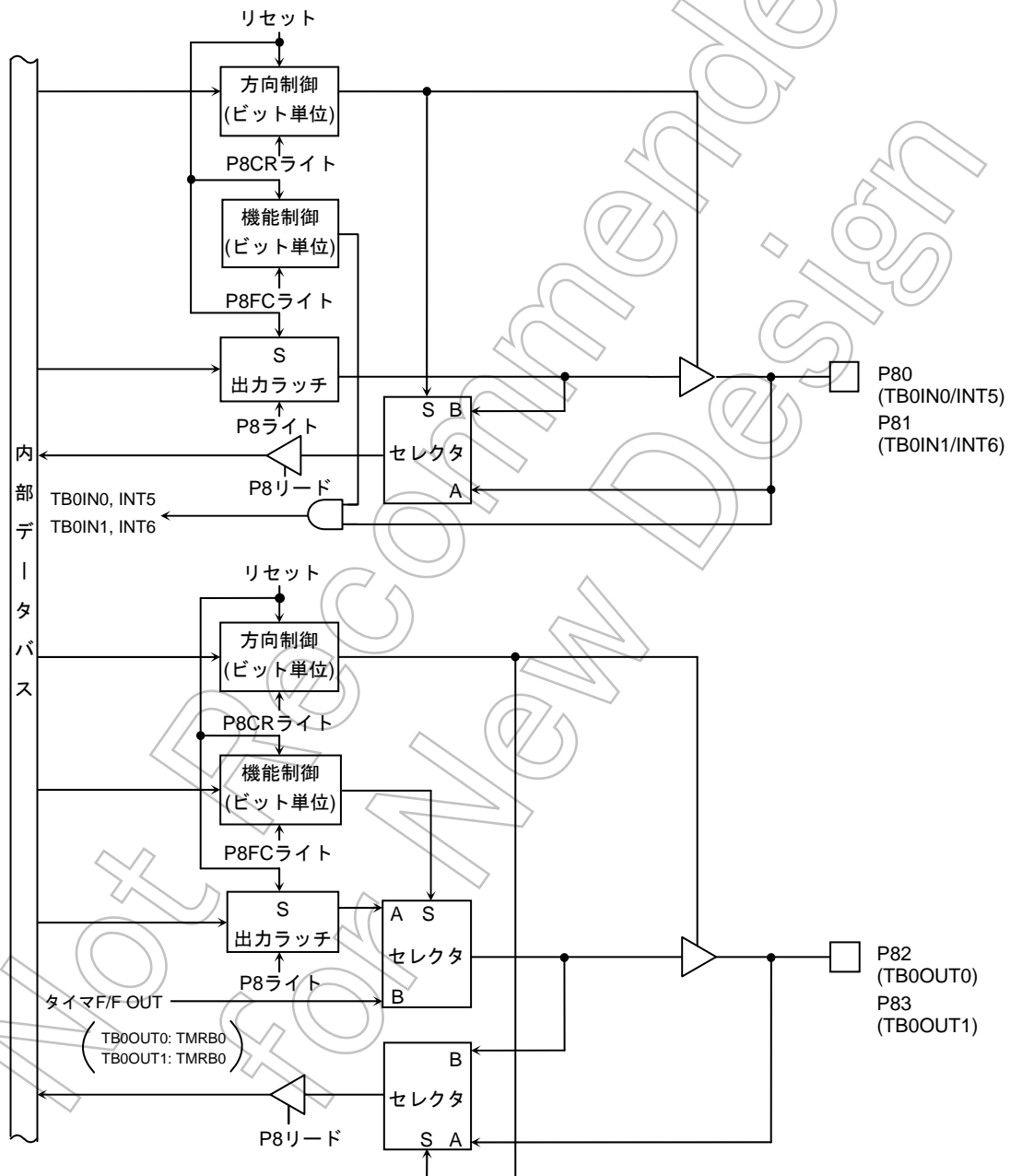
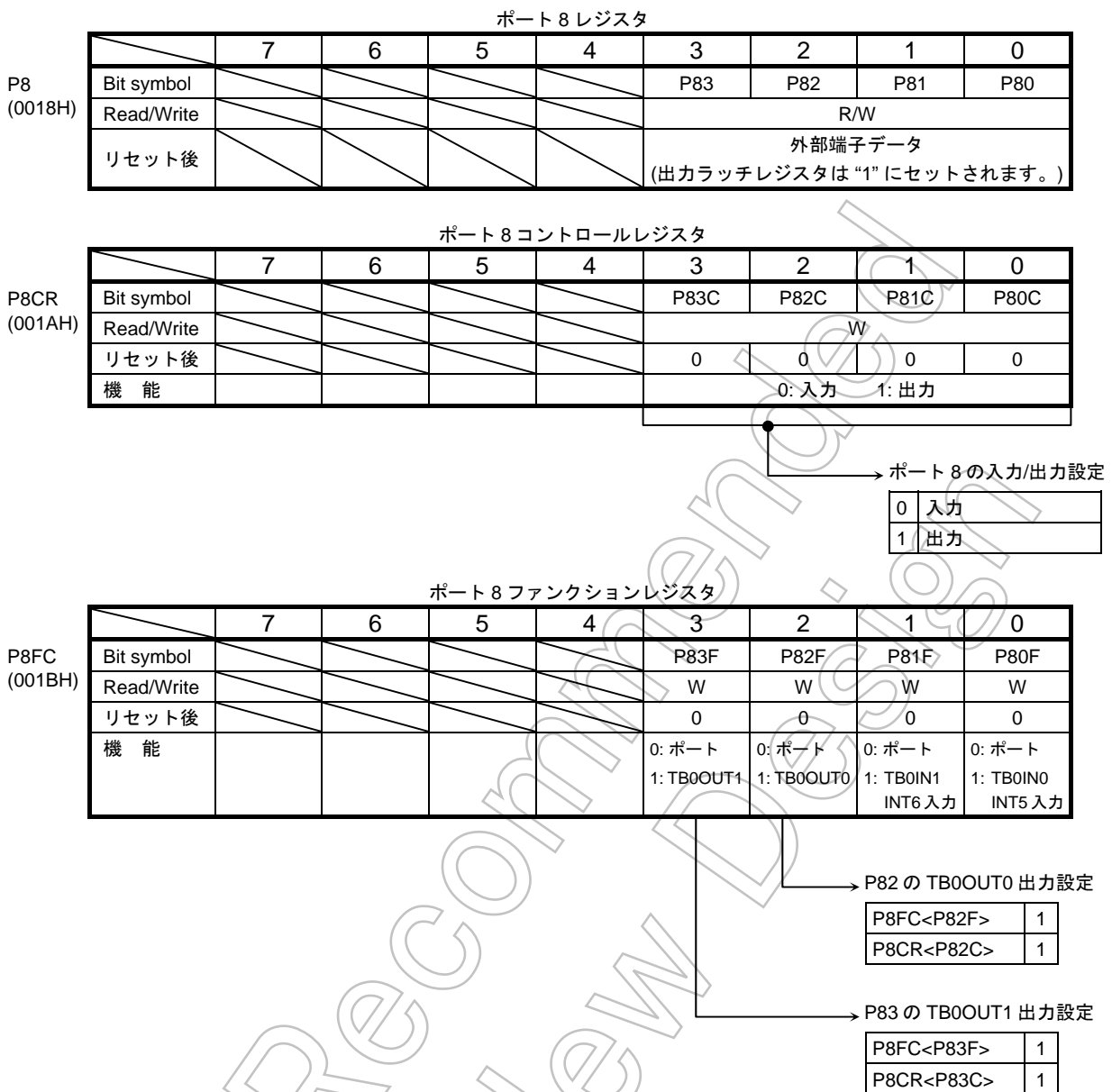


図 3.6.22 ポート 8 (P80~P83)



注) P8CR, P8FC はリードモディファイライトできません。

図 3.6.23 ポート 8 関係のレジスタ

## 3.6.10 ポート 9 (P90~P97)

- ポート 90~95

ポート 90~95 は、ビット単位で入出力の指定ができる 6 ビットの汎用入出力ポートです。リセット動作により入力ポートとなります。

また、出力ラッチレジスタの全ビットは“1”へセットされます。

入出力ポート以外には、シリアルチャネル 0, 1 の入出力機能があります。

この機能は、ポート 9 ファンクションレジスタ P9FC の該当ビットへ“1”を書き込むことにより、各ファンクションが可能となります。

リセット動作により P9CR, P9FC の値は“0”にリセットされ、全ビットが入力ポートとなります。

- ポート 96~97

ポート 96~97 は、ビット単位で入出力の指定ができる 2 ビットの入出力ポートです。出力ポートの場合は、オープンドレイン出力となります。

リセット動作により、出力ラッチレジスタ、コントロールレジスタの値は“1”にセットされ、“High-Z” (ハイインピーダンス) 出力となります。

入出力ポート以外には、低速クロック機能使用時の低周波発振子接続端子 (XT1, XT2) と兼用となっており、システムクロックコントロールレジスタ SYSCR0, 1 の設定により、デュアルクロック機能が使用できます。

## (1) ポート 90, 93 (TXD0, TXD1)

ポート 90, 93 は、入出力ポート以外にシリアルチャネルの TXD 出力端子としての機能を持ちます。

また、出力バッファはプログラム可能なオープンドレイン機能を持っており、ODE <ODE90, 93> レジスタにより設定が可能です。

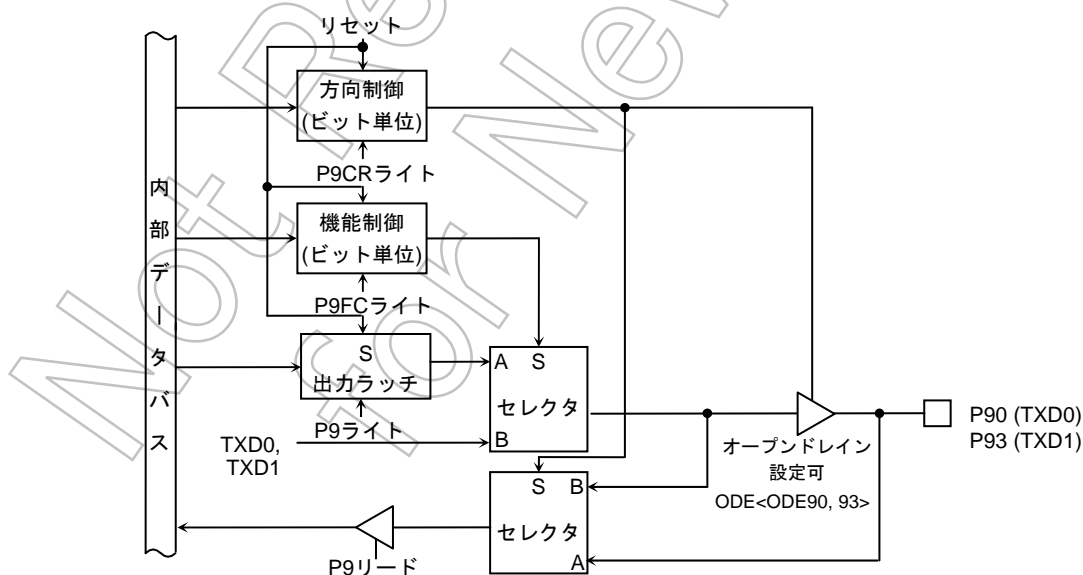


図 3.6.24 ポート 90, 93

(2) ポート 91, 94 (RXD0, RXD1)

ポート 91, 94 は、入出力ポート以外にシリアルチャネルの RXD 入力端子としての機能を持っています。

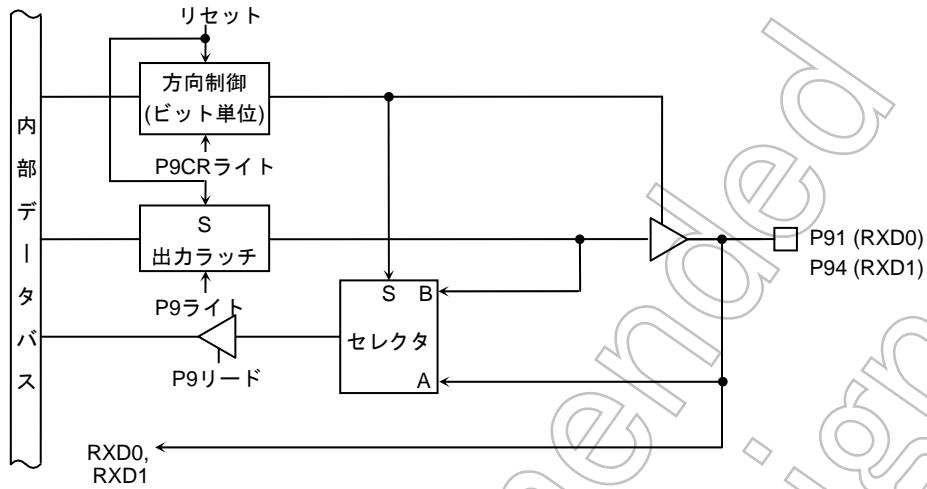


図 3.6.25 ポート 91, 94

(3) ポート 92, 95 ( $\overline{CTS0}/SCLK0$ ,  $\overline{CTS1}/SCLK1$ )

ポート 92, 95 は、入出力ポート以外にシリアルチャネルの  $\overline{CTS}$  入力端子、または SCLK 入出力端子としての機能を持っています。

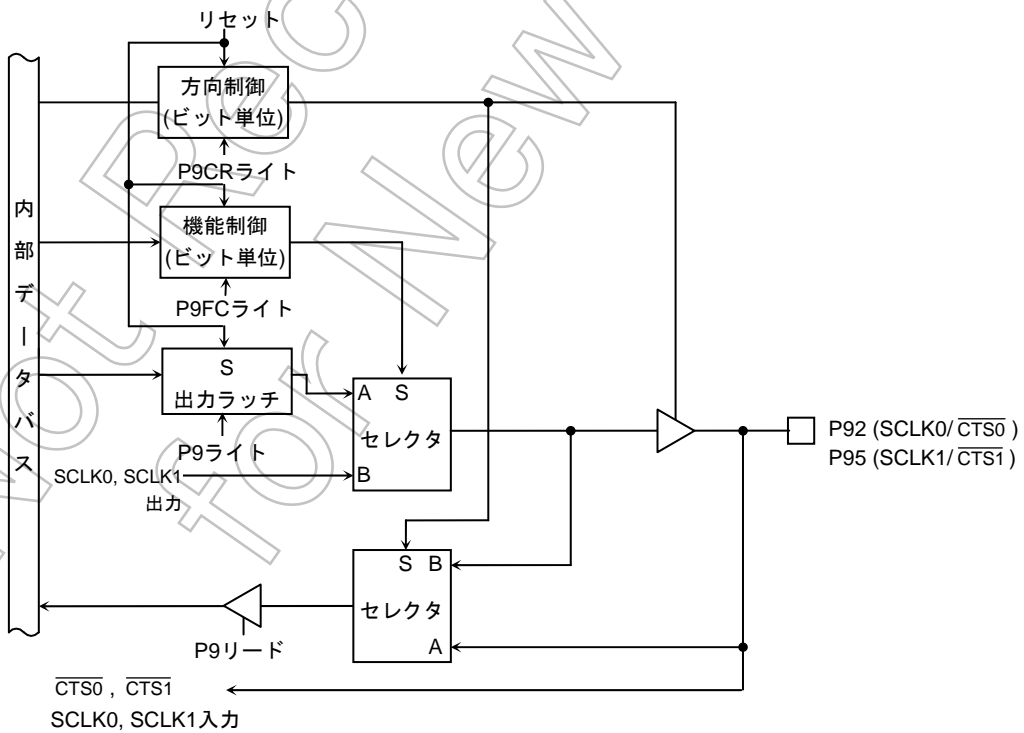


図 3.6.26 ポート 92, 95

(4) ポート 96 (XT1), 97 (XT2)

ポート 96, 97 は、入出力ポート以外に低周波発振子接続端子の機能を持っています。

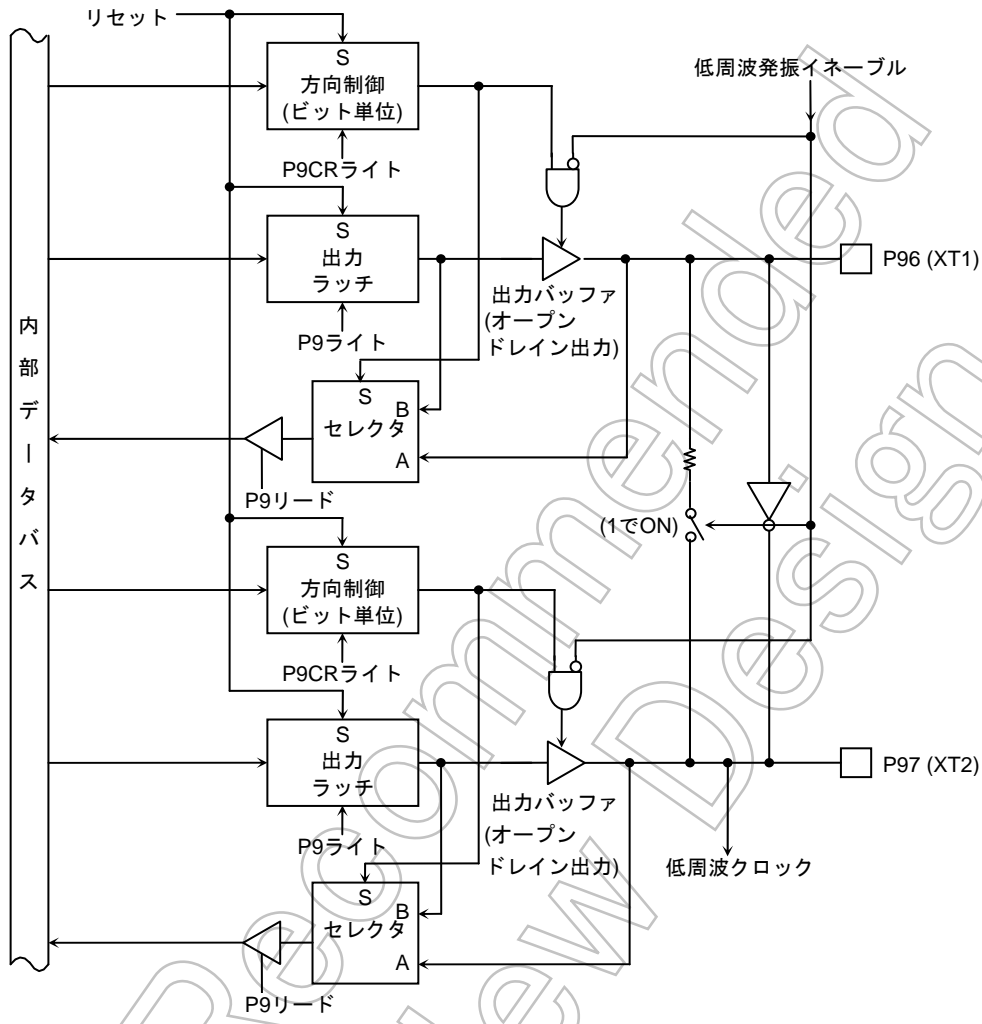


図 3.6.27 ポート 96~97



ポート9レジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P9 (0019H)	Bit symbol	P97	P96	P95	P94	P93	P92	P91	P90
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)					

ポート9コントロールレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P9CR (001CH)	Bit symbol	P97C	P96C	P95C	P94C	P93C	P92C	P91C	P90C
	Read/Write	W							
	リセット後	1	1	0	0	0	0	0	
	機能	0: 入力			1: 出力				

→ ポート9の入力/出力設定

0	入力
1	出力

ポート9ファンクションレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
P9FC (001DH)	Bit symbol			P95F		P93F	P92F		P90F
	Read/Write			W		W	W		W
	リセット後			0		0	0		0
	機能			0: ポート 1: SCLK1 出力		0: ポート 1: TXD1	0: ポート 1: SCLK0 出力		0: ポート 1: TXD0

→ P90のTXD0出力設定

P9FC<P90F>	1
P9CR<P90C>	1

→ P92のSCLK0出力設定

P9FC<P92F>	1
P9CR<P92C>	1

→ P93のTXD1出力設定

P9FC<P93F>	1
P9CR<P93C>	1

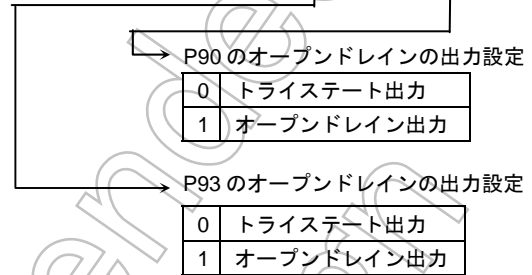
→ P95のSCLK1出力設定

P9FC<P95F>	1
P9CR<P95C>	1

オープンドレイン出力設定レジスタ

ODE  
(002FH)

	7	6	5	4	3	2	1	0
bit Symbol					ODE62	ODE61	ODE93	ODE90
Read/Write					R/W			
リセット後					0	0	0	0
機能					0:トライ ステート 1:オープン ドレイン	0:トライ ステート 1:オープン ドレイン	0:トライ ステート 1:オープン ドレイン	0:トライ ステート 1:オープン ドレイン



- 注 1) ポート 96, 97 はオープンドレイン出力端子です。
- 注 2) P9CR, P9FC はリードモディファイライトできません。
- 注 3) TXD 端子をオープンドレイン出力に設定するには、ODE レジスタのビット 0 (TXD0 端子用) またはビット 1 (TXD1 端子用) に、“1” をライトします。P91/RXD0, P94/RXD1 端子は、ポート/ファンクションの切り替えレジスタはありませんので、入力ポートとして使用する場合でもシリアル受信データとして SIO へ入力されます。
- 注 4) 低速発振子使用上の注意点

ポート 96, 97 に低速発振子を接続する場合、消費電力削減のために下記の設定が必要です。

(発振子接続の場合)

P9CR<P96C, P97C> = “11”, P9<P96, P97> = “00”に設定してください。

(発振器接続の場合)

P9CR<P96C, P97C> = “11”, P9<P96, P97> = “10”に設定してください。

図 3.6.28 ポート 9 関係のレジスタ

### 3.7 チップセレクト/ウェイトコントローラ

TMP91CU27/CP27/CK27 は、任意の 4 ブロックのアドレス空間 (CS0~CS3) を設定し、各アドレス空間 (CS0~CS3 と、それ以外のアドレス空間) に対して、データバス幅およびウェイト数を指定することができます。

$\overline{CS0}$ ~ $\overline{CS2}$  (P40~P42 と兼用) は、CS0~CS2 空間に対応した出力端子です。この端子は、CPU 動作により CS0~CS2 空間を選択するアドレスが指定されると、各空間に対してチップセレクト信号 (ROM/SRAM 用) を出力します。ただし、チップセレクト信号を出力するためには、ポート 4 コントロールレジスタ P4CR と、ポート 4 ファンクションレジスタ P4FC による設定が必要です。

CS0~CS3 空間の指定は、メモリスタートアドレスレジスタ MSAR0~MSAR3 と、メモリアドレスマスクレジスタ MAMR0~MAMR3 の組み合わせにより行います。

各アドレス空間に対するマスタイネーブル、データバス幅、ウェイト数は、チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ B0CS~B3CS, BEXCS で指定します。

ただし、本デバイスでは  $\overline{CS3}$  端子が存在しませんので、CS3 空間で対応する CS 信号はアドレスを外部回路でデコードする等にての作成が必要です。対象空間でのバス幅、WAIT 設定値は有効となります。

#### 3.7.1 アドレス空間指定

CS0~CS3 空間の指定は、スタートアドレスレジスタ MSAR0~MSAR3 と、メモリアドレスマスクレジスタ MAMR0~MAMR3 により行います。

バスサイクルごとに、バス上のアドレスを CS0~CS3 空間で指定された領域のアドレスであるかどうか比較します。比較した結果が一致していると、指定された CS 空間がアクセスされたと判断して  $\overline{CS0}$ ~ $\overline{CS2}$  端子からチップセレクト信号を出力し、チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ B0CS~B3CS で設定した動作を実行します (3.7.2 「チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ」を参照してください)。

(1) メモリスタートアドレスレジスタ

メモリスタートアドレスレジスタMSAR0~MSAR3 は、CS0~CS3 空間のスタートアドレスを設定するレジスタです。<S23:16>には、スタートアドレスの上位 8 ビット (A23~A16) を設定します。また、スタートアドレスの下位 16 ビット (A15~A0) には、常に“0” が設定されています。従って、スタートアドレスは、000000Hから 64 Kバイトごとの値になります。図 3.7.2に、スタートアドレスとスタートアドレスレジスタ値の関係を示します。

メモリスタートアドレスレジスタ (CS0~CS3 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MSAR0 / MSAR1 (00C8H) / (00CAH)	Bit symbol	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17	S16
	Read/Write	R/W							
MSAR2 / MSAR3 (00CCH) / (00CEH)	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	スタートアドレス A23~A16 設定							

→ CS0~CS3 空間のスタートアドレス設定

図 3.7.1 メモリスタートアドレスレジスタ

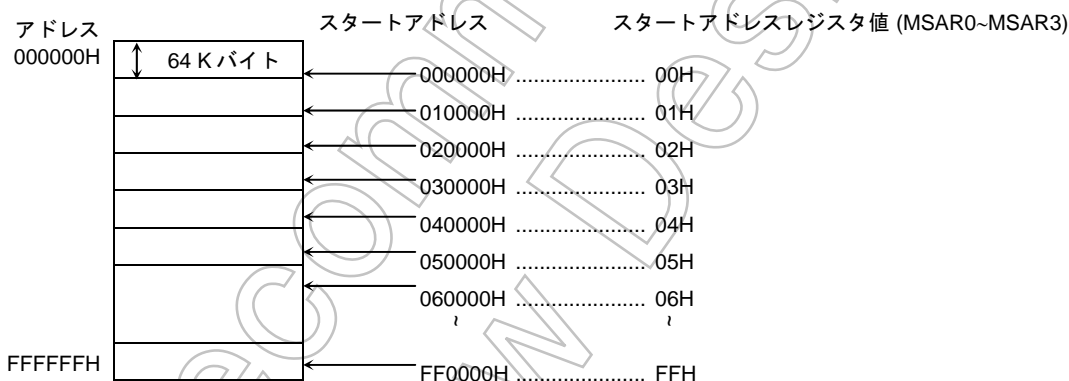


図 3.7.2 スタートアドレスとスタートアドレスレジスタ値の関係

## (2) メモリアドレスマスクレジスタ

メモリアドレスマスクレジスタ MAMR0~MAMR3 は、メモリストートアドレスレジスタ MSAR0~MSAR3 で設定したスタートアドレスの各ビットに対してマスク指定を行うことで、CS0~CS3 空間サイズを設定しています。“0” を書き込んだビットに対応するバス上のアドレスが、CS0~CS3 空間の領域かどうかの比較対照となります。

また、CS0~CS3 空間は、それぞれ MAMR0~MAMR3 によってマスクできるアドレスビットが異なります。従って、設定できる空間サイズも異なります。

メモリアドレスマスクレジスタ (CS0 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR0 (00C9H)	Bit symbol	V20	V19	V18	V17	V16	V15	V14~V9	V8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	CS0 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照							

CS0 空間は、最小 256 バイトエリアから最大 2 M バイトエリアを設定できます。

メモリアドレスマスクレジスタ (CS1 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR1 (00CBH)	Bit symbol	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15~V9	V8
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	CS1 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照							

CS1 空間は、最小 256 バイトエリアから最大 4 M バイトエリアを設定できます。

メモリアドレスマスクレジスタ (CS2, CS3 空間)

		7	6	5	4	3	2	1	0
MAMR2 / MAMR3 (00CDH) / (00CFH)	Bit symbol	V22	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15
	Read/Write	R/W							
	リセット後	1	1	1	1	1	1	1	1
	機能	CS2, CS3 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照							

CS2 および CS3 空間は、最小 32 K バイトから最大 8 M バイトエリアを設定できます。

図 3.7.3 メモリアドレスマスクレジスタ

## (3) メモリスタートアドレス、アドレス空間の設定方法

図 3.7.4に、CS0 空間を用いて 010000Hから始まる 64 Kバイトの空間を指定する場合を例として説明します。

メモリスタートアドレスレジスタ MSAR0<S23:16>に、スタートアドレスの上位 8 ビットに相当する“01H”を設定します。次に、終了アドレス (01FFFFH) と、スタートアドレスとの差を計算により求めます。この結果のビット 20~8 は、CS0 空間を指定する際のマスク値に相当します。この値をメモリアドレスマスクレジスタ MAMR0<V20:8>に設定することで空間サイズを設定できます。

この例では、MAMR0 に“07H”を設定し、64 Kバイト空間を指定しています。



図 3.7.4 CS0 空間の設定例

なお、リセット後、MSAR0~MSAR3 および MAMR0~MAMR3 は、“FFH” にセットされます。一方、B0CS<B0E>, B1CS<B1E>, B3CS<B3E> は“0” にリセットされるため、CS0, CS1, CS3 空間はディセーブルになります。ただし、B2CS<B2E> は“1” にリセットされ、B2CS<B2E> は“1” にセットされるため、CS2 空間は TMP91CU27 では 003800H~FE7FFFH、TMP91CP27 では 002000H~FF3FFFH、TMP91CK27 では 001400H~FF9FFFH の空間でイネーブルになります。また、指定された CS0~CS3 空間以外のアドレスでは、BEXCS で指定されたバス幅およびウェイトにより動作します (3.7.2 「チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ」を参照してください)。

## (4) アドレス空間サイズ指定

表 3.7.1に、CS空間と空間サイズの関係を示します。“Δ”は、メモリスタートアドレスレジスタとメモリアドレスマスクレジスタの組み合わせにより、設定できない場合があることを意味します。“Δ”で示す組み合わせを用いて空間サイズを設定する場合は、000000Hから希望のサイズステップでスタートアドレスを設定してください。

なお、CS2空間を16Mバイト空間に設定、または2つ以上のアドレス空間を重ねて設定した場合には、CS空間番号の小さい方が優先的に選択されます。

## (例) CS0空間を128Kバイトエリアに設定する場合

## a. 設定できるスタートアドレス

000000H	)	128 K バイト	} この場合、いずれのスタートアドレスも設定可能です。
020000H	)	128 K バイト	
040000H	)	128 K バイト	
060000H	)		
⋮			

## b. 設定できないスタートアドレス

000000H	)	64 K バイト	} 設定サイズ以外のサイズステップであり、このケースでは、以降のスタートアドレスは、希望の空間サイズを設定できません。
010000H	)	128 K バイト	
030000H	)	128 K バイト	
050000H	)		
⋮			

表 3.7.1 CS空間と空間サイズ

サイズ (バイト)	256	512	32 K	64 K	128 K	256 K	512 K	1 M	2 M	4 M	8 M
CS0	○	○	○	○	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ		
CS1	○	○		○	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	
CS2			○	○	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
CS3			○	○	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ

注) “Δ”は、メモリスタートアドレスレジスタとメモリアドレスマスクレジスタの組み合わせにより、設定できない場合があることを示しています。

3.7.2 チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ

図 3.7.5に、チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタを示します。各アドレス空間 (CS0~CS3 と、それ以外のアドレス空間) は、それぞれのチップセレクト/ウェイトコントロールレジスタB0CS~B3CS, BEXCSにより、マスタインーブル/ディセーブル、チップセレクト出力波形選択、データバス幅選択、ウェイト数設定を行うことができます。

チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	B0E		B0OM1	B0OM0	B0BUS	B0W2	B0W1	B0W0
Read/Write	W		W					
リセット後	0		0	0	0	0	0	0
機能	0: 禁止 1: 許可		チップセレクト出力波形 00: ROM/SRAM 用 01: } 10: } Don't care 11: }		データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 100: Reserved 001: 1ウェイト 101: 3ウェイト 010: (1+N)ウェイト 110: 4ウェイト 011: 0ウェイト 111: 8ウェイト		
Bit symbol	B1E		B1OM1	B1OM0	B1BUS	B1W2	B1W1	B1W0
Read/Write	W		W					
リセット後	0		0	0	0	0	0	0
機能	0: 禁止 1: 許可		チップセレクト出力波形 00: ROM/SRAM 用 01: } 10: } Don't care 11: }		データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 100: Reserved 001: 1ウェイト 101: 3ウェイト 010: (1+N)ウェイト 110: 4ウェイト 011: 0ウェイト 111: 8ウェイト		
Bit symbol	B2E	B2M	B2OM1	B2OM0	B2BUS	B2W2	B2W1	B2W0
Read/Write			W					
リセット後	1	0	0	0	0	0	0	0
機能	0: 禁止 1: 許可	CS2空間選択 0: 16Mバイト空間 1: CS空間	チップセレクト出力波形 00: ROM/SRAM 用 01: } 10: } Don't care 11: }		データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 100: Reserved 001: 1ウェイト 101: 3ウェイト 010: (1+N)ウェイト 110: 4ウェイト 011: 0ウェイト 111: 8ウェイト		
Bit symbol	B3E		B3OM1	B3OM0	B3BUS	B3W2	B3W1	B3W0
Read/Write	W		W					
リセット後	0		0	0	0	0	0	0
機能	0: 禁止 1: 許可		チップセレクト出力波形 00: ROM/SRAM 用 01: } 10: } Don't care 11: }		データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 100: Reserved 001: 1ウェイト 101: 3ウェイト 010: (1+N)ウェイト 110: 4ウェイト 011: 0ウェイト 111: 8ウェイト		
Bit symbol					BEXBUS	BEXW2	BEXW1	BEXW0
Read/Write					W			
リセット後					0	0	0	0
機能					データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 100: Reserved 001: 1ウェイト 101: 3ウェイト 010: (1+N)ウェイト 110: 4ウェイト 011: 0ウェイト 111: 8ウェイト		

マスタインーブルビット

0	CSエリア禁止
1	CSエリア許可

CS2空間選択

0	16Mバイト空間
1	アドレス指定空間

チップセレクト出力波形選択

00	ROM/SRAM 用
01	
10	Don't care
11	

アドレス空間ウェイト数設定  
(「ウェイトコントロール」参照)

データバス幅選択

0	16ビットデータバス
1	8ビットデータバス

注 1) B0CS, B1CS, B2CS, B3CS, BEXCS はリードモディファイライトできません。

注 2) 本デバイスでは WAIT 端子が存在しないため、BxCS<BxW2:0>="010"(1+N)WAIT モードに設定した場合は 1 ウェイトとして動作します。

注 3) 本デバイスでは CS3 端子(P43) は存在しませんが、MSAR3, MAMR3 を設定し、B3CS<B3E>="1" とした場合、ウェイトコントロールは有効となります。

図 3.7.5 チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ



## (1) マスタイネーブルビット

チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタのビット 7 (<B0E>, <B1E>, <B2E>, <B3E>) は、各アドレス空間に対する設定のイネーブル/ディセーブルを指定するマスタビットです。このビットに“1”を書き込むと、イネーブルになります。リセットにより、<B0E>, <B1E>, <B3E>はディセーブル“0”、<B2E> はイネーブル“1”になります (リセット動作により、CS2 空間のみイネーブルになります)。

## (2) データバス幅選択

チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタのビット 3 (<B0BUS>, <B1BUS>, <B2BUS>, <B3BUS>, <BEXBUS>) は、データバス幅を指定するビットです。このビットを“0”にすると、16 ビットのデータバス幅でメモリをアクセスします。“1”にすると、8 ビットのデータバス幅でメモリをアクセスします。

このように、アクセスするアドレスに応じてデータバス幅を変えることを“ダイナミックバスサイジング”と呼びます。このバス動作の詳細を、表 3.7.2 に示します。

表 3.7.2 ダイナミックバスサイジング

オペランド データバス幅	オペランド スタート アドレス	メモリ側 データバス幅	CPU アドレス	CPU データ	
				D15~D8	D7~D0
8 ビット	2n + 0 (偶数)	8 ビット	2n + 0	xxxxx	b7~b0
		16 ビット	2n + 0	xxxxx	b7~b0
	2n + 1 (奇数)	8 ビット	2n + 1	xxxxx	b7~b0
		16 ビット	2n + 1	b7~b0	xxxxx
16 ビット	2n + 0 (偶数)	8 ビット	2n + 0	xxxxx	b7~b0
			2n + 1	xxxxx	b15~b8
		16 ビット	2n + 0	b15~b8	b7~b0
	2n + 1 (奇数)	8 ビット	2n + 1	xxxxx	b7~b0
			2n + 2	xxxxx	b15~b8
		16 ビット	2n + 1	b7~b0	xxxxx
32 ビット	2n + 0 (偶数)	8 ビット	2n + 0	xxxxx	b7~b0
			2n + 1	xxxxx	b15~b8
			2n + 2	xxxxx	b2~b16
			2n + 3	xxxxx	b31~b24
		16 ビット	2n + 0	b15~b8	b7~b0
			2n + 2	b31~b24	b23~b16
	2n + 1 (奇数)	8 ビット	2n + 1	xxxxx	b7~b0
			2n + 2	xxxxx	b15~b8
			2n + 3	xxxxx	b23~b16
			2n + 4	xxxxx	b31~b24
		16 ビット	2n + 1	b7~b0	xxxxx
			2n + 2	b23~b16	b15~b8
	2n + 4	xxxxx	b31~b24		

xxxxx: リード時は、そのバスの入力データが無視されることを示します。ライト時は、そのバスがハイインピーダンスで、そのバスのライトストロブ信号は、ノンアクティブのままであることを示します。

## (3) ウェイトコントロール

チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタのビット 2~0 (<B0W2:0>, <B1W2:0>, <B2W2:0>, <B3W2:0>, <BEXW2:0>) は、ウェイト数を指定するビットです。これらのビットの組み合わせにより、次のようなウェイト動作を実行します。ただし、下記の組み合わせ以外は設定しないでください。リセットにより、これらのビットは“000”(2 ウェイト)になります。

表 3.7.3 ウェイト動作の設定

<BxW2:0>	ウェイト数	ウェイト動作
000	2 ウェイト	2 ステート分のウェイトが挿入されます。
001	1 ウェイト	1 ステート分のウェイトが挿入されます。
010	(1+N) ウェイト	WAIT 端子がないため、1 ウェイトと同じ動作をします。
011	0 ウェイト	ウェイトなしで、そのバスサイクルを完了します。
100	Reserved	設定しないでください。
101	3 ウェイト	3 ステート分のウェイトが挿入されます。
110	4 ウェイト	4 ステート分のウェイトが挿入されます。
111	8 ウェイト	8 ステート分のウェイトが挿入されます。

## (4) CS0~CS3 空間外 バス幅ウェイトコントロール

チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ BEXCS は、任意の 4 ブロックアドレス空間 (CS0~CS3) 外のアドレス空間がアクセスされたときの、データバス幅選択とウェイト数を設定するレジスタです。このレジスタの設定は、CS0~CS3 空間外のエリアに対して常にイネーブルです。

## (5) 16 M バイト空間/アドレス設定空間選択

チップセレクト/ウェイトコントロールレジスタ B2CS<B2M>を“0”にすることにより、16 M バイト空間 (TMP91CU27 では 003800H~FE7FFFH、TMP91CP27 では 002000H~FF3FFFH、TMP91CK27 では 001400H~FF9FFFH) で CS2 空間が選択されます。B2CS<B2M>を“1”にすると、CS0, CS1, CS3 空間と同様に、スタートアドレスレジスタ MSAR2 およびアドレスマスクレジスタ MAMR2 の設定エリアに従い、CS2 空間が選択されます。リセットにより、このビットは“0”にクリアされ、16 M バイト空間が選択されます。

## (6) チップセレクト/ウェイトコントローラ設定手順

チップセレクト/ウェイトコントロール機能を使用する場合は、以下の手順でレジスタの設定を行ってください。

1. メモリスタートアドレスレジスタ MSAR0~MSAR3 の設定  
CS0~CS3 空間のスタートアドレスを設定します。
2. メモリアドレスマスクレジスタ MAMR0~MAMR3 の設定  
CS0~CS3 空間のサイズを設定します。
3. コントロールレジスタ B0CS~B3CS の設定  
CS0~CS3 空間のチップセレクト出力波形、データバス幅、ウェイト数、マスタイネーブル/ディセーブルを設定します。

$\overline{CS0} \sim \overline{CS2}$  端子は、P40~P42 端子と兼用になっています。チップセレクト信号をこれらの端子から出力するには、ポート 4 コントロールレジスタ P4CR と、ポート 4 ファンクションレジスタ P4FC の該当するビットを、“1”に設定する必要があります。

なお、CS0~CS3 空間として設定したアドレスが、内蔵の I/O、RAM および ROM エリアを指定した場合、 $\overline{CS0} \sim \overline{CS2}$  端子はチップセレクト信号を出力せず、CPU は内部エリアをアクセスします。

## (設定例)

CS0 空間を、010000H~01FFFFH (64 K バイト空間)、16 ビットデータバス、0 ウェイトに設定する場合

MSAR0 = 01H ..... スタートアドレス    010000H  
MAMR0 = 07H ..... アドレス空間    64 K バイト  
B0CS = 83H ..... ROM/SRAM、16 ビットデータバス、0 ウェイト、  
CS0 空間設定イネーブル

## 3.7.3 使用例

図 3.7.6は、TMP91CU27/CP27/CK27 による外部メモリの接続例です。この例では、ROM を 16 ビット幅で接続し、RAMとI/Oを 8 ビット幅で接続しています。

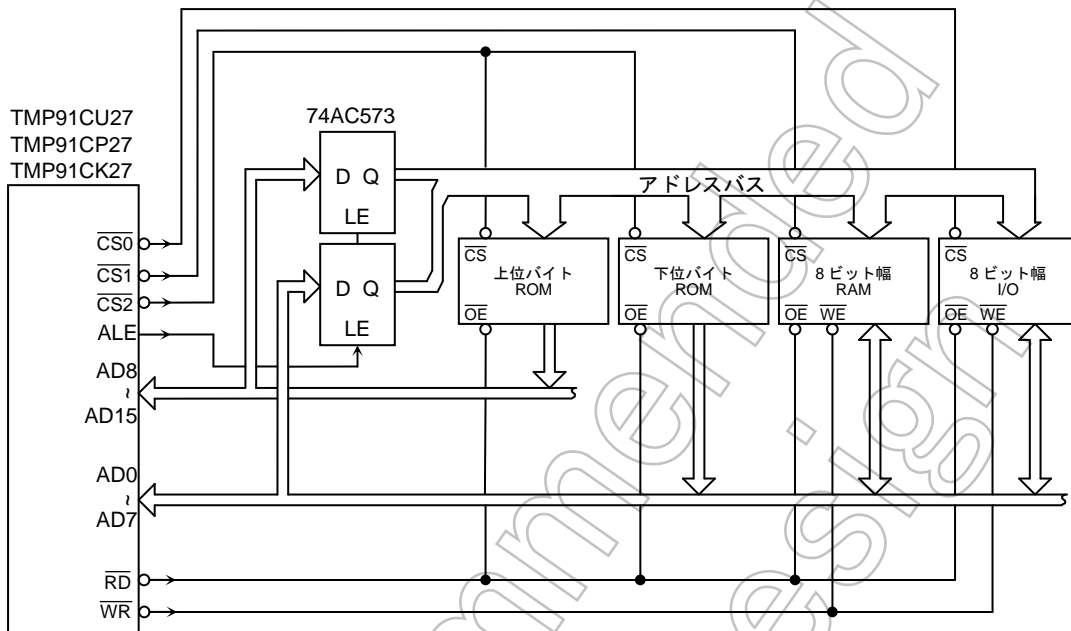


図 3.7.6 外部メモリ接続例 (ROM = 16 ビット幅、RAM & I/O = 8 ビット幅)

TMP91CU27/CP27/CK27 ではリセット後、ポート 4 コントロールレジスタ P4CR とポート 4 ファンクションレジスタ P4FC は“0”にクリアされているため、CS 信号出力はディセーブルとなっています。CS 信号を出力する場合は、P4FC, P4CR の順に必要なビットに“1”をセットしてください。

### 3.8 8ビットタイマ (TMRA)

8ビットタイマを6チャンネル(TMRA0~TMRA5)内蔵しています。

TMRAは2チャンネルを1モジュールとし、3モジュールで構成され、それぞれTMRA01, TMRA23, TMRA45と呼びます。各モジュールは次の4種類のモードを持っています。

- 8ビットインタバルタイマモード
- 16ビットインタバルタイマモード
- 8ビットプログラマブル矩形波 (PPG: 可変周期で可変デューティ) 出力モード
- 8ビット PWM (パルス幅変調: 固定周期で可変デューティ) 出力モード

図 3.8.1~図 3.8.3にTMRA01, TMRA23, TMRA45のブロック図を示します。

各チャンネルは主に8ビットアップカウンタ、8ビットコンパレータおよび8ビットタイマレジスタで構成され、2チャンネルに1つのプリスケアラ、タイマフリップフロップで構成されています。

タイマの動作モードやタイマフリップフロップは5バイトのレジスタ(SFR)で制御されます。

4つの各モジュール(TMRA01, TMRA23, TMRA45)は、それぞれ独立に動作します。いずれのモジュールも表 3.8.1に示される仕様相違点を除いて同一の動作をしますので、TMRA01の場合についてのみ説明します。

表 3.8.1 TMRA のモジュール別仕様相違点

仕様		モジュール	TMRA01	TMRA23	TMRA45
外部端子	外部クロック入力端子		TA0IN (P70と兼用)	なし	TA4IN (P73と兼用)
	タイマフリップフロップ出力端子		TA1OUT (P71と兼用)	TA3OUT (P72と兼用)	TA5OUT (P74と兼用)
SFR名 (アドレス)	タイマRUNレジスタ		TA01RUN (0100H)	TA23RUN (0108H)	TA45RUN (0110H)
	タイマレジスタ		TA0REG (0102H) TA1REG (0103H)	TA2REG (010AH) TA3REG (010BH)	TA4REG (0112H) TA5REG (0113H)
	タイマモードレジスタ		TA01MOD (0104H)	TA23MOD (010CH)	TA45MOD (0114H)
	タイマフリップフロップコントロールレジスタ		TA1FFCR (0105H)	TA3FFCR (010DH)	TA5FFCR (0115H)

3.8.1 モジュール別のブロック図

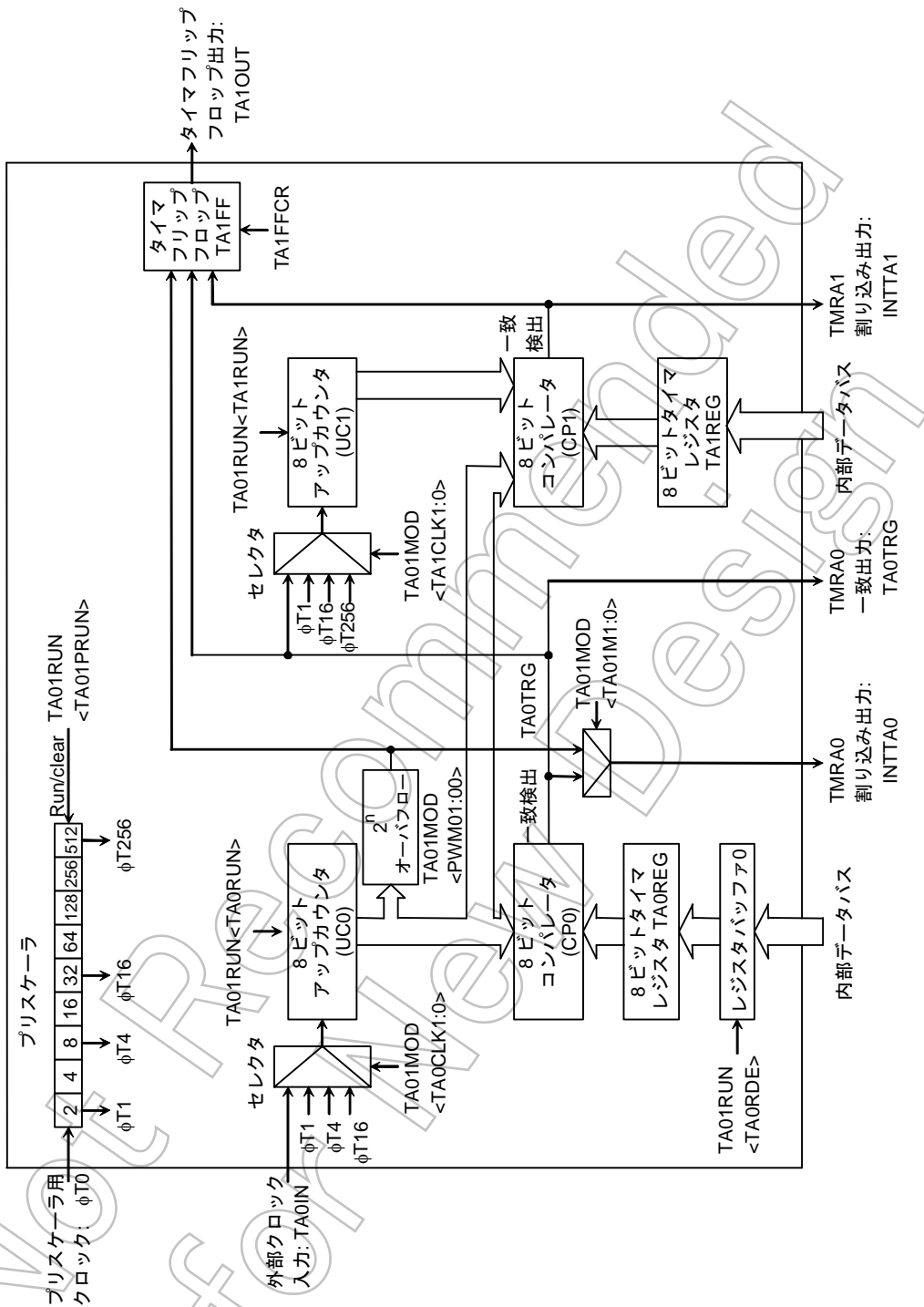


図 3.8.1 TMRA01 ブロック図

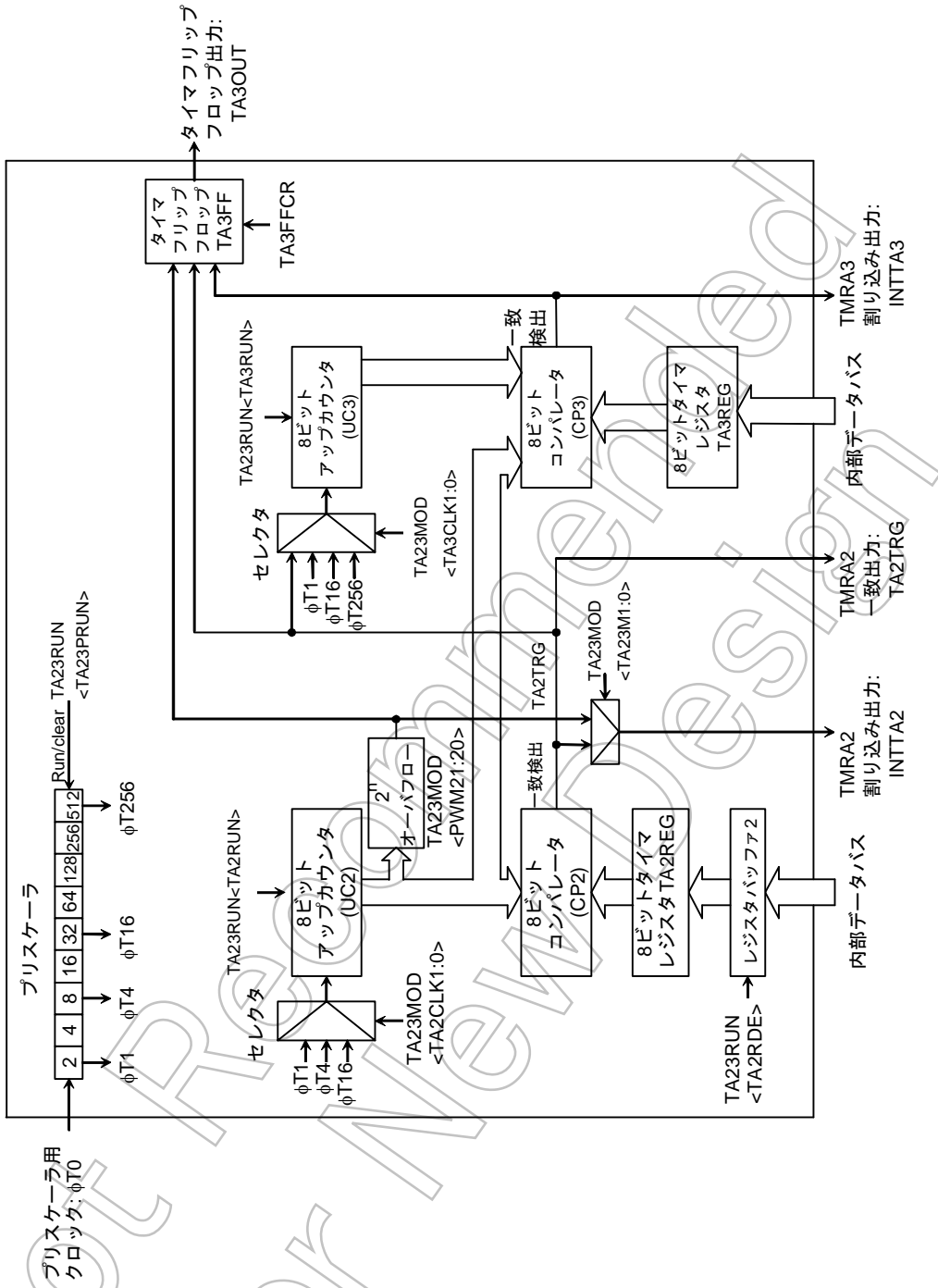


図 3.8.2 TMRA23 ブロック図

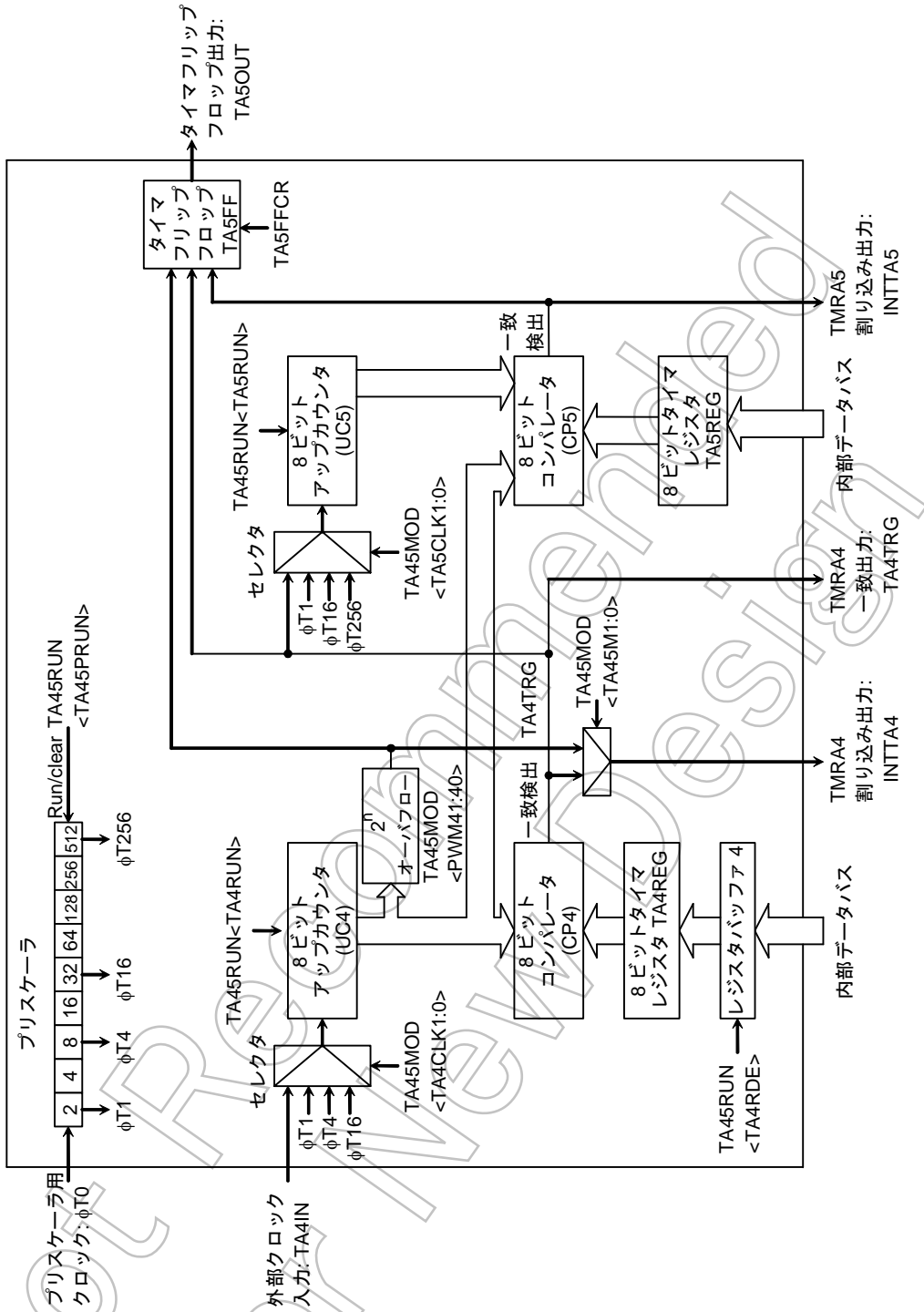


図 3.8.3 TMRA45 ブロック図



## 3.8.2 回路別の動作説明

## (1) プリスケーラ

TMRA01のクロックソースを得るため9ビットプリスケーラがあります。プリスケーラの入力クロック $\phi T0$ は、クロックギア部のSYSCR0<PRCK1:0>にて選択したクロックを4分周したクロックです。

プリスケーラはTA01RUN<TA01PRUN>により制御されます。“1”に設定するとカウント開始し、“0”に設定するとクリアされ停止します。プリスケーラ出力クロックの分解能を表3.8.2に示します。

表 3.8.2 プリスケーラ出力クロック分解能

システム クロック選択 <SYSCK>	プリスケーラ用 クロック選択 SYSCR0 <PRCK1:0>	クロックギア 選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	-	タイマカウンタ入力クロック TMRA部プリスケーラ TAxxMOD<TAxCLK1:0>			
				$\phi T1(1/2)$	$\phi T4(1/8)$	$\phi T16(1/32)$	$\phi T256(1/512)$
1 (fs)	00 (fFPH)	-	1/4	fs/8	fs/32	fs/128	fs/2048
0 (fc)		000(1/1)		fc/8	fc/32	fc/128	fc/2048
		001(1/2)		fc/16	fc/64	fc/256	fc/4096
		010(1/4)		fc/32	fc/128	fc/512	fc/8192
		011(1/8)		fc/64	fc/256	fc/1024	fc/16384
		100(1/16)		fc/128	fc/512	fc/2048	fc/32768
10 (fc/16クロック)	-	fc/128	fc/512	fc/2048	fc/32768		

## (2) アップカウンタ (UC0, UC1)

タイマモードレジスタTA01MODで指定された入力クロックによってカウントアップする8ビットのバイナリカウンタです。

UC0の入力クロックは、TA0IN端子からの外部クロックと、3種類のプリスケーラ出力クロック $\phi T1$ ,  $\phi T4$ ,  $\phi T16$ から、TA01MOD<TA0CLK1:0>の設定値に応じて選択されます。

UC1の入力クロックは動作モードによって異なります。16ビットタイマモードに設定した場合は、UC0のオーバーフロー出力が入力クロックとなり、16ビットタイマモード以外の場合は、TA01MOD<TA1CLK1:0>の設定によりプリスケーラ出力クロック $\phi T1$ ,  $\phi T16$ ,  $\phi T256$ と、TMRA0のコンパレータ出力(一致検出)の中から選択されます。

アップカウンタは、TA01RUN<TA0RUN>, <TA1RUN>によってカウントの開始および停止&クリアを設定します。リセット動作により、アップカウンタはクリアされ、停止します。

## (3) タイマレジスタ (TA0REG, TA1REG)

インタバル時間を設定する 8 ビットのレジスタです。タイマレジスタへの設定値とアップカウンタの値が一致すると、コンパレータの一致検出信号が出力されます。タイマレジスタに“00H”を設定した場合は、アップカウンタのオーバフロー時に、一致信号がアクティブになります。

TA0REG は、ダブルバッファ構成になっており、レジスタバッファ 0 とペアになっています。

ダブルバッファは、TA01RUN<TA0RDE>の設定により制御されます。<TA0RDE> = “0” のときディセーブル、<TA0RDE> = “1” のときイネーブルとなります。

ダブルバッファイネーブル時、レジスタバッファ 0 からタイマレジスタ 0 へのデータ転送タイミングは、PWM モードの 2<sup>n</sup> オーバフロー、または、PPG モードの周期のコンペア一致時です。従って、タイマモード時に、ダブルバッファを使用することはできません。

リセット時は<TA0RDE> = “0” に初期化され、ダブルバッファディセーブルになっています。ダブルバッファを使用するときは、タイマレジスタに設定値をライトし、<TA0RDE> = “1” に設定した後、次の設定値をライトしてください。

図 3.8.4にTA0REGの構成を示します。

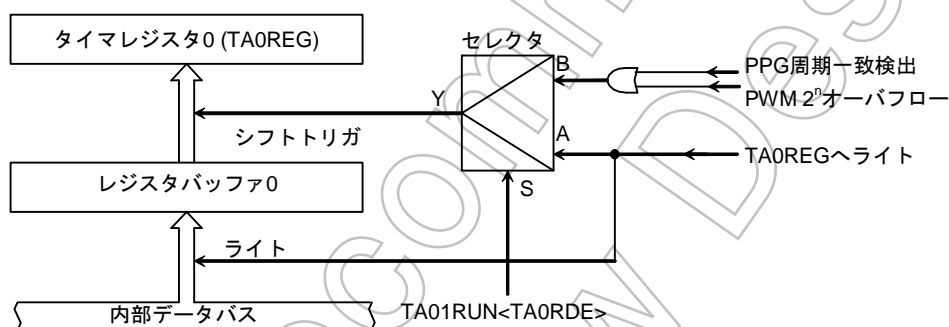


図 3.8.4 タイマレジスタ 0 (TA0REG)の構成

注) TA0REG とレジスタバッファ 0 は同じアドレスに割り付けられています。  
 <TA0RDE> = “0” のときは、レジスタバッファ 0 と TA0REG の両方に同じ値がライトされ、  
 <TA0RDE> = “1” のときは、レジスタバッファ 0 のみにライトされます。

各タイマレジスタのアドレスは次のとおりです。

TA0REG: 000102H	TA1REG: 000103H
TA2REG: 00010AH	TA3REG: 00010BH
TA4REG: 000112H	TA5REG: 000113H
TA6REG: 00011AH	TA7REG: 00011BH

各レジスタともライト専用のレジスタでリードできません。

## (4) コンパレータ (CP0,CP1)

アップカウンタの値とタイマレジスタの値とを比較し、一致すると、アップカウンタを 0 にクリアするとともに、割り込み INTTA0, INTTA1 を発生します。また、タイマフリップフロップ反転イネーブルであれば同時にタイマフリップフロップの値を反転させます。

## (5) タイマフリップフロップ (TA1FF)

タイマフリップフロップ TA1FF は、コンパレータからの一致検出信号により反転するフリップフロップです。反転のディセーブル/イネーブルは、TA1FFCR<TA1FFIE>により設定できます。

リセットにより、TA1FF は“0”になります。TA1FFCR<TA1FFC1:0>に“01”、または、“10”をライトすることで、TA1FF の値を“1”、または、“0”に設定することができます。また、このビットに“00”をライトすることにより、TA1FF の値を反転させることができます(ソフト反転)。

TA1FF の値は、タイマフリップフロップ出力端子 TA1OUT (P71 と兼用) へ出力することができます。タイマ出力を行う場合、あらかじめポート 7 関連レジスタ P7CR, P7FC により、設定を行う必要があります。

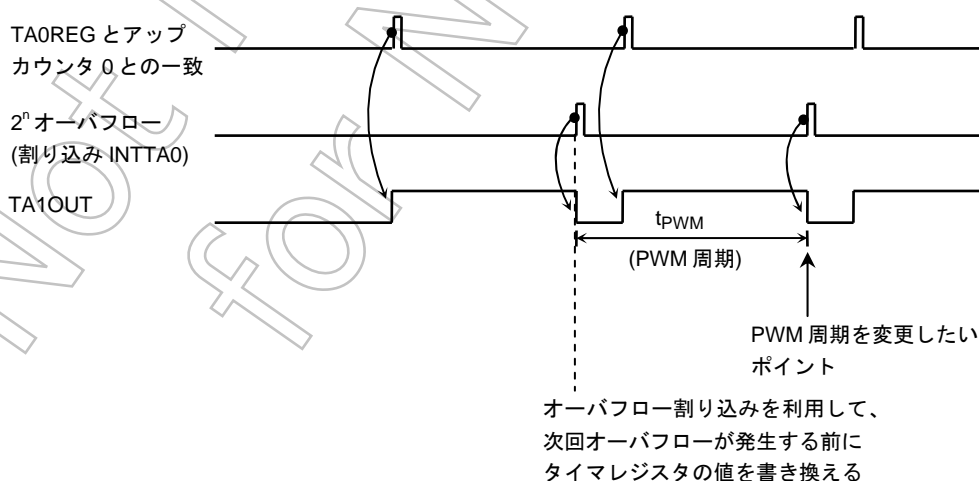
注) 8 ビットタイマにおいて PWM モードや PPG モードを使用時にダブルバッファを利用する場合は、注意が必要です。

タイマレジスタの設定値と、アップカウンタが一致して、オーバフロー発生するタイミング直前にレジスタバッファのデータ更新を行うと、設定値と異なる波形信号が出力される場合があります。

そのため、PWM モードではオーバフロー割込みを利用し、次回のオーバフローが発生する 6 サイクル前までに( $f_{SYS} \times 6$ )、レジスタバッファの更新を終了するようにしてください。

また、PPG モードを使用の際も同様に、周期のコンペア一致割込みを使用し、次回の周期コンペアが一致する 6 サイクル前までに、レジスタバッファの更新を終了するようにしてください。

## PWM モード時の例



3.8.3 SFR説明

	7	6	5	4	3	2	1	0
TA01RUN (0100H)	Bit symbol	TA0RDE			I2TA01	TA01PRUN	TA1RUN	TA0RUN
	Read/Write	R/W			R/W			
	リセット後	0			0	0	0	0
	機能	ダブルバッファ 0: 禁止			IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA01 プリスケ ーラ 0: 停止 & クリア 1: カウント	アップ カウンタ (UC1)	アップ カウンタ (UC0)

0	禁止
1	許可

0	停止 & クリア
1	カウント

注) TA01RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると不定値がリードされます。

TMRA23 RUN レジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
TA23RUN (0108H)	Bit symbol	TA2RDE			I2TA23	TA23PRUN	TA3RUN	TA2RUN
	Read/Write	R/W			R/W			
	リセット後	0			0	0	0	0
	機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可			IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA23 プリスケ ーラ 0: 停止 & クリア 1: カウント	アップ カウンタ (UC3)	アップ カウンタ (UC2)

0	禁止
1	許可

0	停止 & クリア
1	カウント

注) TA23RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると不定値がリードされます。

図 3.8.5 TMRA レジスタ

TMRA45 RUN レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA45RUN (0110H)	Bit symbol	TA4RDE				I2TA45	TA45PRUN	TA5RUN	TA4RUN
	Read/Write	R/W				R/W			
	リセット後	0				0	0	0	0
	機能	ダブルバッファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 モード時 0: 停止 1: 動作	TMRA45 プリスケ ーラ 0: 停止 & クリア 1: カウント	アップ カウンタ (UC5)	アップ カウンタ (UC4)

0	禁止
1	許可

0	停止 & クリア
1	カウント

注) TA45RUN のビット 4, 5, 6 は、リードすると不定値がリードされます。

図 3.8.6 TMRA レジスタ

TMRA01 モードレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA01MOD (0104H)	Bit symbol	TA01M1	TA01M0	PWM01	PWM00	TA1CLK1	TA1CLK0	TA0CLK1	TA0CLK0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	動作モード 00: 8ビットタイマ 01: 16ビットタイマ 10: 8ビットPPG 11: 8ビットPWM		PWM 周期 00: Reserved 01: $2^6$ 10: $2^7$ 11: $2^8$		TMRA1 ソースクロック 00: TA0TRG 01: $\phi T1$ 10: $\phi T16$ 11: $\phi T256$		TMRA0 入力クロック 00: TA0IN 端子入力 01: $\phi T1$ 10: $\phi T4$ 11: $\phi T16$	

TMRA0 の入力クロック

<TA0CLK1:0>		
	00	TA0IN 端子入力
	01	$\phi T1$
	10	$\phi T4$
	11	$\phi T16$

TMRA1 の入力クロック

		TA01MOD<TA01M1:0>=01	TA01MOD<TA01M1:0>=01
<TA1CLK1:0>	00	TMRA0 の一致出力	TMRA0 のオーバーフロー出力 (16ビットタイマモード)
	01	$\phi T1$	
	10	$\phi T16$	
	11	$\phi T256$	

8ビットPWMモード時の周期選択

<PWM01:00>		
	00	Reserved
	01	$2^6 \times$ ソースクロック
	10	$2^7 \times$ ソースクロック
	11	$2^8 \times$ ソースクロック

TMRA01 の動作モード選択

<TA01MA1:0>		
	00	8ビットタイマ 2ch
	01	16ビットタイマ
	10	8ビットプログラム矩形波出力
	11	8ビットPWM (TMRA0), 8ビットタイマ (TMRA1)

図 3.8.7 TMRA レジスタ

TMRA23 モードレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA23MOD (010CH)	Bit symbol	TA23M1	TA23M0	PWM21	PWM20	TA3CLK1	TA3CLK0	TA2CLK1	TA2CLK0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能	動作モード 00: 8 ビットタイマ 01: 16 ビットタイマ 10: 8 ビット PPG 11: 8 ビット PWM		PWM 周期 00: Reserved 01: $2^6$ 10: $2^7$ 11: $2^8$		TMRA3 ソースクロック 00: TA2TRG 01: $\phi T1$ 10: $\phi T16$ 11: $\phi T256$		TMRA2 入力クロック 00: Reserved 01: $\phi T1$ 10: $\phi T4$ 11: $\phi T16$	

TMRA2 の入力クロック

<TA2CLK1:0>	00	Resereved
	01	$\phi T1$
	10	$\phi T4$
	11	$\phi T16$

TMRA3 の入力クロック

		TA23MOD<TA23M1:0>=01	TA23MOD<TA23M1:0>=01
<TA3CLK1:0>	00	TMRA2 の一致出力	TMRA2 のオーバーフロー出力 (16 ビットタイマモード)
	01	$\phi T1$	
	10	$\phi T16$	
	11	$\phi T256$	

8 ビット PWM モード時の周期選択

<PWM21:20>	00	Reserved
	01	$2^6 \times$ ソースクロック
	10	$2^7 \times$ ソースクロック
	11	$2^8 \times$ ソースクロック

TMRA23 の動作モード選択

<TA23M1:0>	00	8 ビットタイマ 2ch
	01	16 ビットタイマ
	10	8 ビットプログラム矩形波出力
	11	8 ビット PWM (TMRA2), 8 ビットタイマ (TMRA3)

図 3.8.8 TMRA レジスタ

TMRA45 モードレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0	
TA45MOD (0114H)	Bit symbol	TA45M1	TA45M0	PWM41	PWM40	TA5CLK1	TA5CLK0	TA4CLK1	TA4CLK0
	Read/Write	R/W							
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	動作モード	PWM 周期		TMRA5 ソースクロック		TMRA4 入力クロック			
	00: 8 ビットタイマ	00: Reserved		00: TA4TRG		00: TA4IN 端子入力			
	01: 16 ビットタイマ	01: $2^6$		01: $\phi T1$		01: $\phi T1$			
	10: 8 ビット PPG	10: $2^7$		10: $\phi T16$		10: $\phi T4$			
	11: 8 ビット PWM	11: $2^8$		11: $\phi T256$		11: $\phi T16$			

TMRA4 の入力クロック

<TA4CLK1:0>		
00	TA4IN 端子入力	
01	$\phi T1$	
10	$\phi T4$	
11	$\phi T16$	

TMRA5 の入力クロック

		TA45MOD<TA45M1:0>=01	TA45MOD<TA45M1:0>=01
<TA5CLK1:0>	00	TMRA4 の一致出力	TMRA4 のオーバーフロー出力 (16 ビットタイマモード)
	01	$\phi T1$	
	10	$\phi T16$	
	11	$\phi T256$	

8 ビット PWM モード時の周期選択

<PWM41:40>		
00	Reserved	
01	$2^6 \times$ ソースクロック	
10	$2^7 \times$ ソースクロック	
11	$2^8 \times$ ソースクロック	

TMRA45 の動作モード選択

<TA45M1:0>		
00	8 ビットタイマ 2ch	
01	16 ビットタイマ	
10	8 ビットプログラム矩形波出力	
11	8 ビット PWM (TMRA4), 8 ビットタイマ (TMRA5)	

図 3.8.9 TMRA レジスタ



TMRA1 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA1FFCR (0105H)	Bit symbol					TA1FFC1	TA1FFC0	TA1FFIE	TA1FFIS
	Read/Write					R/W		R/W	
	リセット後					1	1	0	0
リードモ ディファイ アイトは できませ ん。	機能					00: TA1FF 反転 01: TA1FF セット 10: TA1FF クリア 11: Don't care	TA1FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA1FF 反転信号 セレクト 0: TMRA0 1: TMRA1	

タイマフリップフロップ 1 (TA1FF) の反転信号セレクト  
(8 ビットタイマモード以外は Don't care)

TA1FFIS	0	TMRA0 による反転
	1	TMRA1 による反転

TA1FF の反転制御

TA1FFIE	0	反転禁止
	1	反転許可

TA1FF の制御

<TA1FFC1:0>	00	TA1FF の値を反転 (ソフト反転)
	01	TA1FF を "1" にセット
	10	TA1FF を "0" にクリア
	11	Don't care

注) TA1FFCR のビット 4, 5, 6, 7 は、リードすると不定値がリードされます。

図 3.8.10 TMRA レジスタ

TMRA3 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA3FFCR (010DH)	Bit symbol					TA3FFC1	TA3FFC0	TA3FFIE	TA3FFIS
	Read/Write					RW		RW	
リードモ ディファイ アイト はできま せん。	リセット後					1	1	0	0
	機能					00: TA3FF 反転 01: TA3FF セット 10: TA3FF クリア 11: Don't care		TA3FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA3FF 反転信号 セレクト 0: TMRA2 1: TMRA3

タイマフリップフロップ3 (TA3FF) の反転信号セレクト  
(8ビットタイマモード以外は Don't care)

TA3FFIS	0	TMRA2 による反転
	1	TMRA3 による反転

TA3FF の反転制御

TA3FFIE	0	反転禁止
	1	反転許可

TA3FF の制御

<TA3FFC1:0>	00	TA3FF の値を反転 (ソフト反転)
	01	TA3FF を "1" にセット
	10	TA3FF を "0" にクリア
	11	Don't care

注) TA3FFCR のビット 4, 5, 6, 7 は、リードすると不定値がリードされます。

図 3.8.11 8ビットタイマレジスタ

TMRA5 フリップフロップコントロールレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TA5FFCR (0115H)	Bit symbol					TA5FFC1	TA5FFC0	TA5FFIE	TA5FFIS
	Read/Write					RW		RW	
	リセット後					1	1	0	0
	機能					00: TA5FF 反転 01: TA5FF セット 10: TA5FF クリア 11: Don't care		TA5FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA5FF 反転信号 セレクト 0: TMRA4 1: TMRA5

リードモ  
ディファイ  
アイト  
はできま  
せん。

タイマフリップフロップ 5 (TA5FF) の反転信号セレクト  
(8 ビットタイマモード以外は Don't care)

TA5FFIS	0	TMRA4 による反転
	1	TMRA5 による反転

TA5FF の反転制御

TA5FFIE	0	反転禁止
	1	反転許可

TA5FF の制御

<TA5FFC1:0>	00	TA5FF の値を反転 (ソフト反転)
	01	TA5FF を "1" にセット
	10	TA5FF を "0" にクリア
	11	Don't care

注) TA5FFCR のビット 4, 5, 6, 7 は、リードすると不定値がリードされます。

図 3.8.12 TMRA レジスタ

		タイマレジスタ							
		7	6	5	4	3	2	1	0
TA0REG (0102H)	bit Symbol	—							
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							
TA1REG (0103H)	bit Symbol	—							
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							
TA2REG (010AH)	bit Symbol	—							
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							
TA3REG (010BH)	bit Symbol	—							
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							
TA4REG (0112H)	bit Symbol	—							
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							
TA5REG (0113H)	bit Symbol	—							
	Read/Write	W							
	リセット後	不定							

図 3.8.13 TMRA レジスタ

## 3.8.4 モード別動作説明

## (1) 8ビットタイマモード

TMRA0, TMRA1は、それぞれ独立に8ビットインタバルタイマとして使用できます。機能、および、カウントデータの設定を行う場合、TMRA0, TMRA1を停止させた状態で行ってください。

## 1. 一定周期の割り込みを発生させる場合

ここではTMRA1を使用した例を示します。TMRA1を用いて、一定周期ごとにTMRA1割り込みINTTA1を発生させる場合、まずTMRA1を停止させ、動作モード、入力クロック、周期をそれぞれTA01MOD、TA1REGに設定します。次に割り込みINTTA1をイネーブルにしてから、TMRA1をカウントさせます。

例:  $f_c = 27 \text{ MHz}$  で  $12 \mu\text{s}$  ごとにINTTA1割り込みを発生させたい場合、次の順序で各レジスタを設定します。

\* クロック条件

クロックギア:	1/1
クロックギア部プリスケアラ:	1/2

	MSB				LSB					
	7	6	5	4	3	2	1	0		
TA01RUN	←	-	X	X	X	-	-	0	-	TMRA1を停止し、0にクリアします。
TA01MOD	←	0	0	X	X	0	1	X	X	8ビットタイマモードにし、入力クロックを $\phi T1 ((2^3/f_c) \text{ s 分解能、}@f_c = 27 \text{ MHz})$ に設定します。
TA1REG	←	0	0	1	0	1	0	0	0	TA1REGに $12\mu\text{s} \div \phi T1 \approx 40 (28H)$ をライトします。
INTTA01	←	X	1	0	1	-	-	-	-	INTTA1をイネーブル、割り込みレベル5に設定します。
TA01RUN	←	-	X	X	X	-	1	1	-	TMRA1をカウントさせます。

X: Don't Care、 -: No change

入力クロックの選択は表 3.8.2を参考にしてください。

注) TMRA0とTMRA1の入力クロックは下記のように異なります。

TMRA0: TA0IN 端子入力、 $\phi T1$ ,  $\phi T4$ ,  $\phi T16$

TMRA1: TMRA0の一致検出信号、 $\phi T1$ ,  $\phi T16$ ,  $\phi T256$

2. デューティ 50%の矩形波を出力させる場合

一定周期ごとにタイマフリップフロップ TA1FF の値を反転させ、この値をタイマフリップフロップ出力端子 TA1OUT へ出力します。

例:  $f_c = 27 \text{ MHz}$  で周期  $1.8 \mu\text{s}$  の矩形波を TA1OUT 端子から出力させたい場合、次の順序で各レジスタを設定します。この場合、TMRA0 か TMRA1 を用いますが、ここでは TMRA1 を使用したときのレジスタ設定例を示します。

\* クロック条件  $\left\{ \begin{array}{l} \text{クロックギア:} \quad \quad \quad 1/1 \\ \text{クロックギア部プリスケアラ:} \quad 1/2 \end{array} \right.$

	7	6	5	4	3	2	1	0
TA01RUN	← -	X	X	X	-	-	0	-
TA01MOD	← 0	0	X	X	0	1	X	X
TA1REG	← 0	0	0	0	0	0	1	1
TA1FFCR	← X	X	X	X	1	0	1	1
P7CR	← X	X	-	-	-	-	1	-
P7FC	← X	X	-	-	X	-	1	X
TA01RUN	← -	X	X	X	-	1	1	-

TMRA1 を停止し、0 にクリアします。  
 8 ビットタイマモードにし、入力クロックを  $\phi T1 ((2^3/f_c) \text{ s } @f_c = 27 \text{ MHz})$  に設定します。  
 TA1REG に  $1.8 \mu\text{s} \div \phi T1 \div 2 \approx 03\text{H}$  をセットします。  
 TA1FF を "0" にクリアし、TMRA1 からの一致検出信号で反転するように設定します。  
 P71 を TA1OUT 出力端子に設定します。  
 TMRA1 のカウントを開始させます。

X: Don't Care、-: No change

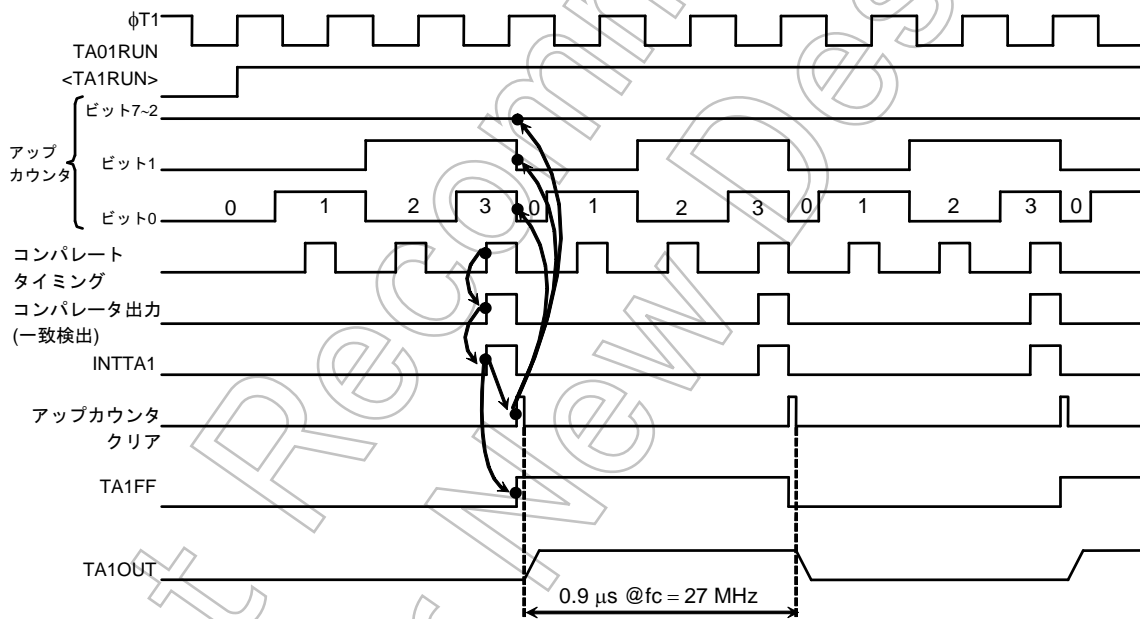


図 3.8.14 矩形波 (デューティ 50%) 出力のタイミングチャート

### 3. TMRA0 の一致出力で TMRA1 をカウントアップさせる場合

8 ビットタイマモードに設定し、TMRA1 の入力クロックを TMRA0 のコンパレータ出力に設定します。

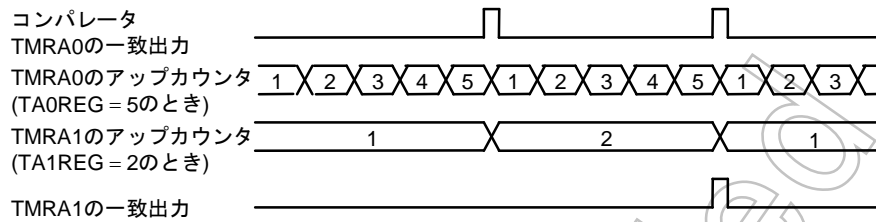


図 3.8.15 TMRA0 による TMRA1 のカウントアップ

#### (2) 16 ビットタイマモード

TMRA0 と TMRA1 をペアにして、16 ビットインタバルタイマとして使用できます。

TA01MOD<TA01M1:0>を“01”に設定することで16 ビットタイマモードとなります。

16 ビットタイマモードに設定すると、TA01MOD<TA1CLK1:0> の設定値にかかわらず、TMRA1 の入力クロックは、TMRA0 のオーバフロー出力になります。TMRA0 の入力クロックの選択は表 3.8.2を参考にしてください。

タイマ割り込み周期は、タイマレジスタ TA0REG に下位 8 ビットを、TA1REG に上位 8 ビットを設定します。この場合、必ず TA0REG から先に設定してください (TA0REG にデータをライトするとコンペアが一時禁止され、TA1REG へのデータライトでコンペアが開始されるためです)。

例:  $f_c = 27 \text{ MHz}$  で 0.3 秒ごとに割り込み INTTA1 を発生させる場合、タイマレジスタ TA0REG, TA1REG には次の値を設定します。

\* クロック条件

{	クロックギア:	1/1
	クロックギア部プリスケアラ:	1/2

$\phi T_{16} ((27/f_c) \text{ s } @f_c = 27 \text{ MHz})$  を入力クロックとしてカウントすると

$$0.3 \text{ s } \div (27/f_c) \text{ s } \doteq 62500 = \text{F424H}$$

従って TA1REG = F4H, TA0REG = 24H を設定すると、0.29 秒ごとに割り込み意 INTTA1 が発生します。

TMRA0のコンパレータ出力は、アップカウンタ UC0 と TA0REG が一致するたびに出力されますが、アップカウンタ UC0 はクリアされません。また、このとき INTTA0 は発生しません。

TMRA1のコンパレータは、アップカウンタ UC1 と TA1REG が一致すると、コンパレータタイミング時、毎回一致検出信号が出力されます。TMRA0, TMRA1 両方のコンパレータの一致検出信号が同時に出力されると、アップカウンタ UC0, UC1 が 0 にクリアされ、割り込み INTTA1 が発生します。また反転イネーブルであれば、タイマフリップフロップ TA1FF の値は反転されます。

例: TA1REG = 04H, TA0REG = 80H の場合



図 3.8.16 16 ビットタイマモードによるタイマ出力

### (3) 8 ビット PPG (プログラマブル矩形波) 出力モード

TMRA0 を用いて、任意周波数、任意デューティの矩形波を出力することができます。出力パルスは Low アクティブ、High アクティブどちらの設定も可能です。

このモードに設定した場合 TMRA1 は使用できません。

矩形波は TA1OUT (P71 と兼用) へ出力されます。

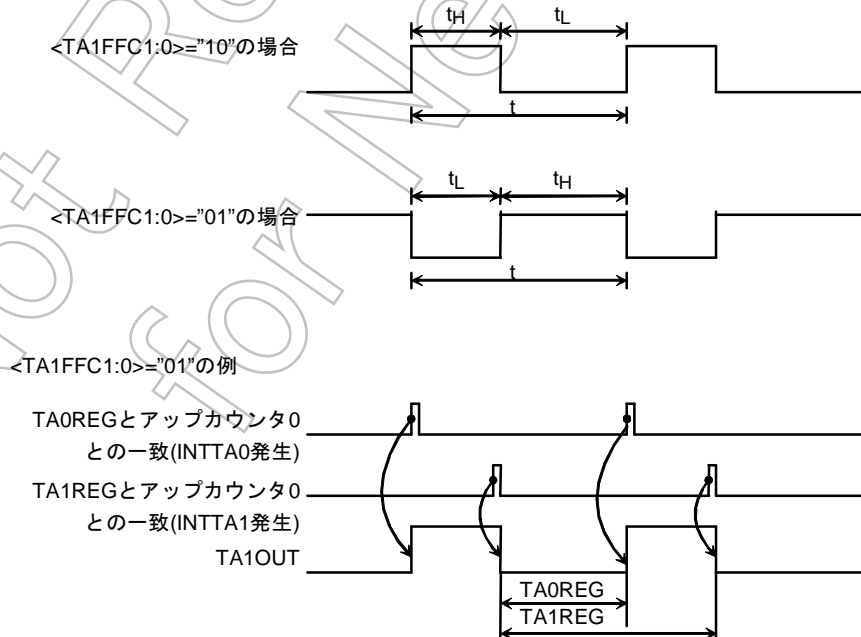


図 3.8.17 8 ビット PPG 出力波形



このモードは、8ビットアップカウンタ UC0 が、タイマレジスタ TA0REG および TA1REG と一致するたびにタイマ出力を反転させることにより、プログラマブル矩形波を出力するものです。

ただし、(TA0REG の設定値) < (TA1REG の設定値) の条件を満たす必要があります。

なお、このモードでは、TMRA1 のアップカウンタ UC1 は使用できませんが、TA01RUN<TA1RUN> = 1 に設定して、TMRA1 をカウント状態にしてください。

このモードをブロック図で示すと図 3.8.18 のようになります。

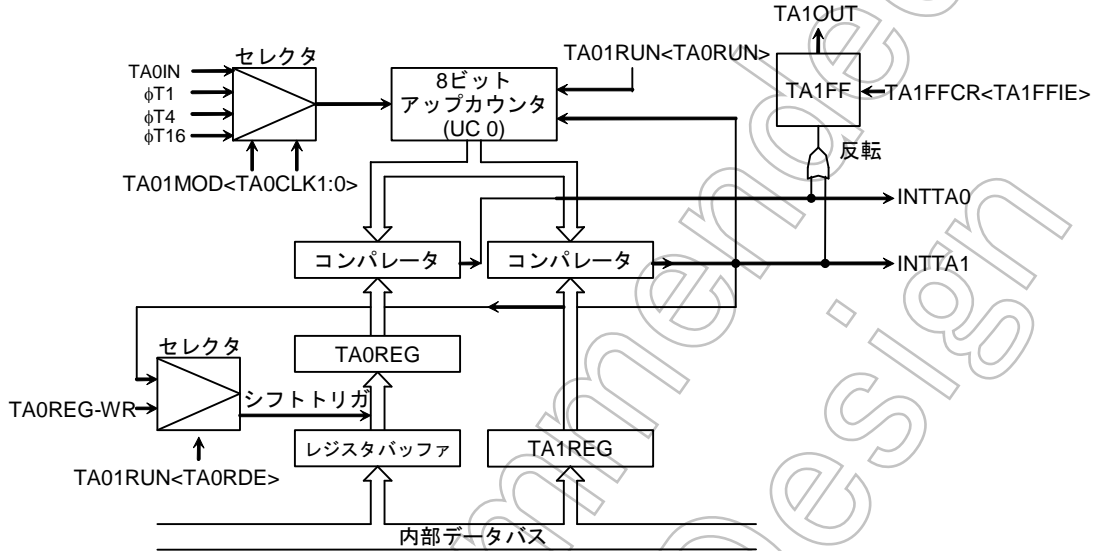


図 3.8.18 8ビット PPG 出力モードのブロック図

このモードでは、TA0REG をダブルバッファイネーブルにすることにより、レジスタバッファの値が TA1REG と UC0 の一致時に、TA0REG へシフトインされます。

ダブルバッファを使用することにより、小さいデューティ (デューティを変化させるとき) への対応が容易に行えます。

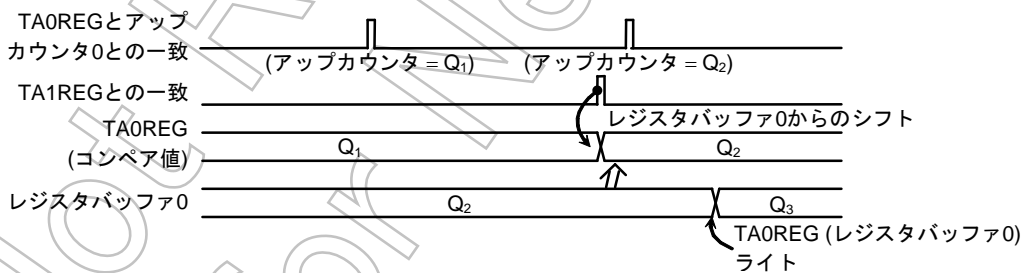
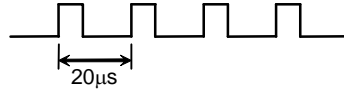


図 3.8.19 レジスタバッファ 0 の動作

例: デューティ 1/4 の 50 kHz のパルスを出力する場合 (fc = 27 MHz)



\* クロック条件  $\left\{ \begin{array}{l} \text{クロックギア:} \quad \quad \quad 1/1 \\ \text{クロックギア部プリスケアラ:} \quad 1/2 \end{array} \right.$

タイマレジスタへの設定値を求めます。  
 周波数を 50 kHz にするには、周期  $t = 1/50 \text{ kHz} = 20 \mu\text{s}$  の波形をつくります。  
 $\phi T1 = (2^3/fc) \text{ s} (@fc = 27 \text{ MHz})$  を用いると、

$$20 \mu\text{s} \div (2^3/fc) \text{ s} \doteq 67$$

従って TA1REG を、TA1REG = 67 = 43H と設定すると、50.3kHz のパルスが作られます。  
 次にデューティを 1/4 にするには、 $t \times 1/4 = 20 \mu\text{s} \times 1/4 = 5 \mu\text{s}$

$$5 \mu\text{s} \div (2^3/fc) \text{ s} \doteq 17$$

従って TA0REG = 17 = 11H に設定します。

	7	6	5	4	3	2	1	0		
TA01RUN	←	-	X	X	X	-	-	0	0	TMRA0, TMRA1 を停止し、0 にクリアします。(ダブルバッファディセーブル)
TA01MOD	←	1	0	X	X	X	X	0	1	8 ビット PPG モードにし、入力クロックをφT1 にします。
TA0REG	←	0	0	0	1	0	0	0	1	11H をライトします。
TA1REG	←	0	1	0	0	0	0	1	1	43H をライトします。
TA1FFCR	←	X	X	X	X	0	1	1	X	TA1FF をセットし、反転イネーブルにします。
										bit2,3 を "10" にすると負論理の出力波形が得られます。
P7CR	←	X	X	-	-	-	-	1	-	} P71 を TA1OUT 端子に設定します。
P7FC	←	X	X	-	-	X	-	1	X	
TA01RUN	←	1	X	X	X	-	1	1	1	TMRA0, TMRA1 のカウントを開始します。(ダブルバッファイネーブル)

X: Don't Care、 -: No change

(4) 8ビット PWM 出力モード

TMRA0のみ可能なモードで、分解能8ビットまでのPWMを出力することができます。PWM出力はTA1OUT端子(P71と兼用)へ出力されます。

このモードでは、TMRA1は8ビットタイマとして使用できます。

タイマ出力の反転は、アップカウンタUC0がタイマレジスタTA0REGの設定値と一致したときと、 $2^n$  ( $n = 6, 7, 8$ のいずれかをTA01MOD<PWM01:00>で指定)カウンタオーバーフロー発生時に起こります。また、UC0は $2^n$ カウンタのオーバーフローによってクリアされます。

なお、このPWMモードを使用する場合、次の条件を満たさなければなりません。

$$(TA0REG \text{ の設定値}) < (2^n \text{ カウンタのオーバーフロー設定値})$$

$$(TA0REG \text{ の設定値}) \neq 0$$

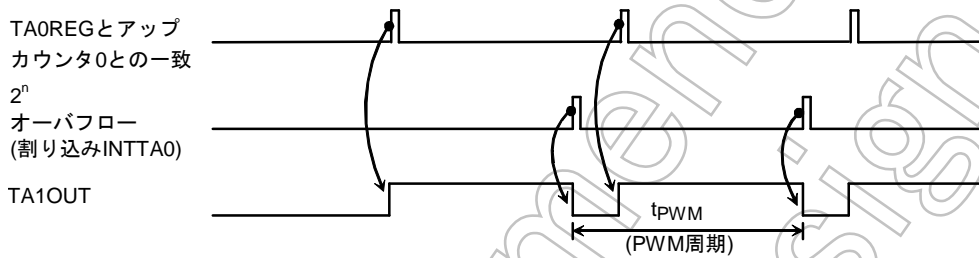


図 3.8.20 8ビット PWM 出力波形

このモードをブロック図で示すと図 3.8.21のようになります。

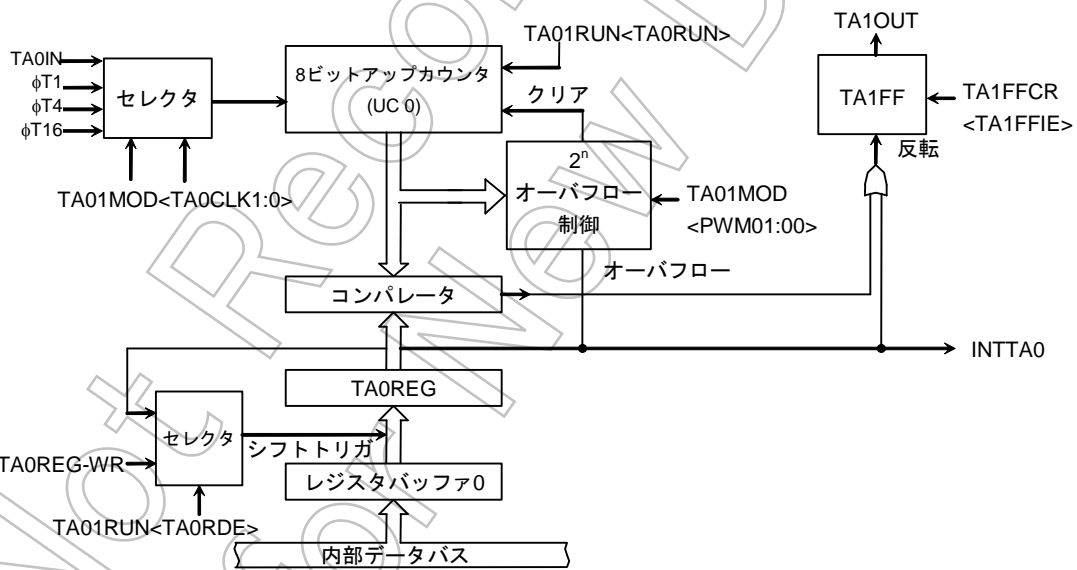


図 3.8.21 8ビット PWM 出力モードのブロック図

このモードでは、TAOREG をダブルバッファイネーブルにすることにより、2<sup>n</sup> オーバフロー検出で、レジスタバッファの値が TAOREG へシフトインされます。

ダブルバッファを使用することにより、小さいデューティへの対応が、容易に行えます。

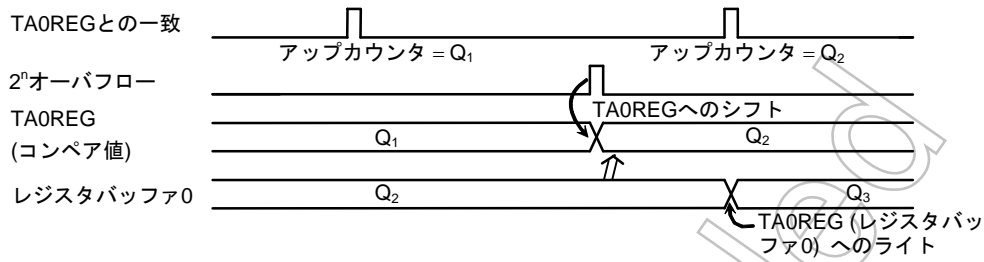
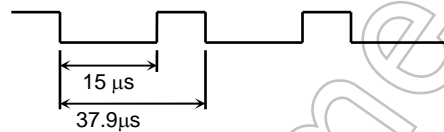


図 3.8.22 レジスタバッファ 0 の動作

例:  $f_c = 27 \text{ MHz}$  時、TMRA0 を使って下記の PWM 波形を TA1OUT 端子へ出力する場合



- \* クロック条件
- システムクロック: 高速 ( $f_c$ )
  - 高速クロックギア: 1 倍 ( $f_c$ )
  - プリスケールクロック:  $f_{PH}$

PWM 周期  $37.9 \mu\text{s}$  を  $\phi T1 = (2^3/f_c) \text{ s}$  ( $@f_c = 27 \text{ MHz}$ ) で実現する場合

$$37.9 \mu\text{s} \div (2^3/f_c) \text{ s} = 128 = 2^n$$

従って  $n = 7$  に設定します。

“L” レベルの期間は、

$$15.0 \mu\text{s} \div (2^3/f_c) \text{ s} = 51 = 33H$$

を TAOREG に設定します。

	MSB	7	6	5	4	3	2	1	0	LSB
TA01RUN	←	-	X	X	X	-	-	-	0	
TA01MOD	←	1	1	1	0	X	X	0	1	
TA0REG	←	0	0	1	1	0	0	1	1	
TA1FFCR	←	X	X	X	X	1	0	1	X	
P7CR	←	X	X	-	-	-	-	1	-	}
P7FC	←	X	X	-	-	X	-	1	X	
TA01RUN	←	1	X	X	X	-	1	-	1	

- TMRA0 を停止し、0 にクリアします。
- 8 ビット PWM モード (周期 =  $2^7$ ) にし、入力クロックを  $\phi T1$  にします。
- 33H をライトします。
- TA1FF をクリアし、反転イネーブルにします。
- P71 を TA1OUT 端子に設定します。
- TMRA0 のカウントを開始します。

X: Don't Care、 -: No change

表 3.8.3 PWM 周期

システム クロック選択 SYSCR1 <SYSCK>	プリスケラ用 クロック選択 SYSCR0 <PRCK1:0>	クロック ギア値 SYSCR1 <GEAR2:0>	PWM 周期									
			$2^6$ (x64)			$2^7$ (x128)			$2^8$ (x256)			
			TAxxMOD<TAxCLK1:0>			TAxxMOD<TAxCLK1:0>			TAxxMOD<TAxCLK1:0>			
			$\phi$ T1(x2)	$\phi$ T4(x8)	$\phi$ T16(x32)	$\phi$ T1(x2)	$\phi$ T4(x8)	$\phi$ T16(x32)	$\phi$ T1(x2)	$\phi$ T4(x8)	$\phi$ T16(x32)	
1 (1/fs)	00 (fPH)	–	512/fs	2048/fs	8192/fs	1024/fs	4096/fs	16384/fs	2048/fs	8192/fs	32768/fs	
0 (1/fc)		000(x1)	512/fc	2048/fc	8192/fc	1024/fc	4096/fc	16384/fc	2048/fc	8192/fc	32768/fc	
		001(x2)	1024/fc	4096/fc	16384/fc	2048/fc	8192/fc	32768/fc	4096/fc	16384/fc	65536/fc	
		010(x4)	2048/fc	8192/fc	32768/fc	4096/fc	16384/fc	65536/fc	8192/fc	32768/fc	131072/fc	
		011(x8)	4096/fc	16384/fc	65536/fc	8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc	
		10 (fcx16)	100(x16)	8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc	32768/fc	131072/fc	524288/fc
			–	8192/fc	32768/fc	131072/fc	16384/fc	65536/fc	262144/fc	32768/fc	131072/fc	524288/fc

## (5) 動作モード設定一覧

TMRA01の各モードをまとめると表 3.8.4のような設定になります。

表 3.8.4 各タイマモードの設定レジスタ

レジスタ名 <レジスタ中の機能名>	TA01MOD				TA1FFCR
	<TA01M1:0>	<PWM01:00>	<TA1CLK1:0>	<TA0CLK1:0>	TA1FFIS
機能	タイマモード	PWM 周期	上位タイマ 入力クロック	下位タイマ 入力クロック	タイマ F/F 反転 信号セレクト
8 ビットタイマ × 2 チャンネル	00	–	下位タイマ一致 $\phi$ T1, $\phi$ T16, $\phi$ T256 (00, 01, 10, 11)	外部, $\phi$ T1, $\phi$ T4, $\phi$ T16 (00, 01, 10, 11)	0: 下位タイマ出力 1: 上位タイマ出力
16 ビットタイマモード	01	–	–	外部, $\phi$ T1, $\phi$ T4, $\phi$ T16 (00, 01, 10, 11)	–
8 ビット PPG × 1 チャンネル	10	–	–	外部, $\phi$ T1, $\phi$ T4, $\phi$ T16 (00, 01, 10, 11)	–
8 ビット PWM × 1 チャンネル	11	$2^6, 2^7, 2^8$ (01, 10, 11)	–	外部, $\phi$ T1, $\phi$ T4, $\phi$ T16 (00, 01, 10, 11)	–
8 ビット PWM × 1 チャンネル	11	–	$\phi$ T1, $\phi$ T16, $\phi$ T256 (01, 10, 11)	–	出力不可

–: Don't care

### 3.9 16ビットタイマ/イベントカウンタ (TMRB)

多機能 16ビットタイマ/イベントカウンタを 1チャンネル (TMRB0) 内蔵しています。TMRBは、次の3つの動作モードを持っています。

- 16ビットインタバルタイマモード
- 16ビットイベントカウンタモード
- 16ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード

また、キャプチャ機能を利用することで、次のような動作を行うことができます。

- 周波数測定
- パルス幅測定
- 時間差測定

図 3.9.1 にTMRB0のブロック図を示します。

各チャンネルは、主に 16ビットアップカウンタ、16ビットタイマレジスタ 2本 (1本はダブルバッファ構造)、16ビットキャプチャレジスタ 2本、コンパレータ 2個、および、キャプチャ入力制御、タイマフリップフロップとその制御回路で構成されています。

タイマの動作モードやタイマフリップフロップは 11バイトのレジスタ (SFR) で制御されます。

表 3.9.1 TMRB のチャンネル別仕様相違点

仕様		チャンネル	TMRB0	
外部端子	外部クロック/ キャプチャトリガ入力端子		TB0IN0 (P80 と兼用) TB0IN1 (P81 と兼用)	
	タイマフリップフロップ 出力端子		TB0OUT0 (P82 と兼用) TB0OUT1 (P83 と兼用)	
	タイマ RUN レジスタ		TB0RUN (0180H)	
SFR名 (アドレス)	タイマモードレジスタ		TB0MOD (0182H)	
	タイマフリップフロップ コントロールレジスタ		TB0FFCR (0183H)	
	タイマレジスタ			TB0RG0L (0188H) TB0RG0H (0189H) TB0RG1L (018AH) TB0RG1H (018BH)
		キャプチャレジスタ		TB0CP0L (018CH) TB0CP0H (018DH) TB0CP1L (018EH) TB0CP1H (018FH)

3.9.1 チャンネル別のブロック図

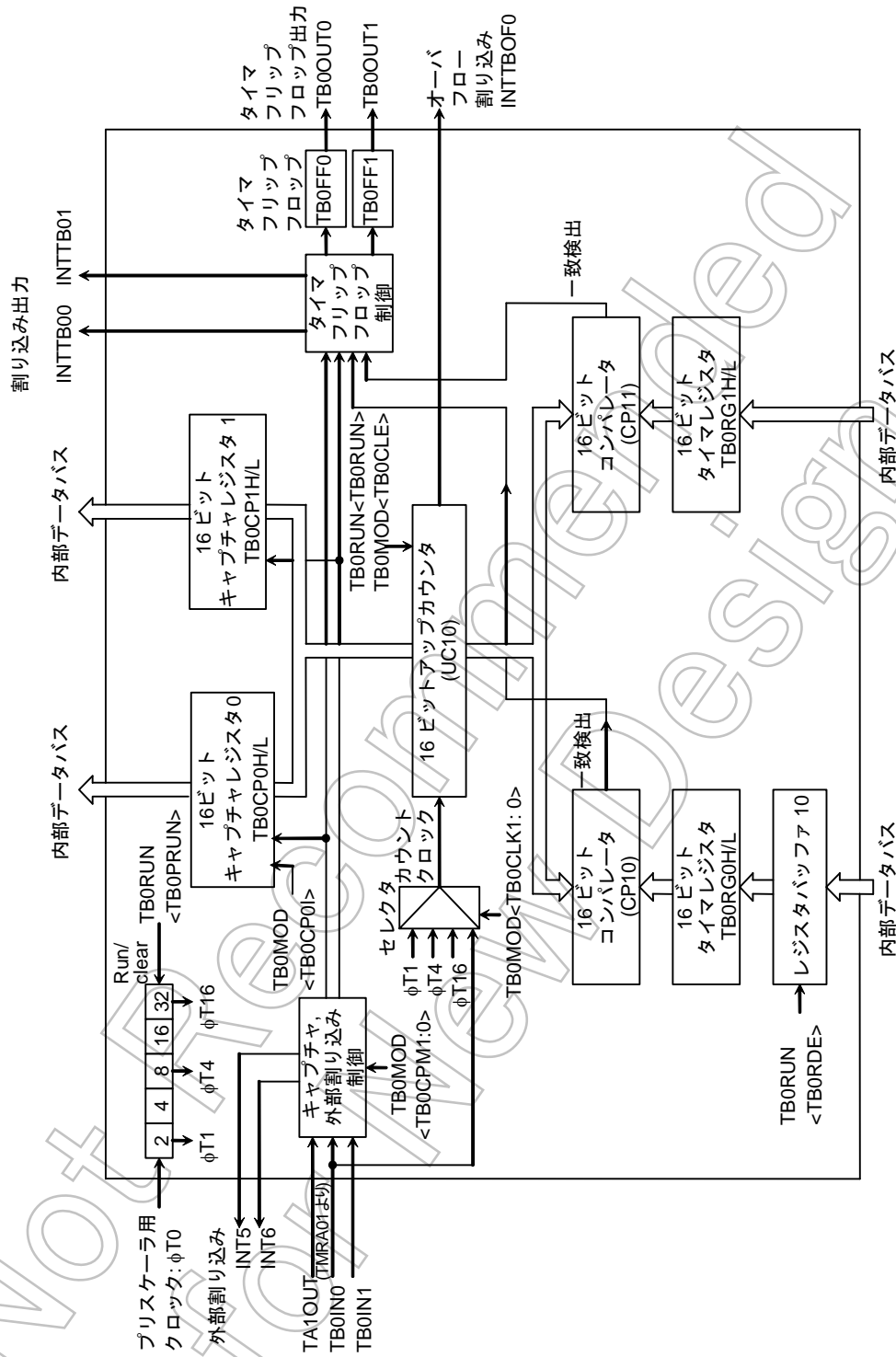


図 3.9.1 TMRB0 ブロック図

## 3.9.2 回路別の動作説明

## (1) プリスケーラ

TMRB0 のクロックソースを得るため、5 ビットプリスケーラがあります。プリスケーラへの入力クロック $\phi T0$ はクロックギア部の SYSCR0<PRCK1:0>にて選択したクロックを4分周したクロックです。

プリスケーラはTB0RUN<TB0PRUN>により制御されます。“1”に設定するとカウントを開始し、“0”に設定とクリアされ停止します。プリスケーラ出力クロックの分解能を表 3.9.2に示します。

表 3.9.2 プリスケーラ出力クロック分解能

システム クロック選択 SYSCR1 <SYSCK>	プリスケーラ用 クロック選択 SYSCR0 <PRCK1:0>	クロックギア 選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	-	タイマカウンタ入力クロック TMRB部プリスケーラ TB0MOD<TB0CLK1:0>		
				$\phi T1(1/2)$	$\phi T4(1/8)$	$\phi T16(1/32)$
1 (fs)	00 (fPPH)	-	1/4	fs/8	fs/32	fs/128
0 (fc)		000(1/1)		fc/8	fc/32	fc/128
		001(1/2)		fc/16	fc/64	fc/256
		010(1/4)		fc/32	fc/128	fc/512
		011(1/8)		fc/64	fc/256	fc/1024
		100(1/16)		fc/128	fc/512	fc/2048
	10 (fc/16クロック)		fc/128	fc/512	fc/2048	

## (2) アップカウンタ (UC10)

TB0MOD<TB0CLK1:0>で指定された入力クロックによって、カウントアップする 16 ビットのバイナリカウンタです。

UC10 の入力クロックは、3 種類のプリスケーラ出力クロック $\phi T1$ 、 $\phi T4$ 、 $\phi T16$ 、または、TB0IN0 端子から入力されるクロックのいずれかを選択できます。

UC10 は、TB0RUN<TB0RUN>によってカウントの開始および停止&クリアを設定します。

UC10 は、タイマレジスタ TB0RG1H/L と一致すると、クリアイネーブルであれば、“0”にクリアされます。クリアディセーブルであれば、カウンタはフリーランニングカウンタとして動作します。このクリアイネーブル/ディセーブルは、TB0MOD<TB0CLE>で設定します。

また、UC10 のオーバフローが発生した場合、オーバフロー割り込み INTTBOF0 が発生します。



## (3) タイマレジスタ (TBORG0H/L, TBORG1H/L)

カウンタ値を設定する 16 ビットレジスタで、2 本ずつ内蔵されています。このタイマレジスタへの設定値と、アップカウンタ UC10 の値とが一致すると、コンパレータの一致検出信号がアクティブになります。

タイマレジスタ TBORG0H/L, TBORG1H/L へのデータ設定は、上位と下位の 2 バイトのデータ設定が必ず必要です。2 バイトデータ転送命令を用いるか、1 バイトデータ転送命令を 2 回用いて下位 8 ビット、上位 8 ビットの順に行います。

このタイマレジスタは、TBORG0H/L がダブルバッファ構成になっており、レジスタバッファ 10 とペアになっています。TBORG0H/L は TBORUN<TBORDE> によってダブルバッファのイネーブル/ディセーブルを制御します。<TBORDE> = “0” のときディセーブル、<TBORDE> = “1” のときイネーブルとなります。

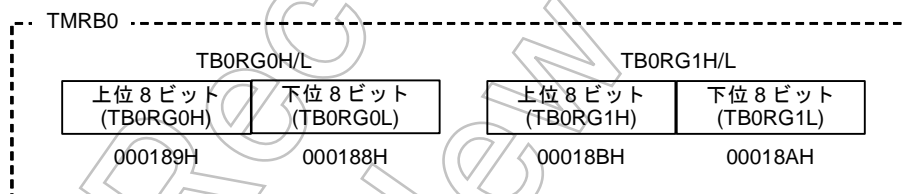
ダブルバッファイネーブル時、レジスタバッファ 10 からタイマレジスタ TBORG0H/L へのデータ転送は、UC10 と TBORG1H/L との一致時に行われます。

リセット後は、TBORG0, TBORG1 は不定のため 16 ビットタイマを使用する場合は、あらかじめデータをライトする必要があります。

リセット後は、TBORUN<TBORDE> = “0” に初期化され、ダブルバッファディセーブルになっています。ダブルバッファを使用するときは、タイマレジスタにデータをライトし <TBORDE> = “1” に設定した後、レジスタバッファ 10 へ次のデータをライトしてください。

TBORG0H/L とレジスタバッファ 10 は、同じアドレス 0188H/0189H に割り付けられています。<TBORDE> = “0” のときは、TBORG0H/L とレジスタバッファ 10 に同じ値がライトされ、<TBORDE> = “1” のときは、レジスタバッファ 10 にのみライトされます。タイマレジスタに初期値をライトするときには、<TBORDE> = “0” に設定しダブルバッファをディセーブルにしておく必要があります。

各タイマレジスタのアドレスは次のとおりです。



TBORG0H/L, TBORG1H/L はライト専用レジスタのため、リードすることはできません。

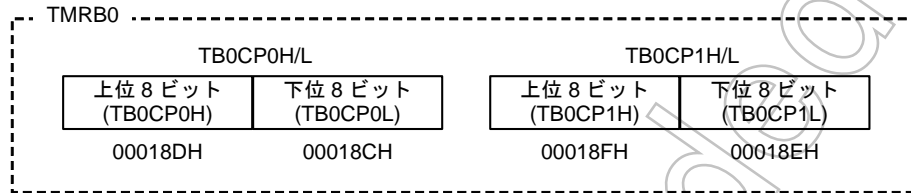
## (4) キャプチャレジスタ (TB0CP0H/L, TB0CP1H/L)

アップカウンタ UC10 の値をラッチする 16 ビットのレジスタです。

このキャプチャレジスタの値は上位と下位の 2 バイトのデータリードが必要です。

キャプチャレジスタをリードする場合は、2 バイトデータ転送命令を用いるか、1 バイトデータ転送命令を 2 回用いて下位 8 ビット、上位 8 ビットの順にリードしてください。

各キャプチャレジスタのアドレスは次のとおりです。



TB0CP0H/L, TB0CP1H/L はリード専用レジスタです。プログラムによるライトはできません。

## (5) キャプチャ、外部割り込み制御

アップカウンタ UC10 の値を、キャプチャレジスタ TB0CP0H/L, TB0CP1H/L にラッチするタイミングと、外部割り込みの発生を制御します。

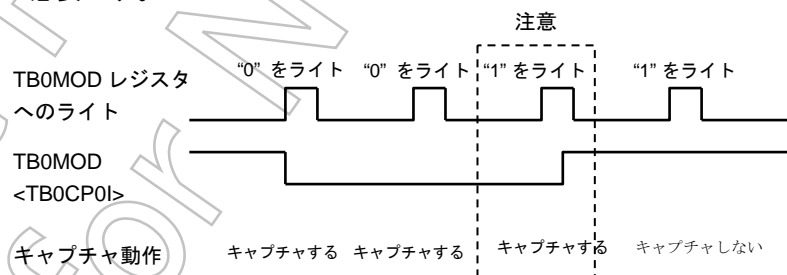
キャプチャレジスタのラッチタイミング、外部割り込み INT5 のエッジ選択は、TB0MOD<TB0CPM1:0> で設定します。

なお、外部割り込み INT6 は、立ち上がりエッジに固定されています。

また、ソフトウェアによってもアップカウンタ UC10 の値をキャプチャレジスタへ取り込むことができ、TB0MOD<TB0CP0I>に“0”を設定するたびに、その時点の UC10 の値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L へキャプチャします。

キャプチャ/割り込み制御は、プリスケアラを RUN 状態 (TB0RUN<TB0PRUN> = “1”) にしておく必要があります。

注) TB0MOD<TB0CP0I>へ“0”を設定するたびに、アップカウンタの現在の値がキャプチャレジスタ TB0CP0H/L へ取り込まれますが、TB0MOD<TB0CP0I>へ“0”が設定されていている状態から TB0MOD<TB0CP0I>へ“1”を設定しても、アップカウンタの現在の値がキャプチャレジスタ TB0CP0H/L へ取り込まれますので注意が必要です。



## (6) コンパレータ (CP10, CP11)

アップカウンタ UC10 と、タイマレジスタ TB0RG0H/L, TB0RG1H/L への設定値とを比較し、一致を検出する 16 ビットコンパレータです。

一致すると、それぞれ割り込み INTTB00, INTTB01 を発生します。

## (7) タイマフリップフロップ (TB0FF0, TB0FF1)

タイマフリップフロップ (TB0FF0, TB0FF1) は、コンパレータからの一致信号、キャプチャレジスタへのラッチ信号によって反転するフリップフロップです。TB0FF0 の制御は、TB0FFCR<TB0C1T1, TB0C0T1, TB0E1T1, TB0E0T1>によって設定できます。

また、TB0FF1 の制御は TB0MOD<TB0CT1:TB0ET1>によって設定できます。

リセット後、TB0FF0, TB0FF1 の値は不定となります。TB0FFCR<TB0FFOC1:0>, <TB0FF1C1:0>に “00” を設定することで反転、“01” を設定することで “1” にセット、“10” を設定することで “0” にクリアすることができます。

TB0FF0, TB0FF1 の値は、タイマ出力端子 TB0OUT0 端子 (P82 と兼用)、TB0OUT1 端子 (P83 と兼用) へ出力することができます。タイマ出力を行う場合、あらかじめポート 8 関連レジスタ P8CR, P8FC により、設定を行う必要があります。

Not Recommended for New Design

## 3.9.3 SFR説明

TMRB0 RUN レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TB0RUN (0180H)	Bit symbol	TB0RDE	-			I2TB0	TB0PRUN		TB0RUN
	Read/Write	R/W	R/W			R/W	R/W		R/W
	リセット後	0	0			0	0		0
機能	ダブルバッファ	"0"をライトしてください。			IDLE2モード時 0: 停止 1: 動作	TMRB0プリステータ	アップカウンタ(UC10)		
		0: 禁止 1: 許可					0: 停止 & クリア 1: 動作(カウントアップ)		

→ カウント動作	
0	停止 & クリア
1	カウント

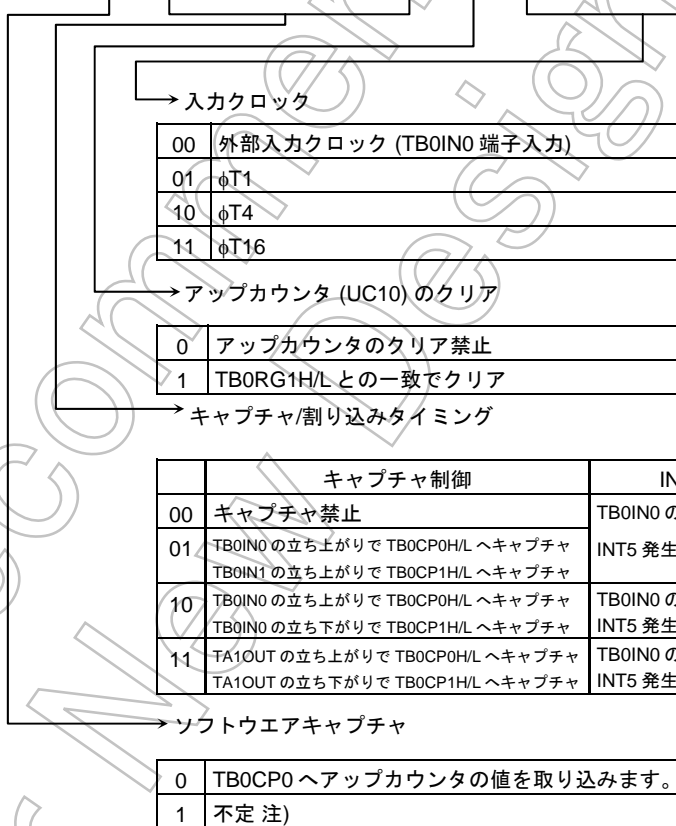
注) TB0RUNのビット1, 4, 5は、リードすると不定値がリードされます。

図 3.9.2 TMRB レジスタ

TMRB0 モードレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB0CT1	TB0ET1	TB0CP0I	TB0CPM1	TB0CPM0	TB0CLE	TB0CLK1	TB0CLK0
Read/Write	R/W		W*	R/W				
リセット後	0	0	1	0	0	0	0	0
機能	TB0FF1 反転トリガ 0: トリガ禁止 1: トリガ許可 UC10 値を TB0CP1H/L へキャプチャする時		ソフトウェアキャプチャ制御 0: ソフトウェアキャプチャ 1: 不定 *リードすると常に"1"になります。	キャプチャタイミング 00: ディセーブル INT5 は立ち上がりエッジ 01: TB0IN0 ↑ TB0IN1 ↑ INT5 は立ち上がりエッジ 10: TB0IN0 ↑ TB0IN0 ↓ INT5 は立ち下がりエッジ 11: TA1OUT ↑ TA1OUT ↓ INT5 は立ち上がりエッジ		アップカウンタのクリア制御 0: 禁止 1: 許可	入力クロック選択 00: TB0IN0 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16	

リード  
モディファイ  
ライト  
できません



注) TB0MOD<TB0CP0I>へ“0”を設定するたびに、アップカウンタの現在の値がキャプチャレジスタ TB0CP0H/L へ取り込まれますが、TB0MOD<TB0CP0I>へ“0”が設定されている状態から TB0MOD<TB0CP0I>へ“1”を設定しても、アップカウンタの現在の値がキャプチャレジスタ TB0CP0H/L へ取り込まれますので注意が必要です。

図 3.9.3 TMRB レジスタ

TMRB0 フリップフロップコントロールレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB0FF1C1	TB0FF1C0	TB0C1T1	TB0C0T1	TB0E1T1	TB0E0T1	TB0FF0C1	TB0FF0C0
Read/Write	W*		R/W				W*	
リセット後	1	1	0	0	0	0	1	1
機能	TB0FF1 の制御 00: 反転 01: セット 10: クリア 11: Don't care * リードすると常に "11" になります。		TB0FF0 反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可				TB0FF0 の制御 00: 反転 01: セット 10: クリア 11: Don't care * リードすると常に "11" になります。	
			TB0CP1H/L への UC10 値をキャプ チャする時	TB0CP0H/L への UC10 値をキャプ チャする時	UC10 と TB0RG1H/L との一致時	UC10 と TB0RG0H/L との一致時		

リード  
モディファイ  
ライト  
できません

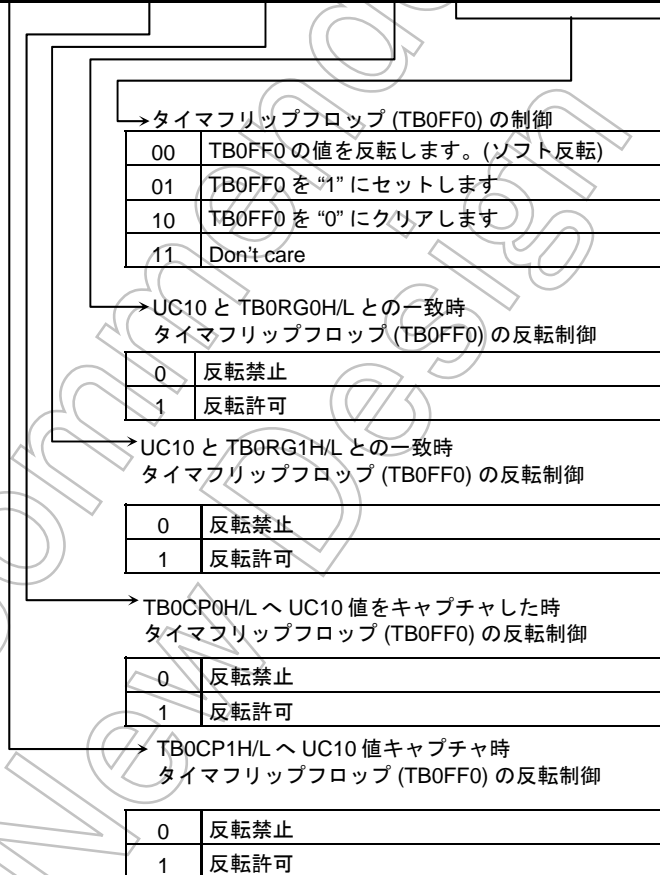


図 3.9.4 TMRB レジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
TB0RG0L (0188H)	bit Symbol					—			
	Read/Write					W			
	リセット後					不定			
TB0RG0H (0189H)	bit Symbol					—			
	Read/Write					W			
	リセット後					不定			
TB0RG1L (018AH)	bit Symbol					—			
	Read/Write					W			
	リセット後					不定			
TB0RG1H (018BH)	bit Symbol					—			
	Read/Write					W			
	リセット後					不定			

図 3.9.5 TMRB レジスタ

Not Recommended  
for New Design

## 3.9.4 モード別動作説明

## (1) 16ビットインタバルタイマモード

一定周期の割り込みを発生させる場合

タイマレジスタ TB0RG1H/L にインタバル時間を設定し、INTTB01 割り込みを発生します。

	7	6	5	4	3	2	1	0		
TB0RUN	←	-	0	X	X	-	0	X	0	TMRB0 を停止します。
INTETB0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTB01 をイネーブル (レベル4) に、INTTB00 をディセーブルにします。
TB0FFCR	←	1	1	0	0	0	0	1	1	トリガディセーブルにします。
TB0MOD	←	0	0	1	0	0	1	*	*	入カクロックをプリスケアラ出カクロックにし、キャプチャ機能をディセーブルにします。
										(** = 01, 10, 11)
TB0RG1H/L	←	*	*	*	*	*	*	*	*	インタバル時間を設定します。
										(16 ビット)
TB0RUN	←	-	0	X	X	-	1	X	1	TMRB0 を起動します。

X: Don't care、 -: No change

## (2) 16ビットイベントカウンタモード

入カクロックを外部クロック (TB0IN0 端子入力) にすることでイベントカウンタにすることができます。

アップカウンタは TB0IN0 端子入力の立ち上がりエッジでカウントアップします。ソフトウェアキャプチャを行い、キャプチャ値をリードすることでカウント値を読むことができます。

	7	6	5	4	3	2	1	0		
TB0RUN	←	0	0	X	X	-	0	X	0	TMRB0 を停止します。
P8CR	←	X	X	X	X	-	-	-	0	P80 を TB0IN0 入力モードに設定します。
P8FC	←	X	X	X	X	-	-	-	1	
INTETB0	←	X	1	0	0	X	0	0	0	INTTB01 をイネーブル (レベル4) に、INTTB00 をディセーブルにします。
TB0FFCR	←	1	1	0	0	0	0	1	1	トリガディセーブルにします。
TB0MOD	←	0	0	1	0	0	1	0	0	入カクロックを TB0IN0 端子入力にします。
TB0RG1H/L	←	*	*	*	*	*	*	*	*	カウント数を設定します。
										(16 ビット)
TB0RUN	←	0	0	X	X	-	1	X	1	TMRB0 を起動します。

X: Don't care、 -: No change

イベントカウンタとして使用する場合も、プリスケアラは“RUN”にしてください (TB0RUN <TB0PRUN> = “1”)。



## (3) 16ビット PPG (プログラマブル矩形波) 出力モード

任意周波数、任意デューティの矩形波 (プログラマブル矩形波) を出力することができます。出力パルスは、Low アクティブ、High アクティブどちらでも可能です。

アップカウンタ UC10 とタイマレジスタ TB0RG0H/L, TB0RG1H/L への設定値との一致によりタイマフリップフロップ TB0FF0 の反転トリガをかけることで、プログラマブル矩形波を TB0OUT0 端子より出力することができます。ただし、TB0RG0H/L と TB0RG1H/L の設定値は次の条件を満たす必要があります。

$$(TB0RG0H/L \text{ への設定値}) < (TB0RG1H/L \text{ への設定値})$$

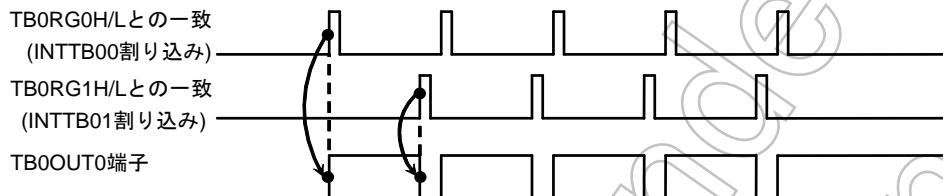


図 3.9.6 プログラマブル矩形波(PPG)出力波形例

このモードでは、TB0RG0H/L のダブルバッファをイネーブルにすることにより、TB0RG1H/L との一致で、レジスタバッファ 0 の値が TB0RG0H/L へシフトインされます。これにより、小さいデューティ (デューティを変化させるとき) への対応が容易に行えます。

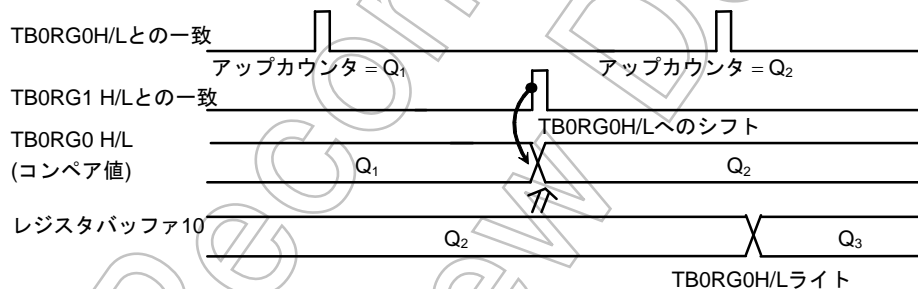


図 3.9.7 ダブルバッファの動作

このモードのブロック図を示します。

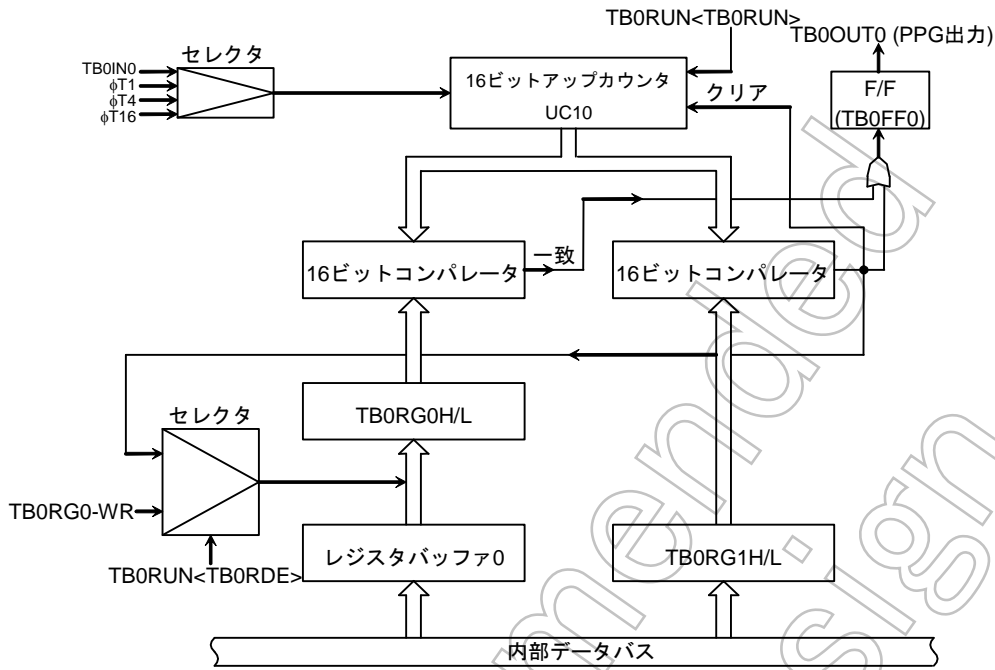


図 3.9.8 16 ビット PPG モードのブロック図

16 ビット PPG 出力モード時の各レジスタは、次のように設定します。

	7	6	5	4	3	2	1	0	
TB0RUN	← 0	0	X	X	-	0	X	0	TB0RG0H/L のダブルバッファディセーブルおよび TMRB0 を停止します。
TB0RG0	← *	*	*	*	*	*	*	*	デューティを設定します。 (16 ビット)
TB0RG1H/L	← *	*	*	*	*	*	*	*	周期を設定します。 (16 ビット)
TB0RUN	← 1	0	X	X	-	0	X	0	TB0RG0H/L のダブルバッファディセーブルにします。 (INTTB01 割り込みでデューティ/周期の変更)
TB0FFCR	← X	X	0	0	1	1	1	0	TB0FF0 を TB0RG0H/L、TB0RG1H/L との一致検出で反転するように設定します。また TB0FF0 の初期値を "0" にします。
TB0MOD	← 0	0	1	0	0	1	*	*	} P82 を TB0OUT0 に割り付けます。 TMRB0 を起動します。
P8CR	← -	-	-	-	-	1	-	-	
P8FC	← -	-	X	X	-	1	X	X	
TB0RUN	← 1	0	X	X	-	1	X	1	

(\*\* = 01, 10, 11)

X: Don't care、 -: No change

## (4) キャプチャ機能を利用した応用例

キャプチャ機能を利用することにより次に示す例をはじめ、多くの応用が可能です。

1. 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力
2. 周波数測定
3. パルス幅測定
4. 時間差測定

## 1. 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力

外部トリガパルスからのワンショットパルス出力は、次のように行います。

16ビットアップカウンタ UC10 をプリスケアラ出力クロックを用いてフリーランニングでカウントアップさせておきます。TB0IN0 端子より外部トリガパルスを入力し、キャプチャ機能を用いて、外部トリガパルスの立ち上がりで、アップカウンタ値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L に取り込みます。

外部トリガパルスの立ち上がり時、割り込み INT5 が発生します。この割り込みで、タイマレジスタ TB0RG0H/L には、TB0CP0H/L の値 (c) とディレイタイム (d) を加算した値 (c+d) を設定します。タイマレジスタ TB0RG1H/L には、TB0RG0H/L の値とワンショットパルスのパルス幅 (p) を加算した値 (c+d+p) を設定します。

さらに、タイマフリップフロップコントロールレジスタ TB0FFCR<TB0E1T1, TB0E0T1> に “11” を設定し、UC10 と TB0RG0H/L との一致および TB0RG1H/L との一致により、タイマフリップフロップ TB0FF0 が反転するようにトリガイネーブルにします。ワンショットパルス出力後、INTTB01 の割り込み処理により、これをディセーブルに戻します。

なお、文中の (c)、(d)、(p) は、図 3.9.9 「外部トリガパルスからのワンショットパルス出力 (ディレイあり)」の c、d、p と対応しています。

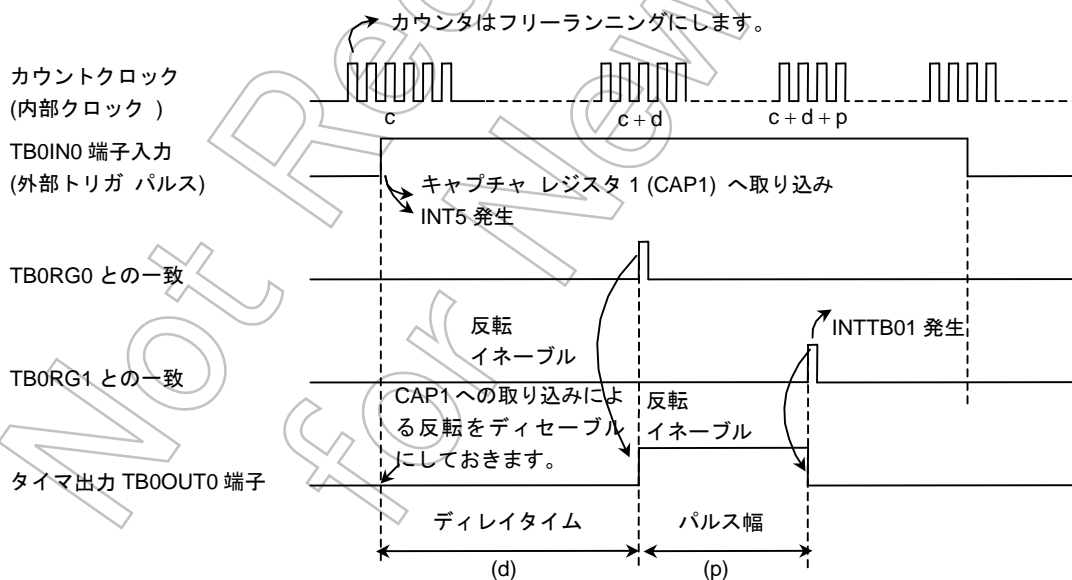


図 3.9.9 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力 (ディレイあり)

設定例: TB0IN0 端子からの外部トリガパルスに対して、3 ms ディレイで 2 ms のワンショットパルスを出力する場合

\*クロック条件

システムクロック: 高速 (fc)  
 クロックギア: 1 倍 (fc)  
 プリスケラクロック: fPPH

メインでの設定

TB0MOD	←	X	X	1	0	1	0	0	1	→	フリーランニングにします。 φT1 でカウントさせます。
TB0FFCR	←	X	X	0	0	0	0	1	0	→	TB0IN0 入力の立ち上がりで TB0CP0H/L へ取り込みます。 TB0FF0 を 0 にクリアします。 TB0FF0 の反転をディセーブルにします。
P8CR	←	-	-	-	-	-	1	X	X	} P82 端子を TB0OUT0 に割り付けます。	
P8FC	←	-	-	-	-	-	1	X	X		
INTE56	←	X	-	-	-	X	1	0	0	→	INT5 をイネーブルにします。
INTETB0	←	X	0	0	0	X	0	0	0	→	INTTB00、INTTB01 をディセーブルにします。
TBORUN	←	-	0	X	X	-	1	X	1	→	TMRB0 を起動します。

INT5 ルーチンでの設定

TB0RG0H/L	←	TB0CP0H/L + 3ms/φT1									
TB0RG1H/L	←	TB0RG0H/L + 2ms/φT1									
TB0FFCR	←	X	X	-	-	1	1	-	-	→	TB0RG0H/L, TB0RG1H/L との一致による TB0FF0 の反転をイネーブルにします。
INTETB0	←	X	1	0	0	X	-	-	-	→	INTTB01 をイネーブルにします。

INTTB01 での設定

TB0FFCR	←	X	X	-	-	0	0	-	-	→	TB0RG0H/L, TB0RG1H/L との一致による TB0FF0 の反転をディセーブルにします。
INTETB0	←	X	0	0	0	X	-	-	-	→	INTTB01 をディセーブルにします。

X: Don't care、 -: No change

ディレイが不要な場合、TB0CP0H/L への取り込みによって TB0FF0 を反転させ、割り込み INT5 で TB0CP0H/L の値 (c) にワンショットパルスの幅 (p) を加算した値 (c + p) を TB0RG1H/L に設定します。TB0FF0 は、TB0RG1H/L と UC10 の一致によって反転するように、反転イネーブルを選択します。また、INTTB01 割り込みでこれをディセーブルに戻します。

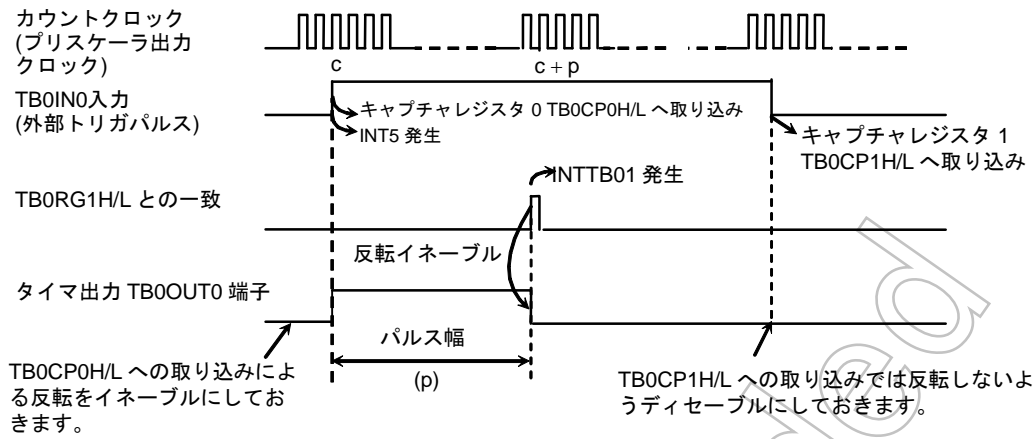


図 3.9.10 ワンショットパルス出力 (ディレイなし)

2. 周波数測定

キャプチャ機能を用いて外部クロックの周波数測定を行うことができます。

周波数測定は、16 ビットイベントカウンタモードと 8 ビットタイマ (TMRA01) を組み合わせて行います (TMRA01 は、TA1FF を反転させることで測定時間の設定に用います)。

TMRB0 のカウントクロックは TB0IN0 端子入力を選択し、外部クロック入力によるカウント動作を行います。TB0MOD<TB0CPM1:0> には “11” を設定します。この設定により、8 ビットタイマ (TMRA01) のタイマフリップフロップ TA1FF の立ち上がりで、キャプチャレジスタ TB0CP0H/L に 16 ビットアップカウンタ UC10 のカウンタ値を取り込み、8 ビットタイマ (TMRA01) の TA1FF の立ち下がりで、キャプチャレジスタ TB0CP1H/L に UC10 のカウンタ値の取り込みを行います。

周波数は、8 ビットタイマの割り込み INTTA0 または INTTA1 で測定時間を基準にして TB0CP0H/L、TB0CP1H/L の差より求めます。

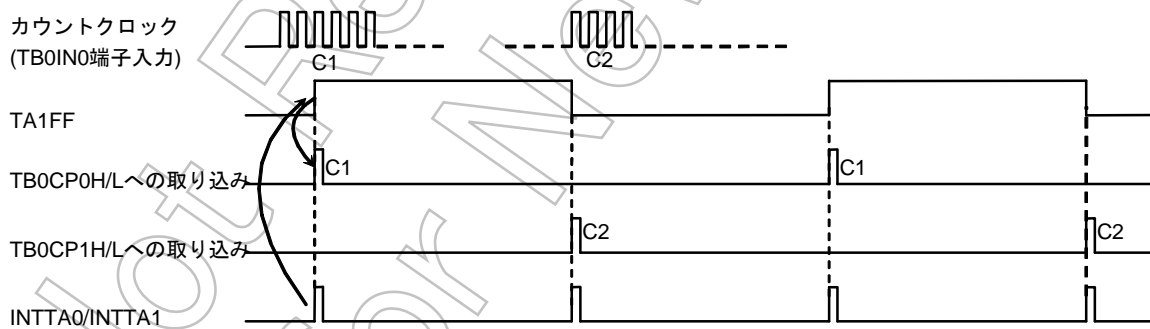


図 3.9.11 周波数測定

例えば、8 ビットタイマによる TA1FF の “1” レベル幅の設定値が 0.5 s で、TB0CP0H/L と TB0CP1H/L の差が 100 であれば、周波数は  $100 \div 0.5 \text{ s} = 200 \text{ Hz}$  となります。

### 3. パルス幅測定

キャプチャ機能を用いて、外部パルスの“H”レベル幅を測定することができます。TB0IN0 端子より外部パルスを入力し、アップカウンタ UC10 はプリスケアラ出力クロックを用いてフリーランニングでカウントアップさせておきます。キャプチャ機能を用いて、外部パルスの立ち上がり/立ち下がり、それぞれのエッジでトリガをかけ、このときのアップカウンタ値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L, TB0CP1H/Lに取り込みます。TB0IN0 端子の立ち下がりにより、INT5 が発生します。

“H”レベルパルス幅は、TB0CP0H/L と TB0CP1H/L の差を求め、その値に内部クロックの周期をかけることにより求めることができます。

例えば TB0CP0H/L と TB0CP1H/L の差が 100 で、プリスケアラ出力クロックの周期が  $0.8 \mu\text{s}$  であれば、パルス幅は、 $100 \times 0.8 \mu\text{s} = 80 \mu\text{s}$  となります。

なお、クロックソースにより定まる UC10 の最大カウント時間を超えるパルス幅の測定を行う場合は、注意が必要です。この場合は、ソフトウェアによる処理を行ってください。

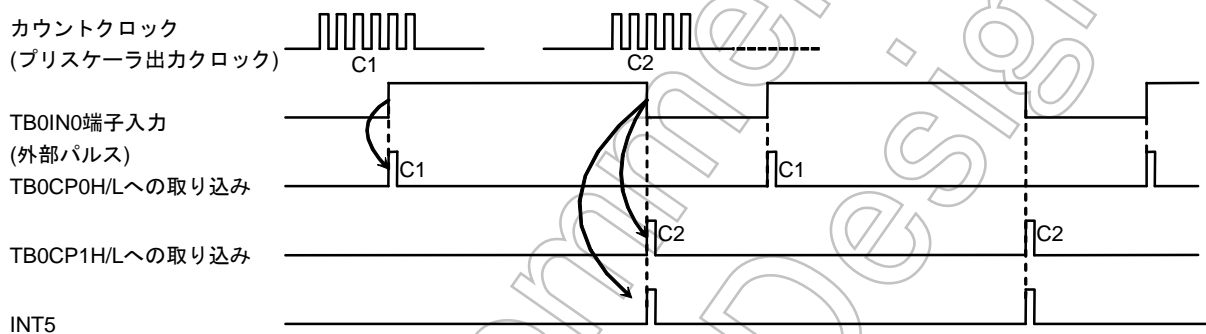


図 3.9.12 パルス幅測定

注) パルス幅測定は、TB0MOD<TB0CPM1:0>に“10”を設定することで行います。外部割り込み INT5 は、TB0IN0 入力の立ち下がりエッジで発生します。その他の設定では、INT5 は TB0IN0 入力の立ち上がりエッジで発生します。

また、外部パルスの“L”レベル幅を測定することもできます。この場合、2回目の INT5 割り込み処理により、1回目の C2 と 2回目の C1 の差に、プリスケアラ出力クロックの周期をかけることにより求めることができます。

## 4. 時間差測定

キャプチャ機能を用いて、2つの事象の時間差を測定することができます。プリスケアラ出力クロックを用いて、アップカウンタ UC0 をフリーランニングでカウントアップさせておきます。TB0IN0 端子の入力パルスの立ち上がりエッジで、UC10 の値をキャプチャレジスタ TB0CP0H/L に取り込みます。このとき、割り込み INT5 が発生します。

TB1IN1 端子の入力パルスの立ち上がりエッジで、UC10 の値をキャプチャレジスタ TB0CP1H/L に取り込みます。このとき、割り込み INT6 が発生します。

時間差は、キャプチャレジスタの値が取り込み終わった時点で、TB0CP1H/L から TB0CP0H/L を引いた値に、内部クロックの周期をかけて求めることができます。

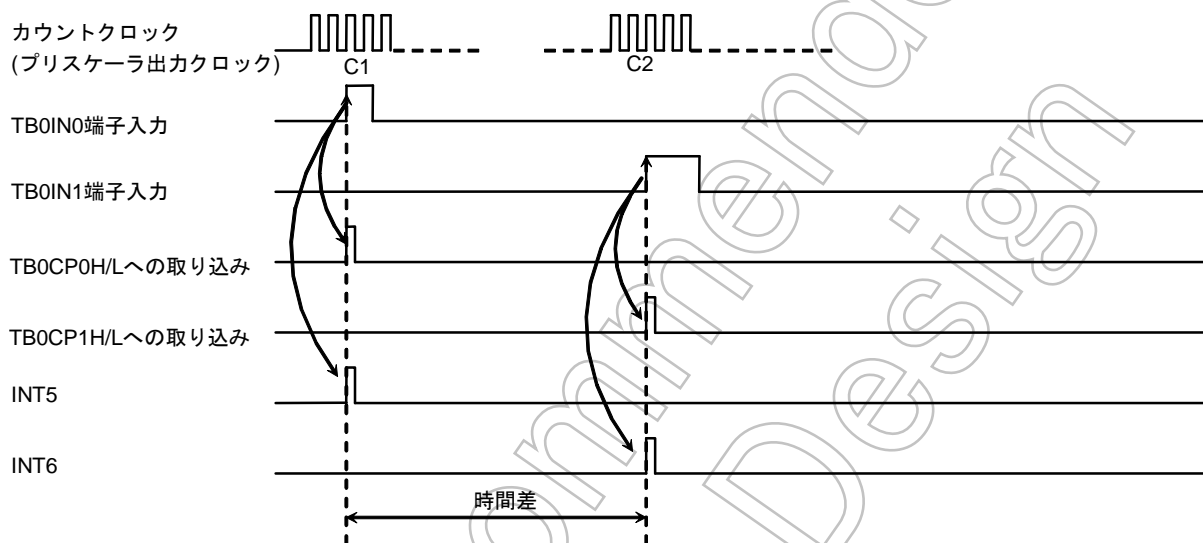


図 3.9.13 時間差測定

### 3.10 シリアルチャネル (SIO)

シリアル入出力を2チャンネル内蔵しています。それぞれ SIO0, SIO1 と呼びます。各チャンネルは、下記に示すように UART モード (非同期通信) および I/O インタフェースモード (同期通信) を選択できます。

- I/Oインタフェース モード —— モード0: I/Oを拡張するためのI/Oデータの送受信とその同期信号 (SCLK) の送受信を行うモード
- UART (非同期通信) モード ——
 

モード1: 送受信データ長	7ビット
モード2: 送受信データ長	8ビット
モード3: 送受信データ長	9ビット

このうち、モード1とモード2は、パリティビットの付加が可能で、モード3はマスタコントローラがシリアルリンク (マルチコントローラシステム) でスレーブコントローラを起動させるためのウェイクアップ機能を持っています。

図 3.10.2~図 3.10.3に、SIO0, SIO1 のブロック図を示します。

各チャンネルは主に、プリスケアラ, シリアルクロック生成回路, 受信バッファとその制御回路, 送信バッファとその制御回路で構成されています。

各チャンネルは、それぞれ独立に動作します。いずれのチャンネルも、下記に示す表 3.10.1の仕様相違点を除いて同一の動作をします。SIO0 の場合についてのみ説明します。

表 3.10.1 SIO のチャンネル別仕様相違点

	SIO0	SIO1
対応端子	TXD0 (P90) RXD0 (P91) $\overline{\text{CTS0}}/\text{SCLK0}$ (P92)	TXD1 (P93) RXD1 (P94) $\overline{\text{CTS1}}/\text{SCLK1}$ (P95)
IrDA モード	あり	なし



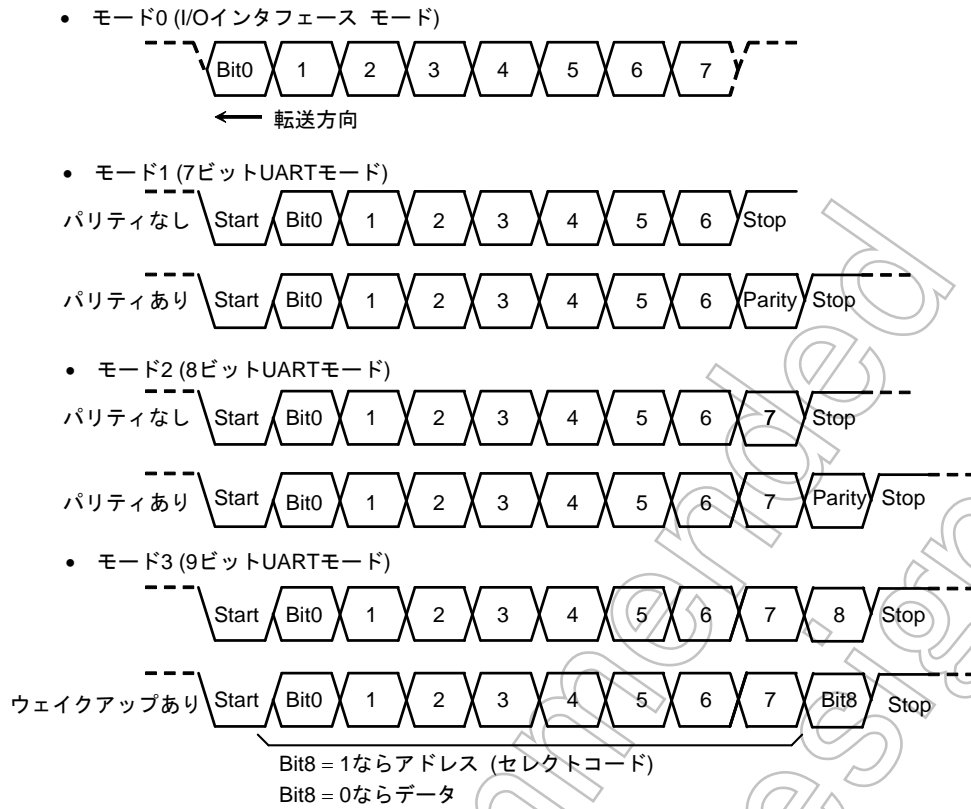


図 3.10.1 データフォーマット

3.10.1 チャンネル別のブロック図

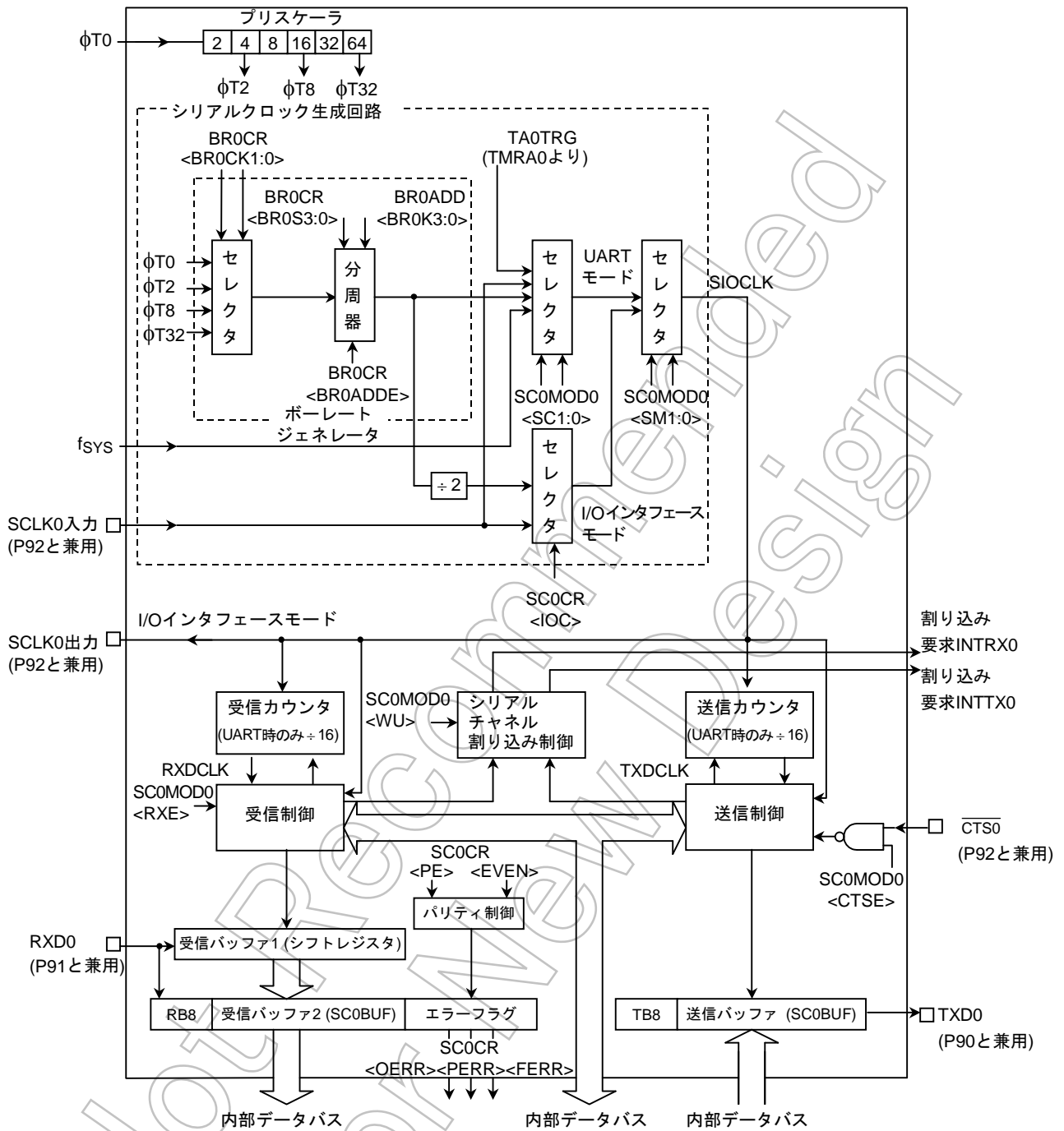


図 3.10.2 SIO0 ブロック図



## 3.10.2 回路別の動作説明

## (1)プリスケータ

SIO0 の動作クロックを生成するために、6 ビットプリスケータがあります。プリスケータの入力クロック $\phi T0$ は、クロックギア部の SYSCR<PRCK1:0> にて選択したクロックを4分周したクロックです。

プリスケータは、シリアル転送クロックに、ボーレートジェネレータを選択した場合にのみ、動作します。プリスケータ出力クロックの分解能を表 3.10.2に示します。

表 3.10.2 ボーレートジェネレータへの入力クロック分解能

システム クロック選択 SYSCR1 <SYSCK>	プリスケータ用 クロック選択 SYSCR0 <PRCK1:0>	クロックギア 選択 SYSCR1 <GEAR2:0>	-	ボーレートジェネレータ入力クロック SIO部プリスケータ BR0CR<BR0CK1:0>			
				$\phi T0(1/1)$	$\phi T2(1/4)$	$\phi T8(1/16)$	$\phi T32(1/64)$
1 (fs)	00 (FPH)	Don't care	1/4	fs/4	fs/16	fs/64	fs/256
0 (fc)		000(1/1)		fc/4	fc/16	fc/64	fc/256
		001(1/2)		fc/8	fc/32	fc/128	fc/512
		010(1/4)		fc/16	fc/64	fc/256	fc/1024
		011(1/8)		fc/32	fc/128	fc/512	fc/2048
		100(1/16)		fc/64	fc/256	fc/1024	fc/4096
10 (fc/16クロック)	Don't care	-	fc/256	fc/1024	fc/4096		

-: 使用不可

シリアルインタフェースボーレートジェネレータには、プリスケータ出力クロックより $\phi T0$ 、 $\phi T2$ 、 $\phi T8$ 、 $\phi T32$ の4種類のクロックが用いられます。

## (2)ボーレートジェネレータ

ボーレートジェネレータは、シリアルチャネルの転送速度を定める送受信クロックを生成するための回路です。

ボーレートジェネレータへの入力クロックは SIO 部 6 ビットプリスケアラより、 $\phi T0$ 、 $\phi T2$ 、 $\phi T8$ 、 $\phi T32$  を用います。この入力クロックの選択はボーレートジェネレータコントロールレジスタ BR0CR<BR0CK1:0> で設定します。

ボーレートジェネレータは、1、 $N + (16 - K)/16$ 、16 分周が可能な分周器を内蔵しており、BR0CR<BR0ADDE><BR0S3:0>、BR0ADD<BR0K3:0> の設定に従い、分周を行い転送速度を決定します。

- UART モードの場合

- (1) BR0CR<BR0ADDE> = “0”の場合

BR0ADD<BR0K3:0> の設定は無視され、BR0CR<BR0S3:0> に設定された値 “N” に従い N 分周を行います。(N = 1、2、3 … 16)

- (2) BR0CR<BR0ADDE> = “1”の場合

$N + (16 - K)/16$  分周機能がイネーブルになり、BR0CR<BR0S3:0> に設定された値 “N” (N = 2、3 … 15)、BR0ADD<BR0K3:0> に設定された値 “K” に従い、 $N + (16 - K)/16$  分周を行います。(K = 1、2、3 … 15)

注) N = 1 および 16 のときは  $N + (16 - K)/16$  分周機能は禁止となりますので、必ず BR0CR<BR0ADDE> = “0” に設定してください。

- I/O インタフェースモードの場合

I/O インタフェースモード時は  $N + (16 - K)/16$  分周機能は使用できません。必ず BR0CR<BR0ADDE> = “0” に設定して N 分周を行ってください。

次に、ボーレートジェネレータを使用した場合のボーレートの算出方法を示します。

- UART モード

$$\text{ボーレート} = \frac{\text{ボーレートジェネレータの入力クロック}}{\text{ボーレートジェネレータの分周値}} \div 16$$

- I/O インタフェースモード

$$\text{ボーレート} = \frac{\text{ボーレートジェネレータの入力クロック}}{\text{ボーレートジェネレータの分周値}} \div 2$$

- 整数分周 (N 分周) の場合

$f_c = 12.288 \text{ MHz}$  で入力クロック  $\phi T2$ 、分周値 “N” ( $BR0CR < BR0S3:0 > = 5$ 、 $BR0CR < BR0ADDE > = “0”$ ) の場合の UART モードのボーレートは、

- \* クロック条件
 

システムクロック:	高速 ( $f_c$ )
高速クロックギア:	1 倍 ( $f_c$ )
プリスケアラクロック:	$f_{FPH}$

$$\text{ボーレート} = \frac{f_c/16}{5} \div 16$$

$$= 12.288 \times 10^6 \div 16 \div 5 \div 16 = 9600 \text{ (bps)} \text{ となります。}$$

注)  $(16 - K)/16$  分周機能は禁止に設定されるため、 $BR0ADD < BR0K3:0 >$  の設定は無視されます。

- $N + (16 - K)/16$  分周 (UART モードのみ) の場合

また、 $f_c = 4.8 \text{ MHz}$  で入力クロック  $\phi T0$ 、分周値 “N” ( $BR0CR < BR0S3:0 > = 7$ 、 “K” ( $BR0ADD < BR0K3:0 > = 3$ 、 $BR0CR < BR0ADDE > = “1”$ ) の場合のボーレートは、

- \* クロック条件
 

システムクロック:	高速 ( $f_c$ )
高速クロックギア:	1 倍 ( $f_c$ )
プリスケアラクロック:	$f_{FPH}$

$$\text{ボーレート} = \frac{f_c/4}{7 + \frac{(16-3)}{16}} \div 16$$

$$= 4.8 \times 10^6 \div 4 \div \left(7 + \frac{13}{16}\right) \div 16 = 9600 \text{ (bps)} \text{ となります。}$$

表 3.10.3 に UART モードのボーレートの例を示します。

また、外部クロック入力をシリアルクロックに使用することもできます (シリアルチャネル 0~1)。この場合のボーレートの算出方法を示します。

- UART モード

$$\text{ボーレート} = \text{外部クロック入力} \div 16$$

ただし、(外部クロック入力周期)  $\geq 4/f_c$  を満たす必要があります。

- I/O インタフェースモード

$$\text{ボーレート} = \text{外部クロック入力}$$

ただし、(外部クロック入力周期)  $\geq 16/f_c$  を満たす必要があります。

表 3.10.3 UART ボーレートの選択  
(ボーレートジェネレータ使用、BR0CR<BR0ADDE> = 0 の場合)

単位 (kbps)

fc [MHz]	入力クロック		φT0 (fc/4)	φT2 (fc/16)	φT8 (fc/64)	φT32 (fc/256)
	分周値 N (BR0CR<BR0S3:0>に設定)					
9.830400	2		76.800	19.200	4.800	1.200
↑	4		38.400	9.600	2.400	0.600
↑	8		19.200	4.800	1.200	0.300
↑	0		9.600	2.400	0.600	0.150
12.288000	5		38.400	9.600	2.400	0.600
↑	A		19.200	4.800	1.200	0.300
14.745600	2		115.200	28.800	7.200	1.800
↑	3		76.800	19.200	4.800	1.200
↑	6		38.400	9.600	2.400	0.600
↑	C		19.200	4.800	1.200	0.300
19.6608	1		307.200	76.800	19.200	4.800
↑	2		153.600	38.400	9.600	2.400
↑	4		76.800	19.200	4.800	1.200
↑	8		38.400	9.600	2.400	0.600
↑	10		19.200	4.800	1.200	0.300
22.1184	3		115.200	28.800	7.200	1.800
24.576	1		384.000	96.000	24.000	6.000
↑	2		192.000	48.000	12.000	3.000
↑	4		96.000	24.000	6.000	1.500
↑	5		76.800	19.200	4.800	1.200
↑	8		48.000	12.000	3.000	0.750
↑	A		38.400	9.600	2.400	0.600
↑	0		24.000	6.000	1.500	0.375

注 1) I/O インタフェースモード時の転送レートは、本表の値の 8 倍になります。

注 2) 本表は、システムクロックとして fc、クロックギアとして fc/1、プリスケアラ用クロックとして f<sub>FPH</sub> を選択した場合の値です。

UART モード時、シリアル送信クロックにタイマの一致出力(TA0TRG)が使用できます。

タイマのトリガ出力使用時に必要なタイマ出力周波数の算出方法

$$\text{TA0TRG の周波数} = \text{ボーレート} \times 16$$

注 3) I/O インタフェースモードでは、タイマ TMRA0 からのトリガ信号を転送クロックとして使用できません。

## (3) シリアルクロック生成回路

送受信基本クロックを生成する回路です。

- I/O インタフェースモードの場合

SC0CR<IOC> = “0” の SCLK 出力モードのときは、前記ボーレートジェネレータの出力を 2 分周し、基本クロックをつくります。

SC0CR<IOC> = “1” の SCLK 入力モードのときは、SC0CR<SCLKS> の設定に従って立ち上がり/立ち下がりエッジを検出し、基本クロックをつくります。

- UART (非同期通信) モードの場合

SC0MOD0<SC1:0>の設定により、前記ボーレートジェネレータからのクロックか、システムクロック fsys か、タイマ TMRA0 のトリガ出力信号か、または外部クロック (SCLK0 端子) のいずれかを選択し、基本クロック SIOCLK をつくります。

## (4) 受信カウンタ

受信カウンタは、UART (非同期通信) モードで用いられる 4 ビットのバイナリカウンタで、SIOCLK によりカウントアップされます。データ 1 ビットの受信に SIOCLK が 16 発用いられ、7, 8, 9 発目でデータをサンプリングします (シリアル転送クロックが fsys 時以外のとき)。

3 回のデータサンプリングによる多数決論理によって受信データを判断しています。

例えば、7, 8, 9 発目のクロックで、データが 1, 0, 1 であれば、受信データは “1” と判断され、0, 0, 1 であれば “0” と判断されます。

## (5) 受信制御部

- I/O インタフェースモードの場合

SC0CR<IOC> = “0” の SCLK 出力モードのときは、SC0CR<SCLKS> の設定に従って SCLK0 端子へ出力されるシフトクロックの立ち上がり/立ち下がりエッジで RXD0 端子をサンプリングします。

SC0CR<IOC> = “1” の SCLK 入力モードのときは、SC0CR<SCLKS> の設定に従って SCLK 入力の立ち上がり/立ち下がりエッジで RXD0 端子をサンプリングします。

- UART (非同期通信) モードの場合

受信制御部は、多数決論理によるスタートビット検出回路を持ち、3 回のサンプリング中、2 回以上 “0” であれば正常なスタートビットと判断し、受信動作を開始します。

データ受信中も、多数決論理により受信データを判断しています。



## (6) 受信バッファ

受信バッファは、オーバランエラーを防ぐため二重構造となっています。受信バッファ 1 (シフトレジスタ型) に受信データが 1 ビットずつ格納され、7 ビットまたは 8 ビットのデータがそろると、もう一方の受信バッファ 2 (SC0BUF) へ移されるとともに割り込み INTRX0 が発生します。

CPU は受信バッファ 2 (SC0BUF) をリードします。CPU が受信バッファ 2 (SC0BUF) をリードする前でも、受信データは受信バッファ 1 へ格納することができます。

ただし、受信バッファ 1 に次のデータが全ビット受信される前に受信バッファ 2 (SC0BUF) をリードしなければオーバランエラーとなります。オーバランエラーが発生した場合、受信バッファ 2 および SC0CR<RB8> の内容は保存されていますが、受信バッファ 1 の内容は失われます。

8 ビット UART のパリティ付加の場合のパリティビット、9 ビット UART モードの場合の最上位ビットは SC0CR<RB8> に格納されます。

9 ビット UART の場合、SC0MOD0<WU> を“1”にすることによって、スレーブコントローラのウェイクアップ動作が可能で、SC0CR<RB8> = “1” のときのみ、割り込み INTRX0 が発生します。

## (7) 送信カウンタ

送信カウンタは UART (非同期通信) モードで用いられる 4 ビットのバイナリカウンタで受信カウンタ同様 SIOCLK でカウントされ、16 発ごとに送信クロック TXDCLK を生成します。

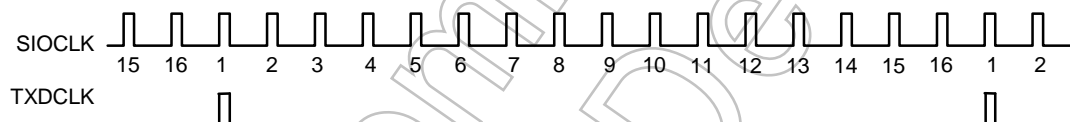


図 3.10.4 送信クロックの生成

## (8) 送信制御部

- I/O インタフェースモードの場合

SC0CR<IOC> = “0” の SCLK 出力モードのときは、SC0CR<SCLKS> の設定に従って SCLK0 端子より出力されるシフトクロックの立ち上がり/立ち下がりエッジで送信バッファのデータを 1 ビットずつ TXD0 端子へ出力します。

SC0CR<IOC> = “1” の SCLK 入力モードのときは、SC0CR<SCLKS> の設定に従って SCLK 入力の立ち上がり/立ち下がりエッジで送信バッファのデータを 1 ビットずつ TXD0 端子へ出力します。

- UART (非同期通信) モード

送信バッファに CPU から送信データがライトされると次の TXDCLK の立ち上がりエッジに同期して送信を開始します。

### ハンドシェイク機能

$\overline{\text{CTS}}$  を使用することにより、1 データフォーマット単位での送信が可能となり、オーバーランエラーの発生を防ぐことができます。この機能は  $\text{SC0MOD0}<\text{CTSE}>$  によってイネーブル/ディセーブルできます。

送信は  $\overline{\text{CTS0}}$  端子が “H” レベルになると、現在送信中のデータを送信完了後、 $\overline{\text{CTS0}}$  端子が “L” レベルに戻るまで送信を停止します。ただし、 $\text{INTTX0}$  割り込みは発生し、次の送信データを CPU に要求し、送信バッファにデータをライトし、送信待機します。

なお、 $\text{RTS}$  端子はありませんが、受信側にて受信が終了したとき(受信割り込みルーチン内)に  $\text{RTS}$  機能に割り当てた任意の 1 ポートを “H” レベルにして、送信側に送信の一時停止を要求することにより、容易にハンドシェイク機能を構築できます。

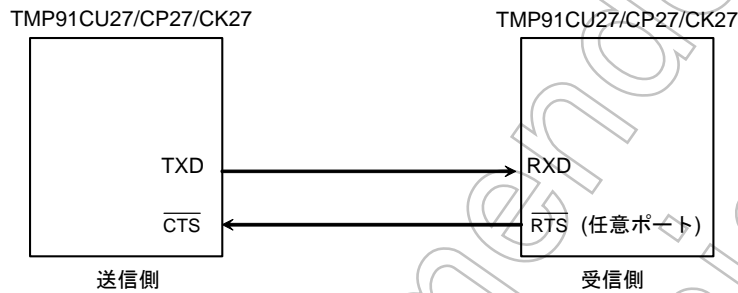
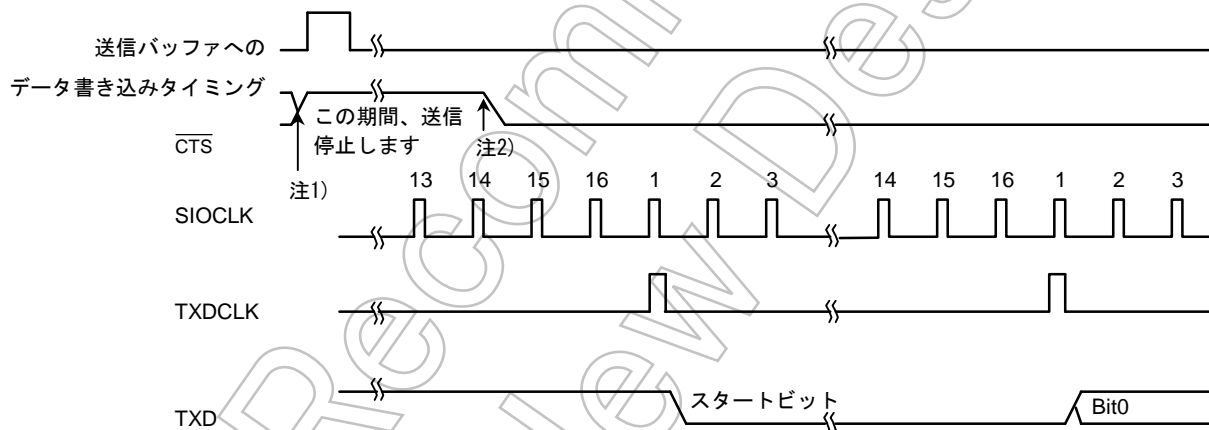


図 3.10.5 ハンドシェイク機能



注 1) 送信中に  $\overline{\text{CTS}}$  信号を立ち上げた場合は、送信終了後、次のデータの送信を停止します。

注 2)  $\overline{\text{CTS}}$  信号立ち下がり後の最初の TXDCLK クロックの立ち下がりから送信を開始します。

図 3.10.6  $\overline{\text{CTS}}$  (Clear to send) 信号のタイミング

## (9) 送信バッファ

送信バッファ SC0BUF は、CPU よりライトされた送信データを最下位ビットから順にシフトアウトし、送出されます。全ビットシフトアウトされると、送信バッファエンブティで INTTX0 割り込みが発生します。

## (10) パリティ制御回路

シリアルチャネルコントロールレジスタ SC0CR<PE> を“1”にするとパリティ付加の送信を行います。ただし、7ビット UART または 8ビット UART モードのみパリティ付加が可能です。SC0CR<EVEN> レジスタによって偶数 (奇数) パリティを選択することができます。

送信時、パリティ制御回路は送信バッファ SC0BUF にライトされたデータにより自動的にパリティを発生し、7ビット UART モードのときは SC0BUF<TB7> に、8ビット UART モードのときは SC0MOD0<TB8> にパリティを格納して、送信します。なお、<PE> と <EVEN> の設定は、送信データを送信バッファにライトする前に行ってください。

受信時、受信バッファ 1 にシフトインされ、受信バッファ 2 (SC0BUF) に移されたデータにより、パリティを自動発生し、7ビット UART モードのときは、SC0BUF<RB7> のパリティと、8ビット UART モードのときは、SC0CR<RB8> のパリティと比較され、異なっているとパリティエラーが発生し、SC0CR<PERR> フラグがセットされます。

## (11) エラーフラグ

受信データの信頼性を上げるために、3つのエラーフラグが用意されています。

## 1. オーバランエラー &lt;OERR&gt;

受信バッファ 2 (SCBUF0) に有効データが格納されている状態で受信バッファ 1 に次のデータが全ビット受信されると、オーバランエラーが発生します。オーバランエラー発生時の処理フロー例を下記に示します。

(受信割り込みルーチン)

- 1) 受信バッファのリード
- 2) エラーフラグのリード
- 3) if <OERR> = “1”  
then  
(ア) 受信禁止に設定 (<RXE>に “0” をライト)  
(イ) 現フレームの終了待ち  
(ウ) 受信バッファのリード  
(エ) エラーフラグのリード  
(オ) 受信許可に設定 (<RXE>に “1” をライト)  
(カ) 再送信要求
- 4) その他の処理

## 2. パリティエラー &lt;PERR&gt;

受信バッファ 2 (SCBUF0) に移されたデータから発生したパリティと、RXD 端子より受信したパリティビットとを比較し、異なっているとパリティエラーが発生します。

## 3. フレーミングエラー &lt;FERR&gt;

受信データのストップビットを中央付近で 3 回サンプリングし、多数決した結果が“0”の場合、フレーミングエラーが発生します。

## (12) 各信号発生タイミング

## 1. UART モードの場合

受信

モード	9 ビット	8 ビット + パリティ	8 ビット, 7 ビット + パリティ, 7 ビット
割り込み発生 タイミング	最終ビット (ビット 8) の中央付近	最終ビット (パリティビット) の中央付近	ストップビットの中央付近
フレーミングエラー 発生タイミング	ストップビットの中央付近	ストップビットの中央付近	ストップビットの中央付近
パリティエラー 発生タイミング	-	最終ビット (パリティビット) の中央付近	ストップビットの中央付近
オーバランエラー 発生タイミング	最終ビット (ビット 8) の中央付近	最終ビット (パリティビット) の中央付近	ストップビットの中央付近

注) 9 ビットモード、8 ビット + パリティモードでは、割り込みは 9 ビット目と同時に発生します。そのため、割り込み発生後、1 ビット転送分(ストップビットが転送されるまで)時間をおいてフレーミングエラーのチェックをしてください。

送信

モード	9 ビット	8 ビット + パリティ	8 ビット, 7 ビット + パリティ, 7 ビット
割り込み発生 タイミング	ストップビット 送直前の直前	←	←

## 2. I/O インタフェースモードの場合

送信割り込み 発生タイミング	SCLK 出力モード	最終ビット終了直後 (図 3.10.19 参照)
	SCLK 入力モード	最終 SCLK の立ち上がり直後 (立ち上がりモード), 立ち下がりモードでは立ち下がり直後 (図 3.10.20 参照)
受信割り込み 発生タイミング	SCLK 出力モード	受信バッファ 2 (SC0BUF) へ受信データを移すタイミング (最終 SCLK の直後) (図 3.10.21 参照)
	SCLK 入力モード	受信バッファ 2 (SC0BUF) へ受信データを移すタイミング (最終 SCLK の直後) (図 3.10.22 参照)

3.10.3 SFR説明

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0
Read/Write	R/W							
リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0
機能	送信データビット 8	ハンドシェイク機能制御 0: CTS 禁止 1: CTS 許可	受信制御 0: 受信禁止 1: 受信許可	ウェイクアップ機能 0: 禁止 1: 許可	シリアル転送モード 00: I/O インタフェースモード 01: 7 ビット長 UART モード 10: 8 ビット長 UART モード 11: 9 ビット長 UART モード		シリアル転送クロック (UART 用) 00: タイマ TA0TRG 01: ポーレートジェネレータ 10: 内部クロック f <sub>sys</sub> 11: 外部クロック (SCLK0 入力)	

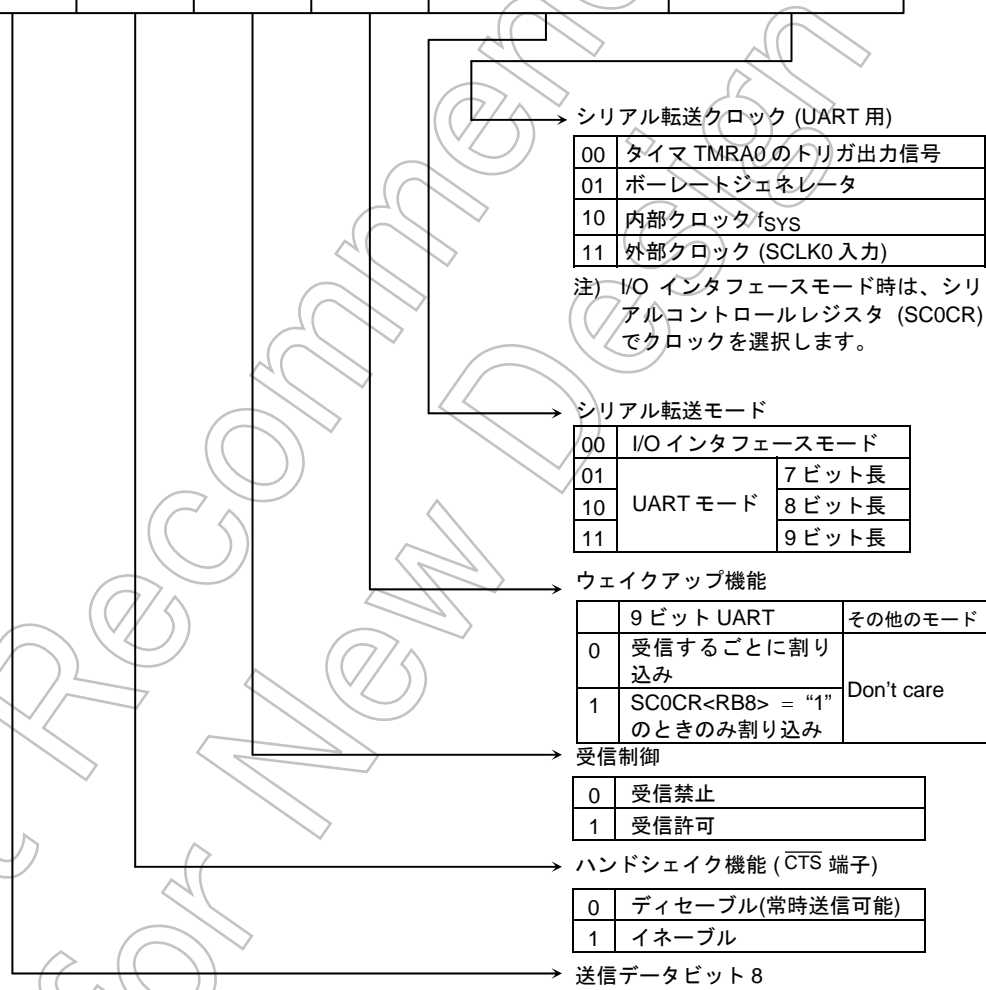


図 3.10.7 シリアルモードコントロールレジスタ 0 (SIO0 用、SC0MOD0)

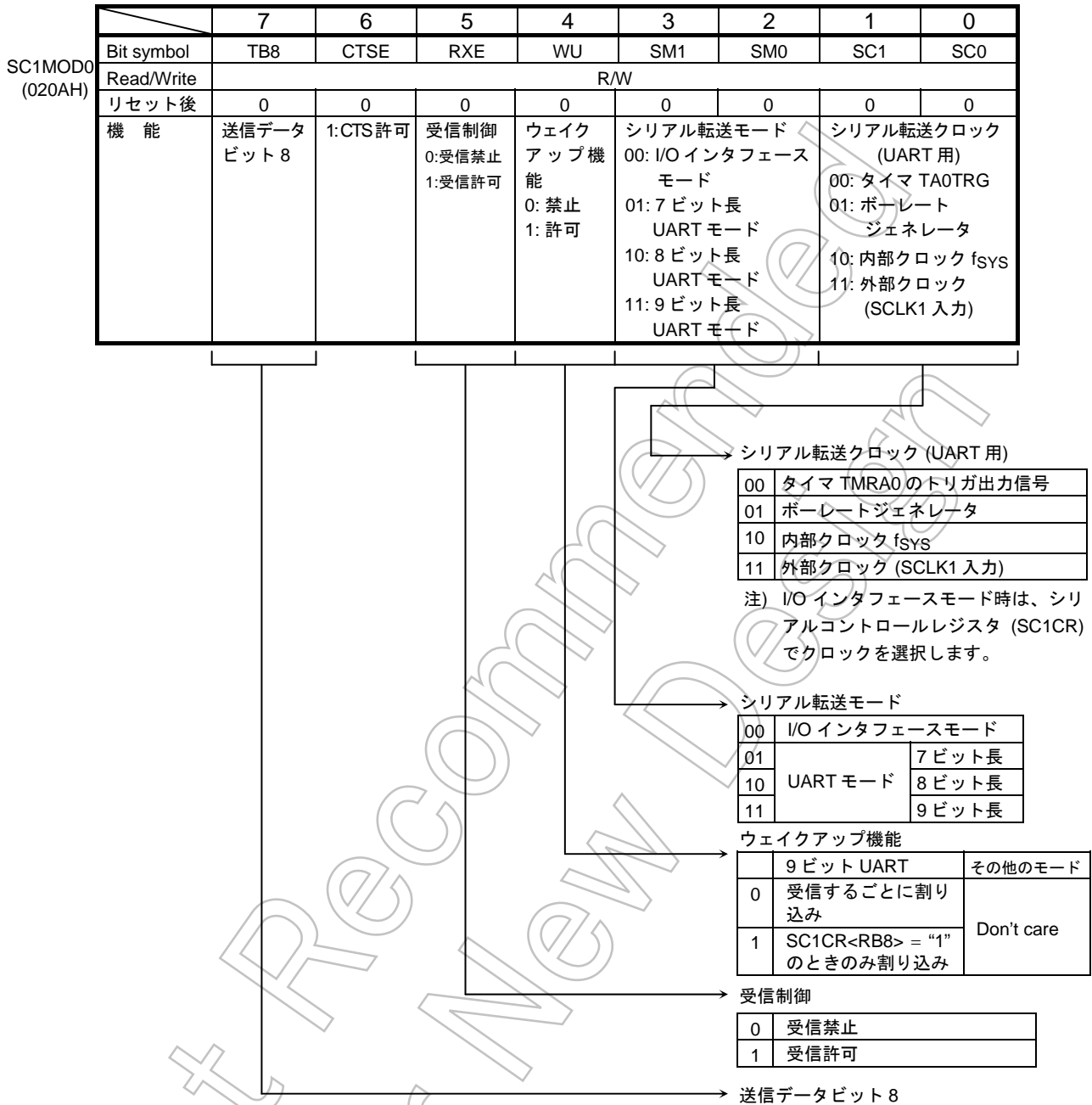
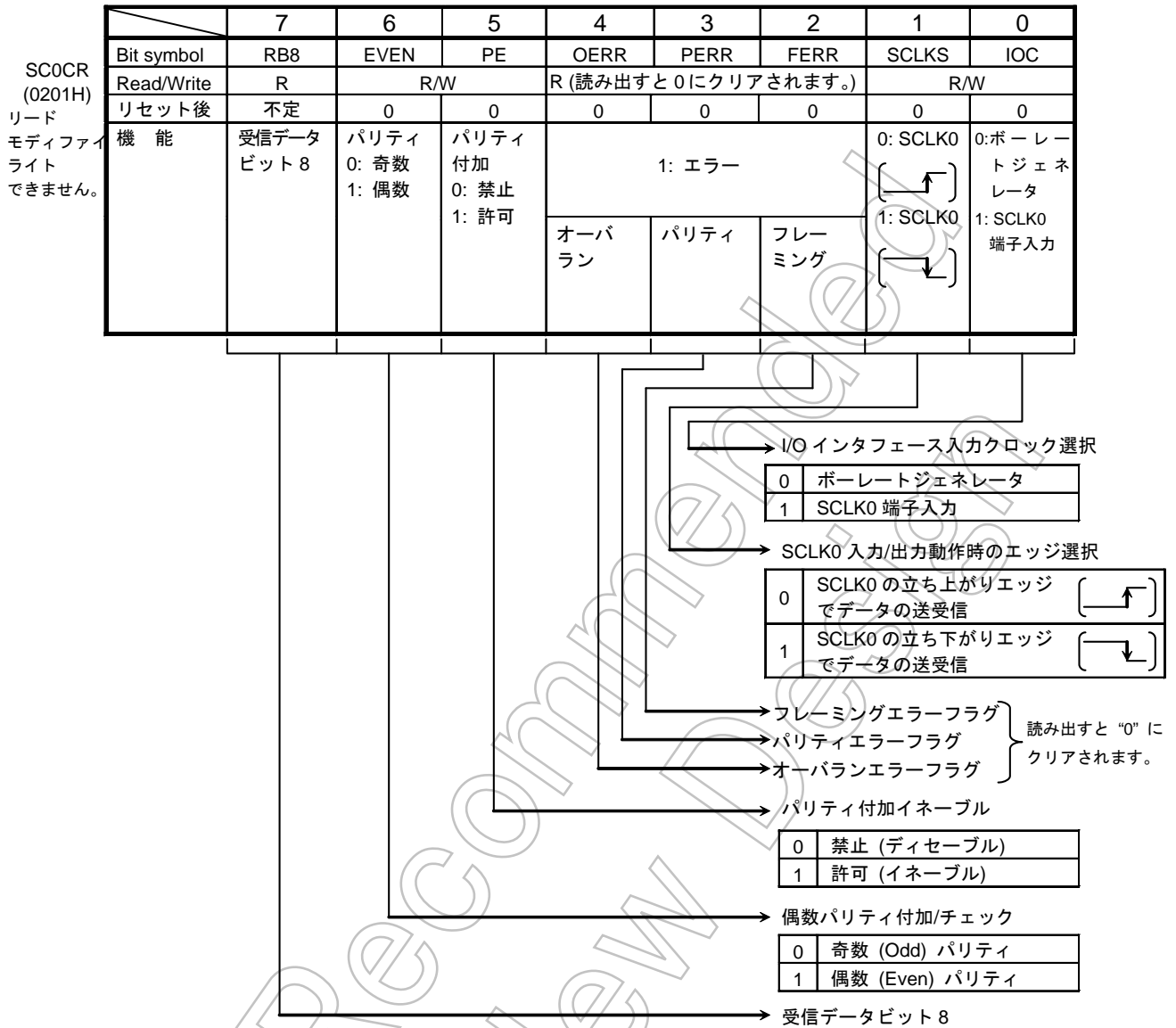


図 3.10.8 シリアルモードコントロールレジスタ (SIO1 用、SC1MOD)

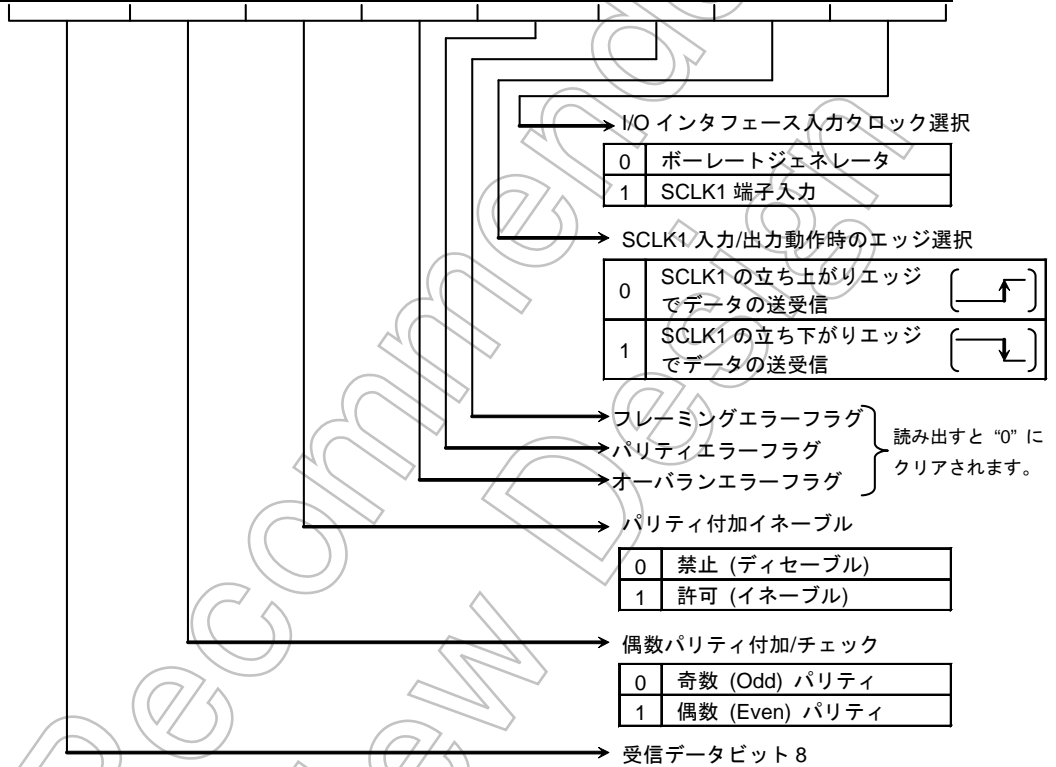


注) エラーフラグはリードするとすべてクリアされるため、ビットテスト命令を用いて 1 ビットのみのテストは行わないでください。

図 3.10.9 シリアルコントロールレジスタ (SIO0 用、SCOCR)

SC1CR  
(0209H)  
リード  
モディファイ  
ライト  
できません。

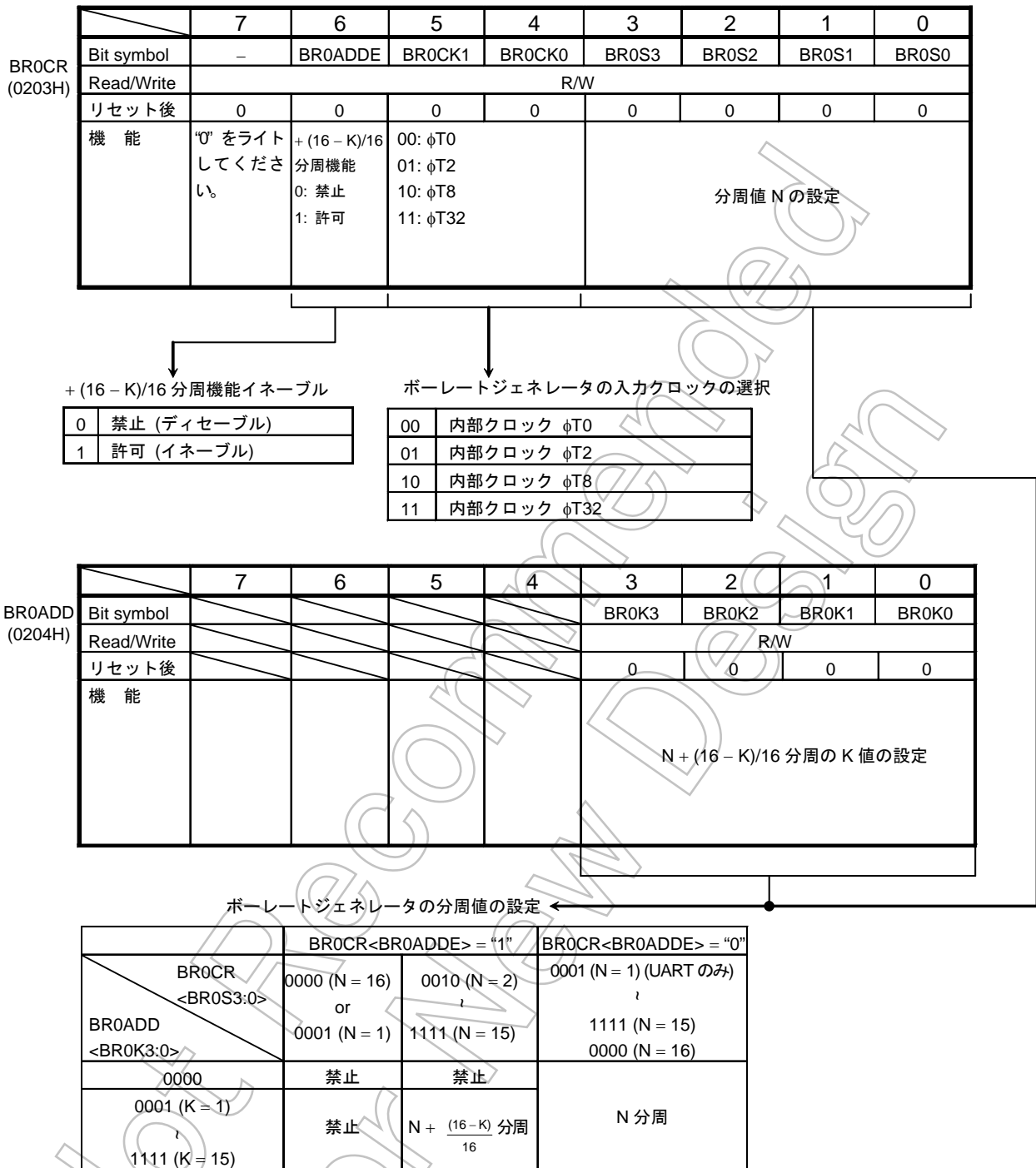
	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC
Read/Write	R	R/W		R (読み出すと0にクリアされます。)			R/W	
リセット後	不定	0	0	0	0	0	0	0
機能	受信データ ビット 8	パリティ 0: 奇数 1: 偶数	パリティ 付加 0: 禁止 1: 許可	1: エラー  オーバーラン パリティ フレーミング			0: SCLK1 1: SCLK1	0: ボー レートジ ェネレ ータ 1: SCLK1 端子入力



注) エラーフラグはリードするとすべてクリアされるため、ビットテスト命令を用いて1ビットのみのテストは行わないでください。

図 3.10.10 シリアルコントロールレジスタ (SIO1 用、SC1CR)





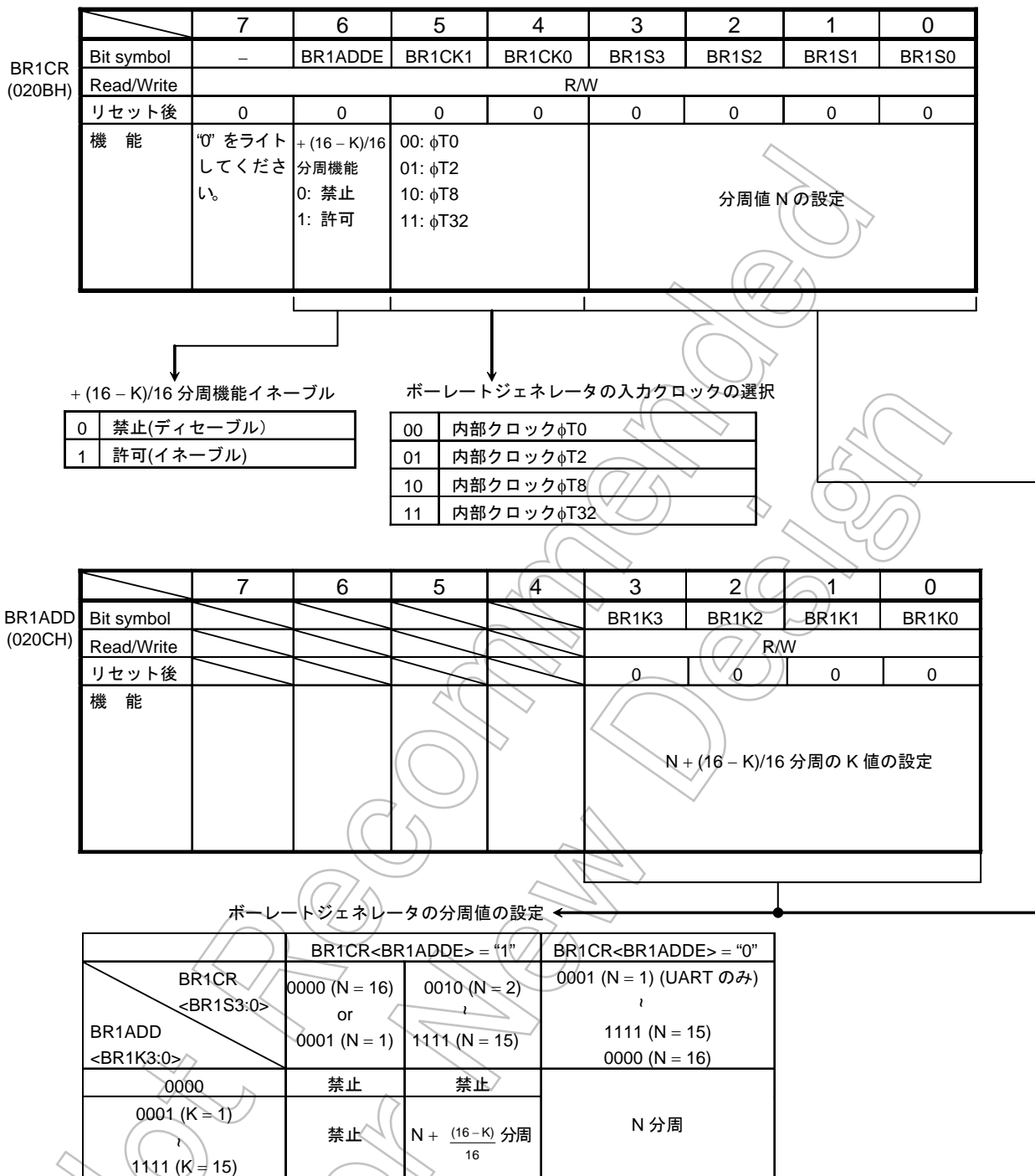
注 1) +(16-K)/16 分周の使用可否

N	UART モード	I/O モード
2 ~ 15	○	×
1, 16	×	×

ポーレートジェネレータ分周値の "1" 分周は UART モードで、+ (16 - K)/16 分周機能を使用しないときのみ設定可能です。I/O インタフェースでは設定しないでください。

注 2) +(16 - K)/16 分周機能を使用する場合、かならず BR0ADD <BR0K3:0> に K 値 (K = 1~15) を設定後に BR0CR <BR0ADDE> = "1" を設定してください。BR0ADD レジスタの未使用ビットは、ライトしても動作に影響ありません。リード時は、不定です。

図 3.10.11 ポーレートジェネレータコントロール (SIO0 用、BR0CR, BR0ADD)



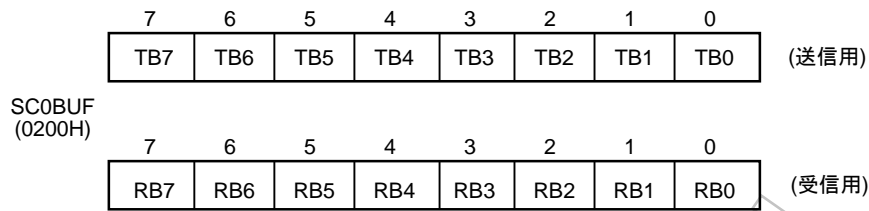
注 1) +(16-K)/16 分周の使用可否

N	UART モード	I/O モード
2 ~ 15	○	×
1, 16	×	×

ポーレートジェネレータ分周値の "1" 分周は UART モードで、+(16-K)/16 分周機能を使用しないときのみ設定可能です。I/O インタフェースでは設定しないでください。

注 2) +(16-K)/16 分周機能を使用する場合、かならず BR1ADD <BR1K3:0> に K 値 (K = 1~15) を設定後に BR1CR <BR1ADDE> = "1" を設定してください。BR1ADD レジスタの未使用ビットは、ライトしても動作に影響ありません。リード時は、不定です。

図 3.10.12 ポーレートジェネレータコントロール (SIO1 用、BR1CR, BR1ADD)

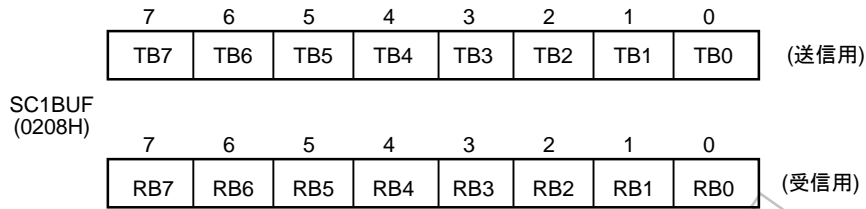


注) SC0BUF はリードモディファイライトできません。

図 3.10.13 シリアル送受信バッファレジスタ (SIO0 用、BR0CR)

SC0MOD1 (0205H)		7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol		I2S0	FDPX0	/	/	/	/	/	/
Read/Write		R/W		/	/	/	/	/	/
リセット後		0	0	/	/	/	/	/	/
機能		IDLE2 0: 停止 1: 動作	同期式 0: 半二重 1: 全二重	/	/	/	/	/	/

図 3.10.14 シリアルモードコントロールレジスタ 1 (SIO0 用、SC0MOD1)



注) SC1BUF はリードモディファイライトできません。

図 3.10.15 シリアル送受信バッファレジスタ (SIO1 用, SC1BUF)

SC1MOD1 (020DH)		7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol		I2S1	FDPX1	/	/	/	/	/	/
Read/Write		R/W		/	/	/	/	/	/
リセット後		0	0	/	/	/	/	/	/
機能		IDLE2 0: 停止 1: 動作	同期式 0: 半二重 1: 全二重	/	/	/	/	/	/

図 3.10.16 シリアルモードコントロールレジスタ 1 (SIO1 用, SC1MOD1)

3.10.4 モード別動作説明

(1) モード0 (I/O インタフェースモード)

このモードは、入出力端子 (I/O) 数を増やす場合に使用され、外部に接続されるシフトレジスタなどとデータの送受信を行います。

このモードには、同期クロック SCLK を出力する SCLK 出力モードと、外部より同期クロック SCLK を入力する SCLK 入力モードがあります。

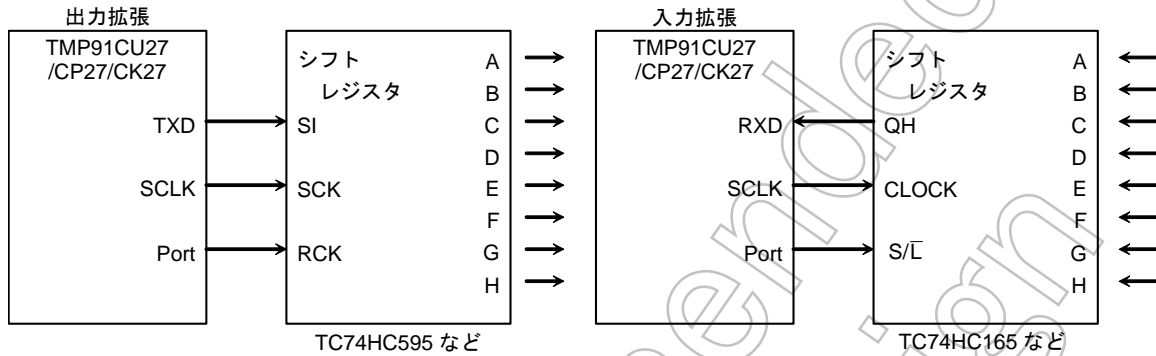


図 3.10.17 SCLK 出力モード接続例

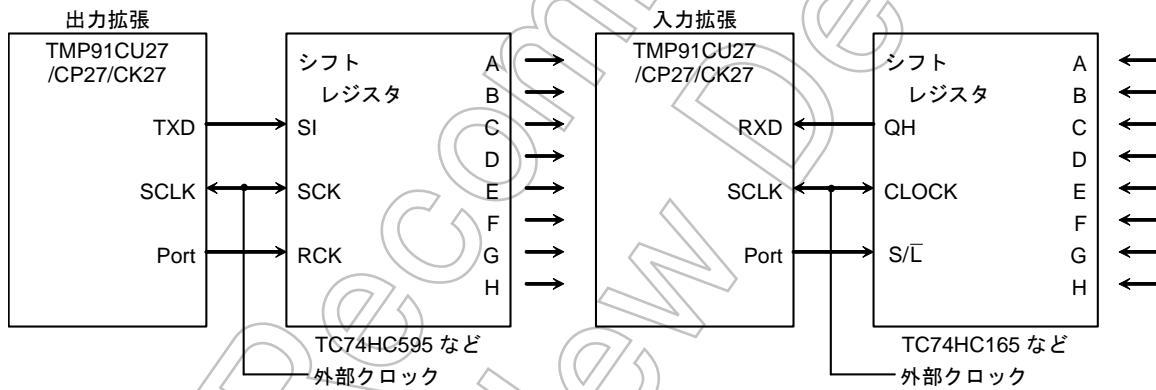


図 3.10.18 SCLK 入力モード接続例

## 1. 送信

SCLK 出力モードでは、CPU が送信バッファにデータをライトするたびに、8 ビットのデータが TXD0 端子、同期クロックが SCLK0 端子より出力されます。データがすべて出力されると INTES0<ITX0C> がセットされ、割り込み INTTX0 が発生します。

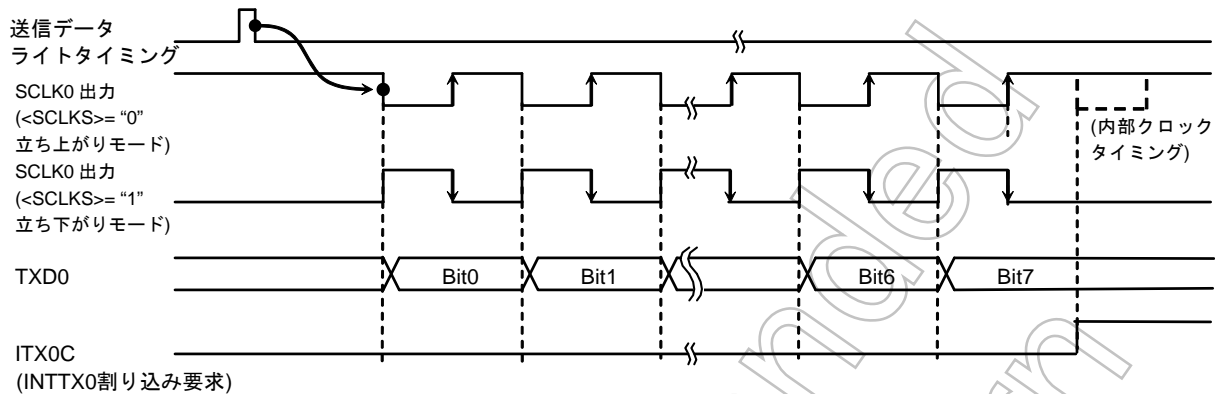


図 3.10.19 I/O インタフェースモード送信動作 (SCLK0 出力モード)

SCLK 入力モードでは、CPU により送信バッファにデータがライトされている状態で SCLK0 入力がアクティブになると、8 ビットのデータが TXD0 端子より出力されます。

データがすべて出力されると、INTES0<ITX0C> がセットされ割り込み INTTX0 が発生します。

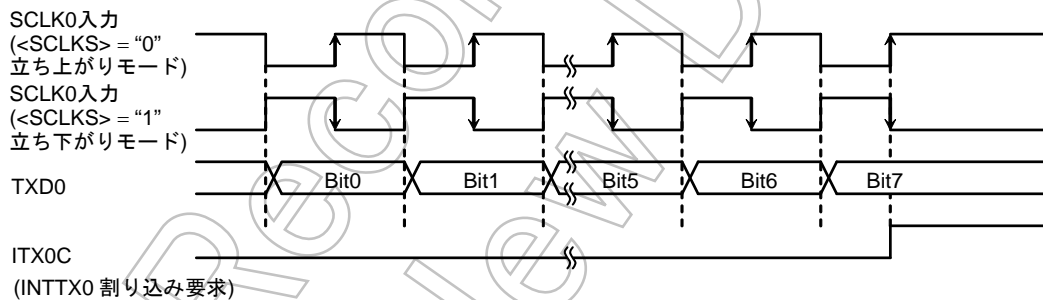


図 3.10.20 I/O インタフェースモード送信動作 (SCLK0 入力モード)

## 2. 受信

SCLK 出力モードでは、受信データが CPU にリードされ、受信割り込みフラグ INTES0<IRX0C> がクリアされるたびに、SCLK0 端子より同期クロックが出力され、次のデータが受信バッファ 1 にシフトインされます。8 ビットデータが受信されると、データは受信バッファ 2 (SC0BUF) に移され、再び INTES0<IRX0C> がセットされて割り込み INTRX0 が発生します。

最初の SCLK 出力の開始は、SC0MOD0<RXE>を“1”にセットすることで行います。

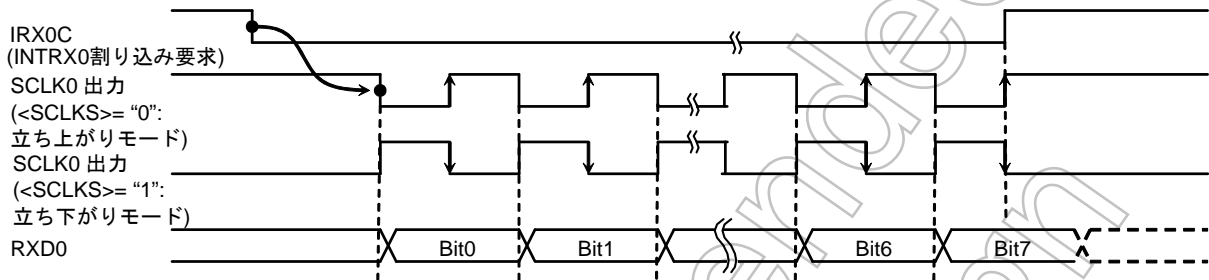


図 3.10.21 I/O インタフェースモード受信動作 (SCLK0 出力モード)

SCLK 入力モードでは、受信データが CPU にリードされ、受信割り込みフラグ INTES0<IRX0C> がクリアされている状態で SCLK0 入力がアクティブになると、次のデータが受信バッファ 1 にシフトインされます。8 ビットデータが受信されると、データは受信バッファ 2 (SC0BUF) に移され、再び INTES0<IRX0C> がセットされて割り込み INTRX0 が発生します。

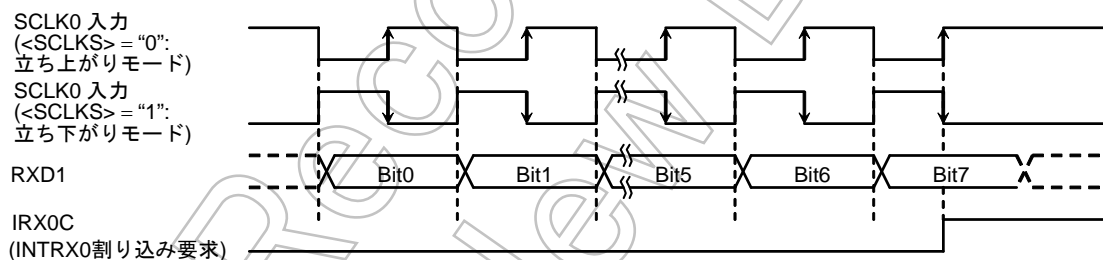


図 3.10.22 I/O インタフェースモード受信動作 (SCLK0 入力モード)

注) 受信動作を行う場合には、SCLK 入力/出力どちらのモードでも受信イネーブル状態 (SC0MOD0<RXE> = “1”) にしておく必要があります。

## 3. 送受信 (全二重)

全二重モードで送受信を行う場合は、必ず受信割り込みレベルを“0”に設定し、送信割り込みのみに割り込みレベル (“1”~“6”のいずれか) を設定してください。

受信処理は、送信割り込み処理ルーチン内で下記例のように、送信データセットの前に行ってください。

例: チャンネル 0, SCLK 出力  
9600 bps で送受信を行う場合  
fc = 14.7456 MHz

システム条件システムクロック: 高速 (fc)  
高速クロックギア: 1 倍 (fc)  
プロスケーラクロック: f<sub>FPH</sub>

## メインルーチンでの設定

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTES0	X	0	0	1	X	0	0	0	送信割り込みレベルを設定し、受信割り込みを禁止します。
P9CR	-	-	-	-	-	1	0	1	P90 (TXD0), P91 (RXD0), P92 (SCLK0)に設定します。
P9FC	X	X	-	X	-	1	X	1	
SC0MOD0	-	-	-	-	0	0	-	-	I/O インタフェースに設定します。
SC0MOD1	1	1	X	X	X	X	X	X	全二重モードにセットします。
SC0CR	-	-	-	-	-	-	0	-	SCLK 出力、立ち上がり受信立ち下がり送信します。
BR0CR	0	0	1	1	0	0	1	1	9600 bps に設定します。
SC0MOD0	-	-	1	-	-	-	-	-	受信許可にします。
SC0BUF	*	*	*	*	*	*	*	*	送信データをセットします。

## 送信割り込みルーチン

Acc SC0BUF									受信データをリードします。
SC0BUF	*	*	*	*	*	*	*	*	送信データをセットします。

X: Don't care, -: No change

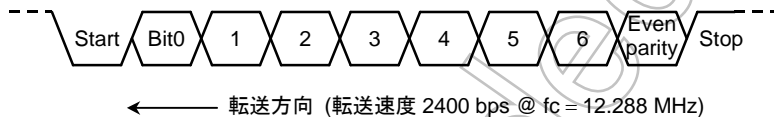


(2) モード1 (7ビット UART モード)

シリアルチャネルモードレジスタ SC0MOD0<SM1:0> を 01 にセットすると、7ビット UART モードになります。

このモードではパリティビットの付加が可能で、シリアルチャネルコントロールレジスタ SC0CR<PE> でパリティビット付加のイネーブル/ディセーブルを制御します。<PE> = 1 (イネーブル) のときは、SC0CR<EVEN> で偶数パリティ/奇数パリティを選択できます。

例: 下記フォーマットのデータを送信する場合の各コントロールレジスタの設定を示します。



\* クロック条件

システムクロック: 高速 (fc)  
 高速クロックギア: 1倍 (fc)  
 プリスケーラクロック: システムクロック

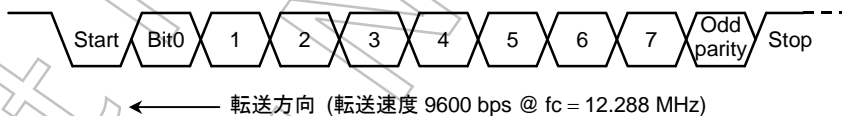
		7	6	5	4	3	2	1	0	
P9CR	←	X	X	-	-	-	-	-	1	} P90 を TXD0 端子とします。 7ビット UART モードに設定します。 偶数パリティを付加します。 2400 bps に設定します。 INTTX0 割り込みをイネーブル、レベル4にします。 送信データをセットします。
P9FC	←	X	X	-	X	-	-	X	1	
SC0MOD0	←	-	-	-	-	0	1	0	1	
SC0CR	←	-	1	1	-	-	-	-	-	
BR0CR	←	0	0	1	0	0	1	0	1	
INTES0	←	X	1	0	0	-	-	-	-	
SC0BUF	←	*	*	*	*	*	*	*	*	

X: Don't care, -: No change

(3) モード2 (8ビット UART モード)

SC0MOD0<SM1:0> を “10” にセットすると、8ビット UART モードになります。このモードではパリティビットの付加が可能で、SC0CR<PE> でパリティビット付加のイネーブル/ディセーブルを制御します。<PE> = “1” (イネーブル) のとき、SC0CR<EVEN> で偶数パリティ/奇数パリティの選択も可能です。

例: 下記のフォーマットのデータを受信する場合の各コントロールレジスタの設定を示します。



\* クロック条件

システムクロック: 高速 (fc)  
 高速クロックギア: 1倍 (fc)  
 プリスケールクロック: システムクロック

メインルーチンでの設定

		7	6	5	4	3	2	1	0
P9CR	←	-	-	-	-	-	-	0	-
SC0MOD0	←	-	-	1	-	1	0	0	1
SC0CR	←	-	0	1	-	-	-	-	-
BR0CR	←	0	0	0	1	0	1	0	1
INTES0	←	-	-	-	-	X	1	0	0

P91 (RXD0) を入力ピンにします。  
 8ビット UART モード、受信イネーブルにします。  
 奇数パリティ付加に設定します。  
 9600 bps に設定します。  
 INTRX0 割り込みをイネーブル、レベル 4 に設定します。

割り込みルーチンでの処理例

```

Acc ← SC0CR AND 00011100
if Acc ≠ 0 then ERROR
Acc ← SC0BUF
X: Don't care, -: No change
    
```

} エラーチェックを行います。  
 受信データをリードします。

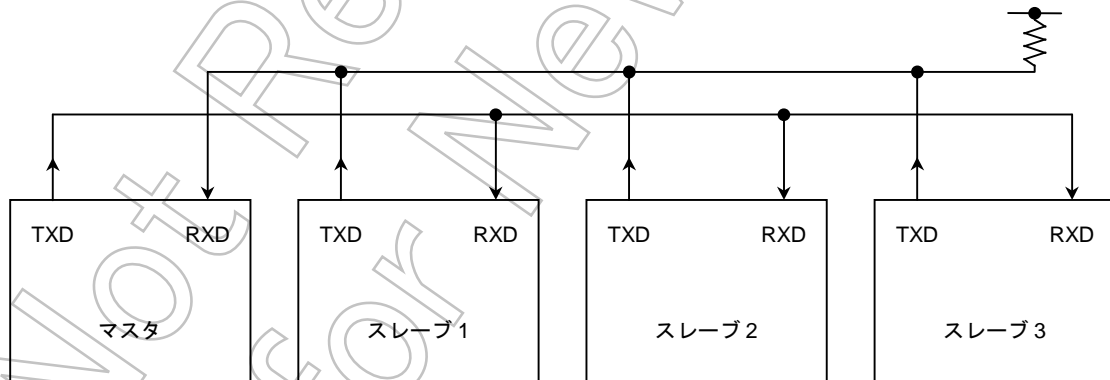
(4) モード 3 (9 ビット UART)

SC0MOD0<SM1:0> を 11 にセットすると、9 ビット UART モードになります。このモードでは、パリティビットの付加はできません。

最上位ビット (9 ビット目) は、送信の場合シリアルチャネルモードレジスタの <TB8> にライトし、受信の場合シリアルチャネルコントロールレジスタの <RB8> に格納されます。また、バッファに対するライト/リードは、必ず <TB8>、<RB8> を先に行い、SC0BUF の方を後にします。

ウェイクアップ機能

9 ビット UART モードでは、SC0MOD0<WU> を “1” にすることによってスレーブコントローラのウェイクアップ動作が可能で、<RB8> = “1” のときのみ割り込み INTRX0 が発生します。

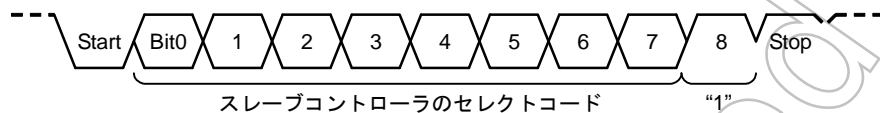


注) スレーブコントローラの TXD 端子は、必ず ODE レジスタを設定してオープンドレイン出力モードにしてください。

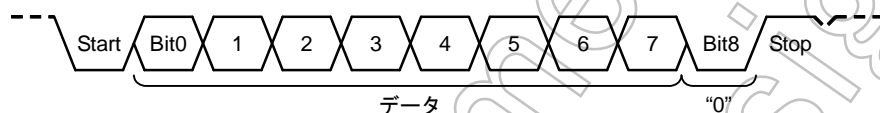
図 3.10.23 ウェイクアップ機能によるシリアルリンク

プロトコル
-------

1. マスタおよびスレーブコントローラは、9 ビット UART モードにします。
2. 各スレーブコントローラは  $SC0MOD0<WU>$  を “1” にセットし、受信可能状態とします。
3. マスタコントローラは、スレーブコントローラのセレクトコード (8 ビット) を含む 1 フレームを送信します。このとき、最上位ビット (ビット 8)  $<TB8>$  は “1” にします。

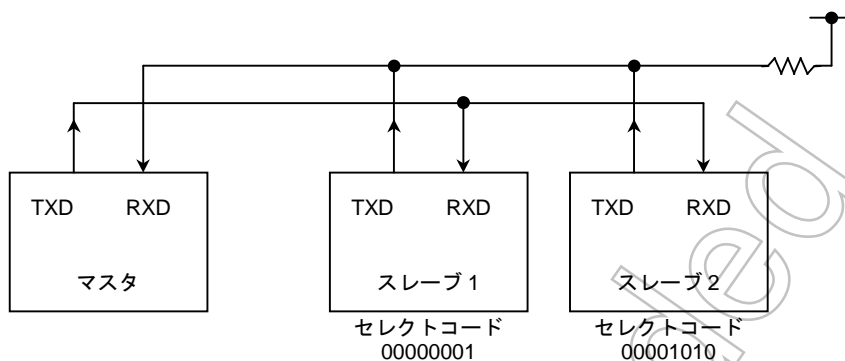


4. 各スレーブコントローラは、上記フレームを受信し、自分のセレクトコードと一致すれば、 $WU$  ビットを “0” にクリアします。
5. マスタコントローラは指定したスレーブコントローラ ( $SC0MOD0<WU> = “0”$  にクリアされたコントローラ) に対しデータを送信します。このとき、最上位ビット (ビット 8)  $<TB8>$  は “0” にします。



6.  $WU=1$  のままのスレーブコントローラは、受信データの最上位ビット (ビット 8) の  $<RB8>$  が “0” であるため割り込み  $INTRX0$  が発生せず、受信データを無視します。また、 $<WU> = “0”$  になったスレーブコントローラがマスタコントローラにデータを送信し、この送信データで受信終了をマスタコントローラに知らせることもできます。

設定例: 内部クロック f<sub>SYS</sub> を転送クロックとして 2 つのスレーブコントローラとシリアルリンクさせる場合



● マスタコントローラの設定

メインルーチン

```

P9CR      ← - - - - - 0 1
P9FC      ← X X - X - - X 1
INTES0    ← X 1 0 0 X 1 0 1
SC0MOD0   ← 1 0 1 0 1 1 1 0
SC0BUF    ← 0 0 0 0 0 0 0 1
    
```

} P90 を TXD0、P91 を RXD0 端子にします。  
 INTTX0 をイネーブル、割り込みレベルを 4 に設定します。  
 INTRX0 をイネーブル、割り込みレベルを 5 に設定します。  
 9 ビット UART モード、転送クロックを f<sub>SYS</sub> に設定します。  
 スレーブ1のセレクトコードをセットします。

割り込みルーチン (INTTX0)

```

SC0MOD0   ← 0 - - - - -
SC0BUF    ← * * * * *
    
```

TB8 を "0" にします。  
 送信データをセットします。

● スレーブの設定

メインルーチン

```

P9CR      ← - - - - - 0 1
P9FC      ← X X - X - - X 1
ODE       ← X X X X - - - 1
INTES0    ← X 1 0 1 X 1 1 0
SC0MOD0   ← 0 0 1 1 1 1 1 0
    
```

} P90 を TXD0 (オープンドレイン出力)、P91 を RXD0 にします。  
 INTTX0, INTRX0 をイネーブルにします。  
 9 ビット UART モード転送クロック f<sub>SYS</sub> で、<WU> = "1" に設定します。

割り込みルーチン (INTRX0)

```

Acc ← SC0BUF
if Acc = セレクトコード
Then SC0MOD0 ← - - - - 0 - - - - <WU> = "0" にクリアします。
    
```

### 3.10.5 IrDAのサポート

SIO0 には、赤外線データ通信規格である「IrDA1.0」のハードウェア規格をサポートするためのデータ変復調機能があります。図 3.10.24に、構成図を示します。

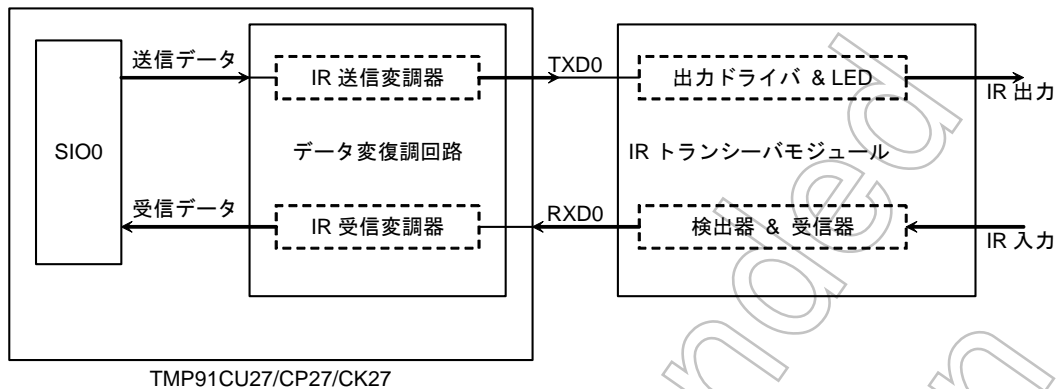


図 3.10.24 IrDA の構成図

#### (1) 送信データの変調

送信データが“0”のときは、ボーレート周期の 3/16 倍の幅、または 1/16 倍の幅 (選択はソフトウェアで可)の“H”レベルを出力し、データが“1”のときは、“L”レベルを出力します。

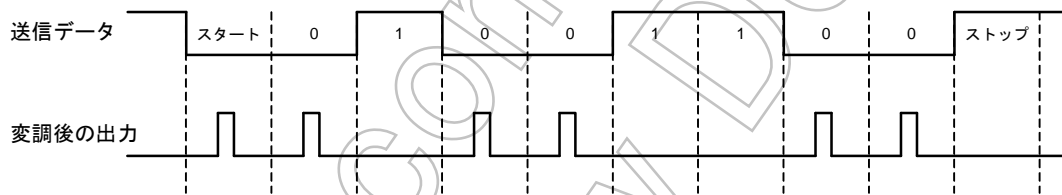


図 3.10.25 送信データの変調例

#### (2) 受信データの復調

入力されたパルスが、有効な“H”レベル幅 (ソフトウェアで幅の設定が可) のときは、SIO0 に対して“0”を出力し、それ以外の場合は、“1”を出力します。

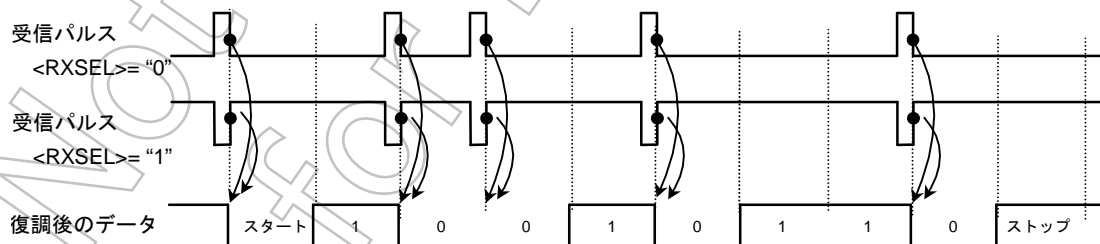


図 3.10.26 受信データの復調例

#### (3) データのフォーマット

データの送受信フォーマットは、必ず、データ長 8 ビット、パリティビットなし、ストップビット 1 ビットに設定してください。

それ以外の設定では、正常動作は保証できません。

## (4) SFR 説明

図 3.10.27にコントロールレジスタを示します。このレジスタの設定変更を行うときは、必ず、送受信動作を禁止（このレジスタのTXENビットとRXENビットを“0”に設定）してから行ってください。送受信動作中に、このレジスタの設定変更を行った場合、正常動作は保証できません。

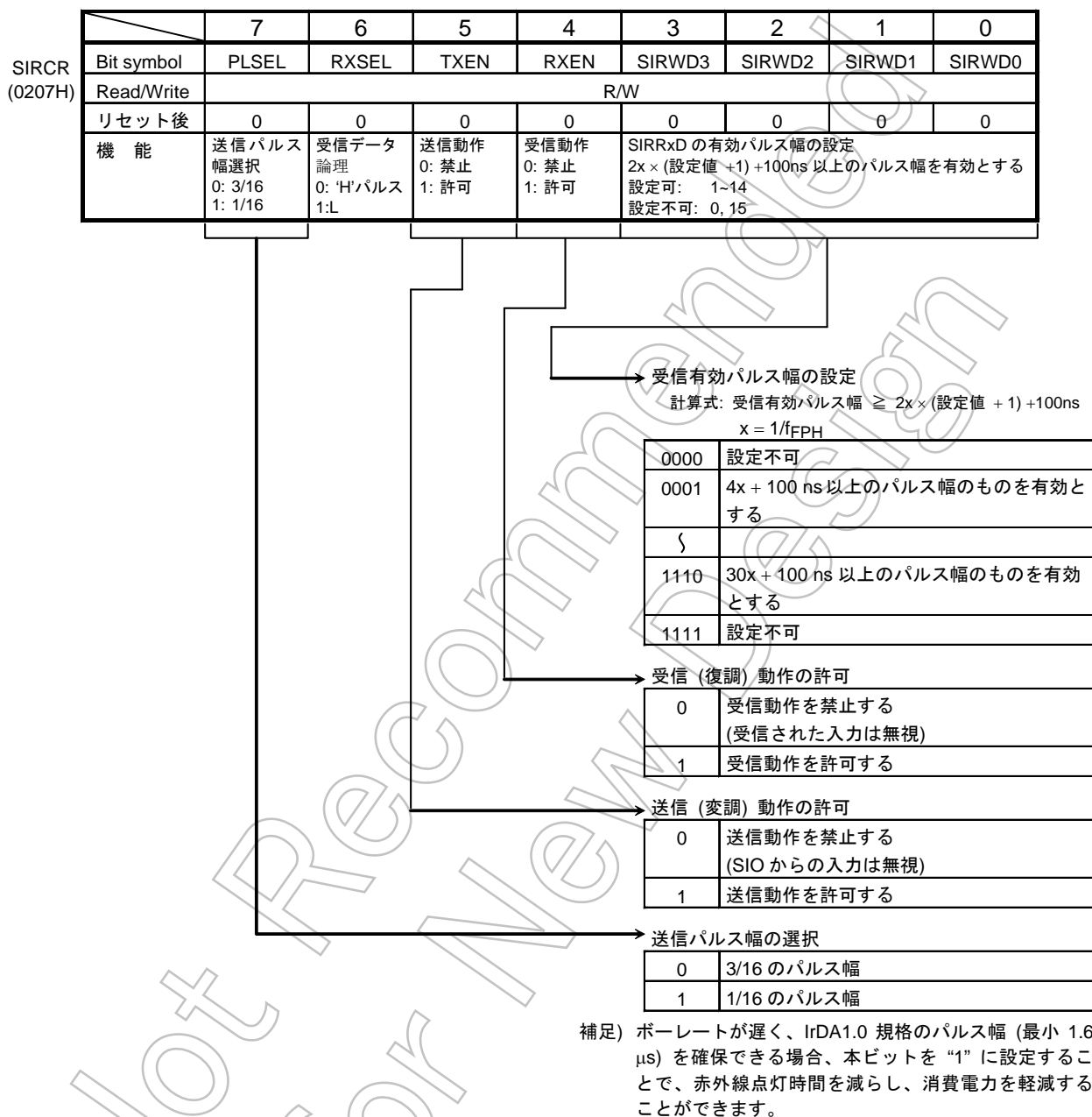


図 3.10.27 IrDA コントロールレジスタ

下記に、設定例を示します。

- 1) SIO 設定 ; SIO 側の設定を行います。  
↓
- 2) LD (SIRCR), 07H ; 受信有効パルス幅を 16X に設定します。
- 3) LD (SIRCR), 37H ; TXEN, RXEN ビットを“1”にして、送受信を許可します。  
↓
- 4) 送受信スタート ; SIO から送信データが送られてくるか、赤外線受信パルスを受けると、データの変復調を行います。

## (5) 使用上の注意

## 1. IrDA 使用時のボーレート作成

IrDA 使用時のボーレートは SIO 本体の SC0MOD0<SC1:0>に“01”を設定し、ボーレートジェネレータを使用して作成してください。

それ以外の TA0TRG, fSYS, SCLK0 入力は使用できません。

## 2. IrDA 送信時の出力パルス幅、ボーレートジェネレータ

IrDA1.0 の物理層規格として、データの転送速度と赤外線パルス幅が規定されています。

表 3.10.4 転送速度とパルス出力幅の規格

転送速度	変調方式	転送速度 許容誤差 (% of Rate)	パルス幅 最小値	パルス幅 3/16 公称値	パルス幅 最大値
2.4 kbps	RZI	±0.87	1.41 [μs]	78.13 [μs]	88.55 [μs]
9.6 kbps	RZI	±0.87	1.41 [μs]	19.53 [μs]	22.13 [μs]
19.2 kbps	RZI	±0.87	1.41 [μs]	9.77 [μs]	11.07 [μs]
38.4 kbps	RZI	±0.87	1.41 [μs]	4.88 [μs]	5.96 [μs]
57.6 kbps	RZI	±0.87	1.41 [μs]	3.26 [μs]	4.34 [μs]
115.2 kbps	RZI	±0.87	1.41 [μs]	1.63 [μs]	2.23 [μs]

赤外線パルス出力幅は、ボーレート  $T \times 3/16$ 、または  $1.6 \mu\text{s}$  (ボーレート 115.2 kbps 時の  $T \times 3/16$  に相当) と規定されています。

本デバイスでは、送信時の出力パルス幅を  $T \times 3/16$  と  $T \times 1/16$  とを選択できる機能がありますが、 $T \times 1/16$  を選択できるのは転送レートが 38.4 kbps 以下のときだけです。115.2 kbps、57.6 kbps 時には、出力パルス幅を  $T \times 1/16$  に設定しないでください。

同様の理由で、転送レートの 115.2 kbps を SIO0 のボーレートジェネレータで生成するときは、K 値付き分周をしないでください。また、送信パルス幅を  $1/16$  に設定し、転送レートの 38.4 kbps を SIO0 のボーレートジェネレータで生成するときも、K 値付き分周を使用しないでください。下表に、K 値付き分周の使用可否をまとめたものを示します。

表 3.10.5 K 値付き分周を使用可能なボーレートと出力パルス幅の関係

出力パルス幅	ボーレート					
	115.2 kbps	57.6 kbps	38.4 kbps	19.2 kbps	9.6 kbps	2.4 kbps
$T \times 3/16$	×	○	○	○	○	○
$T \times 1/16$	—	—	×	○	○	○

○: K 値付き分周使用可

×: K 値付き分周使用不可

—:  $T \times 1/16$  設定不可

### 3.11 シリアルバスインタフェース (SBI)

シリアルバスインタフェース (SBI) を 1 チャンネル内蔵しています。

シリアルバスインタフェースは、下記の 2 つの動作モードを持っています。

- I<sup>2</sup>C バスモード (マルチマスタ)
- クロック同期式 8 ビット SIO モード

I<sup>2</sup>C バスモードのときには、P61 (SDA), P62 (SCL) を通して、外部デバイスと接続されます。クロック同期式 8 ビット SIO のときには、P60 (SCK), P61 (SO), P62 (SI) を通して外部デバイスと接続されます。

各端子の設定は、下記のとおりとなります。

	ODE<ODE62, 61>	P6CR<P62C, P61C, P60C>	P6FC<P62F, P61F, P60F>
I <sup>2</sup> C バスモード	11	11X	11X
クロック同期式 8 ビット SIO モード	XX	011 010	X11

X: Don't care

#### 3.11.1 構成

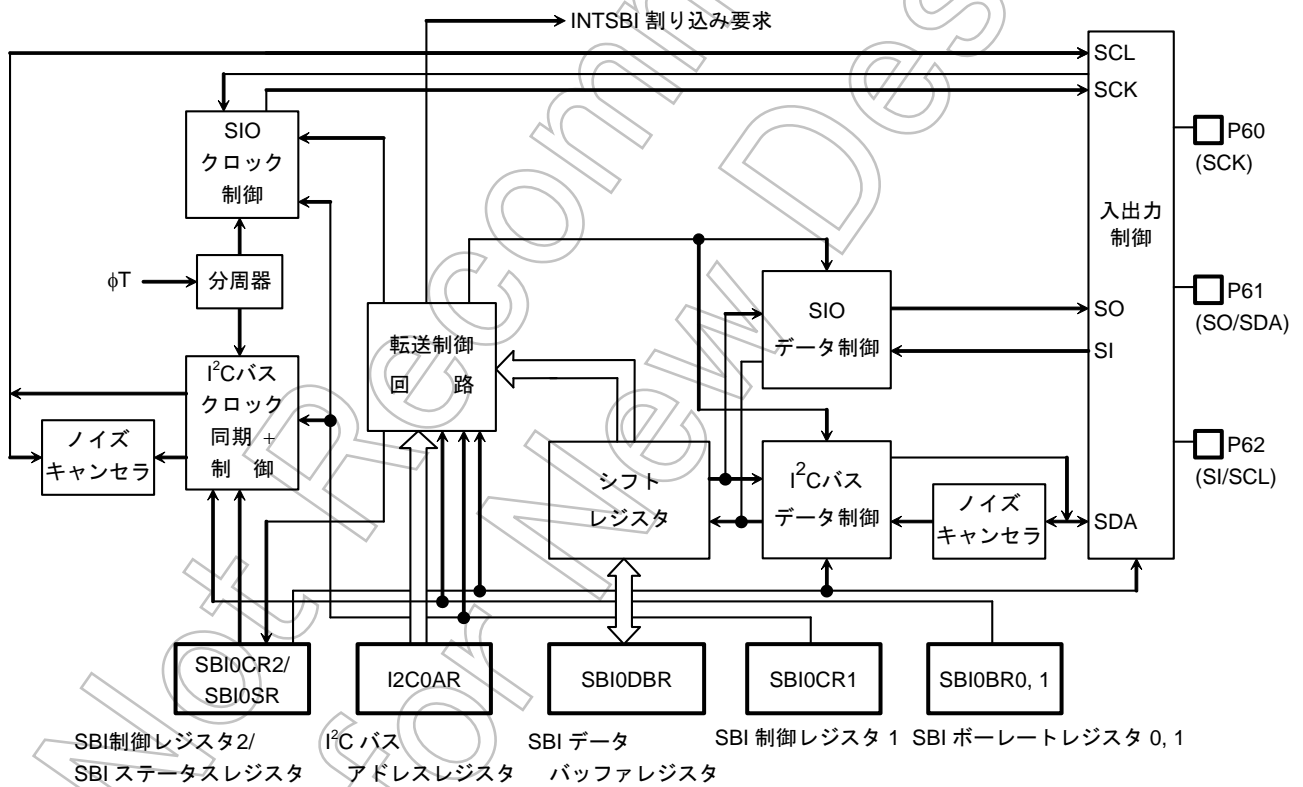


図 3.11.1 シリアルバスインタフェース (SBI)



### 3.11.2 制御

シリアルバスインタフェースの制御および動作状態のモニタは、以下のレジスタで行います。

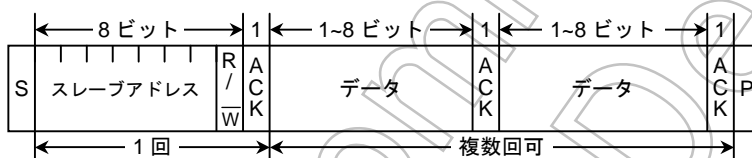
- シリアルバスインタフェース制御レジスタ 1 (SBI0CR1)
- シリアルバスインタフェース制御レジスタ 2 (SBI0CR2)
- シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ (SBI0DBR)
- I<sup>2</sup>C バスアドレスレジスタ (I2C0AR)
- シリアルバスインタフェースステータスレジスタ (SBI0SR)
- シリアルバスインタフェースボーレートレジスタ 0 (SBI0BR0)
- シリアルバスインタフェースボーレートレジスタ 1 (SBI0BR1)

上記レジスタは、使用するモードによって機能が異なります。詳細は、3.11.4「I<sup>2</sup>C バスモード時のコントロールレジスタ」および、3.11.7「クロック同期式 8 ビット SIO モード時の制御」を参照してください。

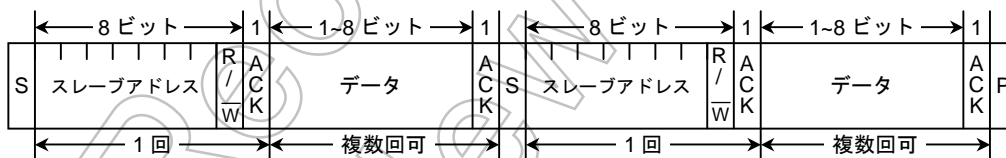
### 3.11.3 I<sup>2</sup>C バスモード時のデータフォーマット

I<sup>2</sup>C バスモード時のデータフォーマットを図 3.11.2 に示します。

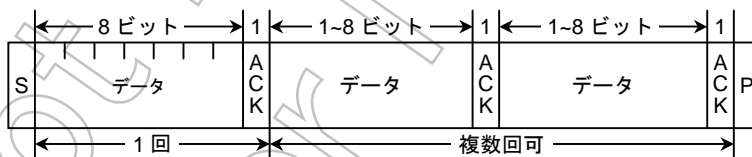
#### (a) アドレッシングフォーマット



#### (b) アドレッシングフォーマット (再スタートあり)



#### (c) フリーデータフォーマット (マスタデバイスからスレーブデバイスへデータを転送する転送フォーマット)



- 注) S: スタートコンディション  
 R/ $\bar{W}$ : 方向ビット  
 ACK: アクノリッジビット  
 P: ストップコンディション

図 3.11.2 I<sup>2</sup>C バスモード時のデータフォーマット

3.11.4 I<sup>2</sup>C バスモード時のコントロールレジスタ

シリアルバスインタフェース (SBI) を I<sup>2</sup>C バスモードで使用するときの制御、および動作状態のモニタは、以下のレジスタで行います。

シリアルバスインタフェース制御レジスタ 1

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0CR1 (0240H)	Bit symbol	BC2	BC1	BC0	ACK		SCK2	SCK1	SCK0/ SWRMON
	Read/Write	W			R/W		W		R/W
	リセット後	0	0	0	0		0	0	0/1 (注3)
	機能	転送ビット数の選択 (注1)			アクリジ ジメン ト クロ ック 0: 発生 しない 1: 発生する		内部 SCL 出力クロックの 周波数選択 (注2) とリセット モニタ		

リード  
モディファイ  
ライト  
できません。

内部 SCL 出力クロックの周波数選択 <SCK2:0> @ライト

000	n = 5	- (注4)	$\left. \begin{array}{l} \text{システムクロック: } fc \\ \text{クロックギア: } fc/1 \\ fc = 27 \text{ MHz (SCL 端子への出力)} \\ \text{周波数} = \frac{fc}{2^n + 8} \text{ [Hz]} \end{array} \right\}$
001	n = 6	- (注4)	
010	n = 7	- (注4)	
011	n = 8	- (注4)	
100	n = 9	51.9 kHz	
101	n = 10	26.2 kHz	
110	n = 11	13.1 kHz	
111	(Reserved)	(Reserved)	

ソフトウェアリセット状態モニタ <SWRMON> @リード

0	ソフトウェアリセット中
1	(初期値)

アクリジのためのクロック発生の選択

0	アクリジのためのクロックを発生しない。
1	アクリジのためのクロックを発生する。

転送ビット数の選択

<BC2:0>	<ACK> = "0" のとき		<ACK> = "1" のとき	
	クロック数	データ長	クロック数	データ長
000	8	8	9	8
001	1	1	2	1
010	2	2	3	2
011	3	3	4	3
100	4	4	5	4
101	5	5	6	5
110	6	6	7	6
111	7	7	8	7

注1) クロック同期式 8 ビット SIO モードに切り替える前に <BC2:0> を "000" にクリアしてください。

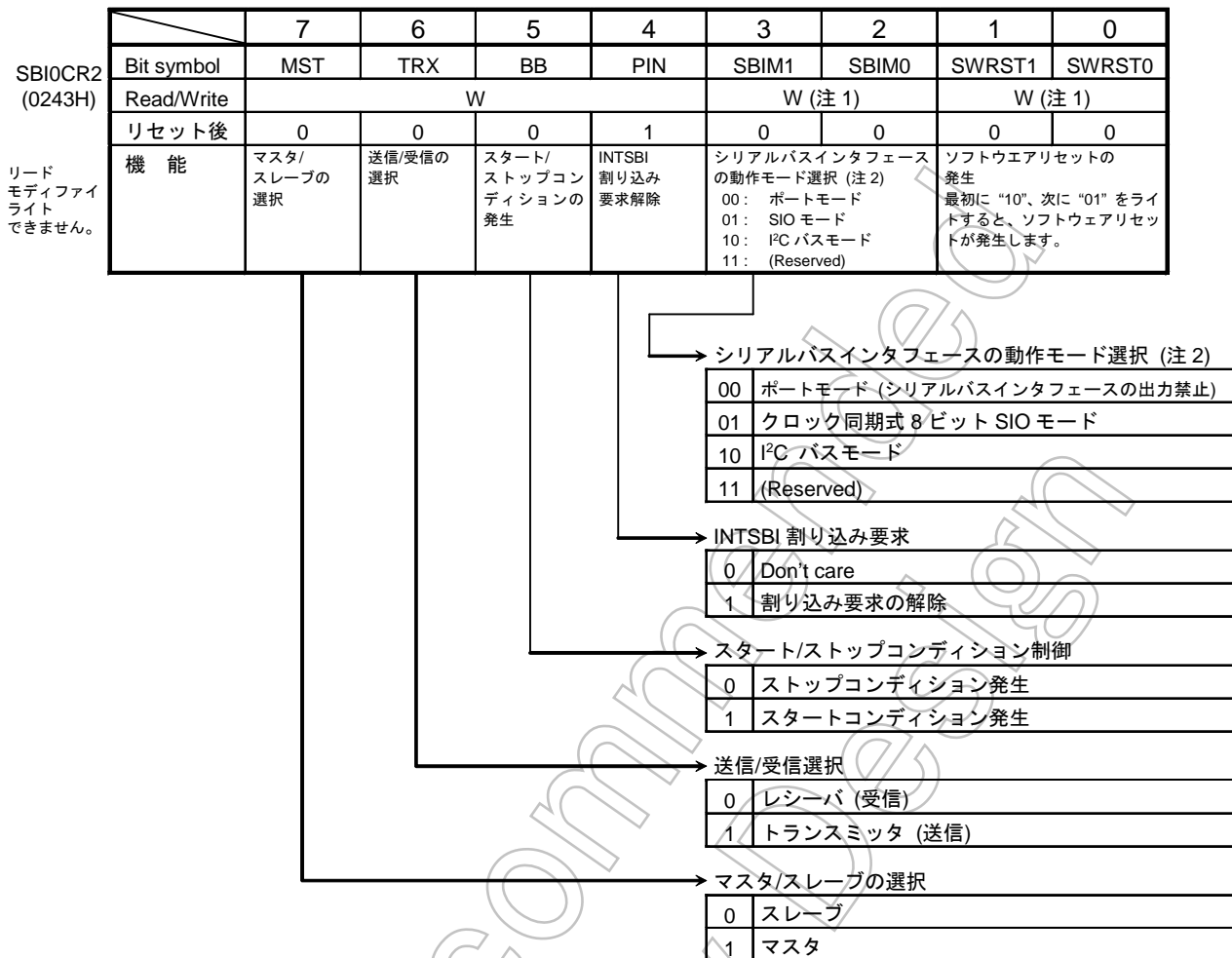
注2) SCL ラインクロックの周波数については、3.10.5 (3) 「シリアルクロック」を参照してください。

注3) SCK0 の初期値は "0"、SWRMON の初期値は "1" です。

注4) 本 I<sup>2</sup>C バス回路は、高速モードに対応していません。標準モードのみの対応となります。100kbps を超える設定が可能な場合がありますが、I<sup>2</sup>C 規格の規格外となります。

図 3.11.3 I<sup>2</sup>C バスモード関係のレジスタ

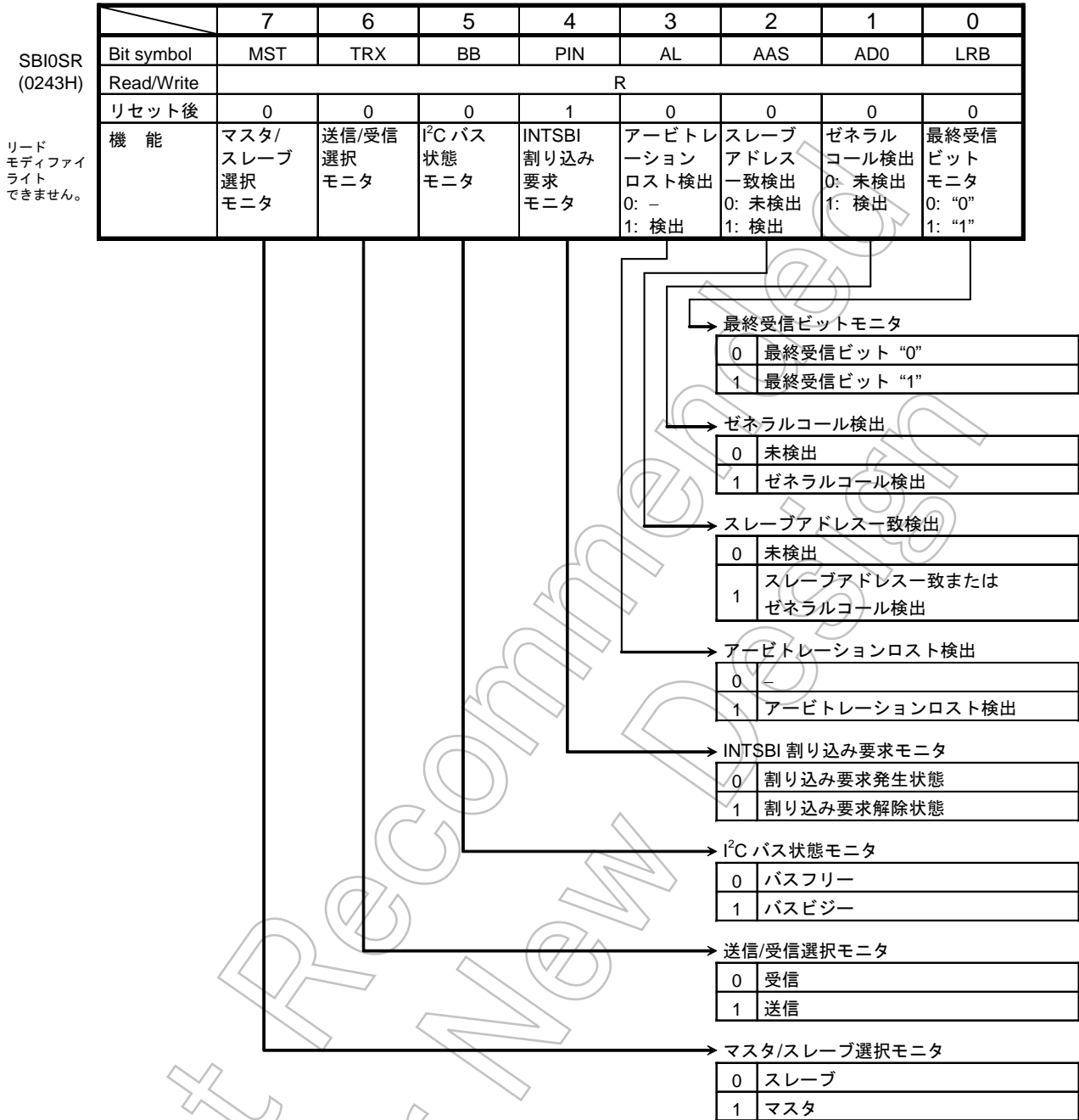
シリアルバスインタフェース制御レジスタ 2



- 注 1) このレジスタをリードすると、SBIOSR レジスタとして機能します。
- 注 2) ポートモードへの切り替えは、バスフリーを確認してから行ってください。  
また、ポートモードから I<sup>2</sup>C バスモード、クロック同期式 8 ビット SIO への切り替えは、ポートの状態が "H" レベルになっていることを確認してから行ってください。

図 3.11.4 I<sup>2</sup>C バスモード関係のレジスタ

シリアルバスインタフェースステータスレジスタ



注) このレジスタをライトすると、SBI0CR2として機能します。

図 3.11.5 I<sup>2</sup>Cバスモード関係のレジスタ

シリアルバスインタフェースポーレートレジスタ 0

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0BR0 (0244H)	Bit symbol	-	I2SBI0						
	Read/Write	W	R/W						
	リセット後	0	0						
リード モディファイ ライト できません	機能	"0" をライ トして ください。		IDLE2 0: 停止 1: 動作					

→ IDLE2 時の動作

0	停止
1	動作

シリアルバスインタフェースポーレートレジスタ 1

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0BR1 (0245H)	Bit symbol	P4EN	-						
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0						
リード モディファイ ライト できません	機能	内部 クロック 0: 停止 1: 動作		"0" をライ トして ください。					

→ 内部ポーレート回路制御

0	停止
1	動作

シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0DBR (0241H)	Bit symbol	DB7	DB6	DB5	DB4	DB3	DB2	DB1	DB0
	Read/Write	R (受信)/W (送信)							
	リセット後	不定							

リード  
モディファイ  
ライト  
できません。

- 注 1) 送信データライト時には、データを MSB (ビット 7) 側につめてライトしてください。また、受信データは LSB 側に格納されます。
- 注 2) SBI0DBR はライト用のバッファとリード用のバッファを個別に持っているため、ライトしたデータをリードすることはできません。従って、ビット操作などのリードモディファイライト命令 (RMW) ではアクセスできません。

I<sup>2</sup>C バスアドレスレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0	
I2C0AR (0242H)	Bit symbol	SA6	SA5	SA4	SA3	SA2	SA1	SA0	ALS	
	Read/Write	W								
	リセット後	0	0	0	0	0	0	0	0	
リード モディファイ ライト できません。	機能	スレーブデバイスとして動作するときのスレーブアドレスの設定							アドレス 認識 モードの 指定	

↓  
アドレス認識モードの指定

0	スレーブアドレスを認識する。
1	スレーブアドレスを認識しない。

図 3.11.6 I<sup>2</sup>C バスモード関係のレジスタ

3.11.5 I<sup>2</sup>Cバスモード時の制御

## (1) アクノリッジメントモードの指定

SBI0CR1<ACK>を“1”にセットしておく、アクノリッジメントモードとして動作します。マスタのときには、アクノリッジ信号のためのクロックを1クロック付加します。トランスミッタモードのときには、このクロックの期間中、SDA端子を開放し、レシーバからのアクノリッジ信号を受信できる状態にします。レシーバモードのときにはこのクロック期間中、SDA端子を“L”レベルに引き、アクノリッジ信号を発生します。

<ACK>を“0”に設定しておく、非アクノリッジメントモードとして動作し、マスタのときにアクノリッジ信号のためのクロックを発生しません。

## (2) 転送ビット数の選択

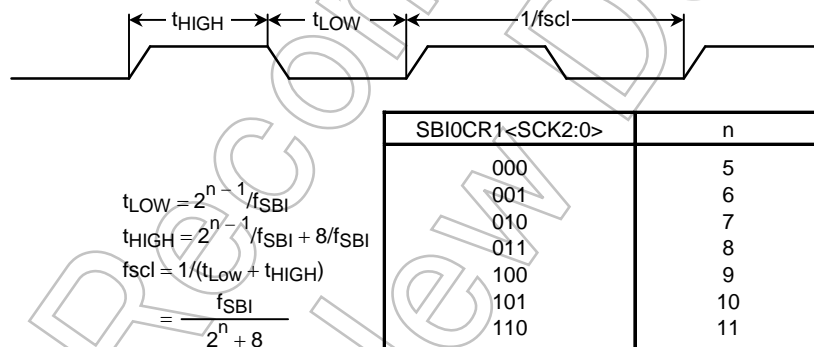
SBI0CR1<BC2:0>により、次に送受信するデータのビット数を選択します。

<BC2:0>はスタートコンディションにより“000”にクリアされるため、スレーブアドレス、方向ビットの転送は必ず8ビットで行われます。それ以外の場合、<BC2:0>は一度設定された値を保持します。

## (3) シリアルクロック

## 1. クロックソース

SBI0CR1<SCK2:0>で、マスタモード時にSCL端子から出力されるシリアルクロックの最大転送周波数を選択します。通信ボーレートを設定する場合、本紙記載の下記計算式に合わせてt<sub>LOW</sub>の最小幅など、I<sup>2</sup>Cバス規定を満たす通信ボーレートを選択してください。



$$t_{LOW} = 2^{n-1} / f_{SBI}$$

$$t_{HIGH} = 2^{n-1} / f_{SBI} + 8 / f_{SBI}$$

$$f_{scl} = 1 / (t_{LOW} + t_{HIGH})$$

$$= \frac{f_{SBI}}{2^n + 8}$$

注 1) f<sub>SBI</sub>はf<sub>PPH</sub>を示します。

注 2) SYSCR0のプリスケアラの設定において、SBI回路(I<sup>2</sup>Cバス、同期通信)使用時には、fc/16モードは使用できません。

図 3.11.7 クロックソース

## 2. クロック同期化

I<sup>2</sup>C バスでは、端子の構造上バスをワイヤードアンドで駆動させるため、クロックラインを最初に“L”レベルに引いたマスタが、“H”レベルを出力しているマスタのクロックを無効にします。このため、“H”レベルを出力しているマスタは、これを検出し対応する必要があります。

クロック同期化機能を持っており、バス上に複数のマスタが存在する場合でも、正常に転送が行われます。

クロック同期の手順を、バス上に 2 つのマスタが同時に存在した場合を例に挙げて以下に示します。

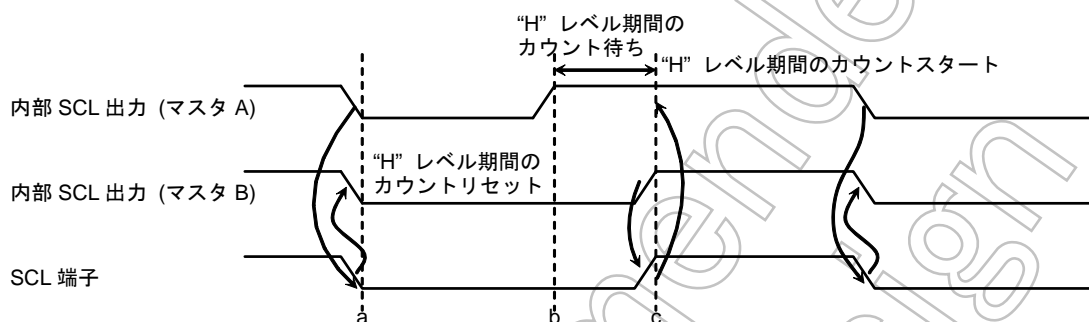


図 3.11.8 クロック同期化の例

a 点でマスタ A が内部 SCL 出力を“L”レベルに引くことで、バスの SCL ラインは“L”レベルになります。マスタ B はこれを検出し、マスタ B の“H”レベル期間のカウントをリセットし、内部 SCL 出力を“L”レベルに引きます。

b 点でマスタ A は“L”レベル期間のカウントを終わり、内部 SCL 出力を“H”レベルにします。しかし、マスタ B が、バスの SCL ラインを“L”レベルに保持し続けているので、マスタ A は“H”レベル期間のカウントを止めます。マスタ A は、c 点でマスタ B が内部 SCL 出力を“H”レベルにし、バスの SCL ラインが“H”レベルになったことを検出後、“H”レベル期間のカウントを始めます。

以上のようにバス上のクロックは、バスに接続されているマスタの中で最も短い“H”レベル期間を持つマスタと、最も長い“L”レベル期間を持つマスタによって決定されます。

### (4) スレーブアドレスとアドレス認識モードの設定

スレーブデバイスとして動作させるときは、I2C0AR にスレーブアドレス <SA6:0> と <ALS> を設定します。

<ALS> に“0”を設定すると、アドレス認識モードになります。

### (5) マスタ/スレーブの選択

SBI0CR2<MST> を“1”に設定すると、マスタデバイスとして動作します。

<MST> を“0”に設定すると、スレーブデバイスとして動作します。<MST> はバス上のストップコンディションの検出、またはアービトレーションロストの検出で、ハードウェアにより“0”にクリアされます。

## (6) トランスミッタ/レシーバの選択

SBI0CR2<TRX>を“1”に設定すると、トランスミッタとして動作し、<TRX>を“0”に設定すると、レシーバとして動作します。スレーブモードでアドレッシングフォーマットのデータ転送を行うとき、受信したスレーブアドレスが I2C0CR にセットした値と同じとき、または、ゼネラルコール(スタートコンディション後の8ビットのデータがすべて“0”)を受信したとき、ハードウェアによりマスタデバイスから送られてくる方向ビット(R/W)“1”の場合、<TRX>は“1”にセットされ、“0”の場合、<TRX>は“0”にクリアされます。マスタモード時は、スレーブデバイスからアクリッジが返ってくると、ハードウェアにより、送信した方向ビットが“1”の場合、<TRX>は“0”に、方向ビットが“0”の場合、<TRX>は“1”に変化します。アクリッジが返ってこないときは、以前の状態を保ちます。

<TRX>はバス上のストップコンディションの検出、またはアービトレーションロストの検出で、ハードウェアにより“0”にクリアされます。

## (7) スタート/ストップコンディションの発生

SBI0SR<BB>が“0”のときに、SBI0CR2<MST, TRX, BB, PIN>に“1”をライトすると、バス上にスタートコンディションと、データバッファレジスタにライトしたスレーブアドレス、方向ビットが出力されます。あらかじめ、<ACK>に“1”を設定してください。



図 3.11.9 スタートコンディションの発生とスレーブアドレスの発生

<BB>=“1”のときに、<MST, TRX, PIN>に“1”、<BB>に“0”をライトすると、バス上にストップコンディション出力のシーケンスを開始します。バス上にストップコンディションが発生するまで、<MST, TRX, BB, PIN>の内容を書き替えしないでください。

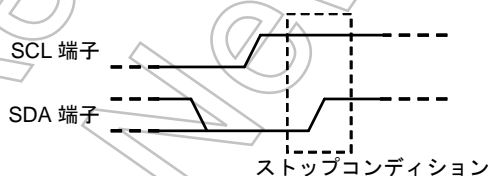


図 3.11.10 ストップコンディションの発生

また、SBI0SR<BB>をリードすることで、バスの状態を知ることができます。<BB>は、バス上のスタートコンディションを検出すると“1”にセットされ(バスビジー状態)、ストップコンディションを検出すると、“0”にクリアされます(バスフリー状態)。

なお、マスタモードでのストップコンディション発生については制約事項がありますので、3.10.6 (4)「ストップコンディションの発生」を参照してください。



## (8) 割り込みサービス要求と解除

シリアルバスインタフェース割り込み要求 (INTSBI) が発生すると、SBI0CR2<PIN> が“0”にクリアされます。<PIN>が“0”の間、SCL ラインを“L”レベルに引きます。

<PIN> は 1 ワードの送信または受信が終了すると“0”にクリアされ、SBI0DBR にデータをライトするか、SBI0DBR からデータをリードすると“1”にセットされます。

<PIN> が“1”にセットされてから、SCL ラインが開放されるまで、 $t_{LOW}$  の時間がかかります。

アドレス認識モード (<ALS> = “0”) では、受信したスレーブアドレスが I2C0CR にセットした値と同じとき、またはゼネラルコール (スタートコンディション後の 8 ビットのデータがすべて “0”) を受信したときに、<PIN> が“0”にクリアされます。プログラムで SBI0CR2<PIN> に“1”をライトすると“1”にセットされますが、“0”をライトしても“0”にクリアされません。

## (9) シリアルバスインタフェースの動作モード

SBI0CR2<SBIM1:0> でシリアルバスインタフェースの動作モードを設定します。

I<sup>2</sup>C バスモードで使用するときは、シリアルバスインタフェース端子状態が“H”になっていることを確認後、<SBIM1:0> を“10”に設定します。

ポートモードへの切り替えは、バスがフリーであることを確認してから行ってください。

## (10) アービトレーションロスト検出モニタ

I<sup>2</sup>C バスではマルチマスタ (1 つのバス上で同時に 2 つ以上のマスタが存在する) が可能なため、転送されるデータの内容を保証するためにバスのアービトレーション手順が必要となります。

I<sup>2</sup>C バスではバスのアービトレーションに SDA ラインのデータを使用します。

アービトレーションの手順を、バス上に 2 つのマスタが同時に存在した場合を例に挙げて以下に示します。a 点のビットまでマスタ A、マスタ B とも同じデータを出力し、a 点でマスタ A が“L”レベルを出力、マスタ B が“H”レベルを出力すると、バスの SDA ラインはワイヤードアンドで駆動されるためにマスタ A によって“L”レベルに引かれます。b 点でバスの SCL ラインが立ち上がると、スレーブデバイスは SDA ラインデータ (マスタ A) のデータを取り込みます。このときマスタ B の出力したデータは無効になります。マスタ B のこの状態を“アービトレーションロスト”と呼びます。マスタ B は SDA 端子を開放し、ほかのマスタの出力するデータに影響を及ぼさないようにします。また、複数のマスタが 1 ワード目でまったく等しいデータを送信した場合、アービトレーションの手順は 2 ワード目以降も継続されます。

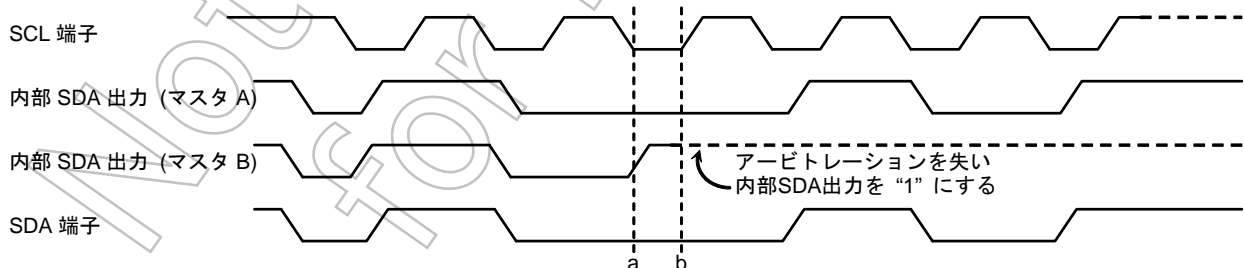


図 3.11.11 アービトレーションロスト

バスの SDA ラインのレベルと内部 SDA 出力のレベルの比較は、SCL ラインの立ち上がりで行います。この比較結果が不一致の場合、アービトレーションロストになり、SBI0SR<AL>が“1”にセットされます。

<AL>が“1”にセットされると SBI0SR<MST, TRX>は“0”にリセットされ、スレーブレシーバモードになります。そのため、<AL>が“1”にセットされた後のデータ転送ではクロックの出力を停止します。

<AL>は、SBI0DBR にデータをライトするか、SBI0DBR からデータをリード、または SBI0CR2 にデータをライトすると“0”にリセットされます。

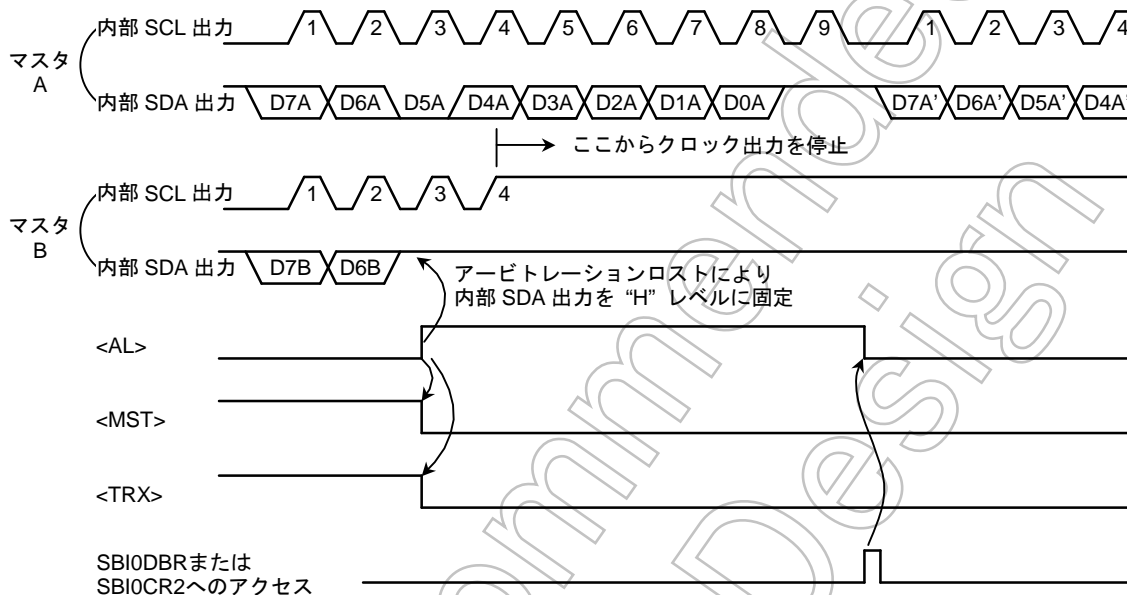


図 3.11.12 マスタ B の場合の例 (D7A = D7B, D6A = D6B)

#### (11) スレーブアドレス一致検出モニタ

SBI0SR<AAS>は、スレーブモード時、アドレス認識モード (I2C0AR<ALS> = “0”) のとき、ゼネラルコールまたは I2C0AR にセットした値と同じスレーブアドレスを受信すると“1”にセットされます。<ALS> = “1”のときは、最初の 1 ワードが受信されると“1”にセットされます。<AAS>は SBI0DBR にデータをライトするか、SBI0DBR からデータをリードすると“0”にクリアされます。

#### (12) ゼネラルコール検出モニタ

SBI0SR<AD0>は、スレーブモード時、ゼネラルコール (スタートコンディション後の 8 ビットのデータがすべて“0”) を受信したとき“1”にセットされ、バス上のスタートコンディション、またはストップコンディションが検出されると“0”にクリアされます。

#### (13) 最終受信ビットモニタ

SBI0SR<LRB>には、SCL ラインの立ち上がりで取り込まれた SDA ラインの値がセットされます。

アクノリッジメントモードのとき、INTSBI 割り込み要求発生直後に SBI0SR<LRB>をリードすると、ACK 信号がリードされます。

**(14) ソフトウェアリセット**

シリアルバスインタフェース回路が、外部からのノイズによりロックした場合、ソフトウェアリセット機能を使い、シリアルバスインタフェース回路を初期化することができます。

SBI0CR2<SWRST1:0> へ、最初に“10”、次に“01”をライトすると、シリアルバスインタフェース回路にリセット信号が入力され、回路が初期化されます。

このとき、SBI0CR2<SBIM1:0>を除くすべてのコントロールレジスタとステータスフラグはリセット直後の値となります。

また、SBI0CR1<SWRMON>は、シリアルバスインタフェース回路の初期化が終了すると、自動的に“1”にセットされます。

**(15) シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ (SBI0DBR)**

SBI0DBR をリード/ライトすることで、受信データのリード/送信データのライトを行います。

また、マスタモード時において、このレジスタにスレーブアドレスと方向ビットを設定後、スタートコディションを発生します。

**(16) I<sup>2</sup>C バスアドレスレジスタ (I2C0AR)**

I2C0AR<SA6:0>は、スレーブデバイスとして動作する場合のスレーブアドレスを設定するビットです。

また、I2C0AR <ALS> = “0” に設定すると、マスタデバイスから出力されるスレーブアドレスを認識し、データフォーマットはアドレッシングフォーマットとなります。<ALS> = “1” に設定すると、スレーブアドレスを認識せず、データフォーマットはフリーデータフォーマットとなります。

**(17) ボーレートレジスタ (SBI0BR1)**

I<sup>2</sup>C バスを使用する前に、ボーレート回路制御レジスタ SBI0BR1<P4EN> に“1”をライトしてください。

**(18) IDLE2 設定レジスタ (SBI0BR0)**

SBI0BR0<I2SBI0>は IDLE2 モードに遷移した際に動作の許可/禁止を設定するレジスタです。

HALT 命令を実行する前に、あらかじめ設定してください。

### 3.11.6 I<sup>2</sup>Cバスモード時のデータ転送手順

#### (1) デバイスの初期化

最初に SBI0BR1<P4EN>, SBI0CR1<ACK, SCK2:0> を設定します。  
SBI0BR1<P4EN>="1" を、SBI0CR1 のビット 7~5, 3 には、"0" をライトしてください。

次に I2C0AR にスレーブアドレス <SA6:0> と <ALS> (アドレッシングフォーマット時、<ALS>="0") を設定します。

最後に、SBI0CR2<MST, TRX, BB> に "0"、<PIN> に "1"、<SBIM1:0> に "10"、ビット 1, 0 に "0" をライトし、初期状態をスレーブレシーバモードにします。

#### (2) スタートコンディション、スレーブアドレスの発生

##### 1. マスタモードの場合

マスタモード時は、スタートコンディションとスレーブアドレスを、次の手順で発生します。

はじめに、バスフリー状態 (<BB>="0") を確認します。

次に、SBI0CR1<ACK> に "1" をライトして、アクノリッジメントモードに設定します。また、SBI0DBR に、送信するスレーブアドレスと方向ビットのデータをライトします。

<BB>="0" の状態で、SBI0CR2<MST, TRX, BB, PIN> に "1111" をライトすると、バス上にスタートコンディションが発生します。スタートコンディションの発生に次いで、SCL 端子から 9 発のクロックを出力します。最初の 8 クロックで、SBI0DBR に設定したスレーブアドレスと方向ビットを出力します。9 クロック目で、SDA ラインを開放し、スレーブデバイスからのアクノリッジ信号を受信します。

9 クロック目の立ち下がり、INTSBI 割り込み要求が発生し、<PIN>="0" にクリアされます。マスタモード時は、<PIN>="0" の間 SCL ラインを "L" レベルに引きます。また、スレーブデバイスからのアクノリッジ信号が返ってきたときのみ、INTSBI 割り込み要求の発生により、送信した方向ビットに合わせて <TRX> は変化します。

##### 2. スレーブモードの場合

スレーブモードの場合は、スタートコンディションとスレーブアドレスを受信します。

マスタデバイスからのスタートコンディションを受信した後、SCL ラインの最初の 8 クロックで、マスタデバイスからのスレーブアドレスと方向ビットを受信します。ゼネラルコール、または I2C0AR に設定されたスレーブアドレスと同一のアドレスを受信したとき、9 クロック目で SDA ラインを "L" レベルに引き、アクノリッジ信号を出力します。

9 クロック目の立ち下がり、INTSBI 割り込み要求が発生し、<PIN>="0" にクリアされます。スレーブモード時は、<PIN>="0" の間、SCL ラインを "L" レベルに引きます。

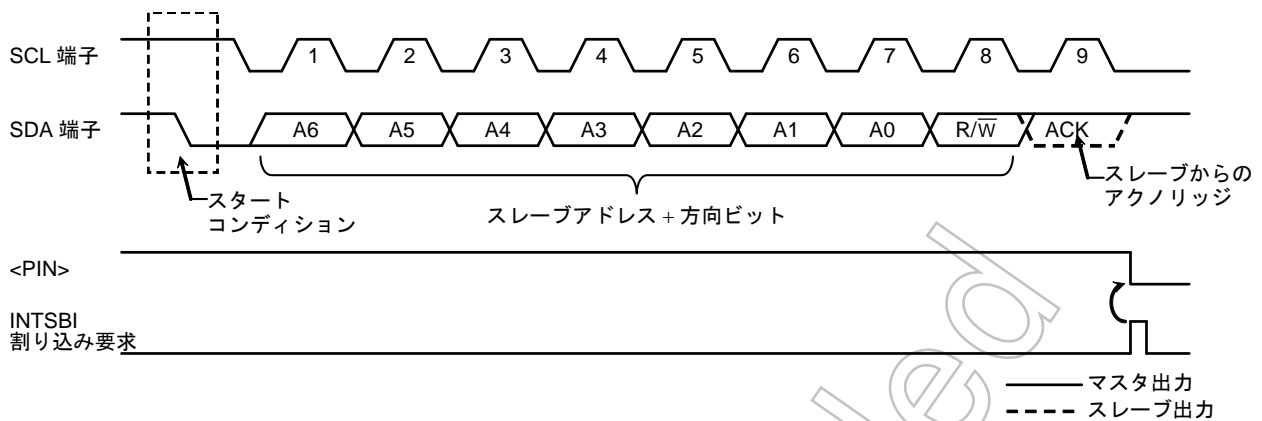


図 3.11.13 スタートコンディションとスレーブアドレスの発生

## (3) 1ワードのデータ転送

1ワード転送終了のINTSBI割り込みの処理で<MST>をテストし、マスタモード/スレーブモードの判断をします。

## 1. マスタモードの場合 (&lt;MST&gt; = "1")

<TRX>をテストし、トランスミッタ/レシーバの判断をします。

## トランスミッタモードの場合 (&lt;TRX&gt; = "1")

<LRB>をテストします。<LRB>が"1"のとき、レシーバはデータを要求していないのでストップコンディションを発生する処理(後記参照)を行ってデータ転送を終了します。

<LRB>が"0"のとき、レシーバが次のデータを要求しています。次に転送するデータのビット数が8ビットのとき、SBI0DBRに転送データをライトします。8ビット以外のときは<BC2:0>, <ACK>を設定し、転送データをSBI0DBRにライトします。データをライトすると<PIN>が"1"になりSCL端子から次の1ワードのデータ転送用のシリアルクロックが発生され、SDA端子から1ワードのデータが転送されます。転送終了後INTSBI割り込み要求が発生し、<PIN>が"0"になりSCL端子を"L"レベルに引きます。複数ワードの転送が必要な場合は、上記<LRB>のテストから繰り返します。

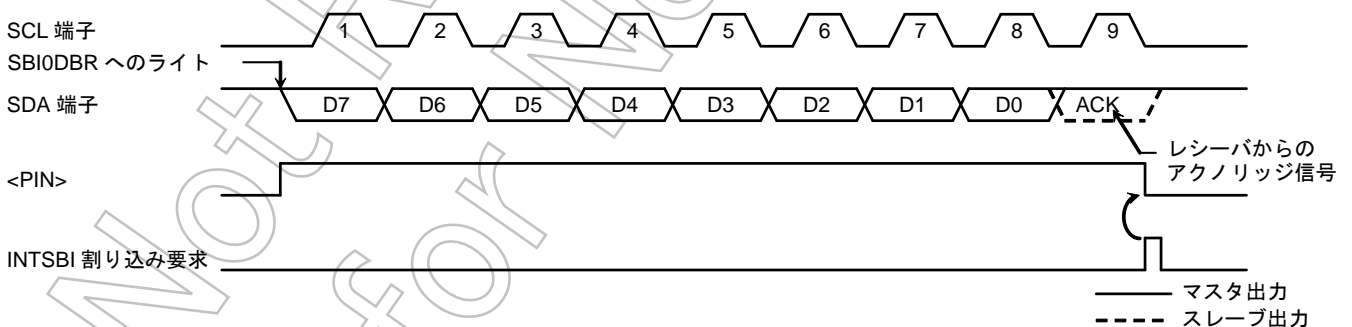


図 3.11.14 &lt;BC2:0&gt; = "000", &lt;ACK&gt; = "1" のときの例 (トランスミッタモード)

## レシーバモードの場合 (&lt;TRX&gt; = "0")

転送するデータのビット数が8ビット以外のときは <BC2:0>, <ACK> を設定し、SCL ラインを開放するために SBI0DBR から受信データをリードします (スレーブアドレス送信直後のリードデータは不定です)。データをリードすると <PIN> は "1" になり、次の1ワードのデータ転送用シリアルクロックを SCL 端子に出力し、アクノリッジのタイミングで "L" レベルを SDA 端子に出力します。

その後、INTSBI 割り込み要求が発生し、<PIN> が "0" になり SCL 端子を "L" レベルにひきます。SBI0DBR から受信データをリードするたびに、1ワードの転送クロックとアクノリッジを出力します。

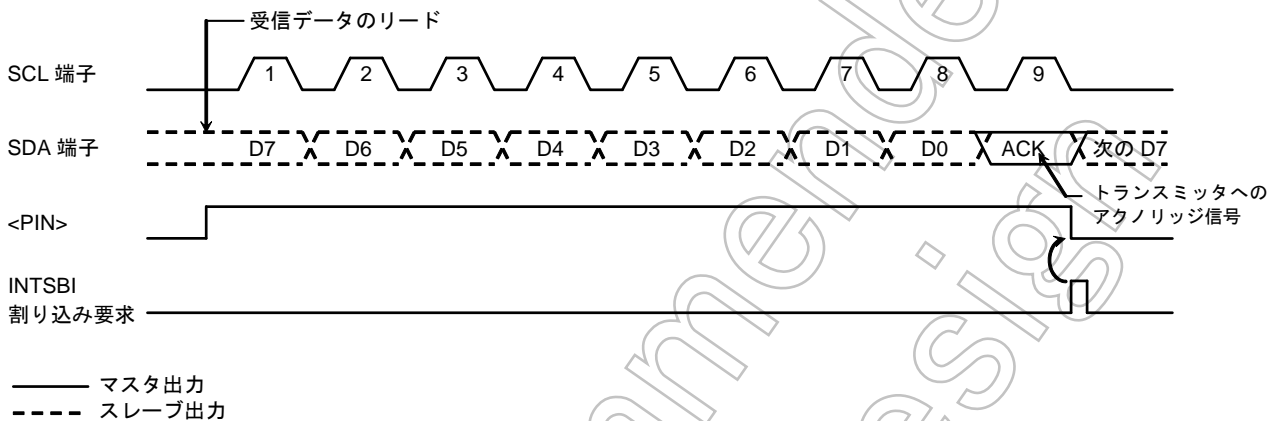


図 3.11.15 <BC2:0> = "000", <ACK> = "1" のときの例 (レシーバモード)

トランスミッタに対してデータの送信を終了させるときは、最後に受信したいデータの1ワード手前のデータをリードする前に <ACK> を "0" にクリアします。これにより、最終データのアクノリッジのためのクロックは発生されなくなります。転送終了の割り込み要求発生後の処理で <BC2:0> = "001" に設定し、データをリードすると、1ビット転送のためのクロックを発生します。このときマスタはレシーバなので、バスの SDA ラインは "H" レベルを保ちます。トランスミッタは ACK 信号としてこの "H" レベルを受信するので、レシーバはトランスミッタへ送信終了を知らせることができます。

この1ビット転送の受信終了割り込み要求後の処理で、ストップコンディションを発生させ、データ転送を終了させます。

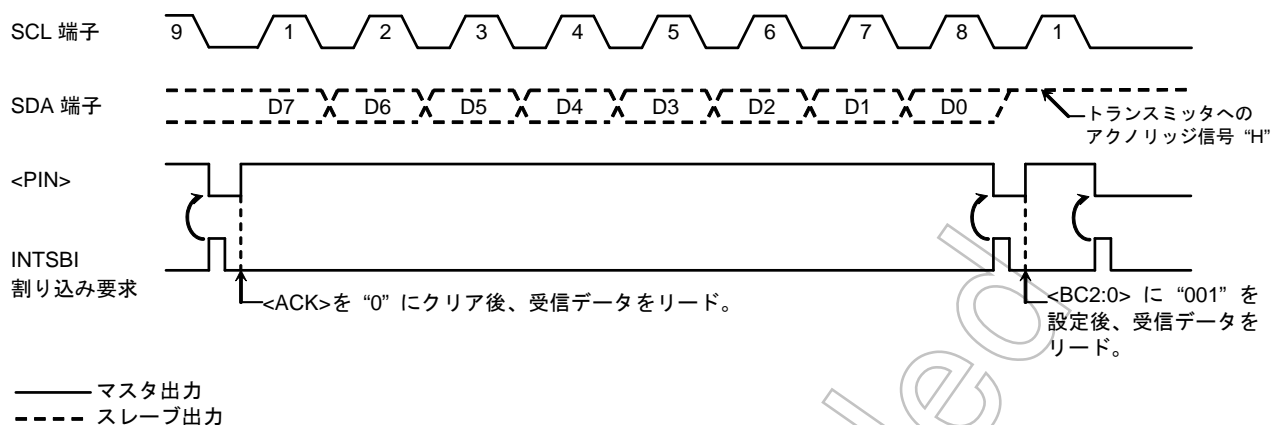


図 3.11.16 マスタレシーバモード時、データの送信を終了させるときの処理

2. スレーブモードの場合 (<MST> = "0")

スレーブモード時は、通常のスレーブモードとしての処理、またはアービトレーションロストを検出し、スレーブモードになったときの処理を行います。

スレーブモードのとき、マスタが送ったスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信したとき、もしくは、受信したスレーブアドレスが一致した後、または、ゼネラルコールを受信した後のデータ転送終了時に INTSBI 割り込み要求が発生します。また、マスタモードのとき、アービトレーションロストを検出するとスレーブモードとして動作し、アービトレーションロストを検出したワード転送の終了時に INTSBI 割り込み要求が発生します。INTSBI 割り込み要求が発生すると <PIN> が "0" にリセットされ、SCL 端子を "L" レベルに引きます。SBI0DBR にデータをライト、SBI0DBR からデータをリード、または <PIN> に "1" を設定すると、SCL 端子が t<sub>LOW</sub> 後に開放されます。

SBI0SR<AL>, <TRX>, <AAS>, <AD0> をテストし、場合分けを行います。表 3.11.1 にスレーブモード時の状態と必要な処理を示します。

表 3.11.1 スレーブモード時の処理

<TRX>	<AL>	<AAS>	<AD0>	状態	処理
1	1	1	0	スレーブアドレス送信中にアービトレーションロストを検出し、ほかのマスタが送った方向ビットが“1”のスレーブアドレスを受信	1 ワードのビット数を <BC2:0> にセットし、送信するデータを SBI0DBR にライトします。
	0	1	0	スレーブレシーバモード時、マスタが送った方向ビットが“1”のスレーブアドレスを受信	
		0	0	スレーブトランスミッタモード時、1 ワードのデータの送信が終了	
0	1	1	1/0	スレーブアドレス送信中にアービトレーションロストを検出し、ほかのマスタが送った方向ビットが“0”のスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信	<PIN> を“1”にセットするために SBI0DBR をリードするか(ダミーリード)、または <PIN> に“1”をライトします。
		0	0	スレーブアドレスを送信中またはデータ送信中にアービトレーションロストを検出し、そのワードの転送が終了	
	0	1	1/0	スレーブレシーバモード時、マスタの送った方向ビットが“0”のスレーブアドレス、またはゼネラルコールを受信	1 ワードのビット数を <BC2:0> にセットし、受信データを SBI0DBR からリードします。
		0	1/0	スレーブレシーバモード時、1 ワードのデータの受信が終了	



## (4) ストップコンディションの発生

SBI0SR<BB> = “1” のときに、SBI0CR2<MST, TRX, PIN>に “1”、<BB>に “0” をライトすると、バス上にストップコンディション出力のシーケンスを開始します。バス上にストップコンディションが発生するまで、<MST, TRX, BB, PIN>の内容を書き替えないでください。

なお、バスの SCL ラインがほかのデバイスにより引かれていた場合、SCL ラインが開放されるのを待ち、SDA 端子が立ち上がり、ストップコンディションが発生します。

<MST, TRX, PIN>に “1”、<BB>に “0” をライトした場合（マスタモードでのストップコンディション発生）は、ストップコンディションを待たずにライト後、内部 SCL が “1” になると SBI0SR<BB>が “0” になります。

よって、バスフリー状態の検出には、ポート入力による SCL, SDA 端子の信号レベル “1” の確認が必要となります。

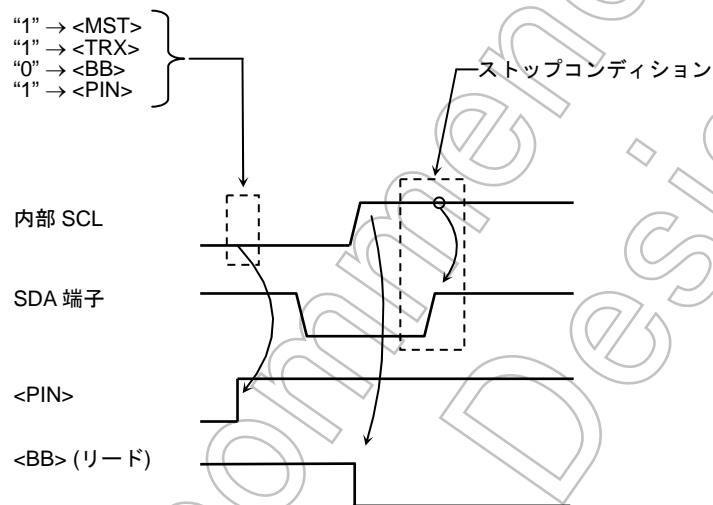


図 3.11.17 ストップコンディションの発生 (シングルマスタの場合)

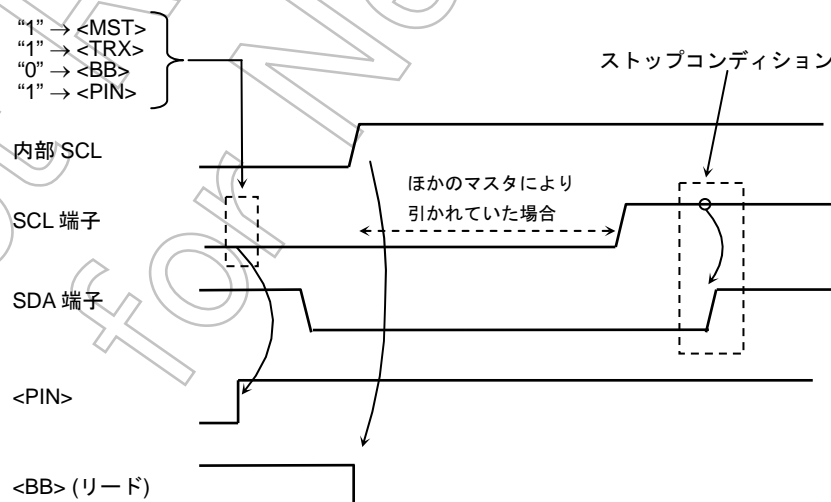


図 3.11.18 ストップコンディションの発生 (マルチマスタの場合)

## (5) 再スタートの手順

再スタートはマスタデバイスがスレーブデバイスに対して、データ転送を終了させずに転送の方向を変化させるときに使用します。マスタモード時、再スタートを発生する場合の手順を以下に示します。

まず、SBIOCR2<MST, TRX, BB>に“0”、<PIN>に“1”をライト、バスを開放します。このとき SDA 端子は“H”レベルを保ち、SCL 端子が開放され、バス上にストップコンディションが発生されないため、ほかのデバイスから見るとバスはビジー状態のままです。このあと、SBIOSR<BB>をテストして“0”になるまで待ち、SCL 端子が開放されたことを SBIOSR<BB>=“0”、もしくはポート設定を変更し、SCL 端子の信号レベル“1”の確認を行います。

次に<LRB>をテストして“1”になるまで待ち、ほかのデバイスがバスの SCL ラインを“L”レベルにひいていないことを確認します。以上の手順によってバスがフリー状態になっていることを確認した後に、前記(2)の手順でスタートコンディションの発生を行います。

なお、再スタート時のセットアップタイムを満たすために、バスフリーの確認からスタートの発生まで、最低 4.7  $\mu$ s のソフトウェアによる待ち時間が必要です。

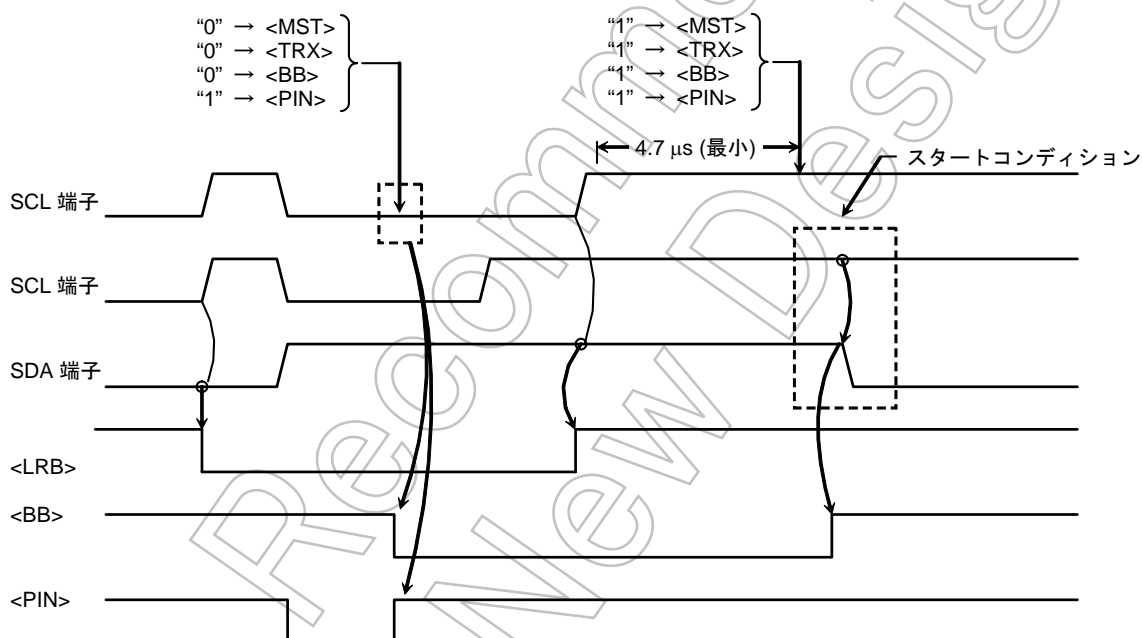


図 3.11.19 再スタートを発生する場合のタイミングチャート

### 3.11.7 クロック同期式 8 ビットSIOモード時の制御

シリアルバスインタフェースをクロック同期式 8 ビット SIO モードで使用するときの制御、および、動作状態のモニタは、以下のレジスタで行います。

シリアルバスインタフェース制御レジスタ 1

SBI0CR1 (0240H)	Bit symbol	SIOS	SIOINH	SIOM1	SIOM0		SCK2	SCK1	SCK0
	Read/Write	W					W		W
	リセット後	0	0	0	0		0	0	0
	機能	転送の開始/終了 0: 終了 1: 開始	転送の強制停止 0: 転送継続 1: 強制停止	転送モードの選択 00: 送信モード 01: (Reserved) 10: 送受信モード 11: 受信モード			シリアルクロック周波数の選択とリセット モニタ		

リード  
モディファイ  
ライト  
できません。

シリアルクロック周波数の選択 <SCK2:0> @ライト

000	n=4	1.7 MHz	システムクロック: fc クロックギア: fc/1 fc = 27 MHz (SCK 端子への出力) $周波数 = \frac{fc}{2^n}$ [Hz]
001	n=5	843.8 kHz	
010	n=6	421.9 kHz	
011	n=7	210.9 kHz	
100	n=8	105.5 kHz	
101	n=9	52.7 kHz	
110	n=10	26.4 kHz	
111	-	外部クロック (SCK 端子から入力)	

転送モードの選択

00	8 ビット送信モード
01	(Reserved)
10	8 ビット送受信モード
11	8 ビット受信モード

転送の強制停止

0	転送継続
1	強制停止 (停止後、自動的にクリア)

転送の開始/終了

0	終了
1	開始

注) 転送モード, シリアルクロックの設定時は、<SIOS> = "0" および <SIOINH> = "1" に設定してください。

シリアルバスインタフェースデータバッファレジスタ

SBI0DBR (0241H) リード モディファイ ライト できません。	Bit symbol	DB7	DB6	DB5	DB4	DB3	DB2	DB1	DB0
	Read/Write	R (受信)/W (送信)							
	リセット後	不定							

図 3.11.20 SIO モード関係のレジスタ

シリアルバスインタフェース制御レジスタ 2

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0CR2 (0243H)	Bit symbol					SBIM1	SBIM0	-	-
	Read/Write					W		W	W
	リセット後					0	0	0	0
リード モディファイ ライト できません。	機能					シリアルバスインタフェース の動作モード選択 00:ポートモード 01:SIOモード 10:I <sup>2</sup> Cバスモード 11:(Reserved)		"0"をライトし てください。 注2)	"0"をライトし てください。 注2)

注 1) クロック同期式 8 ビット SIO モードに切り替える前に、SBI0CR1<BC2:0> を "000" にクリアしてください。  
注 2) SBI0CR2 のビット 1:0 には "00" 以外をライトしないでください。

シリアルバスインタフェースの動作モード選択

00	ポートモード (シリアルバスインタフェースの出力禁止)
01	クロック同期式 8 ビット SIO モード
10	I <sup>2</sup> C バスモード
11	(Reserved)

シリアルバスインタフェースレジスタ

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0SR (0243H)	Bit symbol					SIOF	SEF		
	Read/Write					R			
	リセット後					0	0		
	機能					シリアル 転送動作 状態モニタ	シフト動作 状態モニタ		

シリアル転送動作状態モニタ

0	転送終了
1	転送中

シフト動作状態モニタ

0	シフト動作終了
1	シフト転送中

シリアルバスインタフェースポーレートレジスタ 0

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0BR0 (0244H)	Bit symbol	-	I2SBI0						
	Read/Write	W	R/W						
	リセット後	0	0						
リード モディファイ ライト できません。	機能	"0"をライ トしてく ださい。	IDLE2 0: 停止 1: 動作						

IDLE2 時の動作

0	停止
1	動作

シリアルバスインタフェースポーレートレジスタ 1

		7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0BR1 (0245H)	Bit symbol	P4EN	-						
	Read/Write	W							
	リセット後	0	0						
リード モディファイ ライト できません。	機能	内部ク ロック 0: 停止 1: 動作	"0"をライ トしてく ださい。						

内部ポーレート回路制御

0	停止
1	動作

図 3.11.21 SIO モード関係のレジスタ

## (1) シリアルクロック

## 1. クロックソース

SBI0CR1<SCK2:0>により、次の選択ができます。

内部クロック

内部クロックモードでは7種類の周波数が選択できます。シリアルクロックはSCK端子より外部に出力されます。

プログラムでデータのライト(送信時)、またはデータのリード(受信時)がこのシリアルクロックレートに追従できないときには、自動的にシリアルクロックを停止し、それらの処理が終了するまで次のシフト動作を待機させる自動ウェイト機能を持っています。

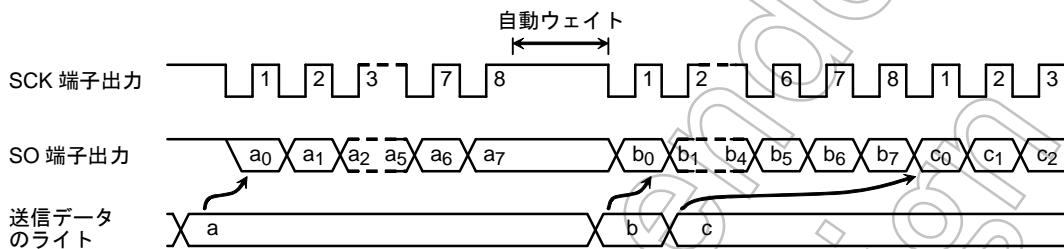


図 3.11.22 自動ウェイト機能

外部クロック (<SCK2:0> = "111")

外部から SCK 端子に供給されるクロックをシリアルクロックとして用います。なお、シフト動作を確実にを行うためには、シリアルクロックの“H”レベル、“L”レベル幅は、下記に示すパルス幅が必要です。従って、最大転送周波数は 1.7MHz ( $f_c = 27\text{MHz}$  時) です。

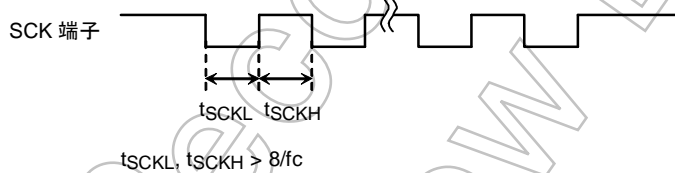


図 3.11.23 外部クロック入力時の最大転送周波数

## 2. シフトエッジ

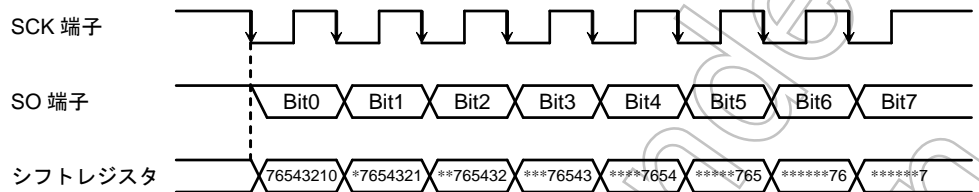
送信は前縁シフト, 受信は後縁シフトになります。

前縁シフト

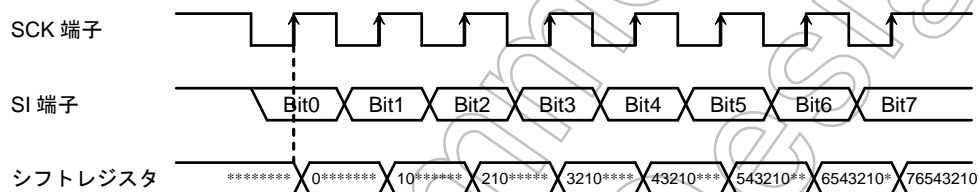
シリアルクロックの前縁 (SCK 端子入出力の立ち下がりエッジ) でデータをシフトします。

後縁シフト

シリアルクロックの後縁 (SCK 端子入出力の立ち上がりエッジ) でデータをシフトします。



(a) 送信データはクロックの立下りで出力される



(b) 受信データはクロックの立ち上がりで取り込まれる

\*: Don't care

図 3.11.24 シフトエッジ

## (2) 転送モード

SBI0CR1<SIOM1:0> で、送信/受信/送受信モードを選択します。

## 1. 8ビット送信モード

制御レジスタに送信モードをセットした後、送信データを SBI0DBR にライトします。

送信データのライト後、SBI0CR1<SIOS> = “1” をライトすることにより送信が開始されます。送信データは、SBI0DBR からシフトレジスタに移され、シリアルクロックに同期して最下位ビット (LSB) 側から SO 端子に出力されます。送信データがシフトレジスタに移されると、SBI0DBR が空になりますので、次の送信データを要求する INTSBI (バッファエンプティ) 割り込み要求が発生します。

内部クロック動作の場合、8ビットのデータをすべて送信した後、次のデータがセットされていないとシリアルクロックを停止して自動ウェイト動作を行います。次の送信データをライトすると、自動ウェイト動作は解除されます。

外部クロック動作の場合、次のデータのシフト動作に入る前に、SBI0DBR にデータがライトされている必要があります。従って、転送速度は、割り込み要求の発生から割り込みサービスプログラムにて、SBI0DBR にデータをライトするまでの最大遅れ時間により決まります。

送信開始時、SBI0SR<SIOF> が “1” となってから SCK の立ち下がりエッジまでの間、前回送信したデータの最後のビットと同じ値が出力されます。

送信を終了させるには、INTSBI 割り込みサービスプログラムで <SIOS> = “0” をライトするか <SIOINH> = “1” をライトします。<SIOS> がクリアされると、データがすべて出力された時点で送信終了します。プログラムで送信の終了の確認は SBI0SR<SIOF> で行います。<SIOF> は送信の終了で “0” になります。<SIOINH> = “1” をライトした場合は直ちに送信を打ち切り、<SIOF> は “0” になります。

外部クロック動作では、次の送信データのシフト動作に入る前に <SIOS> を “0” にクリアする必要があります。もしシフトアウトする前に <SIOS> がクリアされなかった場合は、ダミーのデータの送信後に停止します。

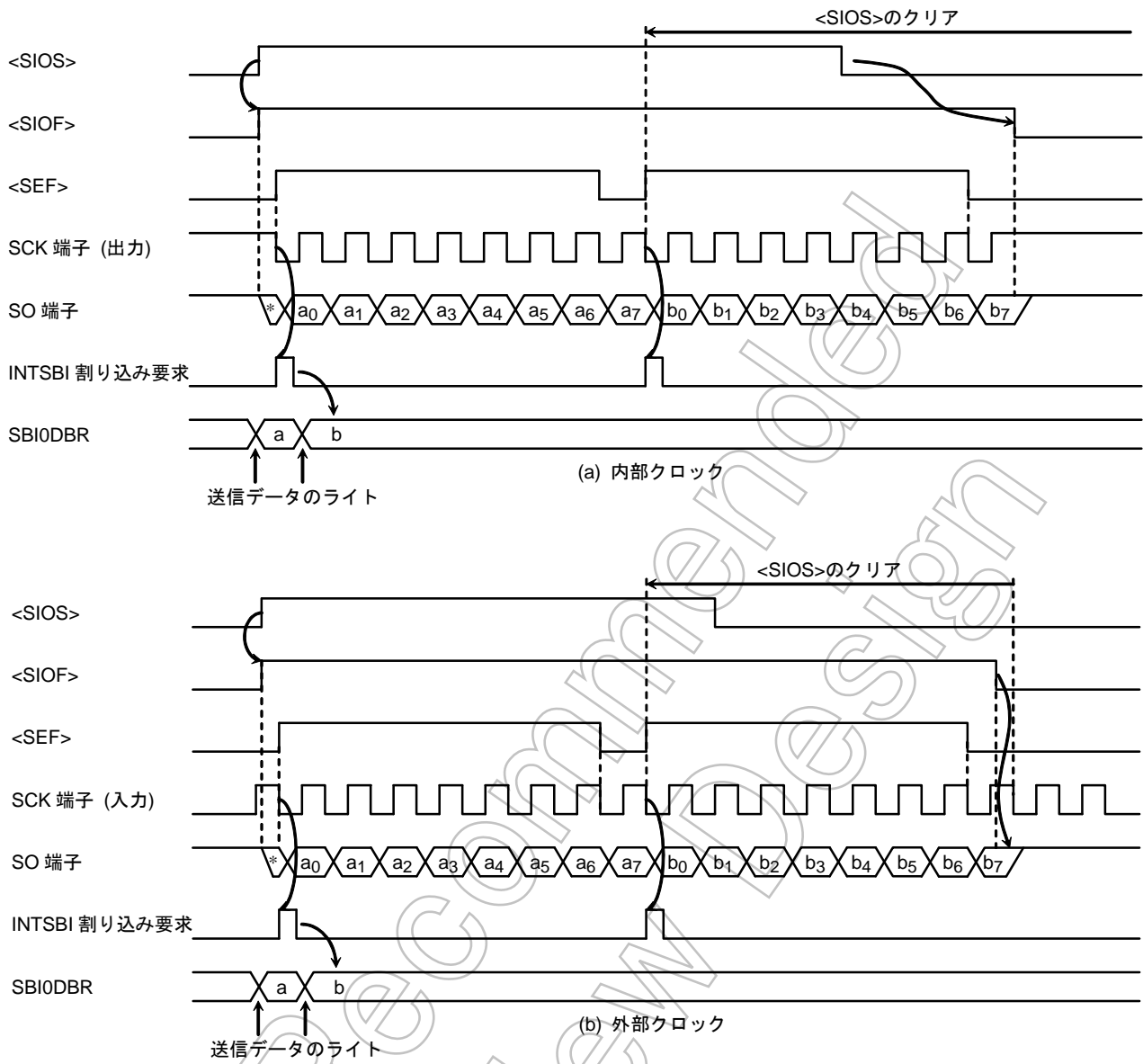


図 3.11.25 送信モード

例: <SIOS> の送信終了指示 (外部クロックの場合)。

```

STEST1 : BIT 2, (SBI0SR) ; If <SEF> = 1 then loop
        JR NZ, STEST1
STEST2 : BIT 0, (P6) ; If SCK = "0" then loop
        JR Z, STEST2
        LD (SBI0CR1), 00000111B ; <SIOS> ← 0
    
```



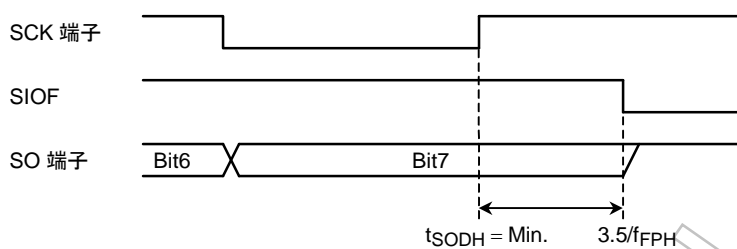


図 3.11.26 送信終了時の送信データ保持時間

## 2. 8ビット受信モード

制御レジスタに受信モードをセットした後、 $\text{SBI0CR1}\langle\text{SIOS}\rangle = "1"$  をライトすることにより受信可能となります。シリアルクロックに同期して、SI 端子より最下位ビット側からシフトレジスタへデータを取り込みます。8ビットのデータが取り込まれると、シフトレジスタから  $\text{SBI0DBR}$  に受信データがライトされ、受信データのリードを要求する  $\text{INTSBI}$  (バッファフル) 割り込み要求が発生します。受信データは、割り込みサービスプログラムにて  $\text{SBI0DBR}$  からリードします。

内部クロック動作の場合、受信データが  $\text{SBI0DBR}$  からリードされるまで、シリアルクロックを停止する自動ウェイト動作を行います。

外部クロック動作の場合は、シフト動作が外部から供給されるクロックに同期しますので、次のシリアルクロックが入力される前に受信データをリードします。もし、受信データがリードされない場合、それ以降に入力される受信データはキャンセルされます。外部クロック動作での最大転送速度は、割り込み要求の発生から受信データのリードまでの最大遅れ時間により決まります。

受信を終了させるには、 $\text{INTSBI}$  割り込みサービスプログラムで  $\langle\text{SIOS}\rangle = "0"$  をライトするか、 $\langle\text{SIOINH}\rangle = "1"$  をライトします。 $\langle\text{SIOS}\rangle$  がクリアされると受信データが全ビットそろい、 $\text{SBI0DBR}$  へのライトが完了した時点で受信が終了します。プログラムによる受信終了の確認は、 $\text{SBI0SR}\langle\text{SIOF}\rangle$  で行います。 $\langle\text{SIOF}\rangle$  は受信の終了で "0" にクリアされます。受信終了の確認後、最終受信データをリードします。 $\langle\text{SIOINH}\rangle = "1"$  をライトした場合は、直ちに受信を打ち切り、 $\langle\text{SIOF}\rangle$  は "0" になります (受信データは無効になりますのでリードする必要はありません)。

注) 転送モードを切り替えると、 $\text{SBI0DBR}$  の内容は保持されません。もし、転送モードの切り替えが必要な場合は、受信終了指示 ( $\langle\text{SIOS}\rangle = "0"$  をライト) を行い、最終受信データをリードした後で切り替えてください。

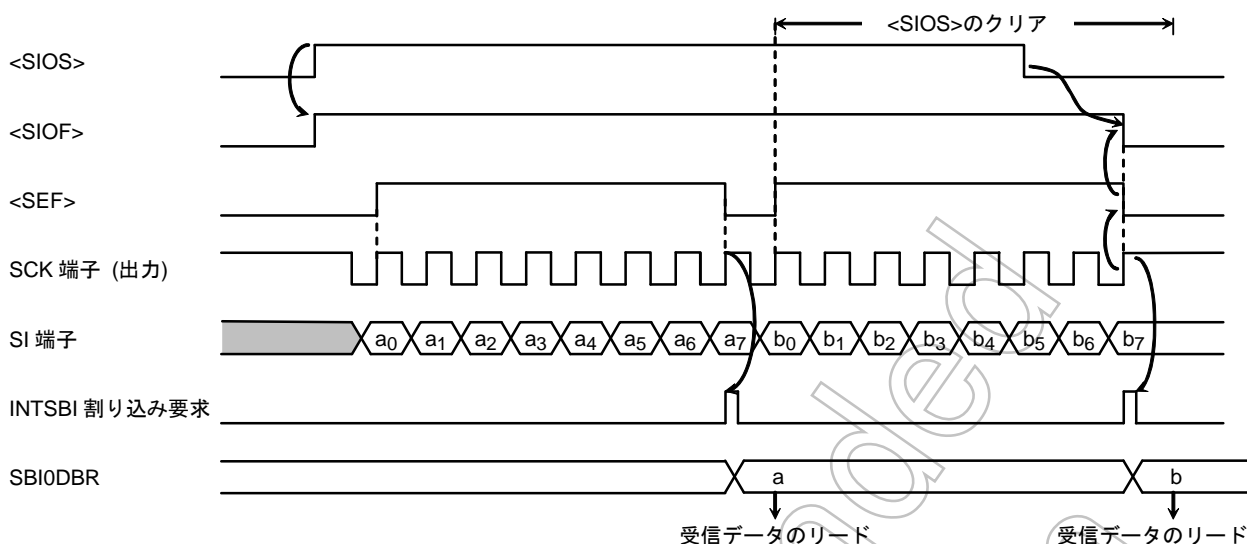


図 3.11.27 受信モード (例: 内部クロック)

### 3. 8ビット送受信モード

制御レジスタに送受信モードをセットした後、送信データを **SBI0DBR** にライトします。その後、**SBI0CR1<SIOS>** に“1”をセットすることにより送受信可能となります。最下位ビットから、シリアルクロックの立ち下がりでの送信データが **SO** 端子から出力され、立ち上がりで受信データが **SI** 端子から取り込まれます。8ビットのデータが取り込まれると、シフトレジスタから **SBI0DBR** へ受信データが転送され、**INTSBI** 割り込み要求が発生します。割り込みサービスプログラムにて受信データをデータバッファレジスタからリード、その後、送信データをライトします。**SBI0DBR** は、送信/受信モードで兼用していますので、送信データは必ず受信データをリードしてからライトするようにしてください。

内部クロック動作の場合、受信データをリードし、次の送信データをライトするまで自動ウェイト動作を行います。

外部クロック動作の場合は、シフト動作が外部から供給されるシリアルクロックに同期しますので、次のシフト動作に入る前に受信データをリードし、次の送信データをライトする必要があります。外部クロック動作での最大転送速度は、割り込み要求の発生から受信データをリードし、送信データをライトするまでの最大遅れ時間により決まります。

送信開始時、**<SIOF>** が“1”となってから **SCK** の立ち下がりエッジまでの間、前回送信したデータの最後のビットと同じ値が出力されます。

送受信を終了させるには、**INTSBI** 割り込みサービスプログラムで **<SIOS> = “0”** をライトするか、**SBI0CR1<SIOINH> = “1”** をライトします。**<SIOS>** がクリアされると、受信データがそろい、**SBI0DBR** への転送が完了した時点で送受信が終了します。プログラムによる送受信終了の確認は、**SBI0SR<SIOF>** で行います。**<SIOF>** は送受信の終了で“0”にクリアされます。**<SIOINH>** をセットした場合は、直ちに送受信を打ち切り、**<SIOF>** は“0”にクリアされます。

注) 転送モードを切り替えると **SBI0DBR** の内容は保持されません。もし、転送モードの切り替えが必要な場合は、送受信終了指示 (**<SIOS> = “0”** をライト) を行い、最終受信データをリードした後で切り替えてください。

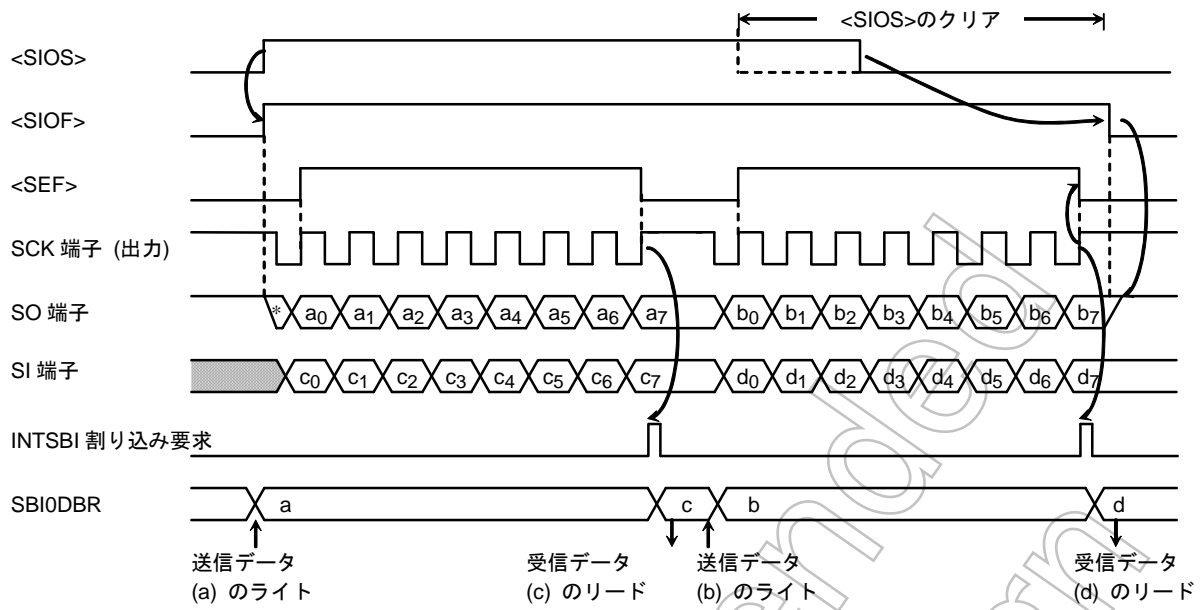


図 3.11.28 送受信モード (例: 内部クロック)



図 3.11.29 送受信終了時の送信データ保持時間 (送受信モード時)

### 3.12 アナログ/デジタルコンバータ

4チャンネルのアナログ入力を持つ10ビット逐次比較方式アナログ/デジタルコンバータ (ADコンバータ) を内蔵しています。

図 3.12.1に、ADコンバータのブロック図を示します。

4チャンネルのアナログ入力端子 (AN0~AN3) は、入力専用ポート5と兼用で入力ポートとしても使用できます。

注) IDLE2, IDLE1, STOPモードにより電源電流を低減させる場合は、タイミングにより内部コンパレータがイネーブル状態のままスタンバイに入ることがありますので、ADコンバータの動作が停止していることを確認してから HALT 命令を実行してください。

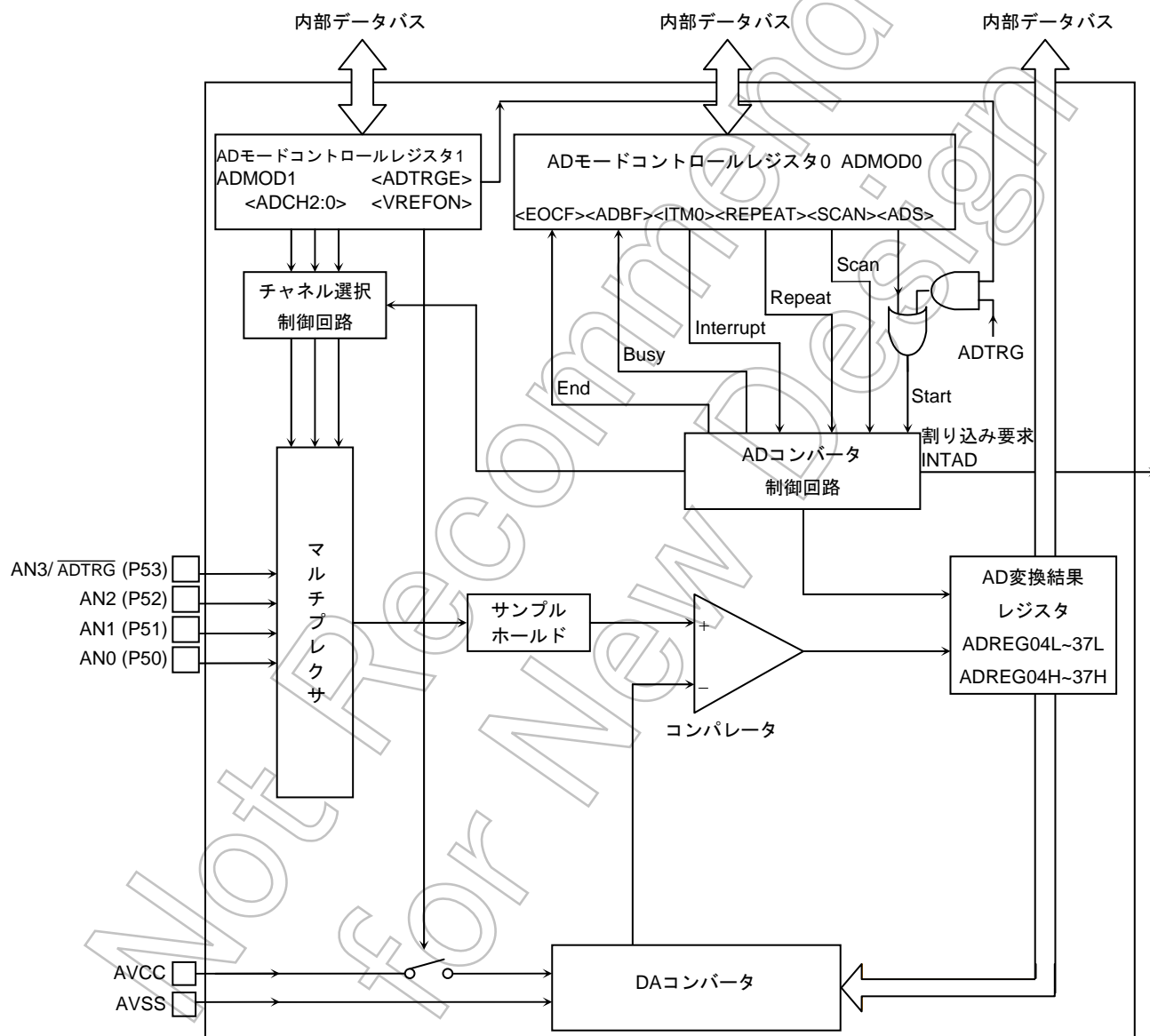


図 3.12.1 ADコンバータのブロック図

3.12.1 コントロールレジスタ

AD コンバータは、AD モードコントロールレジスタ (ADMOD0, ADMOD1) により制御されています。また、AD 変換結果は、AD 変換結果上位/下位レジスタ ADREG04H/L, ADREG15H/L, ADREG26H/L, ADREG37H/L の 8 つのレジスタに格納されます。

図 3.12.2~図 3.12.5に、ADコンバータ関係のレジスタを示します。

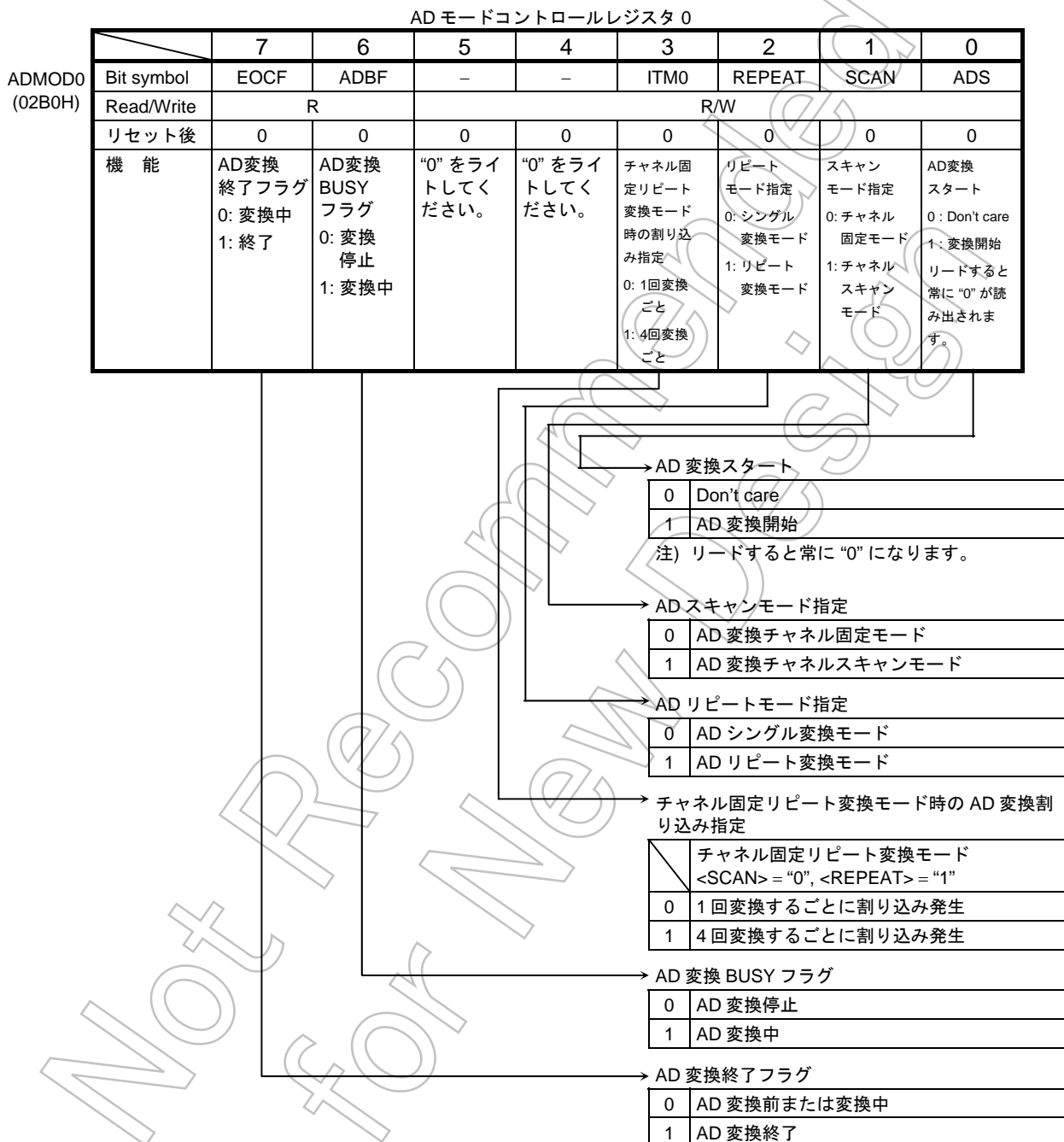


図 3.12.2 AD コンバータ関係のレジスタ

ADモードコントロールレジスタ1

	7	6	5	4	3	2	1	0
Bit symbol	VREFON	I2AD			ADTRGE	ADCH2	ADCH1	ADCH0
Read/Write	R/W	R/W			R/W			
リセット後	0	0			0	0	0	0
機能	VREF 印加制御 0: OFF 1: ON	IDLE2 0: 停止 1: 動作			AD外部 トリガ スタート 制御 0: 禁止 1: 許可	アナログ入力チャンネル選択		

アナログ入力チャンネル選択

	0	1
<SCAN>	0 (チャンネル 固定)	1 (チャンネル スキャン)
<ADCH2:0>		
000	AN0	AN0
001	AN1	AN0 → AN1
010	AN2	AN0 → AN1 → AN2
011 (注)	AN3	AN0 → AN1 → AN2 → AN3
100	選択しないでください。	
101		
110		
111		

外部トリガ (ADTRG 入力) による AD 変換スタート制御

0	ディセーブル
1	イネーブル

IDLE2 制御

0	停止
1	動作

AD コンバータ用基準電圧印加制御

0	OFF
1	ON

変換スタート前 (ADMOD0<ADS> に "1" を書き込む前) に、<VREFON> を "1" に設定してください。

注) AN3 端子は、ADTRG 入力端子と兼用になっています。このため、<ADTRGE> = "1" で ADTRG を使用している場合は、<ADCH2:0> = "011" に設定しないでください。

図 3.12.3 AD コンバータ関係のレジスタ

AD 変換結果下位レジスタ 0/4

	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG04L (02A0H)	Bit symbol	ADR01	ADR00					ADR0RF	
	Read/Write	R							R
	リセット後	不定							0
	機能	AD変換結果下位 2ビット格納							AD変換結果格 納フラグ 1: 変換結果 あり

AD 変換結果上位レジスタ 0/4

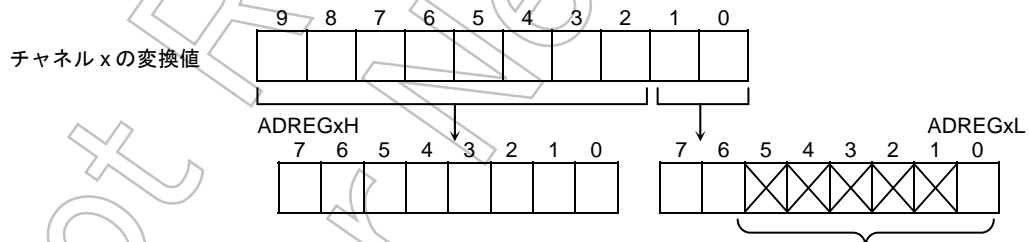
	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG04H (02A1H)	Bit symbol	ADR09	ADR08	ADR07	ADR06	ADR05	ADR04	ADR03	ADR02
	Read/Write	R							
	リセット後	不定							
	機能	AD 変換結果上位 8ビット格納							

AD 変換結果下位レジスタ 1/5

	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG15L (02A2H)	Bit symbol	ADR11	ADR10					ADR1RF	
	Read/Write	R							R
	リセット後	不定							0
	機能	AD 変換結果下位 2ビット格納							AD変換結果格 納フラグ 1: 変換結果 あり

AD 変換結果上位レジスタ 1/5

	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG15H (02A3H)	Bit symbol	ADR19	ADR18	ADR17	ADR16	ADR15	ADR14	ADR13	ADR12
	Read/Write	R							
	リセット後	不定							
	機能	AD 変換結果上位 8ビット格納							



- ビット5~1を読み出すと、常に“1”になります。
- ビット0は、AD 変換結果格納フラグ <ADRxRF> です。AD 変換値が格納されると、“1”にセットされます。どちらかのレジスタ (ADREGxH, ADREGxL) をリードすると、“0”にクリアされます。

図 3.12.4 AD コンバータ関係のレジスタ

AD 変換結果下位レジスタ 2/6

	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG26L (02A4H)	Bit symbol	ADR21	ADR20					ADR2RF	
	Read/Write	R							R
	リセット後	不定							0
	機能	AD変換結果下位 2ビット格納							AD変換結果格納フラグ 1: 変換結果あり

AD 変換結果上位レジスタ 2/6

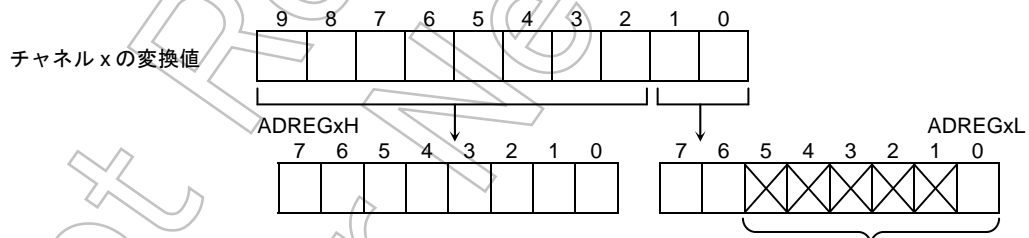
	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG26H (02A5H)	Bit symbol	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22
	Read/Write	R							
	リセット後	不定							
	機能	AD 変換結果上位 8ビット格納							

AD 変換結果下位レジスタ 3/7

	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG37L (02A6H)	Bit symbol	ADR31	ADR30					ADR3RF	
	Read/Write	R							R
	リセット後	不定							0
	機能	AD 変換結果下位 2ビット格納							AD変換結果格納フラグ 1: 変換結果あり

AD 変換結果上位レジスタ 3/7

	7	6	5	4	3	2	1	0	
ADREG37H (02A7H)	Bit symbol	ADR39	ADR38	ADR37	ADR36	ADR35	ADR34	ADR33	ADR32
	Read/Write	R							
	リセット後	不定							
	機能	AD 変換結果上位 8ビット格納							



- ビット 5~1 を読み出すと、常に “1” になります。
- ビット 0 は、AD 変換結果格納フラグ <ADR<sub>x</sub>RF> です。AD 変換値が格納されると、“1” にセットされます。どちらかのレジスタ (ADREG<sub>x</sub>H, ADREG<sub>x</sub>L) をリードすると、“0” にクリアされます。

図 3.12.5 AD コンバータ関係のレジスタ



## 3.12.2 動作説明

## (1) アナログ基準電圧

アナログ基準電圧の“H”レベル側を AVCC 端子に、“L”レベル側を AVSS 端子に印加します。AVCC~AVSS 間の基準電圧をストリング抵抗により 1024 分割し、アナログ入力電圧と比較判定を行うことにより、AD 変換を行います。

ADMOD1<VREFON> ビットに“0”を書き込むことにより、AVCC~AVSS 間のスイッチを OFF できます。なお、OFF している状態から AD 変換スタートをさせる場合は、必ず <VREFON> に“1”を書き込んだ後、内部基準電圧が安定するまでの 3 μs (システムクロック周波数に関係ありません) 待ち、ADMOD0<ADS> に“1”を書き込んでください。

## (2) アナログ入力チャネルの選択

アナログ入力チャネルの選択は、AD コンバータの動作モードによって異なります。

- アナログ入力チャネルを固定で使用する場合 (ADMOD0<SCAN> = “0”)
  - ADMOD1<ADCH2:0> の設定により、アナログ入力 AN0~AN3 端子の中から 1 チャネルを選択します。
- アナログ入力チャネルをスキャンで使用する場合 (ADMOD0<SCAN> = “1”)
  - ADMOD1<ADCH2:0> の設定により、4 種類のスキャンモードの中から 1 つのスキャンモードを選択します。

表 3.12.1 に、動作モード別のアナログ入力チャネルの選択を示します。

リセット後、ADMOD0<SCAN> は“0”に、ADMOD1<ADCH2:0> は“000”に初期化されますので、AN0 端子のチャネル固定入力を選択されます。なお、アナログ入力チャネルとして使用しない端子は、通常の入力ポートとして使用できます。

表 3.12.1 アナログ入力チャネルの選択

<ADCH2:0>	チャネル固定 <SCAN> = “0”	チャネルスキャン <SCAN> = “1”
000	AN0	AN0
001	AN1	AN0 → AN1
010	AN2	AN0 → AN1 → AN2
011	AN3	AN0 → AN1 → AN2 → AN3
100	選択しないでください。	
101		
110		
111		

## (3) AD 変換開始

AD 変換は、ADMOD0<ADS> に“1”を設定するか、ADMOD1<ADTRGE> に“1”を設定し、 $\overline{\text{ADTRG}}$  端子より立ち下がりエッジを入力することにより開始されます。AD 変換が開始されると、AD 変換中を示す AD 変換ビジーフラグ (ADMOD0<ADBF>) が“1”にセットされます。

AD 変換中、<ADS> に“1”を設定すると再起動がかかります。その時点の AD 変換のデータが保証されているかどうかは、変換結果格納フラグ ADREGxxL<ADR<sub>x</sub>RF> を確認して判断してください。

また、AD 変換中、 $\overline{\text{ADTRG}}$  端子に立ち下がりエッジを入力しても無視されます。

## (4) AD 変換モードと AD 変換終了割り込み

AD 変換には、次の 4 つのモードが用意されています。

- チャンネル固定シングル変換モード
- チャンネルスキャンシングル変換モード
- チャンネル固定リピート変換モード
- チャンネルスキャンリピート変換モード

AD 変換モードの選択は、ADMOD0<REPEAT, SCAN>で行います。

AD 変換が終了すると、AD 変換終了割り込み INTAD の割り込み要求が発生します。また、AD 変換終了を示す ADMOD0<EOCF> が“1”にセットされます。

## a. チャンネル固定シングル変換モード

ADMOD0<REPEAT, SCAN> に“00”を設定すると、チャンネル固定シングル変換モードになります。

このモードでは、選択した 1 チャンネルの変換を 1 回だけ行います。変換が終了した後、ADMOD0<EOCF> が“1”にセット、ADMOD0<ADBF> が“0”にクリアされ、INTAD の割り込み要求が発生します。

## b. チャンネルスキャンシングル変換モード

ADMOD0<REPEAT, SCAN> に“01”を設定すると、チャンネルスキャンシングル変換モードになります。

このモードでは、選択したスキャンチャンネルの変換をそれぞれ 1 回だけ行います。スキャン変換が終了した後、ADMOD0<EOCF> が“1”にセット、ADMOD0<ADBF> が“0”にクリアされ、INTAD の割り込み要求が発生します。

## c. チャネル固定リピート変換モード

ADMOD0<REPEAT, SCAN>に“10”を設定すると、チャネル固定リピート変換モードになります。

このモードでは、選択した1チャネルの変換を繰り返し行います。変換が終了した後、ADMOD0<EOCF>が“1”にセットされます。ADMOD0<ADBF>は“0”にクリアされず“1”を保持します。INTADの割り込み要求発生タイミングは、ADMOD0<ITM0>の設定により選択できます。

<ITM0>を“0”に設定すると、AD変換が1回終了するごとに割り込み要求が発生します。

<ITM0>を“1”に設定すると、AD変換が4回終了するごとに割り込み要求が発生します。

## d. チャネルスキャンリピート変換モード

ADMOD0<REPEAT, SCAN>に“11”を設定すると、チャネルスキャンリピート変換モードになります。

このモードでは、選択したスキャンチャネルの変換を繰り返し行います。1回のスキャン変換が終了するごとにADMOD0<EOCF>が“1”にセットされ、INTAD割り込み要求が発生します。ADMOD0<ADBF>は“0”にクリアされず“1”を保持します。

リピート変換モード(c, dのモード)の動作を停止させたい場合は、ADMOD0<REPEAT>に“0”を書き込んでください。実行中の変換を終了した時点で、リピート変換モードは終了し、ADMOD0<ADBF>は“0”にクリアされます。

ADMOD1<I2AD>=“0”の場合、IDLE2, IDLE1, STOPモードのホルト状態へ移行すると、AD変換中でもADコンバータは直ちに動作を停止します。ホルト解除後、リピート変換モード(c, d)ではAD変換を最初から開始します。シングル変換モード(a, b)では、変換動作を再開しません(停止したままです)。

表 3.12.2に、AD変換モードと割り込み要求の関係を示します。

表 3.12.2 AD変換モードと割り込み要求の関係

モード	割り込み要求の発生	ADMOD0		
		<ITM0>	<REPEAT>	<SCAN>
チャネル固定 シングル変換モード	変換終了後	X	0	0
チャネルスキャン シングル変換モード	スキャン変換終了後	X	0	1
チャネル固定 リピート変換モード	1回変換すること	0	1	0
	4回変換すること	1		
チャネルスキャン リピート変換モード	1回のスキャン変換が 終了すること	X	1	1

X: Don't care

## (5) AD 変換時間

1 チャンネル当たりの AD 変換ステートは、84 ステート (6.2  $\mu$ s @ f<sub>FPH</sub> = 27 MHz) です。

## (6) AD 変換結果の格納と読み出し

AD 変換結果は、AD 変換結果上位/下位レジスタ (ADREG04H/L~ADREG37H/L) に格納されます (ADREG04H/L~ADREG37H/L は、読み出し専用のレジスタです)。

チャンネル固定リピート変換モードの <ITM0> = “1” では、AD 変換結果は、ADREG04H/L から ADREG37H/L へと順次格納されます。それ以外のモードでは、チャンネル AN0, AN1, AN2, AN3 の変換結果がそれぞれ ADREG04H/L, ADREG15H/L, ADREG26H/L, ADREG37H/L に格納されます。

表 3.12.3 に、アナログ入力チャンネルと AD 変換結果レジスタの対応を示します。

表 3.12.3 アナログ入力チャンネルと AD 変換結果レジスタの対応

アナログ入力 チャンネル (ポート 5)	AD 変換結果レジスタ	
	右記以外の変換モード	チャンネル固定リピート 変換モード (<ITM0> = “1”)
AN0	ADREG04H/L	ADREG04H/L ←
AN1	ADREG15H/L	↓ ADREG15H/L
AN2	ADREG26H/L	↓ ADREG26H/L
AN3	ADREG37H/L	↓ ADREG37H/L —

AD 変換結果格納フラグ <ADR<sub>x</sub>RF> は AD 変換結果下位レジスタをリードしたかどうかを示しています。このフラグは、AD 変換結果レジスタに変換値が格納されると “1” にセットされ、どちらかの AD 変換結果レジスタ (ADREG<sub>xx</sub>H, ADREG<sub>xx</sub>L) を読み出すと “0” にクリアされます。

また、AD 変換結果の読み出しに伴い、AD 変換終了フラグ ADMOD0<EOCF> は “0” にクリアされます。

設定例:

a. チャンネル固定シングル変換モードの設定例

AN3 端子のアナログ入力電圧を AD 変換し、AD 割り込み (INTAD) 処理ルーチンで変換値を 1800H のメモリへ書き込む場合

メインルーチンでの設定

		7 6 5 4 3 2 1 0	
INTE0AD	←	X 1 0 0 - - - -	INTAD をイネーブルにし、割り込みレベルを "4" に設定します。
ADMOD1	←	1 - X X 0 0 1 1	アナログ入力チャンネルを AN3 に設定します。
ADMOD0	←	X X 0 0 0 0 0 1	チャンネル固定シングル変換モードで変換を開始します。

割り込みルーチンでの処理例

WA	←	ADREG37	汎用レジスタ WA (16 ビット) へ ADREG37L, ADREG37H の値を読み出します。
WA	>>	6	WA に読み出した内容を右へ 6 回シフトし、上位ビットに "0" を入れます。
(1800H)	←	WA	アドレス 1800H へ WA の内容を書き込みます。

b. チャンネルスキャンリピート変換モードの設定例

AN0~AN2 の 3 端子のアナログ入力電圧を、チャンネルスキャンリピート変換モードで AD 変換し続ける場合

INTE0AD	←	X 0 0 0 - - - -	INTAD を禁止します。
ADMOD1	←	1 - X X 0 0 1 0	アナログ入力チャンネルを AN0~AN2 に設定します。
ADMOD0	←	X X 0 0 0 1 1 1	チャンネルスキャンリピート変換モードで変換を開始します。

X: Don't care, -: No change

### 3.13 ウォッチドッグタイマ (暴走検出用タイマ)

暴走検出用のウォッチドッグタイマを内蔵しています。

ウォッチドッグタイマ (WDT) は、ノイズなどの原因により CPU が誤動作 (暴走) を始めた場合にこれを検出し、正常な状態に戻すことを目的としています。暴走を検出すると、ノンマスクブル割り込みを発生し CPU に知らせます。

また、このウォッチドッグタイマアウトを内部リセットへ接続することにより、強制的にリセット動作を行うことができます。(外部の  $\overline{\text{RESET}}$  端子レベルは変化しません。)

#### 3.13.1 構成

図 3.13.1 にウォッチドッグタイマのブロック図を示します。

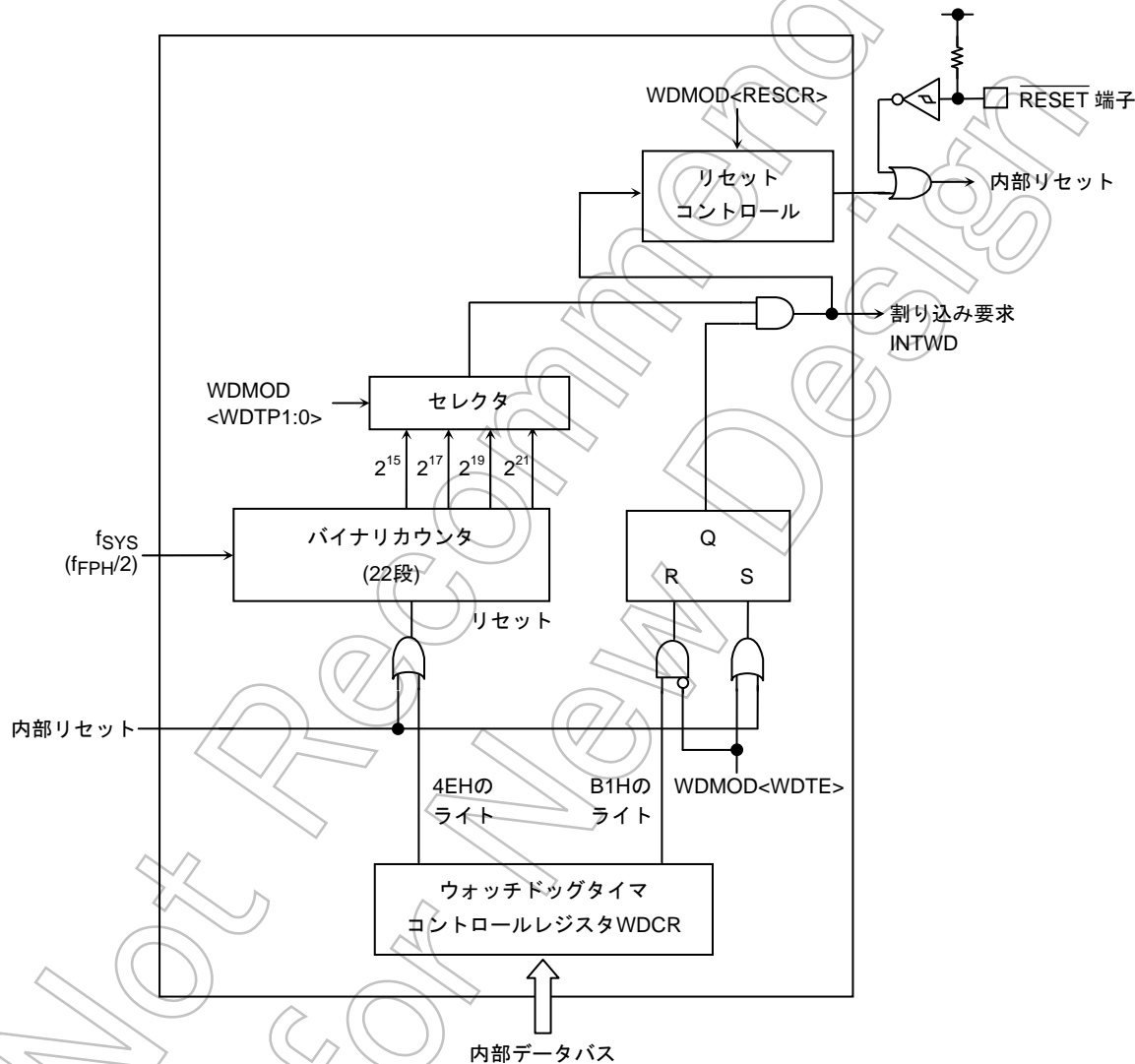


図 3.13.1 ウォッチドッグタイマのブロック図

注) 外乱ノイズなどの影響によりウォッチドッグタイマが完全な機能を果たせない場合がありますので、機器設計時には十分な考慮が必要です。

### 3.13.2 動作説明

ウォッチドッグタイマは、WDMOD<WDTP1:0> レジスタで設定された検出時間後に割り込み INTWD を発生させるタイマです。ソフトウェア（命令）でウォッチドッグタイマ用のバイナリカウンタを INTWD 割り込みが発生する前に 0 にクリアすることが必要です。もし、CPU がノイズなどの原因で誤動作（暴走）し、バイナリカウンタをクリアする命令を実行しなければ、バイナリカウンタはオーバフローし、INTWD 割り込みが発生します。CPU は INTWD 割り込みにより誤動作（暴走）が発生したことを知り、誤動作（暴走）対策プログラムにより正常な状態に戻すことができます。

ウォッチドッグタイマは、リセット解除後直ちに動作を開始します。

また、IDLE1 モードおよび STOP モード中のウォッチドッグタイマは停止しています。

IDLE2 モードでは、WDMOD<I2WDT> の設定に依存します。必要に応じて、IDLE2 モードに入る前に WDMOD<I2WDT> を設定してください。

ウォッチドッグタイマは、システムクロック  $f_{SYS}$  を入力クロックとする、22 段のバイナリカウンタで構成されています。バイナリカウンタの出力には  $2^{15}$ ,  $2^{17}$ ,  $2^{19}$  および  $2^{21}$  があります。

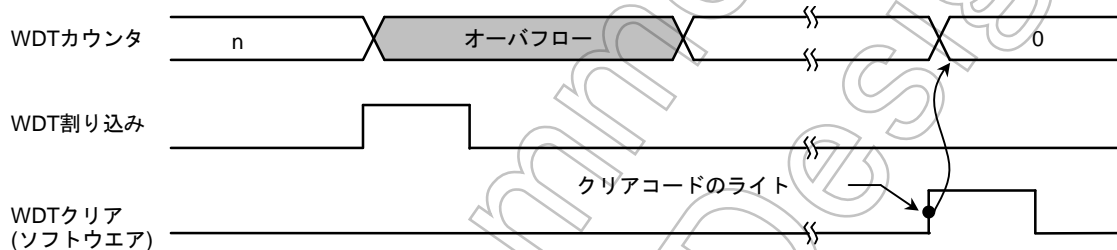


図 3.13.2 通常モード

また、オーバフロー時に、本LSIリセットすることも選択可能です。この場合、図 3.13.3で示すように 22~29 ステート ( $26.1 \sim 34.4 \mu\text{s}$  @  $f_{OSCH} = 27 \text{ MHz}$ ,  $f_{FPH} = 1.7 \text{ MHz}$ ) の期間、リセットを行います。なお、この場合（リセットされた場合）、システムクロック  $f_{SYS}$  (1 周期 = 1 ステート) は、高速発振器のクロック  $f_{OSCH}$  をクロックギアで 16 分周したクロック  $f_{FPH}$  を元に、それを 2 分周して生成されたものが使われます。

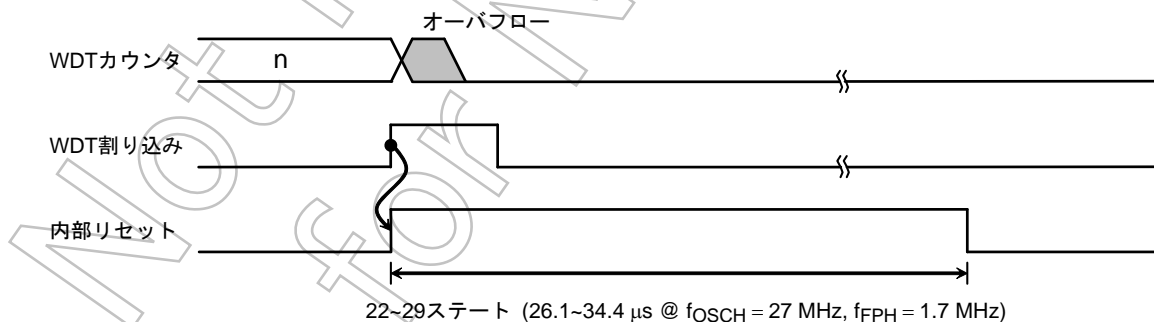


図 3.13.3 リセットモード

### 3.13.3 コントロールレジスタ

ウォッチドッグタイマ (WDT) は、2つのコントロールレジスタ (WDMOD, WDCR) によって制御されています。

#### (1) ウォッチドッグタイマ モードレジスタ WDMOD

##### 1. ウォッチドッグタイマ検出時間の設定 <WDTP1: 0>

暴走検出のためのウォッチドッグ タイマ割り込み時間を設定する 2 ビットのレジスタです。リセット時、WDMOD<WDTP1:0> = “00” に初期化されます。

ウォッチドッグタイマの検出時間を図 3.13.4 に示します。

##### 2. ウォッチドッグタイマのイネーブル/ディセーブル制御 <WDTE>

リセット時、WDMOD<WDTE> = “1” に初期化されますので、ウォッチドッグ タイマはイネーブルになっています。

ディセーブルにするには、このビットを “0” にクリアした後に WDCR レジスタにディセーブルコード (B1H) をライトする必要があります。この二重設定のため、暴走によるウォッチドッグタイマのディセーブルが発生しにくくなっています。

逆にディセーブル状態からイネーブル状態に戻す場合は、<WDTE> ビットを “1” にセットするだけでイネーブルとなります。

##### 3. ウォッチドッグタイマアウトのリセット接続 <RESCR>

暴走検出により本 LSI をリセットするか否かを設定するレジスタです。リセット時、WDMOD<RESCR> = “0” に初期化されますので、ウォッチドッグタイマアウト出力によるリセットは行われません。

#### (2) ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ WDCR

ウォッチドッグタイマ機能のディセーブルおよびバイナリカウンタのクリアを制御するレジスタです。

##### ● ディセーブル制御

WDMOD<WDTE> を “0” にクリアした後、この WDCR レジスタにディセーブルコード (B1H) をライトすると、ウォッチドッグタイマをディセーブルにすることができます。

WDCR	← 0 1 0 0 1 1 1 0	クリアコード (4EH) をライトします。
WDMOD	← 0 - - X X - - 0	WDTE を “0” にクリアします。
WDCR	← 1 0 1 1 0 0 0 1	ディセーブルコード (B1H) をライトします。

##### ● イネーブル制御

WDMOD<WDTE> を “1” にする。

##### ● ウォッチドッグタイマのクリア制御

WDCR レジスタにクリアコード (4EH) ライトすると、バイナリカウンタはクリアされ、再カウントします。

WDCR	← 0 1 0 0 1 1 1 0	クリアコード (4EH) をライトします。
------	-------------------	-----------------------

注1) ディセーブル制御をする際には一旦クリアコード(4EH)をライトした後ディセーブル制御をしてください。(設定例を参照してください)

注2) ウォッチドッグタイマの設定を変更する際は、ディセーブル状態にしてから設定を変更してください。



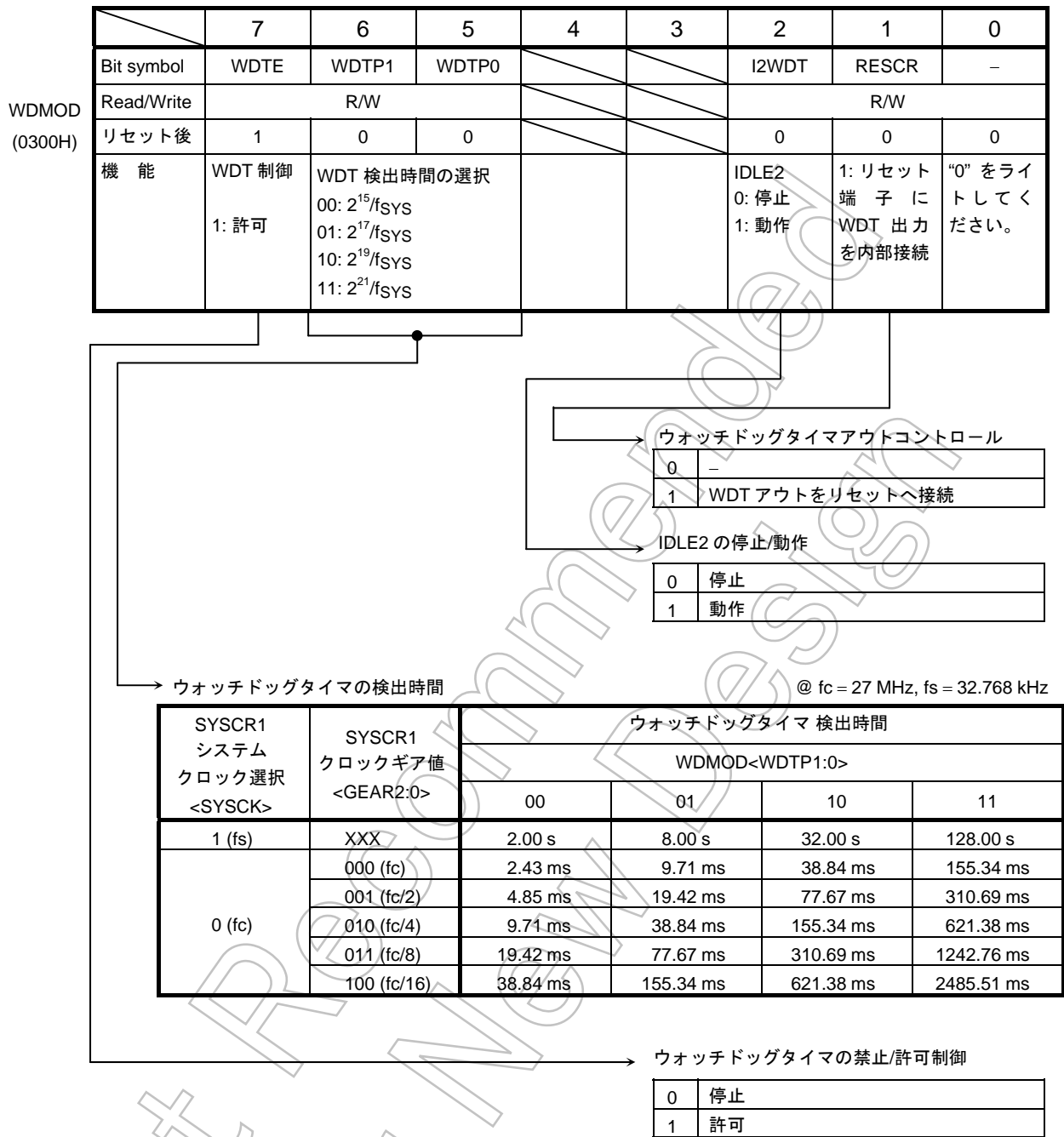


図 3.13.4 ウォッチドッグタイマモードレジスタ

	7	6	5	4	3	2	1	0
WDCR								
Bit symbol	-							
Read/Write	W							
(0301H)								
リセット後	-							
機能	B1H: WDT ディセーブルコード 4EH: WDT クリアコード							

リード  
モディファイ  
ライト  
できません。

→ WDT のディセーブル&クリア

B1H	ディセーブルコード
4EH	クリアコード
上記以外	-

図 3.13.5 ウォッチドッグタイムコントロールレジスタ

Not Recommended for New Design

### 3.14 時計用タイマ

時計動作専用のタイマを内蔵しています。

低周波クロックに 32.768 kHz を使用することにより、0.0625 s ごと、0.125 s ごと、0.25 s ごと、0.50 s ごとに割り込みを発生することができ、時計機能を実現できます。

時計用タイマは、低周波発振を行っているすべてのモードで動作可能です。

また、時計用タイマ割り込みにより、各スタンバイモードからの復帰が可能です (STOP モードを除く)。

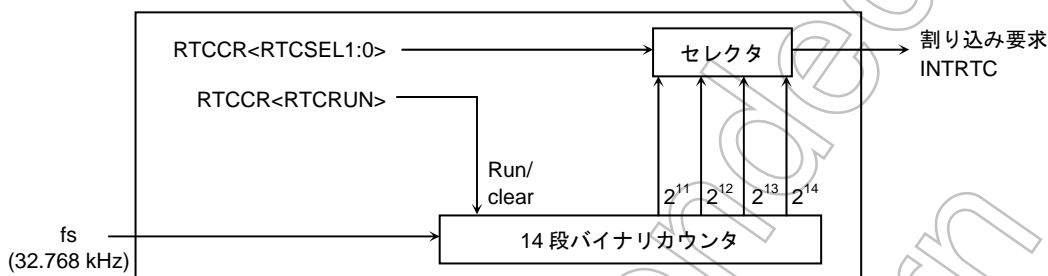


図 3.14.1 時計用タイマのブロック図

時計用タイマは、時計用タイマコントロールレジスタ (RTCCR) によって制御されます。

図 3.14.2 に、時計用タイマコントロールレジスタを示します。

	7	6	5	4	3	2	1	0
RTCCR (0310H)								
Bit symbol	-					RTCSEL1	RTCSEL0	RTC RUN
Read/Write	R/W					R/W		R/W
リセット後	0					0	0	0
機能	"0" を ライトし てください。					00: $2^{14}/fs$ 01: $2^{13}/fs$ 10: $2^{12}/fs$ 11: $2^{11}/fs$		0: 停止 & クリア 1: 起動

カウント動作	
0	停止 & クリア
1	カウント

割り込み発生周期 (fs = 32.768 kHz)	
00	0.50 s
01	0.25 s
10	0.125 s
11	0.0625 s

図 3.14.2 時計用タイマコントロールレジスタ

## 4. 電気的特性

### 4.1 絶対最大定格

項目	記号	定格	単位
電源電圧	V <sub>CC</sub>	-0.5~4.0	V
入力電圧	V <sub>IN</sub>	-0.5~V <sub>CC</sub> + 0.5	V
出力電流 (1 端子当たり)	I <sub>OL</sub>	2	mA
出力電流 (1 端子当たり)	I <sub>OH</sub>	-2	mA
出力電流 (合計)	ΣI <sub>OL</sub>	80	mA
出力電流 (合計)	ΣI <sub>OH</sub>	-80	mA
消費電力 (Ta = 85°C)	P <sub>D</sub>	600	mW
はんだ付け温度 (10 s)	T <sub>SOLDER</sub>	260	°C
保存温度	T <sub>STG</sub>	-65~150	°C
動作温度	T <sub>OPR</sub>	-40~85	°C

注) 絶対最大定格とは、瞬時たりとも超えてはならない規格であり、どの1つの項目も超えることができない規格です。絶対最大定格を超えると、破壊や劣化の原因となり、破裂・燃焼による傷害を負うことがあります。従って、必ず絶対最大定格を超えないように、応用機器の設計を行ってください。

#### 鉛フリー品 (G 付製品) へのはんだ濡れ性についての注意事項

試験項目	試験条件	備考
はんだ付け性	230°C 5 秒間 1 回 R タイプフラックス使用 (鉛はんだ使用時)	フォーミングまでの半田付着率 95%を良品とする
	245°C 5 秒間 1 回 R タイプフラックス使用 (鉛フリーはんだ使用時)	

## 4.2 DC電気的特性 (1/2)

項目		記号	条件		Min	Typ. 注)	Max	単位
電源電圧 ( $AVCC = DVCC$ $AVSS = DVSS = 0V$ )		$V_{CC}$	$f_c = 4\sim 27$ MHz	$f_s = 30\sim 34$ kHz	2.7		3.6	V
	$f_c = 2\sim 10$ MHz		1.8					
低レベル 入力電圧	P00~P17 (AD0~AD15)	$V_{IL}$	$V_{CC} \geq 2.7V$		-0.3		0.6	V
			$V_{CC} < 2.7V$				$0.2V_{CC}$	
	P20~P97 (P63を除く)	$V_{IL1}$	$V_{CC} \geq 2.7V$				$0.3V_{CC}$	
			$V_{CC} < 2.7V$				$0.2V_{CC}$	
	RESET, $\overline{NMI}$ , P63 (INT0)	$V_{IL2}$	$V_{CC} \geq 2.7V$				$0.25V_{CC}$	
			$V_{CC} < 2.7V$				$0.15V_{CC}$	
	AM0, AM1	$V_{IL3}$	$V_{CC} \geq 2.7V$				0.3	
			$V_{CC} < 2.7V$				0.3	
	X1	$V_{IL4}$	$V_{CC} \geq 2.7V$				$0.2V_{CC}$	
			$V_{CC} < 2.7V$				$0.1V_{CC}$	
高レベル 入力電圧	P00~P17 (AD0~AD15)	$V_{IH}$	$V_{CC} \geq 2.7V$		2.0		$V_{CC} + 0.3$	V
			$V_{CC} < 2.7V$		$0.7V_{CC}$			
	P20~P97 (P63を除く)	$V_{IH1}$	$V_{CC} \geq 2.7V$		$0.7V_{CC}$			
			$V_{CC} < 2.7V$		$0.8V_{CC}$			
	RESET, $\overline{NMI}$ , P63 (INT0)	$V_{IH2}$	$V_{CC} \geq 2.7V$		$0.75V_{CC}$			
			$V_{CC} < 2.7V$		$0.85V_{CC}$			
	AM0, AM1	$V_{IH3}$	$V_{CC} \geq 2.7V$		$V_{CC} - 0.3$			
			$V_{CC} < 2.7V$		$V_{CC} - 0.3$			
	X1	$V_{IH4}$	$V_{CC} \geq 2.7V$		$0.8V_{CC}$			
			$V_{CC} < 2.7V$		$0.9V_{CC}$			
低レベル出力電圧	$V_{OL}$	$I_{OL} = 1.6$ mA	$V_{CC} \geq 2.7V$			0.45	V	
		$I_{OL} = 0.4$ mA	$V_{CC} < 2.7V$			$0.15V_{CC}$		
高レベル出力電圧	$V_{OH}$	$I_{OH} = -400$ $\mu$ A	$V_{CC} \geq 2.7V$	$V_{CC} - 0.3$				
		$I_{OH} = -200$ $\mu$ A	$V_{CC} < 2.7V$	$0.8V_{CC}$				

注) Typ.値は特に指定のない限り、 $T_a = 25^\circ\text{C}$ ,  $V_{CC} = 3.0V$ です。

## DC 電気的特性 (2/2)

項目	記号	条件	Min	Typ.(注 1)	Max	単位
入力リーク電流	$I_{LI}$	$0.0 \leq V_{IN} \leq V_{CC}$		0.02	$\pm 5$	$\mu A$
出力リーク電流	$I_{LO}$	$0.2 \leq V_{IN} \leq V_{CC} - 0.2$		0.05	$\pm 10$	
パワーダウン電圧 (@STOP, RAMバックアップ)	$V_{STOP}$	$V_{IL2} = 0.2 V_{CC}$ , $V_{IH2} = 0.8 V_{CC}$	1.8		3.6	V
RESET プルアップ抵抗	$R_{RST}$	$V_{CC} = 2.7 V \sim 3.6 V$	100		400	$k\Omega$
		$V_{CC} = 2 V \pm 10\%$	200		1000	
端子容量	$C_{IO}$	$f_c = 1 MHz$			10	pF
シュミット幅 RESET, NMI, INTO	$V_{TH}$	$V_{CC} \geq 2.7 V$	0.4	1.0		V
		$V_{CC} < 2.7 V$	0.3	0.8		
プログラマブル プルアップ抵抗	$R_{KH}$	$V_{CC} = 2.7 V \sim 3.6 V$	100		400	$k\Omega$
		$V_{CC} = 2 V \pm 10\%$	200		1000	
NORMAL (注 2), (注 3)	$I_{CC}$	$V_{CC} = 2.7 V \sim 3.6 V$ $f_c = 27 MHz$		11.5 (10.8)	19.0	mA
IDLE2 (注 3)				5.5 (4.8)	8.0	
IDLE1 (注 3)				2.5 (1.8)	4.0	
NORMAL (注 2), (注 3)		$V_{CC} = 3 V \pm 10\%$ $f_c = 27 MHz$		11.5 (10.8)	16.0	mA
IDLE2 (注 3)				5.5 (4.8)	7.5	
IDLE1 (注 3)				2.5 (1.8)	3.5	
NORMAL (注 2), (注 3)		$V_{CC} = 2 V \pm 10\%$ $f_c = 10 MHz$ (Typ.値は $V_{CC} = 2.0 V$ )		3.5 (3.0)	5.0	mA
IDLE2 (注 3)				2.0 (1.5)	3.0	
IDLE1 (注 3)				0.9 (0.4)	1.8	
SLOW (注 2)		$V_{CC} = 2.7 V \sim 3.6 V$ $f_s = 32.768 kHz$		14.5	30	$\mu A$
IDLE2				7.0	19	
IDLE1				5.0	15	
SLOW (注 2)	$V_{CC} = 2 V \pm 10\%$ $f_s = 32.768 kHz$ (Typ.値は $V_{CC} = 2.0 V$ )		10	20	$\mu A$	
IDLE2			5.0	13		
IDLE1			3.0	10		
STOP		$V_{CC} = 1.8 V \sim 3.6 V$		0.1	10	$\mu A$

注 1) Typ.値は特に指定のない限り、 $T_a = 25^\circ C$ ,  $V_{CC} = 3.0 V$  です。

注 2)  $I_{CC}$  NORMAL, SLOW の測定条件: すべて動作、出力端子は開放、入力端子はレベル固定。

注 3) AVCC 端子より流れる電源電流は、 $V_{CC}$  端子の電源電流に含まれます。また、本製品では AVCC 端子と AD リファレンス電源が兼用となっているため、ラダー抵抗に流れる電流も含まれます。( )内は、VREF が OFF 時の電流値です。

## 4.3 AC電气的特性

(1)  $V_{CC} = 2.7\text{ V} \sim 3.6\text{ V}$ 

No.	項目	記号	計算式		$f_{FPH} = 27\text{ MHz}$		単位
			Min	Max	Min	Max	
1	$f_{FPH}$ 周期 (= x)	$t_{FPH}$	37.0	31250	37.0		ns
2	A0~A15 有効 → ALE 立ち下がり	$t_{AL}$	$0.5x - 6$		12		ns
3	ALE 立ち下がり → A0~A15 保持	$t_{LA}$	$0.5x - 16$		2		ns
4	ALE High パルス幅	$t_{LL}$	$x - 20$		17		ns
5	ALE 立ち下がり → $\overline{RD}$ / $\overline{WR}$ 立ち下がり	$t_{LC}$	$0.5x - 14$		4		ns
6	$\overline{RD}$ 立ち上がり → ALE 立ち上がり	$t_{CLR}$	$0.5x - 10$		8		ns
7	$\overline{WR}$ 立ち上がり → ALE 立ち上がり	$t_{CLW}$	$x - 10$		27		ns
8	A0~A15 有効 → $\overline{RD}$ / $\overline{WR}$ 立ち下がり	$t_{ACL}$	$x - 23$		14		ns
9	A0~A21 有効 → $\overline{RD}$ / $\overline{WR}$ 立ち下がり	$t_{ACH}$	$1.5x - 26$		29		ns
10	$\overline{RD}$ 立ち上がり → A0~A21 保持	$t_{CAR}$	$0.5x - 13$		5		ns
11	$\overline{WR}$ 立ち上がり → A0~A21 保持	$t_{CAW}$	$x - 13$		24		ns
12	A0~A15 有効 → D0~D15 入力	$t_{ADL}$		$3.0x - 38$		73	ns
13	A0~A21 有効 → D0~D15 入力	$t_{ADH}$		$3.5x - 41$		88	ns
14	$\overline{RD}$ 立ち下がり → D0~D15 入力	$t_{RD}$		$2.0x - 30$		44	ns
15	$\overline{RD}$ Low パルス幅	$t_{RR}$	$2.0x - 15$		59		ns
16	$\overline{RD}$ 立ち上がり → D0~D15 保持	$t_{HR}$	0		0		ns
17	$\overline{RD}$ 立ち上がり → A0~A15 出力	$t_{RAE}$	$x - 15$		22		ns
18	$\overline{WR}$ Low パルス幅	$t_{WW}$	$1.5x - 15$		40		ns
19	D0~D15 有効 → $\overline{WR}$ 立ち上がり	$t_{DW}$	$1.5x - 35$		20		ns
20	$\overline{WR}$ 立ち上がり → D0~D15 保持	$t_{WD}$	$x - 25$		12		ns
21	A0~A21 有効 → ポート入力	$t_{APH}$		$3.5x - 89$		40	ns
22	A0~A21 有効 → ポート保持	$t_{APH2}$	$3.5x$		129		ns
23	A0~A21 有効 → ポート有効	$t_{AP}$		$3.5x + 80$		209	ns

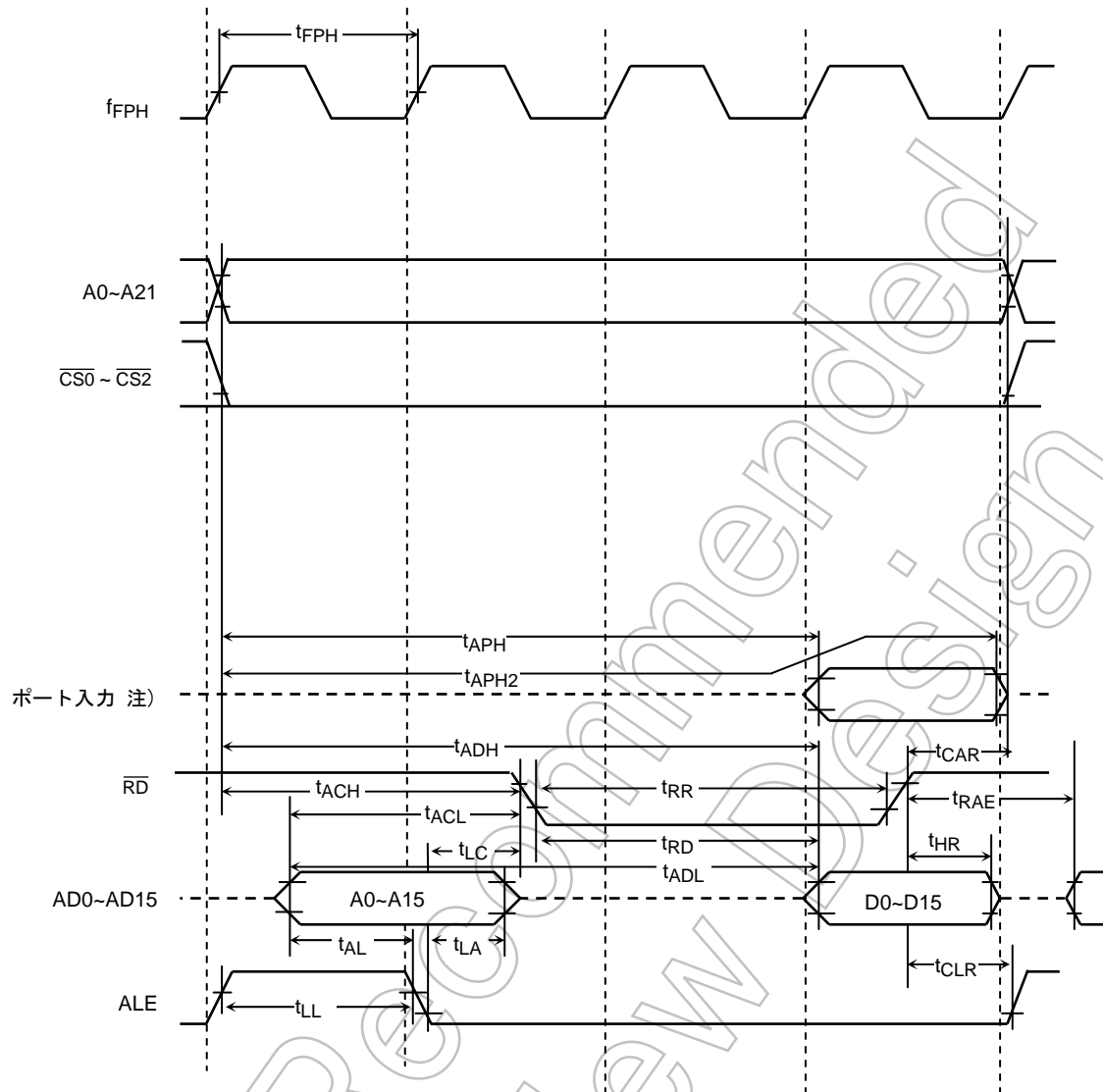
## AC 測定条件

- 出力レベル: High  $0.7 \times V_{CC}$  / Low  $0.3 \times V_{CC}$ ,  $CL = 50\text{ pF}$
- 入力レベル: High  $0.9 \times V_{CC}$  / Low  $0.1 \times V_{CC}$

注) 表中の「x」は、クロック  $f_{FPH}$  の周期を示します。 $f_{FPH}$  の周期は、CPU コアで使用されるシステムクロック  $f_{SYS}$  周期の 1/2 です。

クロック  $f_{FPH}$  の周期は、クロックギアの設定や、高速発振器/低速発振器の切り替えなどに依存します。

## (2) リードサイクル

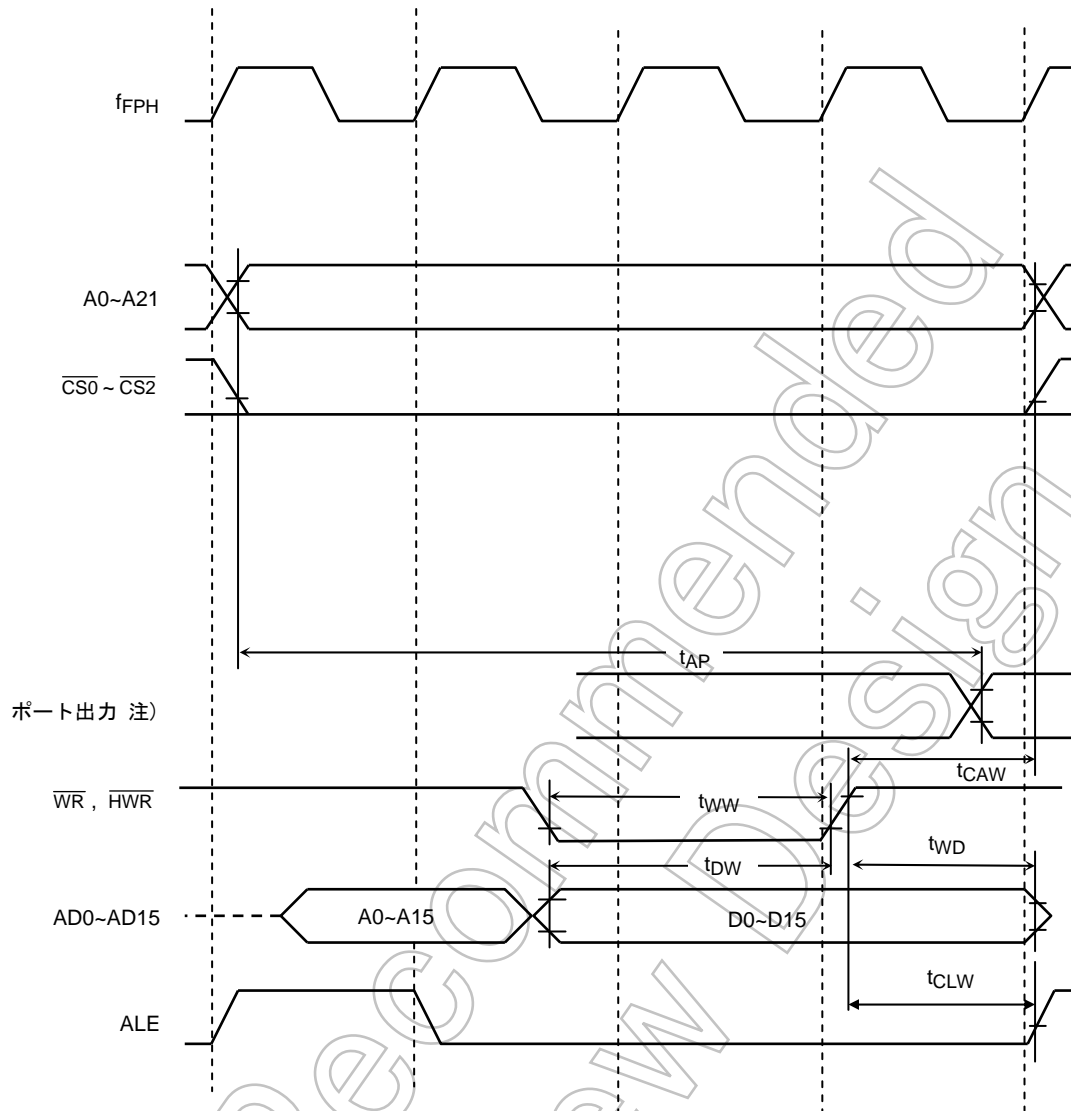


注) ポートのデータリードは内蔵エリアへのアクセスとなるため、外部端子の制御信号  $\overline{RD}$ 、 $\overline{CS}$  信号などはインネーブル出力されません。上記波形は内部信号の動きとして認識してください。

また、上記ポート入出力タイミングおよび AC 特性は、代表的なタイミングを示しています。詳細は弊社営業担当までお問い合わせください。



## (3) ライトサイクル



注) ポートのデータライトは内蔵エリアへのアクセスとなるため、外部端子の制御信号  $\overline{WR}$ 、 $\overline{CS}$  信号などはイネーブル出力されません。上記波形は内部信号の動きとして認識してください。

また、上記ポート入出力タイミングおよび AC 特性は、代表的なタイミングを示しています。詳細は弊社営業担当までお問い合わせください。

## 4.4 AD 変換特性

AVCC = V<sub>CC</sub>, AVSS = V<sub>SS</sub>

項目	記号	条件	Min	Typ.	Max	単位
アナログ入力電圧	V <sub>AIN</sub>		AVSS		AVCC	V
総合誤差 (量子誤差を含まず)	-	V <sub>CC</sub> = 2.7 V~3.6 V		±1.0	±4.0	LSB
		V <sub>CC</sub> = 2 V ± 10%		±1.0	±4.0	

注 1) 1LSB = (AVCC - AVSS)/1024 [V]

注 2) 最低動作周波数について

AD コンバータの動作は、f<sub>c</sub> (高速発振器) 使用時のみ保証します (f<sub>s</sub> では保証しません)。ただし、f<sub>c</sub> 使用時に  
クロックギアで選択されたクロックの周波数が 4 MHz 以上で保証します。

注 3) AVCC 端子より流れる電源電流は、V<sub>CC</sub> 端子の電源電流 (I<sub>CC</sub>) に含まれます。

Not Recommended for New Design

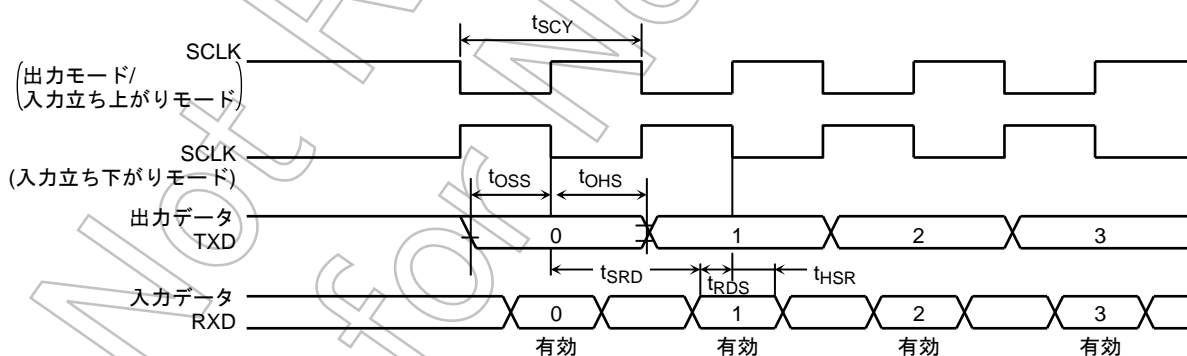
## 4.5 シリアルチャネルタイミング-I/Oインタフェースモード

## (1) SCLK 入力モード

項目	記号	計算式		10 MHz		27 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	Min	Max	
SCLK 周期	$t_{SCY}$	16X		1.6		0.59		$\mu\text{s}$
出力データ → SCLK 立ち上がり/立ち下がり*	$t_{OSS}$	$t_{SCY}/2 - 4X - 110$ ( $V_{CC} = 2.7\text{V} - 3.6\text{V}$ )		290		38		ns
		$t_{SCY}/2 - 4X - 180$ ( $V_{CC} = 2\text{V} \pm 10\%$ )		220		-		
SCLK 立ち上がり/立ち下がり* → 出力データ 保持	$t_{OHS}$	$t_{SCY}/2 + 2X + 0$		1000		370		ns
SCLK 立ち上がり/立ち下がり* → 入力データ 保持	$t_{HSR}$	3X + 10		310		121		ns
SCLK 立ち上がり/立ち下がり* → 有効データ入力	$t_{SRD}$		$t_{SCY} - 0$		1600		592	ns
有効データ入力 → SCLK 立ち上がり/立ち下がり*	$t_{RDS}$	0		0		0		ns

## (2) SCLK 出力モード

項目	記号	計算式		10 MHz		27 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	Min	Max	
SCLK 周期	$t_{SCY}$	16X	8192X	1.6	819	0.59	303	$\mu\text{s}$
出力データ → SCLK 立ち上がり/立ち下がり*	$t_{OSS}$	$t_{SCY}/2 - 40$		760		256		ns
SCLK 立ち上がり/立ち下がり* → 出力データ 保持	$t_{OHS}$	$t_{SCY}/2 - 40$		760		256		ns
SCLK 立ち上がり/立ち下がり* → 入力データ 保持	$t_{HSR}$	0		0		0		ns
SCLK 立ち上がり/立ち下がり* → 有効データ入力	$t_{SRD}$		$t_{SCY} - 1X - 180$		1320		375	ns
有効データ入力 → SCLK 立ち上がり/立ち下がり*	$t_{RDS}$	1X + 180		280		217		ns



注 1)\*: SCLK 立ち上がり/立ち下がり…SCLK 立ち上がりモードの場合は SCLK 立ち上がり、SCLK 立ち下がりモードの場合は SCLK 立ち下がりモードのタイミングです。

注 2) 27 MHz, 10 MHz の値は、 $t_{SCY} = 16X$  のときの値です。

注 3) 表中の「X」は、クロック  $f_{FPH}$  の周期を示します。 $f_{FPH}$  の周期は、CPU コアで使用されるシステムクロック  $f_{SYS}$  周期の 1/2 です。

クロック  $f_{FPH}$  の周期は、クロックギアの設定や、高速発振器/低速発振器の切り替えなどに依存します。

## 4.6 イベントカウンタ (TA0IN, TA4IN, TB0IN0, TB0IN1)

項目	記号	計算式		10 MHz		27 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	Min	Max	
クロック周期	t <sub>VCK</sub>	8X + 100		900		396		ns
クロック低レベルパルス幅	t <sub>VCKL</sub>	4X + 40		440		188		ns
クロック高レベルパルス幅	t <sub>VCKH</sub>	4X + 40		440		188		ns

## 4.7 割り込み、キャプチャ

(1)  $\overline{\text{NMI}}$ , INT0 割り込み

項目	記号	計算式		10 MHz		27 MHz		単位
		Min	Max	Min	Max	Min	Max	
$\overline{\text{NMI}}$ , INT0 低レベルパルス幅	t <sub>INTAL</sub>	4X + 40		440		188		ns
$\overline{\text{NMI}}$ , INT0 高レベルパルス幅	t <sub>INTAH</sub>	4X + 40		440		188		ns

## (2) INT5~INT6 割り込み、キャプチャ

INT5~INT6 入力パルス幅はシステムクロック選択、およびプリスケアラ用クロック選択により異なります。下記に動作クロック別パルス幅を示します。

システム クロック選択 SYSCR1 <SYSCK>	プリスケアラ用 クロック選択 SYSCR0 <PRCK1:0>	t <sub>INTBL</sub> (INT5~INT6 低レベルパルス幅)		t <sub>INTBH</sub> (INT5~INT6 高レベルパルス幅)		単位
		計算式	f <sub>FPH</sub> = 27 MHz	計算式	f <sub>FPH</sub> = 27 MHz	
		Min	Min	Min	Min	
0 (fc)	00 (f <sub>FPH</sub> )	8X + 100	396	8X + 100	396	ns
	10 (fc/16)	128Xc + 0.1	4.8	128Xc + 0.1	4.8	μs
1 (fs)	00 (f <sub>FPH</sub> )	8X + 0.1	244.3	8X + 0.1	244.3	

注 1) Xc は、高速発振器側のクロック fc の周期を示します。

注 2) 表中の「x」は、クロック f<sub>FPH</sub> の周期を示します。f<sub>FPH</sub> の周期は、CPU コアで使用されるシステムクロック f<sub>sys</sub> 周期の 1/2 です。

クロック f<sub>FPH</sub> の周期は、クロックギアの設定や、高速発振器/低速発振器の切り替えなどに依存します。

## 4.8 推奨発振回路

TMP91CU27/TMP91CP27/TMP91CK27 は、下記の発振子メーカーにて評価されております。発振子の選択時に活用願います。

注) 発振端子のトータル負荷容量は接続する外付け (または内蔵) 負荷容量 C1、C2 と、実装基板上の浮遊容量の和になります。C1、C2 の定数を使用した場合でも実装基板によりトータル負荷容量が異なり、誤動作する可能性があります。基板設計の際は発振回路周辺のパターンが最短距離になるようにしてください。また、実際に使用される実装基板での発振評価を行うことを推奨いたします。

### (1) 接続例

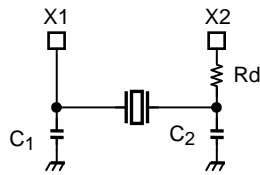


図 4.8.1 高周波発振器の接続図

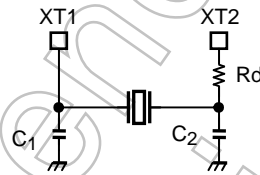


図 4.8.2 低周波発振器の接続図

### (2) TMP91CU27/TMP91CP27/TMP91CK27 推奨セラミック発振子

本製品は(株)村田製作所社製セラミック発振子を推奨しております。

詳細につきましては、下記 URL の同社ホームページを参照してください。

<http://www.murata.co.jp>

## 5. 特殊機能レジスタ一覧表

特殊機能レジスタ (SFR: Special function register) は、入出力ポートおよび周辺部のコントロールレジスタで、000000H~000FFFH の 4 K バイトのアドレス空間に割り付けられています。

- (1) 入出力ポート
- (2) 入出力ポート制御
- (3) 割り込み制御
- (4) チップセレクト/ウェイトコントローラ制御
- (5) クロック制御
- (6) 8 ビットタイマ制御
- (7) 16 ビットタイマ制御
- (8) UART/シリアル チャネル制御
- (9) I<sup>2</sup>C バス/シリアル チャネル制御
- (10) AD コンバータ制御
- (11) ウォッチドッグタイマ制御
- (12) 時計用タイマ制御

表の構成

記号	名称	アドレス	ビット				備考
			7	6	1	0	
							Bit symbol
							Read/Write
							リセット時の初期値

\* 表中の“RMW 禁”は、リードモディファイライト形式の命令をそのレジスタに対して使用禁止であることを示します。

例) PxCR レジスタのビット 0 のみを“1”にしたい場合、通常は“SET 0, (PxCR)”ですが、このレジスタは“RMW 禁”のため、“LD” (転送) 命令にて 8 ビットに対して書き込む必要があります。

### 記号の意味

R/W: リード/ライト可能

R: リードのみ可能

W: ライトのみ可能

W\*: リード/ライト可能 (ただし、リードした場合、“1”になります。)

RMW 禁: リードモディファイライトができません。(EX, ADD, ADC, BUS, SBC, INC, DEC, AND, OR, XOR, STCF, RES, SET, CHG, TSET, RLC, RRC, RL, RR, SLA, SRA, SLL, SRL, RLD, RRD 命令の使用不可)。

R/W\*: 該当ポートのプルアップの制御の際にはリードモディファイライト命令は使用できません。

表 5.1 SFR アドレスマップ

## [1] ポート

アドレス	レジスタ名
0000H	P0
1H	P1
2H	P0CR
3H	
4H	P1CR
5H	P1FC
6H	P2
7H	P3
8H	P2CR
9H	P2FC
AH	P3CR
BH	P3FC
CH	P4
DH	P5
EH	P4CR
FH	P4FC

アドレス	レジスタ名
0010H	
1H	
2H	P6
3H	P7
4H	P6CR
5H	P6FC
6H	P7CR
7H	P7FC
8H	P8
9H	P9
AH	P8CR
BH	P8FC
CH	P9CR
DH	P9FC
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0020H	
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	ODE

## [2] INTC

アドレス	レジスタ名
0080H	DMA0V
1H	DMA1V
2H	DMA2V
3H	DMA3V
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	INTCLR
9H	DMAR
AH	DMAB
BH	
CH	IIMC
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0090H	INTE0AD
1H	
2H	
3H	INTE56
4H	
5H	INTEA01
6H	INTEA23
7H	INTEA45
8H	
9H	INTETB0
AH	
BH	INTETB01V
CH	INTES0
DH	INTES1
EH	INTES2RTC
FH	

アドレス	レジスタ名
00A0H	INTETC01
1H	INTETC23
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

## [3] CS/WAIT

アドレス	レジスタ名
00C0H	B0CS
1H	B1CS
2H	B2CS
3H	B3CS
4H	
5H	
6H	
7H	BEXCS
8H	MSAR0
9H	MAMR0
AH	MSAR1
BH	MAMR1
CH	MSAR2
DH	MAMR2
EH	MSAR3
FH	MAMR3

注) レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

表 5.2 SFR アドレスマップ

## [4] CGEAR

アドレス	レジスタ名
00E0H	SYSCR0
1H	SYSCR1
2H	SYSCR2
3H	EMCCR0
4H	EMCCR1
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
00F0H	
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

## [5] TMRA

アドレス	レジスタ名
0100H	TA01RUN
1H	
2H	TA0REG
3H	TA1REG
4H	TA01MOD
5H	TA1FFCR
6H	
7H	
8H	TA23RUN
9H	
AH	TA2REG
BH	TA3REG
CH	TA23MOD
DH	TA3FFCR
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
0110H	TA45RUN
1H	
2H	TA4REG
3H	TA5REG
4H	TA45MOD
5H	TA5FFCR
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

## [6] TMRB

アドレス	レジスタ名
0180H	TB0RUN
1H	
2H	TB0MOD
3H	TB0FFCR
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	TB0RG0L
9H	TB0RG0H
AH	TB0RG1L
BH	TB0RG1H
CH	TB0CP0L
DH	TB0CP0H
EH	TB0CP1L
FH	TB0CP1H

アドレス	レジスタ名
0190H	
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注) レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。



表 5.3 SFR アドレスマップ

[7] UART/SIO

アドレス	レジスタ名
0200H	SC0BUF
1H	SC0CR
2H	SC0MOD0
3H	BR0CR
4H	BR0ADD
5H	SC0MOD1
6H	
7H	SIRCR
8H	SC1BUF
9H	SC1CR
AH	SC1MOD0
BH	BR1CR
CH	BR1ADD
DH	SC1MOD1
EH	
FH	

[8] I<sup>2</sup>Cバス/SIO

アドレス	レジスタ名
0240H	SBI0CR1
1H	SBI0DBR
2H	I2C0AR
3H	SBI0CR2/SBI0SR
4H	SBI0BR0
5H	SBI0BR1
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[9] 10ビットADC

アドレス	レジスタ名
02A0H	ADREG04L
1H	ADREG04H
2H	ADREG15L
3H	ADREG15H
4H	ADREG26L
5H	ADREG26H
6H	ADREG37L
7H	ADREG37H
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

アドレス	レジスタ名
02B0H	ADM0D0
1H	ADM0D1
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[10] WDT

アドレス	レジスタ名
0300H	WDMOD
1H	WDCR
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

[11] 時計用タイマ

アドレス	レジスタ名
0310H	RTCCR
1H	
2H	
3H	
4H	
5H	
6H	
7H	
8H	
9H	
AH	
BH	
CH	
DH	
EH	
FH	

注) レジスタ名の割り付けられていないアドレスにはアクセスしないでください。

## (1) 入出力ポート

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
P0	Port 0	00H	P07	P06	P05	P04	P03	P02	P01	P00
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは不定となります。)							
P1	Port 1	01H	P17	P16	P15	P14	P13	P12	P11	P10
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“0”にクリアされます。)							
P2	Port 2	06H			P25	P24	P23	P22	P21	P20
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)							
P3	Port 3	07H (RMW 禁)						P32	P31	P30
			R/W*							
			外部端子データ 注) 0(出力ラッチレジスタ): プルアップ抵抗 OFF 1(出力ラッチレジスタ): プルアップ抵抗 ON							
P4	Port 4	0CH (RMW 禁)						P42	P41	P40
			R/W*							
			外部端子データ 注) 0(出力ラッチレジスタ): プルアップ抵抗 OFF 1(出力ラッチレジスタ): プルアップ抵抗 ON							
P5	Port 5	0DH					P53	P52	P51	P50
			R							
			外部端子データ							
P6	Port 6	12H					P63	P62	P61	P60
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)							
P7	Port 7	13H				P74	P73	P72	P71	P70
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)							
P8	Port 8	18H					P83	P82	P81	P80
			R/W							
			外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)							
P9	Port 9	19H	P97	P96	P95	P94	P93	P92	P91	P90
			R/W							
			1	1	外部端子データ (出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。)					

注) 出力ラッチレジスタは“1”にセットされます。

## (2) 入出力ポート制御 (1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
P0CR	Port 0 control	02H (RMW 禁)	P07C	P06C	P05C	P04C	P03C	P02C	P01C	P00C		
			W									
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0: 入力 1: 出力 (外部アクセス時は AD7~AD0 になり、このレジスタは "0" にクリアされます。)									
P1CR	Port 1 control	04H (RMW 禁)	P17C	P16C	P15C	P14C	P13C	P12C	P11C	P10C		
			W									
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			《P1FC の欄を参照》									
P1FC	Port 1 function	05H (RMW 禁)	P17F	P16F	P15F	P14F	P13F	P12F	P11F	P10F		
			W									
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			P1FC/P1CR = 00: 入力ポート 01: 出力ポート 10: AD8~AD15 11: A8~A15									
P2CR	Port 2 control	08H (RMW 禁)	<del> </del>	<del> </del>	P25C	P24C	P23C	P22C	P21C	P20C		
			W									
			<del> </del>	<del> </del>	0	0	0	0	0	0	0	
			《P2FC の欄を参照》									
P2FC	Port 2 function	09H (RMW 禁)	<del> </del>	<del> </del>	P25F	P24F	P23F	P22F	P21F	P20F		
			W									
			<del> </del>	<del> </del>	0	0	0	0	0	0	0	
			P2FC/P2CR = 00: 入力ポート 01: 出力ポート 10: A0~A5 11: A16~A21									
P3CR	Port 3 control	0AH (RMW 禁)	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	P32C	<del> </del>	<del> </del>		
			W									
			<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	0	<del> </del>	
			0: 入力 1: 出力									
P3FC	Port 3 function	0BH (RMW 禁)	-	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	P32F	P31F	P30F		
			W	W								
			0	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	0	0	0	
			"0" をライトしてください。 0: ポート 1: $\overline{HWR}$ 0: ポート 1: $\overline{WR}$ 0: ポート 1: $\overline{RD}$									
P4CR	Port 4 control	0EH (RMW 禁)	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	P42C	P41C	P40C		
			W									
			<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	0	0	0	
			0: 入力 1: 出力									
P4FC	Port 4 function	0FH (RMW 禁)	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	P42F	P41F	P40F		
			W									
			<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	0	0	0	
			0: ポート 1: $\overline{CS2}$ 0: ポート 1: $\overline{CS1}$ 0: ポート 1: $\overline{CS0}$									

注 1) ポート 2 をアドレスバスに設定するときは、P2CR, P2FC の順に設定してください。

注 2) P3<P30> = "0", P3FC<P30F> = "1" に設定することにより、内蔵エリアのリード時も P30 端子より "L" レベルを出力します。

注 3) ポート 4 をチップセレクト信号に設定する場合は、P4FC, P4CR の順に設定してください。

## 入出力ポート制御 (2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0	
P6CR	Port 6 control	14H (RMW 禁)	/	/	/	/	P63C	P62C	P61C	P60C	
			/	/	/	/	W				
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	/	/	0: 入力 1: 出力				
P6FC	Port 6 function	15H (RMW 禁)	/	/	/	/	P63F	P62F	P61F	P60F	
			/	/	/	/	W				
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	/	/	0: ポート 1: INT0	0: ポート 1: SCL	0: ポート 1: SDA/SO	0: ポート 1: SCK 出力	
P7CR	Port 7 control	16H (RMW 禁)	/	/	/	P74C	P73C	P72C	P71C	P70C	
			/	/	/	/	W				
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	/	/	0: 入力 1: 出力				
P7FC	Port 7 function	17H (RMW 禁)	/	/	/	P74F	/	P72F	P71F	/	
			/	/	/	W	/	W	W	/	
			/	/	/	0	/	0	0	/	
			/	/	/	0: ポート 1: TA5OUT	/	0: ポート 1: TA3OUT	0: ポート 1: TA1OUT	/	
P8CR	Port 8 control	1AH (RMW 禁)	/	/	/	/	P83C	P82C	P81C	P80C	
			/	/	/	/	W				
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	/	/	0: 入力 1: 出力				
P8FC	Port 8 function	1BH (RMW 禁)	/	/	/	/	P83F	P82F	P81F	P80F	
			/	/	/	/	W				
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	/	/	0: ポート 1: TB0OUT1	0: ポート 1: TB0OUT0	0: ポート 1: INT6/ TB0IN1	0: ポート 1: INT5/ TB0IN0	
P9CR	Port 9 control	1CH (RMW 禁)	P97C	P96C	P95C	P94C	P93C	P92C	P91C	P90C	
			W	W	W						
			1	1	0	0	0	0	0	0	
			0: 入力 1: 出力								
P9FC	Port 9 function	1DH (RMW 禁)	/	/	P95F	/	P93F	P92F	/	P90F	
			/	/	W	/	W	W	/	W	
			/	/	0	/	0	0	/	0	
			/	/	0: ポート 1: SCLK1	/	0: ポート 1: TXD1	0: ポート 1: SCLK0	/	0: ポート 1: TXD0	
ODE	Open-drain enable	2FH	/	/	/	/	ODE62	ODE61	ODE93	ODE90	
			/	/	/	/	R/W	R/W	R/W	R/W	
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	/	/	1: P62ODE	1: P61ODE	1: P93ODE	1: P90ODE	

注 1) 外部割り込み INTO

入力許可は P6FC<P63F> で制御します。レベル/エッジ選択、立ち上がり/立ち下がり選択は IIMC<IOLE, IOEDGE> で制御します。

注 2) 外部割り込み INT5~INT6

入力許可は P8FC<P81F, P80F> で制御します。エッジの設定は、TMRB 部のレジスタ TB0MOD で制御します。

注 3) P70, P73 端子は、入力ポートとして使用する場合でも TA0IN, TA4IN として、TMRA0 および TMRA4 へ入力されます。

注 4) P91, P94 端子は、入力ポートとして使用する場合でも RXD0, RXD1 として、SIO へ入力されます。

## (3) 割り込み制御 (1/3)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTE0AD	INT0 & INTAD enable	90H	INTAD				INT0			
			IADC	IADM2	IADM1	IADM0	I0C	I0M2	I0M1	I0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTAD	割り込み要求レベル			1: INT0	割り込み要求レベル		
INTE56	INT5 & INT6 enable	93H	INT6				INT5			
			I6C	I6M2	I6M1	I6M0	I5C	I5M2	I5M1	I5M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INT6	割り込み要求レベル			1: INT5	割り込み要求レベル		
INTETA01	INTTA0 & INTTA1 enable	95H	INTTA1 (TMRA1)				INTTA0 (TMRA0)			
			ITA1C	ITA1M2	ITA1M1	ITA1M0	ITA0C	ITA0M2	ITA0M1	ITA0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTA1	割り込み要求レベル			1: INTTA0	割り込み要求レベル		
INTE2A23	INTTA2 & INTTA3 enable	96H	INTTA3 (TMRA3)				INTTA2 (TMRA2)			
			ITA3C	ITA3M2	ITA3M1	ITA3M0	ITA2C	ITA2M2	ITA2M1	ITA2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTA3	割り込み要求レベル			1: INTTA2	割り込み要求レベル		
INTETA45	INTTA4 & INTTA5 enable	97H	INTTA5 (TMRA5)				INTTA4 (TMRA4)			
			ITA5C	ITA5M2	ITA5M1	ITA5M0	ITA4C	ITA4M2	ITA4M1	ITA4M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTA5	割り込み要求レベル			1: INTTA4	割り込み要求レベル		

## 割り込み制御 (2/3)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
INTETB0	INTTB00 & INTTB01 enable	99H	INTTB01 (TMRB0)				INTTB00 (TMRB0)			
			ITB01C	ITB01M2	ITB01M1	ITB01M0	ITB00C	ITB00M2	ITB00M1	ITB00M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTB01	割り込み要求レベル			1: INTTB00	割り込み要求レベル		
INTETB01V	INTTBOF1 (over-flow) enable	9BH	-				INTTBOF0 (TMRB0 オーバフロー)			
							ITF0C	ITF0M2	ITF0M1	ITF0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			"0"をライトしてください。			1: INTTBOF0	割り込み要求レベル			
INTES0	INTRX0 & INTTX0 enable	9CH	INTTX0				INTRX0			
			ITX0C	ITX0M2	ITX0M1	ITX0M0	IRX0C	IRX0M2	IRX0M1	IRX0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTX0	割り込み要求レベル			1: INTRX0	割り込み要求レベル		
INTES1	INTRX1 & INTTX1 enable	9DH	INTTX1				INTRX1			
			ITX1C	ITX1M2	ITX1M1	ITX1M0	IRX1C	IRX1M2	IRX1M1	IRX1M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTX1	割り込み要求レベル			1: INTRX1	割り込み要求レベル		
INTES2RTC	INTSBI & INTRTC enable	9EH	INTRTC				INTSBI			
			IRTC	IRTCM2	IRTCM1	IRTCM0	ISBIC	ISBIM2	ISBIM1	ISBIM0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTRTC	割り込み要求レベル			1: INTSBI	割り込み要求レベル		
INTETC01	INTTC0 & INTTC1 enable	A0H	INTTC1				INTTC0			
			ITC1C	ITC1M2	ITC1M1	ITC1M0	ITC0C	ITC0M2	ITC0M1	ITC0M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTC1	割り込み要求レベル			1: INTTC0	割り込み要求レベル		
INTETC23	INTTC2 & INTTC3 enable	A1H	INTTC3				INTTC2			
			ITC3C	ITC3M2	ITC3M1	ITC3M0	ITC2C	ITC2M2	ITC2M1	ITC2M0
			R	R/W			R	R/W		
			0	0	0	0	0	0	0	0
			1: INTTC3	割り込み要求レベル			1: INTTC2	割り込み要求レベル		

## 割り込み制御 (3/3)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0	
DMA0V	DMA0 start vector	80H	/	/	DMA0V5	DMA0V4	DMA0V3	DMA0V2	DMA0V1	DMA0V0	
			/	/	R/W						
			/	/	0	0	0	0	0	0	
			/	/	DMA0 起動ベクタ						
DMA1V	DMA 1 start vector	81H	/	/	DMA1V5	DMA1V4	DMA1V3	DMA1V2	DMA1V1	DMA1V0	
			/	/	R/W						
			/	/	0	0	0	0	0	0	
			/	/	DMA1 起動ベクタ						
DMA2V	DMA 2 start vector	82H	/	/	DMA2V5	DMA2V4	DMA2V3	DMA2V2	DMA2V1	DMA2V0	
			/	/	R/W						
			/	/	0	0	0	0	0	0	
			/	/	DMA2 起動ベクタ						
DMA3V	DMA 3 start vector	83H	/	/	DMA3V5	DMA3V4	DMA3V3	DMA3V2	DMA3V1	DMA3V0	
			/	/	R/W						
			/	/	0	0	0	0	0	0	
			/	/	DMA3 起動ベクタ						
INTCLR	Interrupt clear control	88H (RMW 禁)	/	/	CLR5	CLR4	CLR3	CLR2	CLR1	CLR0	
			/	/	W						
			/	/	0	0	0	0	0	0	
			/	/	DMA 起動ベクタの書き込みにより、割り込み要求フラグクリア						
DMAR	DMA software request register	89H (RMW 禁)	/	/	/	/	DMAR3	DMAR2	DMAR1	DMAR0	
			/	/	/	/	R/W	R/W	R/W	R/W	
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	1: DMA のソフト要求						
DMAB	DMA burst request register	8AH	/	/	/	/	DMAB3	DMAB2	DMAB1	DMAB0	
			/	/	/	/	R/W	R/W	R/W	R/W	
			/	/	/	/	0	0	0	0	
			/	/	1: DMA のバースト要求						
IIMC	Interrupt input mode control	8CH (RMW 禁)	-	-	-	-	-	IOEDGE	IOLE	NMIREE	
			/	/	W				W	W	W
			/	/	0	0	0	0	0	0	0
			/	/	"0" をライトしてください。				INT0 エッジ 0: 立ち上がり 1: 立ち下がり	INT0 0: エッジ 1: レベル	1: NMI 立ち上がりでも動作

注) DMAR レジスタへは、同時に複数のビットへ "1" を書き込まないでください。

(4) チップセレクト/ウェイトコントローラ制御 (1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
B0CS	Block 0 CS/WAIT control register	C0H (RMW 禁)	B0E	<del>        </del>	B0OM1	B0OM0	B0BUS	B0W2	B0W1	B0W0		
			W	<del>        </del>	W	W	W	W	W	W		
			0	<del>        </del>	0	0	0	0	0	0		
			0: 禁止 1: 許可		00: ROM/SRAM 01: Don't care 10: Don't care 11: Don't care	データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 001: 1ウェイト 010: (1+N)ウェイト 011: 0ウェイト	100: Reserved 101: 3ウェイト 110: 4ウェイト 111: 8ウェイト				
B1CS	Block 1 CS/WAIT control register	C1H (RMW 禁)	B1E	<del>        </del>	B1OM1	B1OM0	B1BUS	B1W2	B1W1	B1W0		
			W	<del>        </del>	W	W	W	W	W	W		
			0	<del>        </del>	0	0	0	0	0	0		
			0: 禁止 1: 許可		00: ROM/SRAM 01: Don't care 10: Don't care 11: Don't care	データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 001: 1ウェイト 010: (1+N)ウェイト 011: 0ウェイト	100: Reserved 101: 3ウェイト 110: 4ウェイト 111: 8ウェイト				
B2CS	Block 2 CS/WAIT control register	C2H (RMW 禁)	B2E	B2M	B2OM1	B2OM0	B2BUS	B2W2	B2W1	B2W0		
			W	W	W	W	W	W	W	W		
			1	0	0	0	0	0	0	0		
			0: 禁止 1: 許可	0: 16 M 空間 1: CS 設定	00: ROM/SRAM 01: Don't care 10: Don't care 11: Don't care	データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 001: 1ウェイト 010: (1+N)ウェイト 011: 0ウェイト	100: Reserved 101: 3ウェイト 110: 4ウェイト 111: 8ウェイト				
B3CS	Block 3 CS/WAIT control register	C3H (RMW 禁)	B3E	<del>        </del>	B3OM1	B3OM0	B3BUS	B3W2	B3W1	B3W0		
			W	<del>        </del>	W	W	W	W	W	W		
			0	<del>        </del>	0	0	0	0	0	0		
			0: 禁止 1: 許可		00: ROM/SRAM 01: Don't care 10: Don't care 11: Don't care	データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 001: 1ウェイト 010: (1+N)ウェイト 011: 0ウェイト	100: Reserved 101: 3ウェイト 110: 4ウェイト 111: 8ウェイト				
BEXCS	External CS/WAIT control register	C7H (RMW 禁)	<del>        </del>	<del>        </del>	<del>        </del>	<del>        </del>	BEXBUS	BEXW2	BEXW1	BEXW0		
			<del>        </del>	<del>        </del>	<del>        </del>	<del>        </del>	W	W	W	W		
			<del>        </del>	<del>        </del>	<del>        </del>	<del>        </del>	0	0	0	0		
							データバス幅選択 0: 16ビット 1: 8ビット	ウェイト数設定 000: 2ウェイト 001: 1ウェイト 010: (1+N)ウェイト 011: 0ウェイト	100: Reserved 101: 3ウェイト 110: 4ウェイト 111: 8ウェイト			
MSAR0	Memory start address register 0	C8H	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17	S16		
			R/W								1	1
			スタートアドレス A23~A16 設定								1	1
MAMR0	Memory address mask register 0	C9H	V20	V19	V18	V17	V16	V15	V14-9	V8		
			R/W								1	1
			CS0 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照								1	1
MSAR1	Memory start address register 1	CAH	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17	S16		
			R/W								1	1
			スタートアドレス A23~A16 設定								1	1
MAMR1	Memory address mask register 1	CBH	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15-9	V8		
			R/W								1	1
			CS1 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照								1	1

注) TMP91CU27/CP27/CK27 では WAIT 端子がないため、“(1+N) WAIT モード”を選択した場合は、1ウェイトとして動作します。



## チップセレクト/ウェイトコントローラ制御 (2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
MSAR2	Memory start address register 2	CCH	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17	S16
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			スタートアドレス A23~A16 設定							
MAMR2	Memory address mask register 2	CDH	V22	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			CS2 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照							
MSAR3	Memory start address register 3	CEH	S23	S22	S21	S20	S19	S18	S17	S16
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			スタートアドレス A23~A16 設定							
MAMR3	Memory address mask register 3	CFH	V22	V21	V20	V19	V18	V17	V16	V15
			R/W							
			1	1	1	1	1	1	1	1
			CS3 空間サイズ設定 0: アドレス比較対照							

Not Recommended for New Design

(5) クロック制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
SYSCR0	System clock control register 0	E0H	XEN	XTEN	RXEN	RXTEN	RSYSCK	WUEF	PRCK1	PRCK0		
			R/W									
			1	0	1	0	0	0	0	0		
			高速発振器 0: 停止 1: 発振	低速発振器 0: 停止 1: 発振	STOPモード解除後の高速発振器 0: 停止 1: 発振	STOPモード解除後の低速発振器 0: 停止 1: 発振	STOPモード解除後のクロック 0: 高速 1: 低速	ウォームアップ 0 ライト: Don't care 1 ライト: WUP スタート 0 リード: WUP 終了 1 リード: WUP 中	プリスケラックロク選 00: f <sub>FPH</sub> 01: 設定しないでください 10: fc/16 11: 設定しないでください			
SYSCR1	System clock control register 1	E1H					SYSCK	GEAR2	GEAR1	GEAR0		
			R/W									
							0	1	0	0		
							クロック選 0: 高速 1: 低速	高速クロックのギア選 000: 高速クロック 001: 高速クロック/2 010: 高速クロック/4 011: 高速クロック/8 100: 高速クロック/16 その他: 設定しないでください				
SYSCR2	System clock control register 2	E2H		-	WUPTM1	WUPTM0	HALTM1	HALTM0		DRVE		
				R/W	R/W	R/W	R/W	R/W		R/W		
				0	1	0	1	1		0		
				"0"をライ トしてくだ さい。	発振器用 WUP 時間選 00: 設定しないでくだ さい 01: 2 <sup>8</sup> /入力周波数 10: 2 <sup>14</sup> /入力周波数 11: 2 <sup>16</sup> /入力周波数	HALT モード選 00: 設定しないでくだ さい 01: STOP モード 10: IDLE1 モード 11: IDLE2 モード		1: STOP モ ード中も 端子をド ライブし ます				
EMCCR0	EMC control register 0	E3H	PROTECT	-	-	-	ALEEN	EXTIN	DRVOSCH	DRVOSCL		
			R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W		
			0	0	1	0	0	0	1	1		
			プロテクト フラグ 0: OFF 1: ON	"0"をライ トしてくだ さい。	"1"をライ トしてくだ さい。	"0"をライ トしてくだ さい。	0: ALE 出力 禁止 1: ALE 出力 許可	1: fc 外部 クロック	fc 発振器 ドライブ 能力 1: Normal 0: Weak	fs 発振器 ドライブ 能力 1: Normal 0: Weak		
EMCCR1	EMC control register 1	E4H	"1FH" をライトでプロテクト OFF "1FH" 以外をライトでプロテクト ON									

注 1) 内蔵 SBI を使用時は、SYSCR0<PRCK1:0> を f<sub>FPH</sub> に設定してください。

注 2) EMCCR1 に "1FH" 以外のコードをライトし、プロテクトを ON に設定すると、下記に示す特定の SFR へのライト動作ができなくなります。

(ライト動作ができなくなる SFR)

(1) CS/WAIT コントローラ

B0CS, B1CS, B2CS, B3CS, BEXCS, MSAR0, MSAR1, MSAR2, MSAR3, MAMR0, MAMR1, MAMR2, MAMR3

(2) クロックギア (EMCCR1 のみはライト可能です)

SYSCR0, SYSCR1, SYSCR2, EMCCR0

## (6) 8ビットタイマ制御 (1/2)

## (6-1) TMRA01

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
TA01RUN	8-bit timer RUN	100H	TA0RDE				I2TA01	TA01PRUN	TA1RUN	TA0RUN		
			R/W				R/W					
			0				0	0	0	0		
			ダブルパツファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRA01 プ リスケーラ	アップカウ ンタ(UC1)	アップカウ ンタ(UC0)		
TA0REG	8-bit timer register 0	102H (RMW 禁)	-									
			W									
			不定									
TA1REG	8-bit timer register 1	103H (RMW 禁)	-									
			W									
			不定									
TA01MOD	8-bit timer source CLK & mode	104H	TA01M1	TA01M0	PWM01	PWM00	TA1CLK1	TA1CLK0	TA0CLK1	TA0CLK0		
			R/W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			動作モード 00: 8ビットタイマ 01: 16ビットタイマ 10: 8ビットPPG 11: 8ビットPWM	PWM周期 00: Reserved 01: 2 <sup>6</sup> 10: 2 <sup>7</sup> 11: 2 <sup>8</sup>	TMRA1 ソースクロック 00: TA0TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256	TMRA0 入カクロック 00: TA0IN 端子入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16						
TA1FFCR	8-bit timer flip-flop control	105H (RMW 禁)					TA1FFC1	TA1FFC0	TA1FFIE	TA1FFIS		
			R/W							R/W		
							1	1	0	0		
							00: TA1FF 反転 01: TA1FF セット 10: TA1FF クリア 11: Don't care	TA1FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA1FF 反転信号 0: TMRA0 1: TMRA1			

## (6-2) TMRA23

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
TA23RUN	8-bit timer RUN	108H	TA2RDE				I2TA23	TA23PRUN	TA3RUN	TA2RUN		
			R/W				R/W					
			0				0	0	0	0		
			ダブルパツファ 0: 禁止 1: 許可				IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRA23 プ リスケーラ	アップカウ ンタ(UC3)	アップカウ ンタ(UC2)		
TA2REG	8-bit timer register 0	10AH (RMW 禁)	-									
			W									
			不定									
TA3REG	8-bit timer register 1	10BH (RMW 禁)	-									
			W									
			不定									
TA23MOD	8-bit timer source CLK & mode	10CH	TA23M1	TA23M0	PWM21	PWM20	TA3CLK1	TA3CLK0	TA2CLK1	TA2CLK0		
			R/W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			動作モード 00: 8ビットタイマ 01: 16ビットタイマ 10: 8ビットPPG 11: 8ビットPWM	PWM周期 00: Reserved 01: 2 <sup>6</sup> 10: 2 <sup>7</sup> 11: 2 <sup>8</sup>	TMRA3 ソースクロック 00: TA0TRG 01: φT1 10: φT16 11: φT256	TMRA2 入カクロック 00: Reserved 01: φT1 10: φT4 11: φT16						
TA3FFCR	8-bit timer flip-flop control	10DH (RMW 禁)					TA3FFC1	TA3FFC0	TA3FFIE	TA3FFIS		
			R/W							R/W		
							1	1	0	0		
							00: TA3FF 反転 01: TA3FF セット 10: TA3FF クリア 11: Don't care	TA3FF 反転制御 0: 禁止 1: 許可	TA3FF 反転信号 0: TMRA2 1: TMRA3			

## 8ビットタイマ制御 (2/2)

## (6-3) TMRA45

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
TA45RUN	8-bit timer RUN	110H	TA4RDE				I2TA45	TA45PRUN	TA5RUN	TA4RUN		
			R/W				R/W					
			0				0	0	0	0		
			ダブルバッファ				IDLE2	TMRA45 プリスケアラ	アップカウンタ(UC5)	アップカウンタ(UC4)		
					0: 停止 1: 動作	0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)						
TA4REG	8-bit timer register 0	112H (RMW 禁)	-									
			W									
			不定									
TA5REG	8-bit timer register 1	113H (RMW 禁)	-									
			W									
			不定									
TA45MOD	8-bit timer source CLK & mode	114H	TA45M1	TA45M0	PWM41	PWM40	TA5CLK1	TA5CLK0	TA4CLK1	TA4CLK0		
			R/W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			動作モード		PWM 周期		TMRA5 入力クロック		TMRA4 ソースクロック			
00: 8ビットタイマ		00: Reserved		00: TA4TRG		00: TA4IN 端子入力						
01: 16ビットタイマ		01: 2 <sup>6</sup>		01: φT1		01: φT1						
10: 8ビットPPG		10: 2 <sup>7</sup>		10: φT16		10: φT4						
11: 8ビットPWM		11: 2 <sup>8</sup>		11: φT256		11: φT16						
TA5FFCR	8-bit timer flip-flop control	115H (RMW 禁)					TA5FFC1	TA5FFC0	TA5FFIE	TA5FFIS		
			R/W									
							1	1	0	0		
			00: TA5FF 反転		01: TA5FF セット		10: TA5FF クリア		11: Don't care		TA5FF 反転制御	TA5FF 反転信号
								0: 禁止 1: 許可	0: TMRA4 1: TMRA5			

## (7) 16ビットタイマ制御

## (7-1) TMRB0

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
TB0RUN	16-bit timer control	180H	TB0RDE	-			I2TB0	TB0PRUN		TB0RUN
			R/W			R/W			R/W	
			0	0			0	0		0
			ダブルパツファ 0: 禁止 1: 許可	"0"をライ トしてくだ さい。			IDLE2 0: 停止 1: 動作	TMRB0ブ リステーラ		アップカウ ンタ (UC10)
0: 停止 & クリア 1: 動作 (カウントアップ)										
TB0MOD	16-bit timer source CLK & mode	182H (RMW 禁)	TB0CT1	TB0ET1	TB0CP0I	TB0CPM1	TB0CPM0	TB0CLE	TB0CLK1	TB0CLK0
			R/W		W*	R/W				
			0	0	1	0	0	0	0	0
			TB0FF1反転トリガ 0: トリガ禁止 1: トリガ許可	ソフト ウエア キャプチャ	0: ソフトウ エアキャ プチャ 1: 不定	キャプチャタイミ ング (TB0IN0, TB0IN1) 00: 禁止 01: ↑, ↑ 10: ↑, ↓ 11: ↑, ↓ (TA1OUT)	アップカウ ンタの クリア制御 0: 禁止 1: 許可	ソースクロック 00: TB0IN0入力 01: φT1 10: φT4 11: φT16		
UC10値を TB0CP1H/ Lへキャ プチャする時	UC10と TB0RG1H/ Lとの一 致の時									
TB0FFCR	16-bit timer flip-flop control	183H (RMW 禁)	TB0FF1C1	TB0FF1C0	TB0C1T1	TB0C0T1	TB0E1T1	TB0E0T1	TB0FF0C1	TB0FF0C0
			W*		R/W				W*	
			1	1	0	0	0	0	1	1
			TB0FF1の制御 00: 反転 01: セット 10: クリア 11: Don't care *読み出すと常に"11" になります。	TB0FF0反転制御 0: 反転禁止 1: 反転許可	TB0CP1H/ Lへの UC10値を キャプチャ する時	TB0CP0H/ Lへの UC10値を キャプチャ する時	UC10と TB0RG1H/ Lとの一 致の時	UC10と TB0RG0H/ Lとの一 致の時	TB0FF0の制御 00: 反転 01: セット 10: クリア 11: Don't care *読み出すと常に"11" になります。	
TB0RG0L	16-bit timer register 0L	188H (RMW 禁)	-							
			W							
			不定							
TB0RG0H	16-bit timer register 0H	189H (RMW 禁)	-							
			W							
			不定							
TB0RG1L	16-bit timer register 1L	18AH (RMW 禁)	-							
			W							
			不定							
TB0RG1H	16 bit timer register 1H	18BH (RMW 禁)	-							
			W							
			不定							
TB0CP0L	Capture register 0L	18CH	-							
			R							
			不定							
TB0CP0H	Capture register 0H	18DH	-							
			R							
			不定							
TB0CP1L	Capture register 1L	18EH	-							
			R							
			不定							
TB0CP1H	Capture register 1H	18FH	-							
			R							
			不定							

注) TB0MOD<TB0CP0I>へ"0"が書き込まれている状態から、TB0MOD<TB0CP0I>へ"1"を書き込んでも、キャプチャレジスタ TB0CP0へ取り込まれます。

(8) UART/シリアルチャネル制御 (1/2)

(8-1) UART/SIO チャネル 0

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
SC0BUF	Serial channel 0 buffer	200H (RMW 禁)	RB7/TB7	RB6/TB6	RB5/TB5	RB4/TB4	RB3/TB3	RB2/TB2	RB1/TB1	RB0/TB0		
			R (Receiving)/W (Transmission)									
			不定									
SC0CR	Serial channel 0 control	201H	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC		
			R	R/W		R (読み出すと 0 にクリアされます。)			R/W			
			不定	0	0	0	0	0	0	0	0	
			受信データビット 8	パリティ 0: 奇数 1: 偶数	パリティ付加 0: 禁止 1: 許可	オーバランエラーフラグ 0: 未検出 1: 検出	パリティエラーフラグ 0: 未検出 1: 検出	フレーミングエラーフラグ 0: 未検出 1: 検出	エッジ選択 0: SCLK0↑ 1: SCLK0↓	入力クロック選択 0: ボーレートジェネレータ 1: SCLK0 端子入力		
SC0MOD0	Serial channel 0 mode0	202H	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0		
			R/W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			送信データビット 8	ハンドシェイク機能制御 0: CTS 禁止 1: CTS 許可	受信制御 0: 受信禁止 1: 受信許可	ウェイクアップ機能 0: 禁止 1: 許可	シリアル転送モード 00: I/O インタフェース 01: UART 7 ビット 10: UART 8 ビット 11: UART 9 ビット	シリアル転送クロック 00: TA0TRG 01: ボーレートジェネレータ 10: 内部クロック (f <sub>sys</sub> ) 11: 外部クロック (SCLK0 入力)				
BR0CR	Baud rate control	203H	-	BR0ADDE	BR0CK1	BR0CK0	BR0S3	BR0S2	BR0S1	BR0S0		
			R/W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			“0” をライトしてください。	(16-K)/16 分周機能 0: 禁止 1: 許可	00: φT0 01: φT2 10: φT8 11: φT32	ボーレートジェネレータの分周値 “N” の設定 (0~F)						
BR0ADD	Serial channel 0 K setting register	204H	/				BR0K3	BR0K2	BR0K1	BR0K0		
			R/W									
			/				0	0	0	0		
			N+(16-K)/ 16 分周値の K 値の設定 (1~F)									
SC0MOD1	Serial channel 0 mode1	205H	I2S0	FDPX0	/							
			R/W									
			0	0	/							
			IDLE2 0: 停止 1: 動作	同期式 0: 半二重 1: 全二重								

(8-2) IrDA 対応

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
SIRCR	IrDA control register	207H	PLSEL	RXSEL	TXEN	RXEN	SIRWD3	SIRWD2	SIRWD1	SIRWD0		
			R/W									
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			送信パルス幅選択 0: 3/16 1: 1/16	受信データ論理 0: “H”パルス 1: “L”パルス	送信動作 0: 禁止 1: 許可	受信動作 0: 禁止 1: 許可	SIRRxD の有効パルス幅の設定 2x × (設定値 + 1) + 100ns 以上のパルス幅を有効とする 設定可: 1~14 設定不可: 0, 15					

UART/シリアルチャネル制御 (2/2)

(8-3) UART/SIO チャネル 1

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
SC1BUF	Serial channel 1 buffer	208H (RMW 禁)	RB7/TB7	RB6/TB6	RB5/TB5	RB4/TB4	RB3/TB3	RB2/TB2	RB1/TB1	RB0/TB0		
			R (Receiving)/W (Transmission)								不定	
SC1CR	Serial channel 1 control	209H	RB8	EVEN	PE	OERR	PERR	FERR	SCLKS	IOC		
			R	R/W		R (読み出すと 0 にクリアされます。)			R/W			
			不定	0	0	0	0	0	0	0		
			受信データビット 8	パリティ 0: 奇数 1: 偶数	パリティ付加 0: 禁止 1: 許可	オーバランエラーフラグ 0: 未検出 1: 検出	パリティエラーフラグ 0: 未検出 1: 検出	フレーミングエラーフラグ 0: 未検出 1: 検出	エッジ選択 0: SCLK1↑ 1: SCLK1↓	入力クロック選択 0: ボーレートジェネレータ 1: SCLK1 端子入力		
SC1MOD0	Serial channel 1 mode	20AH	TB8	CTSE	RXE	WU	SM1	SM0	SC1	SC0		
			R/W								0 0	
			送信データビット 8	ハンドシェイク機能制御 0:CTS 禁止 1:CTS 許可	受信制御 0: 受信禁止 1: 受信許可	ウェイクアップ機能 0: 禁止 1: 許可	シリアル転送モード 00: I/O インタフェース 01: UART 7 ビット 10: UART 8 ビット 11: UART 9 ビット	シリアル転送クロック 00: TA0TRG 01: ボーレートジェネレータ 10: 内部クロック (fsys) 11: 外部クロック (SCLK1 入力)				
			0	0	0	0	0	0	0	0		
BR1CR	Baud rate control	20BH	-	BR1ADDE	BR1CK1	BR1CK0	BR1S3	BR1S2	BR1S1	BR1S0		
			R/W								0 0	
			0	0	0	0	0	0	0	0		
			“0”をライ トしてくだ さい。	(16-K)/16 分周機能 0: 禁止 1: 許可	00: φT0 01: φT2 10: φT8 11: φT32	ボーレートジェネレータの分周値 “N” の設定 (0~F)						
BR1ADD	Serial channel 1 K 設定 register	20CH	/				BR1K3	BR1K2	BR1K1	BR1K0		
			R/W								0 0	
											N+(16-K)/ 16 分周値の K 値の設定 (1~F)	
SC1MOD1	Serial channel 1 mode 1	20DH	I2S1	FDPX1	/							
			R/W								0 0	
			IDLE2 0: 停止 1: 動作	同期式 0: 半二重 1: 全二重								

注1) エラーフラグ SCxCR<OERR, PERR, FERR> は、読み出されるとすべてクリアされるため、ビットテスト命令を用いて1ビットのみのテストは行わないでください。

注2) ボーレートジェネレータ分周値の“1分周”は、UARTモードでBRxCR<BRxADDE>=“0”のときのみ設定可能です。I/O インタフェースモードでは設定しないでください。

注3) I/O インタフェースモードのときは、BRxCR<BRxADDE>=“0”に設定してください。

注4) (16-K)/16分周機能を使用する場合は、BRxADD<BRxK3:0>にK値を設定後に、BRxCR<BRxADDE>=“1”を設定してください。

(9) I<sup>2</sup>Cバス/シリアルチャネル制御 (1/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0	
SBI0CR1	Serial bus interface control register 1	240H (I <sup>2</sup> Cバスモード) (RMW 禁)	BC2	BC1	BC0	ACK		SCK2	SCK1	SCK0 /SWRMON	
			W			R/W		W			R/W
		0	0	0	0	アクノリッジモード 0: 禁止 1: 許可	シリアルクロック周波数の選択 (ライト時) 000: 5    001: 6    010: 7 011: 8    100: 9    101: 10 110: 11    111: Reserved				
		転送ビット数の選択 000: 8    001: 1    010: 2 011: 3    100: 4    101: 5 110: 6    111: 7									
240H (SIOモード) (RMW 禁)	SIOS	SIOINH	SIOM1	SIOM0		SCK2	SCK1	SCK0			
	W			0		0	0	0			
		転送制御 0: 終了 1: 開始	転送の強制停止 0: 継続 1: 停止	転送モード選択 00: 8ビット送信 01: Reserved 10: 8ビット送受信 11: 8ビット受信		シリアルクロック周波数の選択 (ライト時) 000: 4    001: 5    010: 6 011: 7    100: 8    101: 9 110: 10    111: 外部 SCK 入力					
SBI0DBR	SBI buffer register	241H (RMW 禁)	DB7	DB6	DB5	DB4	DB3	DB2	DB1	DB0	
			R (Receiving)/W (Transmission) 不定								
I2C0AR	I <sup>2</sup> C bus address register	242H (RMW 禁)	SA6	SA5	SA4	SA3	SA2	SA1	SA0	ALS	
			W								
			0	0	0	0	0	0	0	0	0
		スレーブアドレスの設定								アドレス認識 0: する 1: しない	
リード時 SBI0SR	Serial bus interface status register	243H (I <sup>2</sup> Cバスモード) (RMW 禁)	MST	TRX	BB	PIN	AL/SBIM1	AAS/SBIM0	AD0/SWRST1	LRB/SWRST0	
			R/W								
		0: スレーブ 1: マスタ	0: 受信 1: 送信	バス状態 モニタ 0: フリー 1: ビジー	INTSBI 要求 モニタ 0: 要求中 1: 解除	アービトレーション ロスト 検出モニタ 1: 検出	スレーブ アドレス 一致検出 1: 検出	ジェネラル コール検出 モニタ 1: 検出	最終ビット 検出モニタ 0: "0" 1: "1"		
ライト時 SBI0CR2	Serial bus interface control register 2		スタート/ストップ コンディションの発生		SBIの動作モード選択 00: ポートモード 01: SIOモード 10: I <sup>2</sup> Cバスモード 11: (Reserved)		ソフトウェアリセットの発生最初に"10"、次に"01"をライトすると、ソフトウェアリセットが発生します。				
リード時 SBI0SR	Serial bus interface control register	243H (SIOモード) (RMW 禁)					SIOF/SBIM1	SEF/SBIM0	-	-	
							R/W		W		
						0	0	0	0		
						転送状態 モニタ 0: 終了 1: 転送中	シフト動作 モニタ 0: 終了 1: シフト中				
ライト時 SBI0CR2	Serial bus interface control register 2				SBIの動作モード選択 00: ポートモード 01: SIOモード 10: I <sup>2</sup> Cバスモード 11: (Reserved)		"0"をライトしてください。	"0"をライトしてください。			



(9) I<sup>2</sup>C バス/シリアルチャネル制御 (2/2)

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
SBI0BR0	Serial bus Interface baud rate register 0	244H (RMW 禁)	–	I2SBI0						
			W	R/W						
			0	0						
			“0”をライトしてください。	IDLE2 0: 停止 1: 動作						
SBI0BR1	Serial bus interface baud rate register 1	245H (RMW 禁)	P4EN	–						
			W							
			0	0						
			クロック制御 0: 停止 1: 動作	“0”をライトしてください。						

注 1) 内蔵 SBI を使用時は、SYSCR0<PRCK1:0> を f<sub>FPH</sub> に設定してください。

注 2) SIO モードに切り替える前に、SBI0CR1<BC2:0> を “000” にクリアしてください。

注 3) ポートモードへの切り替えは、バスフリーを確認してから行ってください。

また、ポートモードから I<sup>2</sup>C バスモード、SIO モードへの切り替えは、ポートの状態が “H” になっていることを確認してから行ってください。

注 4) SIO モード時に転送モード、シリアルクロックは、SBI0CR1<SIOS> = “0” および <SIOINH> = “1” に設定してください。

注 5) SBI0CR1<SCK0> のリセット後の初期値は “0”、<SWRMON> の初期値は “1” です。

## (10) AD コンバータ制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0		
ADMOD0	AD mode register 0	2B0H	EOCF	ADBF	-	-	ITM0	REPEAT	SCAN	ADS		
			R			R/W						
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			AD 変換終了フラグ 0: 変換中 1: 終了	AD 変換ビジーフラグ 0: 変換停止 1: 変換中	"0" をライトしてください。	"0" をライトしてください。	リピート指定(固定リピート時) 0: 1 回変換ごと 1: 4 回変換ごと	リピートモード指定 0: シングル 1: リピート	スキャンモード指定 0: 固定 1: スキャン	AD 変換 0: Don't care 1: 開始		
ADMOD1	AD mode register 1	2B1H	VREFON	I2AD			ADTRGE	ADCH2	ADCH1	ADCH0		
			R/W			R/W						
			0	0			0	0	0	0		
			VREF 0: OFF 1: ON	IDLE2 0: 中止 1: 動作			AD 外部トリガスタート 0: 禁止 1: 許可	入力チャネル選択 000: AN0 AN0 001: AN1 AN0 → AN1 010: AN2 AN0 → AN1 → AN2 011: AN3 AN0 → AN1 → AN2 → AN3 100: 選択しないでください 101: 選択しないでください 110: 選択しないでください 111: 選択しないでください				
ADREG04L	AD result register 0/4 low	2A0H	ADR01	ADR00						ADR0RF		
			R			R						
			不定			0						
ADREG04H	AD result register 0/4 high	2A1H	ADR09	ADR08	ADR07	ADR06	ADR05	ADR04	ADR03	ADR02		
			R			R						
			不定			0						
ADREG15L	AD result register 1/5 low	2A2H	ADR11	ADR10						ADR1RF		
			R			R						
			不定			0						
ADREG15H	AD result register 1/5 high	2A3H	ADR19	ADR18	ADR17	ADR16	ADR15	ADR14	ADR13	ADR12		
			R			R						
			不定			0						
ADREG26L	AD result register 2/6 low	2A4H	ADR21	ADR20						ADR2RF		
			R			R						
			不定			0						
ADREG26H	AD result register 2/6 high	2A5H	ADR29	ADR28	ADR27	ADR26	ADR25	ADR24	ADR23	ADR22		
			R			R						
			不定			0						
ADREG37L	AD result register 3/7 low	2A6H	ADR31	ADR30						ADR3RF		
			R			R						
			不定			0						
ADREG37H	AD result register 3/7 high	2A7H	ADR39	ADR38	ADR37	ADR36	ADR35	ADR34	ADR33	ADR32		
			R			R						
			不定			0						

注 1) ADMOD0<ADS> は、リードすると常に "0" が読み出されます。

注 2) ADMOD1<ADTRGE> = "1" を選択した場合は、<ADCH2:0> = "011" に設定しないでください。

注 3) ADMOD1<I2AD> = "0" を選択した場合、AD 変換モードによりホルト解除後の動作が異なります。

(11) ウォッチドッグタイマ制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
WDMOD	WDT mode register	300H	WDTE	WDTP1	WDTP0			I2WDT	RESCR	-
			R/W	R/W	R/W			R/W	R/W	R/W
			1	0	0			0	0	0
			1:WDT許可	00: $2^{15}/f_{SYS}$ 01: $2^{17}/f_{SYS}$ 10: $2^{19}/f_{SYS}$ 11: $2^{21}/f_{SYS}$			IDLE2 0: 停止 1: 動作	1: RESET 端子へ内部接続	"0"をライトしてください。	
WDCR	WDT control	301H (RMW 禁)	-							
			W							
			-							
			B1H: WDT 禁止				4EH: WDT クリア			

(12) 時計用タイマ制御

記号	名称	アドレス	7	6	5	4	3	2	1	0
RTCCR	時計用タイマ control register	310H	-					RTCSEL1	RTCSEL0	RTCRUN
			R/W					R/W		R/W
			0					0	0	0
			"0"をライトしてください。					00: $2^{14}/fs$ 01: $2^{13}/fs$ 10: $2^{12}/fs$ 11: $2^{11}/fs$	0: 停止 & クリア 1: 起動	

Not Recommended for New Design

## 6. ポート部等価回路図

- 回路図の見方

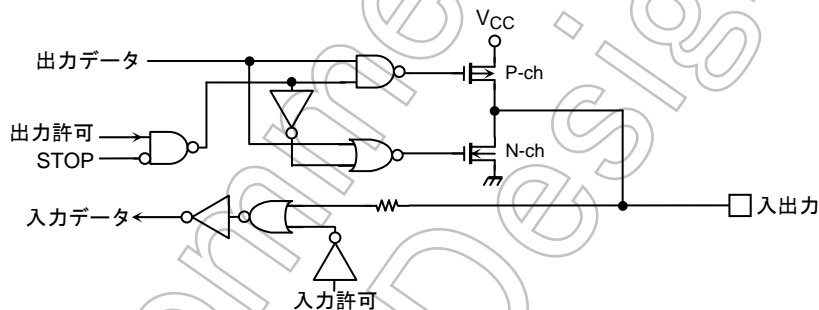
基本的に、標準 CMOS ロジック IC 「74HCxx」 シリーズと同じゲート記号を使って書かれています。

信号名の中で特殊なものについては、下記に示します。

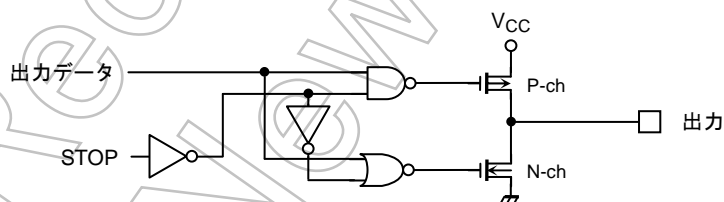
**STOP:** この信号は、HALT モード設定レジスタを「STOP」モード (SYSCR2<HALTM1:0> = “0”, “1”) にして、CPU が「HALT」命令を実行したとき、アクティブ “1” になります。ただし、ドライブイネーブルビット SYSCR2<DRVE> が “1” にセットされているとき、STOP は “0” のままです。

- 入力保護抵抗は、数十Ω~数百Ω程度です。

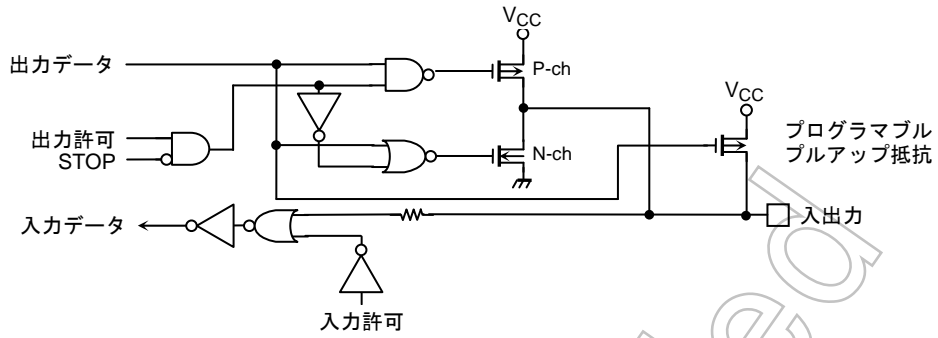
- P0 (AD0~AD7), P1 (AD8~AD15, A8~A15), P2 (A16~A21, A0~A5), P60, P70~P74, P80~P83, P91~P92, P94~P95



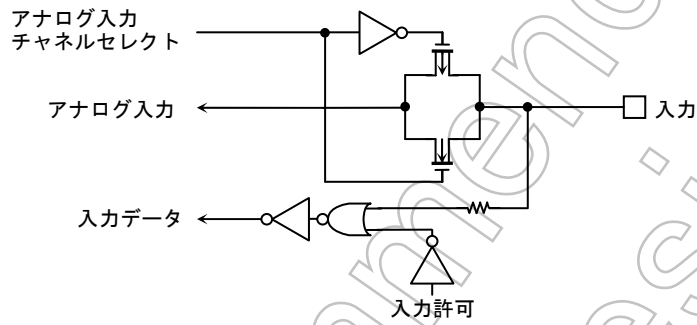
- P30 ( $\overline{RD}$ ), P31 ( $\overline{WR}$ )



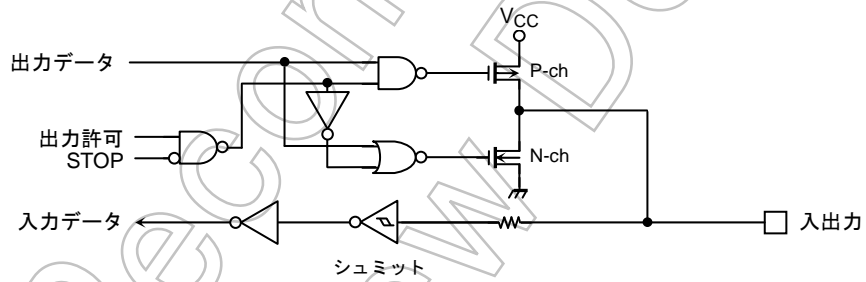
■ P32, P40~P42



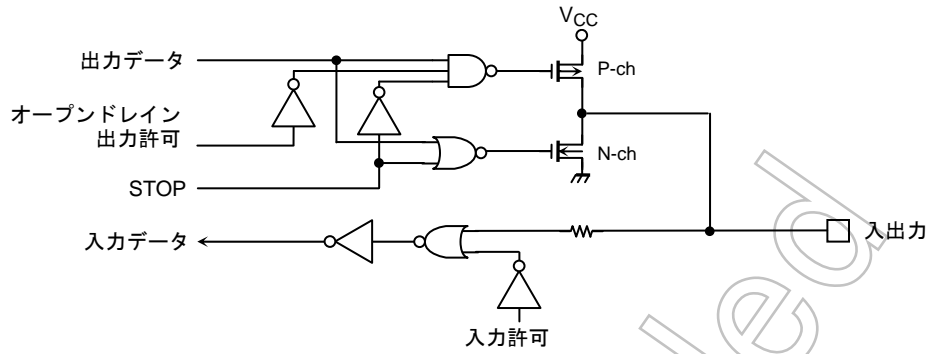
■ P5 (AN0~AN3)



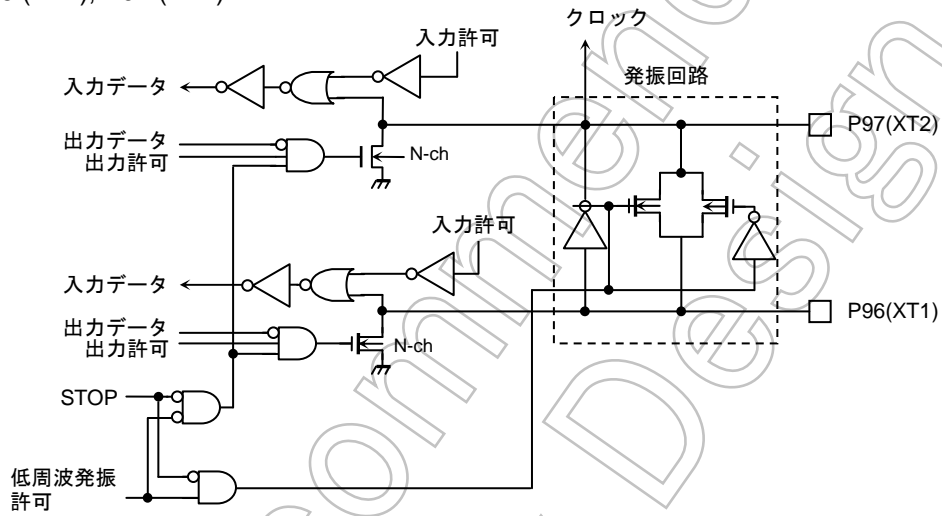
■ P63 (INT0)



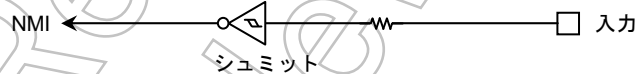
■ P61 (SO/SDA), P62 (SI/SCL), P90 (TXD0), P93 (TXD1)



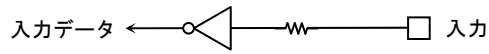
■ P96 (XT1), P97 (XT2)



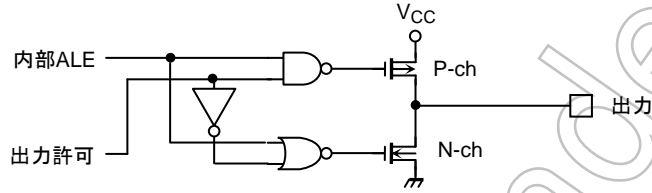
■ NMI



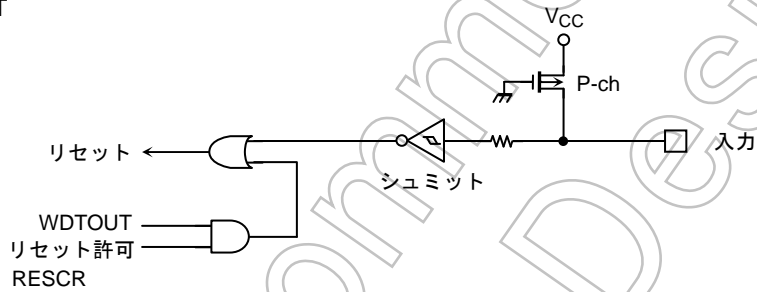
■ AM0~AM1



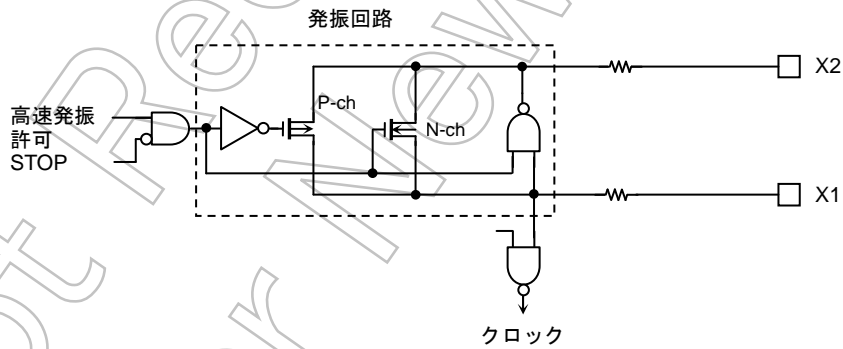
■ ALE



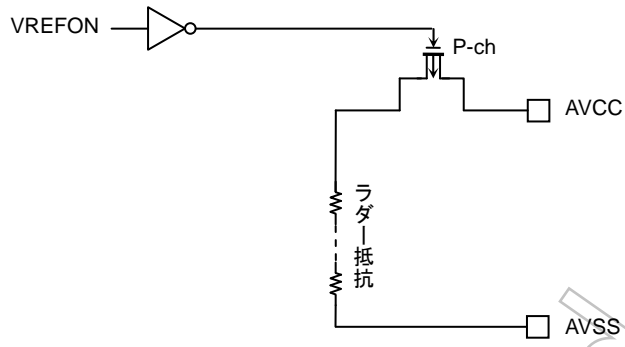
■  $\overline{\text{RESET}}$



■ X1, X2



■ AVCC, AVSS



Not Recommended  
for New Design



## 7. 使用上の注意、制限事項

### (1) 特別な表記, 言葉の説明

#### a. 内蔵 I/O レジスタの説明: レジスタシンボル <ビットシンボル>

例) TRUN<TORUN> … レジスタ TRUN のビット TORUN

#### b. リードモディファイライト命令

CPU が、1つの命令でメモリに対してデータをリードした後に、そのデータを操作し同じメモリ番地にデータをライトする命令。

例 1) SET 3, (TRUN) … TRUN レジスタのビット 3 をセットする。

例 2) INC 1, (100H) … アドレス 100H のデータを +1 する。

#### • TLCS-900 におけるリードモディファイライト命令

交換命令

EX (mem), R

算術演算

ADD (mem), R/#	ADC (mem), R/#
SUB (mem), R/#	SBC (mem), R/#
INC #3, (mem)	DEC #3, (mem)

論理演算

AND (mem), R/#	OR (mem), R/#
XOR (mem), R/#	

ビット操作

STCF #3/A, (mem)	RES #3, (mem)
SET #3, (mem)	CHG #3, (mem)
TSET #3, (mem)	

ローテート、シフト

RLC (mem)	RRC (mem)
RL (mem)	RR (mem)
SLA (mem)	SRA (mem)
SLL (mem)	SRL (mem)
RLD (mem)	RRD (mem)

#### c. fosCH, fc, fs, fFPH, fSYS, 1 ステート

X1/X2 端子より入力されるクロック周波数を fosCH と呼びます。クロック逡倍回路 (DFM) がないため、fc は fosCH と同一です。XT1/XT2 端子より入力されるクロック周波数を fs、SYSCR1<SYSCK>で選択されたクロックを fFPH、fFPH を 2 分周したクロック周波数をシステムクロック fSYS と呼びます。また、この fSYS の 1 周期を 1 ステートと呼びます。

## (2) 使用上の注意, 制限事項

## a. AM0~AM1 端子

本端子は DVCC 端子に接続し、動作中にレベル変動のないようにしてください。

## b. ウォームアップカウンタ

外部発振器を用いるシステムで STOP モードの解除を割り込みなどで行う際には、ウォームアップカウンタが動作するため、システムクロックが出力されるまでウォームアップ時間を要します。

## c. プログラマブルプルアップ/プルダウン抵抗

このプルアップ/プルダウン抵抗は、ポートを入力ポートとして使用する時のみプログラマブルに付加/付加なしを選択できます。出力ポートとして使用するときは、プログラマブルに選択することはできません。

付加/付加なしの選択は該当ポートのデータレジスタ (例: P4 レジスタ) で制御しますが、その際にはリードモディファイライト命令は使用できませんので転送命令を使用してください。

## d. ウォッチドッグタイマ

リセット後、ウォッチドッグタイマは動作許可状態となっているため、ウォッチドッグタイマを使用しない場合は、動作禁止に設定してください。

## e. AD コンバータ

AVCC~AVSS 端子間のラダー抵抗をプログラマブルに接続、切り離しする機能がありますので、STOP モードなど消費電力を下げる場合は、HALT 命令を実行する前にプログラムで切り離してください。

## f. CPU (マイクロ DMA)

CPU 内にある転送元レジスタ (DMASn) などのコントロールレジスタへのデータ書き込み、読み出しは、“LDC cr, r”, “LDC r, cr” 命令のみで行えません。

## g. 未定義の内蔵 I/O レジスタの扱い

定義されていない内蔵 I/O レジスタのビットは、リードを行うと不定値が出力されます。そのため、プログラムを作成するときは、このビット状態に依存しないものにしてください。

## h. 「POP SR」命令

「POP SR」命令の実行は、DI 状態で行ってください。

## i. 割り込み要求によるホルト状態からの解除

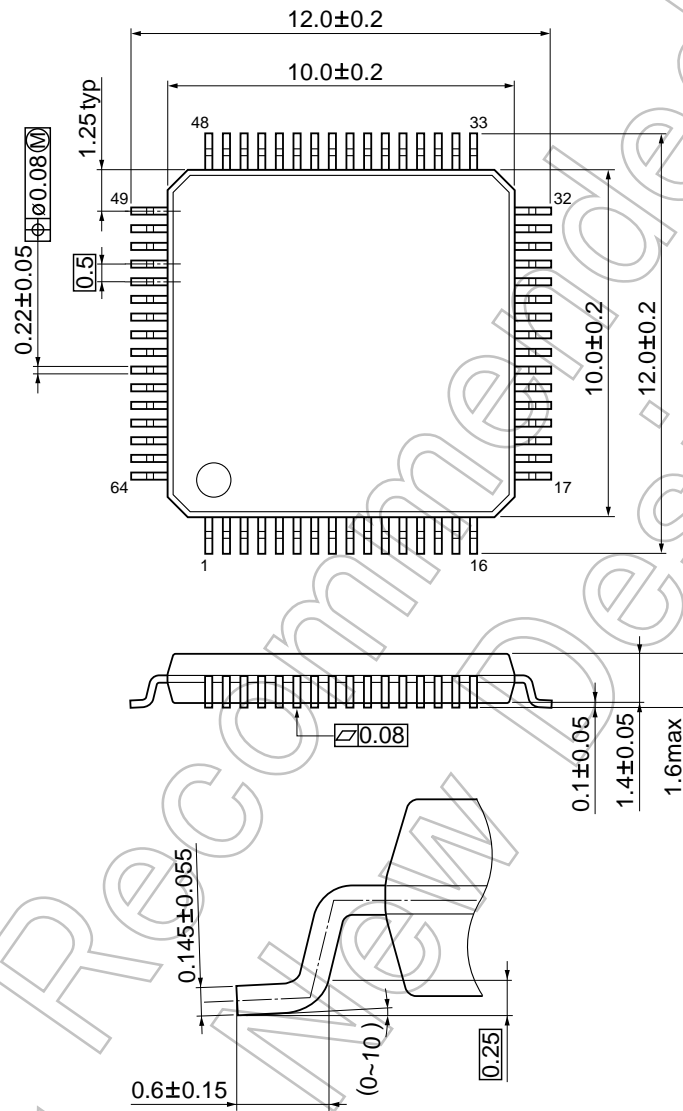
通常は、割り込みによってホルト状態を解除することができますが、HALT モードが IDLE1、STOP モードに設定されている状態 (IDLE2 は対象外) で、CPU が HALT モードに移行しようとしている期間 ( $f_{\text{FPH}}$  約 5 クロックの間) に、HALT モードを解除可能な割り込み ( $\overline{\text{NMI}}$ , INT0, INTRTC) が入力されても、ホルトが解除できない場合があります (割り込み要求は内部に保留されます)。

HALT モードへ完全に移行された後に、再度割り込みが発生すれば、問題なく HALT モードを解除できますが、割り込み処理は内部に保留された割り込みと現在の割り込みを比較し、その優先順位に従って順次処理されます。

8. パッケージ外形寸法図

パッケージ名: LQFP64-P-1010-0.50D

Unit: mm



パッケージ名: QFP64-P-1414-0.80A

Unit: mm

